

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080



アンプを使っていて困ったときやわからないことがあったときに使うマニュアルです。
本書では主にリモコンによる操作を説明しています。本体にも同じ名称や類似の名称のボタンがある場合は、本体でも操作できます。

はじめに

[本機の特長](#)

各部名称

本体

[本体前面（上部）](#)

[本体前面（下部）](#)

[電源表示ランプ](#)

[表示窓上のインジケーター](#)

[本体後面](#)

リモコン

[リモコン（上部）](#)

準備する

1. スピーカーを設置する

[スピーカーの名称と働き](#)

[5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する](#)

[7.1チャンネルスピーカーシステムを設置する \(サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合\)](#)

[5.1.2チャンネルスピーカーシステムを設置する \(トップミドルスピーカーをつなぐ場合\)](#)

[5.1.2チャンネルスピーカーシステムを設置する \(フロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカーをつなぐ場合\)](#)

[5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する \(ゾーン2にもスピーカーを設置する場合\)](#)

[5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する \(バイアンプ接続を使う場合\)](#)

[5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する \(フロントBスピーカーをつなぐ場合\)](#)

[2.1チャンネルスピーカーシステムを設置する \(フロントサラウンドを楽しむ場合\)](#)

[スピーカー配置とスピーカーパターンの設定について](#)

2. スピーカーを接続する

[5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する](#)

[7.1チャンネルスピーカーシステムを接続する \(サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合\)](#)

[5.1.2チャンネルスピーカーシステムを接続する \(トップミドルスピーカーをつなぐ場合\)](#)

[5.1.2チャンネルスピーカーシステムを接続する \(フロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカーをつなぐ場合\)](#)

[5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する \(ゾーン2にもスピーカーを設置する場合\)](#)

[5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する \(バイアンプ接続を使う場合\)](#)

[5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する \(フロントBスピーカーをつなぐ場合\)](#)

[2.1チャンネルスピーカーシステムを接続する \(フロントサラウンドを楽しむ場合\)](#)

3. テレビを接続する

[テレビを接続する](#)

[4Kテレビを接続する](#)

[映像信号の入出力について](#)

[ケーブル類を接続するときのご注意](#)

[HDMI接続について](#)

4. AV機器／アンテナを接続する

[HDMI端子を使って機器を接続する](#)

[HDMI端子以外の端子を使って機器を接続する](#)

[映像信号の入出力について](#)

[USB機器を接続する](#)

[アンテナを接続する](#)

[ゾーン2に設置したもう1台のアンプを接続する](#)

[HDMIゾーンに設置したもう1台のアンプやテレビを接続する](#)

[再生できるデジタル音声フォーマット](#)

[ケーブル類を接続するときのご注意](#)

[HDMI接続について](#)

5. ネットワークに接続する

[LANケーブルを使ってネットワークに接続する（有線LANに接続する場合のみ）](#)

[無線LANアンテナを使ってネットワークに接続する（無線LANに接続する場合のみ）](#)

6. 電源を入れる／リモコンを準備する

[リモコンに電池を入れる](#)

[電源を入れる](#)

7. かんたん設定を使って初期設定を行う

[かんたん設定を使って初期設定を行う](#)

自動音場補正を行う

[1. 自動音場補正について](#)

[2. 自動音場補正を実行する前に](#)

[3. 測定用マイクをつなぐ](#)

[4. フロントスピーカーを選ぶ](#)

[5. 自動音場補正を行う](#)

[6. 自動音場補正の結果を確認する](#)

映像や音声を楽しむ

AV機器を再生する

[映像や音声を楽しむ](#)

[テレビ画面に表示されたメニューを使う](#)

[つないだ機器の映像や音声を楽しむ](#)

[テレビの音声をアンプで楽しむ（eARC/ARC）](#)

[HDCP 2.2で著作権保護された4Kコンテンツを見る](#)

iPhone/iPad/iPodのコンテンツを再生する

[ネットワーク経由でiTunesまたはiPhone/iPad/iPodの音声を楽しむ（AirPlay）](#)

[BLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（ペアリング操作）](#)

[対応iPhone/iPad/iPodモデル](#)

USB機器のコンテンツを再生する

[USB機器の音楽を楽しむ](#)

[USBの仕様および対応USB機器](#)

[USB機器使用上のご注意](#)

ラジオを聞く

[FMラジオを聞く](#)

[FMラジオ放送局を登録する（プリセット登録）](#)

[登録した局名を変更する（プリセット名入力）](#)

[放送局を直接選局する（ダイレクト選局）](#)

ホームネットワーク上のサーバー内にあるコンテンツを楽しむ（DLNA）

インターネットラジオや音楽サービスを楽しむ

[インターネットで提供されているラジオや音楽サービスを楽しむ](#)

Chromecast built-in™ を使ってスマートフォンやタブレットの音声を楽しむ

Spotify Connectで音楽を楽しむ

ワンタッチ接続でBLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（NFC）

音響効果を楽しむ

[音場を選ぶ（サウンドフィールド）](#)

[選べるサウンドフィールドとその効果](#)

[音場（サウンドフィールド）とスピーカー出力の関係一覧](#)

[音場（サウンドフィールド）を初期設定状態に戻す](#)

[イコライザーを調節する（イコライザ設定）](#)

[低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しむ（サウンド・オプティマイザー）](#)

[天井スピーカーからの音をより自然な表現で楽しむ（インシーリングスピーカーモード）](#)

[原音に忠実な音を楽しむ（ピュアダイレクト）](#)

[DTS:Xダイアログコントロール機能を使う](#)

ネットワーク機能を使う

[ネットワーク機能を使ってできること](#)

有線LAN接続の設定をする（有線LANに接続する場合のみ）

- [LANケーブルを使ってネットワークに接続する（有線LANに接続する場合のみ）](#)
- [有線LAN接続の設定をする](#)

無線LAN接続の設定をする（無線LANに接続する場合のみ）

- [無線LANアンテナを使ってネットワークに接続する（無線LANに接続する場合のみ）](#)
- [無線LAN接続の設定をする](#)

ホームネットワークのサーバー内にあるコンテンツを楽しむ（DLNA）

- [ホームネットワーク上のサーバー内にあるコンテンツを楽しむ（DLNA）](#)
- [サーバーリストからサーバーを削除する](#)
- [ホームネットワーク上の各コントローラー機器からアンプを操作できるように設定する（ホームネットワーク アクセス制御）](#)
- [DLNAについて](#)

iTunesやiPhone/iPad/iPodの音声をネットワーク経由で楽しむ（AirPlay）

- [対応iPhone/iPad/iPodモデル](#)
- [ネットワーク経由でiTunesまたはiPhone/iPad/iPodの音声を楽しむ（AirPlay）](#)

インターネットラジオや音楽サービスを楽しむ

- [インターネットで提供されているラジオや音楽サービスを楽しむ](#)

スマートフォンやタブレットなどでアンプを操作する（SongPal）

- [スマートフォンやタブレット機器を使って操作する（SongPal）](#)
- [複数の機器で同じ音楽を聞く／別の場所で異なる音楽を聞く（SongPal Link）](#)

SongPal Link対応機器をつないで音楽を聞く

- [同じ音楽を別の部屋で聞く（ワイヤレスマルチルーム）](#)

スマートフォンやタブレットなどでアンプを操作する（Video & TV SideView）

- [Video & TV SideView機器をアンプに登録する](#)
- [登録したVideo & TV SideView機器を確認する（登録済モバイル機器リスト）](#)
- [Video & TV SideView機器を機器リストから削除する](#)

[Chromecast built-in™ を使ってスマートフォンやタブレットの音声を楽しむ](#)

[Spotify Connectで音楽を楽しむ](#)

[Sony | Music Center for PCを使ってハイレゾ音源を再生して楽しむ](#)

ホームネットワーク上の特定の機器からアンプを操作するかを設定する

- [ホームネットワーク上の各コントローラー機器からアンプを操作できるように設定する（ホームネットワーク アクセス制御）](#)
- [新たに検出されたホームネットワーク上のコントローラー機器からアンプを操作できるようにする（ホームネットワーク 自動アクセス許可）](#)
- [ホームネットワークコントローラー機器を機器リストから削除する](#)

BLUETOOTH機能を使う

[BLUETOOTH機能を使ってできること](#)

BLUETOOTH機器の音声を楽しむ

- [ワンタッチ接続でBLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（NFC）](#)
- [BLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（ペアリング操作）](#)
- [リモコンを使ってBLUETOOTH機器を操作する](#)
- [対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル](#)

BLUETOOTHレシーバー（ヘッドホン／スピーカー）に送信して音声を聞く

- [BLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーに送信して音声を聞く（ペアリング操作）](#)
- [対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル](#)

スマートフォンやタブレットなどでアンプを操作する（SongPal）

- [スマートフォンやタブレット機器を使って操作する（SongPal）](#)
- [複数の機器で同じ音楽を聞く／別の場所で異なる音楽を聞く（SongPal Link）](#)

マルチゾーン機能を使う

マルチゾーン機能について

- [マルチゾーン機能を使ってできること](#)
- [各ゾーンで視聴できる入力](#)

他の部屋（ゾーン2）に設置したスピーカーで音声を楽しむ

- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（ゾーン2にもスピーカーを設置する場合）](#)
- [ゾーン2に設置したスピーカーの設定をする](#)
- [ゾーン2に設置したスピーカーで音声を楽しむ](#)

もう1台のアンプを使って2つの部屋で音声を楽しむ

- [ゾーン2に設置したもう1台のアンプを接続する](#)
- [ゾーン2の音量を調節する（ゾーン2音声出力モード）](#)
- [ゾーン2に設置したもう1台のアンプにつないだスピーカーで音声を楽しむ](#)

もう1台のテレビやアンプを使って他の部屋で映像や音声を楽しむ

- [HDMIゾーンに設置したもう1台のアンプやテレビを接続する](#)
- [HDMI OUT B端子からの出力方法を選ぶ（HDMI出力Bモード）](#)
- [メインゾーンのHDMI出力の優先度を設定する（HDMI出力優先端子）](#)
- [別の部屋のアンプやテレビをHDMI接続して映像や音楽を楽しむ（HDMIゾーン）](#)

その他の機能を使う

ブラビアテレビと他機器と連動させる（“ブラビアリンク”）

- [“ブラビアリンク”とは？](#)
- [“ブラビアリンク”の準備をする](#)
- [テレビの電源と同時にアンプと接続機器の電源も切る（電源オフ連動）](#)
- [アンプにつないだスピーカーからテレビの音声を楽しむ（システムオーディオコントロール）](#)
- [つないだ機器のコンテンツをすぐに楽しむ（ワンタッチプレイ）](#)
- [番組のジャンルに応じた音場（サウンドフィールド）に自動的に切り替える（オートジャンルセクター）](#)
- [最適な音場（サウンドフィールド）を自動で選ぶ（シーンセレクト）](#)
- [オーディオ機器コントロール](#)
- [テレビリモコンからのメニュー操作](#)
- [エコーキャンセリング連動](#)

映像や音声の設定をする

- [HDMI映像信号を出力するテレビを切り替える](#)
- [デジタル音声とアナログ音声を切り替える（入力モード）](#)
- [他の音声入力端子を使う（入力の割り当て）](#)

さまざまな設定を保存して呼び出す（Custom Preset）

- [Custom Presetについて](#)
- [プリセットに設定を保存する](#)
- [プリセットした設定を呼び出す](#)
- [設定を保存できる項目とその初期設定値](#)

[スリープタイマーを使う](#)

[スタンバイ時の消費電力を抑える](#)

[表示窓で情報を確認する](#)

設定を調節する

かんたん設定

[かんたん設定を使って初期設定を行う](#)

自動音場補正を行う

- [1. 自動音場補正について](#)
- [2. 自動音場補正を実行する前に](#)
- [3. 測定用マイクをつなぐ](#)
- [4. フロントスピーカーを選ぶ](#)
- [5. 自動音場補正を行う](#)
- [6. 自動音場補正の結果を確認する](#)

スピーカー設定

- [スピーカーの位相特性を補正する（自動位相マッチング）](#)
- [自動音場補正の補正タイプを選ぶ（補正タイプ）](#)
- [各スピーカーからテストトーンを出力する（テストトーン）](#)
- [スピーカーレベルを調節する（レベル）](#)
- [イコライザーを調節する（イコライザ設定）](#)
- [スピーカーの距離を調節する（距離）](#)
- [スピーカーのサイズを調節する（サイズ）](#)
- [スピーカーのクロスオーバー周波数を設定する（クロスオーバー周波数）](#)
- [サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する（サラウンドバックスピーカー割り当て）](#)
- [スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）](#)
- [スピーカーの位置とそれに対応したスピーカー接続先端子を確認する（スピーカー接続ガイド）](#)
- [センタースピーカーの音を持ち上げる（センタースピーカーリフトアップ）](#)
- [適切なサラウンドスピーカーの角度に設定する（サラウンドスピーカー配置）](#)
- [スピーカーの位置を補正する（S P Kリロケーション／ファントムS B）](#)
- [天井の高さを設定する（天井の高さ）](#)
- [距離の測定単位を選ぶ（距離単位）](#)

音声設定

- [音声信号を高音質で再生する（デジタル・レガート・リニア）](#)
- [低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しむ（サウンド・オプティマイザー）](#)
- [音場を選ぶ（サウンドフィールド）](#)

- [天井スピーカーからの音をより自然な表現で楽しむ（インシーリングスピーカーモード）](#)
- [DSDネイティブ再生をする（DSDネイティブ再生）](#)
- [原音に忠実な音を楽しむ（ピュアダイレクト）](#)
- [アクティブサブウーファー出力のローパスフィルターを設定する（サブウーファーローパスフィルター）](#)
- [音声と映像出力を同期させる（AVシンク）](#)
- [デジタル放送の音声を選択する（二重音声）](#)
- [ダイナミックレンジを圧縮する（ダイナミックレンジ調整）](#)
- [DTSデコーダーのモードを切り替える（Neural:X）](#)

HDMI設定

- [映像信号を4Kにアップスケールする（4Kアップスケール）](#)
- [HDMI機器を制御する（HDMI機器制御）](#)
- [テレビの電源と同時にアンプと接続機器の電源も切る（電源オフ連動）](#)
- [eARC機能を使うための準備をする](#)
- [アンプの電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ（スタンバイスルー）](#)
- [接続機器のHDMI音声信号出力を設定する（音声信号出力）](#)
- [番組のジャンルに応じた音場（サウンドフィールド）に自動的に切り替える（オートジャンルセクター）](#)
- [アクティブサブウーファーのレベルを設定する（サブウーファーレベル）](#)
- [HDMI OUT B端子からの出力方法を選ぶ（HDMI出力Bモード）](#)
- [メインゾーンのHDMI出力の優先度を設定する（HDMI出力優先端子）](#)
- [HDMI信号フォーマットを設定する（HDMI信号フォーマット）](#)
- [他機器の種類を自動的に検出し、それに適合する色空間変換を設定する（HDMI映像出力フォーマット）](#)

入力設定

- [入力端子の割り当てや表示を変更する](#)
- [各入力の名前を変更する（名前）](#)

通信設定

- [有線LAN接続の設定をする](#)
- [無線LAN接続の設定をする](#)
- [ネットワークの接続状態を確認する（ネットワーク接続状態）](#)
- [ネットワークに正しく接続されているかを確認する（ネットワーク接続診断）](#)
- [接続中のホームネットワークサーバーを表示する（接続サーバー設定）](#)

- [新たに検出されたホームネットワーク上のコントローラー機器からアンプを操作できるようにする（ホームネットワーク 自動アクセス許可）](#)
- [ホームネットワーク上の各コントローラー機器からアンプを操作できるように設定する（ホームネットワーク アクセス制御）](#)
- [登録したVideo & TV SideView機器を確認する（登録済モバイル機器リスト）](#)
- [スタンバイ状態からの起動時間を短くする（ネットワークスタンバイ）](#)
- [ネットワークで接続された機器からリモート起動する（リモート起動）](#)
- [ホームオートメーションコントローラーからの操作を可能にする（外部機器からの操作）](#)

BLUETOOTH設定

- [BLUETOOTHモードを選ぶ（Bluetoothモード）](#)
- [BLUETOOTH機器の一覧を確認する（機器リスト）](#)
- [BLUETOOTHスタンバイモードを設定する（Bluetoothスタンバイ）](#)
- [BLUETOOTHオーディオコーデックを設定する（Bluetooth音声フォーマット - AAC/Bluetooth音声フォーマット - LDAC）](#)
- [LDAC再生のデータ転送レートを設定する（ワイヤレス再生品質）](#)

ゾーン設定

- [ホームメニューに「Zone Controls」を表示するかを設定する（Zone Controls）](#)
- [ゾーン2の音量を調節する（ゾーン2音声出力モード）](#)

システム設定

- [音量レベルや音場（サウンドフィールド）の表示をオン／オフする（変更情報表示）](#)
- [自動的にスタンバイ状態になるように設定する（自動電源オフ）](#)
- [表示窓の明るさを調節する（表示窓の明るさ）](#)
- [スリープタイマーを使う](#)
- [新しいソフトウェアの情報を受け取る（ソフトウェアアップデート通知）](#)
- [個人情報を削除する（個人情報の初期化）](#)
- [アンプに名前を割り当てる（機器名）](#)
- [ソフトウェアのバージョンやMACアドレスを確認する（本体情報）](#)
- [ソフトウェアライセンスを確認する（ソフトウェアライセンス）](#)
- [ソフトウェアを自動的にアップデートできるように設定する（自動アップデート設定）](#)
- [ソフトウェアをアップデートする（ソフトウェアアップデート）](#)

表示窓のメニューを使う

- [表示窓のメニューを使って操作する](#)
- [表示窓で情報を確認する](#)

[お買い上げ時の設定に戻す](#)

困ったときは

エラーメッセージ

[PROTECTOR](#)

[テレビ画面に「過電流が発生しました。」と表示される](#)

[自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧](#)

全体

[電源が自動的に切れる](#)

[複数のデジタル機器を接続中、再生可能な入力が見つからない](#)

[テレビの電源を入れてもアンプの電源が入らない](#)

[テレビの電源を切るとアンプの電源が切れる](#)

[テレビの電源を切ってもアンプの電源が切れない](#)

映像

[テレビ画面に映像が表示されない](#)

[テレビ画面に3Dコンテンツが表示されない](#)

[テレビ画面に4K映像が表示されない](#)

[スタンバイ状態時にアンプに接続したHDMI機器からの画像がテレビに出力されない](#)

[テレビ画面にホームメニューが表示されない](#)

[HDR（ハイダイナミックレンジ）コンテンツがHDRのまま表示されない](#)

[表示窓に表示が出ない](#)

[アンプの電源が入っていないときテレビに映像が出ない](#)

音声

[どの機器を選んでも音が出ない、または音がほとんど聞こえない](#)

[ハム音またはノイズがひどい](#)

[特定のスピーカーから音が出ない、または音がほとんど聞こえない](#)

[特定の機器から音が出ない](#)

[左右の音のバランスが悪い、または逆転している](#)

[ドルビーデジタルまたはDTSマルチチャンネルの音源が再生できない](#)

[サラウンド効果が得られない](#)

[スピーカーからテストトーンが出力されない](#)

- [テレビ画面に表示されているスピーカーと異なるスピーカーからテスト音が出力される](#)
- [スタンバイ状態時にアンプに接続したHDMI機器からの音声がテレビに出力されない](#)
- [アンプにつないだスピーカーからテレビの音声が出ない](#)
- [アンプの電源が入っていないときテレビに映像と音声が出ない](#)
- [アンプにつないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から音が出る](#)
- [テレビの映像と本機につないだスピーカーからの音声がずれている](#)
- [ワイヤレスマルチルーム機能を使用すると、音声が映像より遅れる](#)

チューナー

- [FM放送の受信状態が悪い](#)
- [FMステレオ放送の受信状態が悪い](#)
- [放送局が受信できない](#)

USB機器

- [対応していないUSB機器を使用している](#)
- [USB機器の音楽再生時にノイズがある、または音が飛んだり歪んだりする](#)
- [USB機器が認識されない](#)
- [再生が始まらない](#)
- [USB機器をUSBポートにつなげない](#)
- [表示窓の表示がおかしい](#)
- [音声ファイルを再生できない](#)

ネットワーク接続

- [無線LAN接続でWPSを使ってネットワークに接続できない](#)
- [ネットワークに接続できない](#)
- [SongPalを使ってアンプを操作できない](#)
- [Video & TV SideView機器を使ってアンプを操作できない](#)
- [通信設定メニューを選べない](#)

ホームネットワーク

- [ホームネットワークに接続できない](#)
- [サーバーがサーバーリストに表示されない（テレビ画面にサーバーが見つからないことを示すメッセージが表示される）](#)
- [ルーターに無線LAN接続したサーバーなどにアクセスできない](#)
- [再生が始まらない、または自動的に次のトラックまたはファイルへ進まない](#)

- [再生中に音が飛ぶ](#)
- [「このカテゴリには再生できるファイルがありません。」と表示される](#)
- [著作権保護されたファイルが再生できない](#)
- [前回選んだトラックが選べない](#)
- [ホームネットワーク上のコントローラー機器やアプリをアンプに接続できない](#)
- [ネットワーク上の機器でアンプの電源が入れられない](#)

AirPlay

- [iPhone/iPad/iPodまたはiTunesからアンプが見つからない](#)
- [AirPlay再生中に音が飛ぶ](#)
- [アンプでAirPlayができない](#)

インターネットラジオ／音楽サービス

- [サービスに接続できない](#)
- [音が飛ぶ](#)

BLUETOOTH機器

- [ペアリングができない](#)
- [BLUETOOTH接続ができない](#)
- [音が飛んだり変動したりする、または接続が切れる](#)
- [BLUETOOTH機器からの音声が聞こえない](#)
- [ハム音またはノイズがひどい](#)
- [SongPalを使ってアンプを操作できない](#)

“ブラビアリンク”（HDMI機器制御）

- [HDMI機器制御機能が正しく働かない](#)
- [アンプにつないだスピーカーからテレビの音が聞こえない（eARC/ARC）](#)

リモコン

- [リモコンで操作できない](#)

解決しないときは

- [お買い上げ時の設定に戻す](#)
- [音場（サウンドフィールド）を初期設定状態に戻す](#)
- [カスタマーサポートウェブサイト](#)

その他

本機の特長

幅広い接続性と高音質・高画質フォーマットに対応

有線／無線によるネットワーク接続やBLUETOOTH®接続、USB接続に対応

- 本機にウォークマンやiPod/iPhone（AirPlay）、パソコン、NASやUSB機器を接続して各機器のコンテンツを再生したり、BLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーに音楽を送信したりできます。
- Chromecast built-inとSpotifyの音楽サービスに対応しています。

オブジェクトベースの最新音声フォーマットに対応

- ドルビーアトモス、DTS:Xに対応しています。

高品位なハイレゾ音楽再生に対応

- ネットワークオーディオ再生、およびUSB機器のコンテンツ再生では、WAV/FLAC/AIFF 192 kHz/24 bitや、DSD 5.6 MHz/5.1チャンネルなどのハイレゾコンテンツに対応しています。
- DSDコンテンツのネイティブ再生にも対応しています。

高画質な4K映像フォーマットに対応（＊）

- 4K HDRおよびHDCP 2.2対応により、高画質な映像を楽しめます。

＊ 視聴する信号によってはHDMI信号フォーマットの設定変更が必要です。

最適なサラウンド空間を実現する機能

自動音場補正（D.C.A.C. EX（＊））により視聴環境を理想的なサラウンド空間に近付けるよう補正

- 付属の測定用ステレオマイクを用いてスピーカーの距離、角度、レベル、周波数特性などを測定、補正します。
- さらに理想的なスピーカーの位置と角度をシミュレーションし、音源を理想的な位置に再配置します（スピーカーリロケーション）。

＊ Digital Cinema Auto Calibration EX

さまざまなスピーカー設置条件に対応する音場補正機能

- **ファントムサラウンドバック**：5チャンネルスピーカーシステムで7チャンネルスピーカーシステムのようなサラウンド効果を楽しめます。
- **フロントサラウンド**：2本のフロントスピーカーのみでバーチャルサラウンド効果を楽しめます。
- **インシーリングスピーカーモード**：天井スピーカーからの音声出力を画面位置に下げて、より自然な音を再現します。
- **センタースピーカーリフトアップ**：センタースピーカーの音を画面の高さまで持ち上げて、違和感のない自然な音を再現します。

高品位な音楽再生を実現する音響技術

好みの音場に選択可能

2chステレオ、ダイレクト、Auto Format Decodingなど、複数のサウンドフィールドからお好みの音場を選んで楽しむことができます。

DSEE HX（＊）により既存の音源をハイレゾ相当の情報量をもつ高解像度音源にアップスケール

サンプリング周波数192 kHz相当までのアップサンプリング処理と24 bit相当までのビット拡張処理により、本来ハイレゾ音源に含まれている領域の信号を復元することで、MP3などの不可逆圧縮音源やCDをアップスケール。音声をより原音に近く表現力豊かに楽しむことができます。

高品位なBLUETOOTH音楽再生（LDAC）

LDACでは、従来のBLUETOOTH A2DPのSBC（328 kbps、44.1 kHz）に比べて最大約3倍の情報量の伝送が可能です。LDACに対応したヘッドホンやスピーカー、またはウォークマンやスマートフォンなどとBLUETOOTH接続して、高音質なワイヤレス再生を楽しめます。

映画制作時の迫力と臨場感を再現（サウンド・オブティマイザー）

映画の制作時と再生時における音量の差によって生じる聴感上の周波数特性の違いを補正し、家庭での再生音量（低音量）でも映画制作者が意図した迫力やサラウンド効果を再現します。

その他の便利な機能

「SongPal」（*）、「SongPal Link」に対応

SongPalは、スマートフォン／タブレットからソニー製オーディオ機器を操作するためのアプリです。スマートフォン／タブレットから本機を操作したり、SongPal Link機能を利用できます。

* SongPalはSony | Music Centerにリニューアルしました。Sony | Music Centerはこのアプリでお使いになれます。

eARC（Enhanced Audio Return Channel）およびARC（Audio Return Channel）に対応したHDMI端子を搭載

テレビの音声をHDMIケーブル1本で楽しめます。

eARCは、HDMI 2.1で規格化された新機能です。

eARCに対応したテレビと本機をつなぐことにより、従来のARCで対応していたオーディオフォーマットに加え、ARCでは伝送できなかったDolby Atmos - Dolby TrueHDやDTS:XなどのオブジェクトオーディオやマルチチャンネルLPCMを楽しむことができます。

フロントスピーカーのバイアンプ接続に対応

フロントスピーカーが高域（ツイーター）用と低域（ウーファー）用それぞれの入力端子を備えている場合は、バイアンプ接続を利用してより高音質の再生が楽しめます。

いろいろな部屋で音楽や映像を再生可能

- ワイヤレスマルチルーム機能（*）を使って、いろいろな部屋で音楽を聞くことができます。
- マルチゾーン機能を使って、別の部屋でメインの部屋とは別の音と映像が楽しめます。

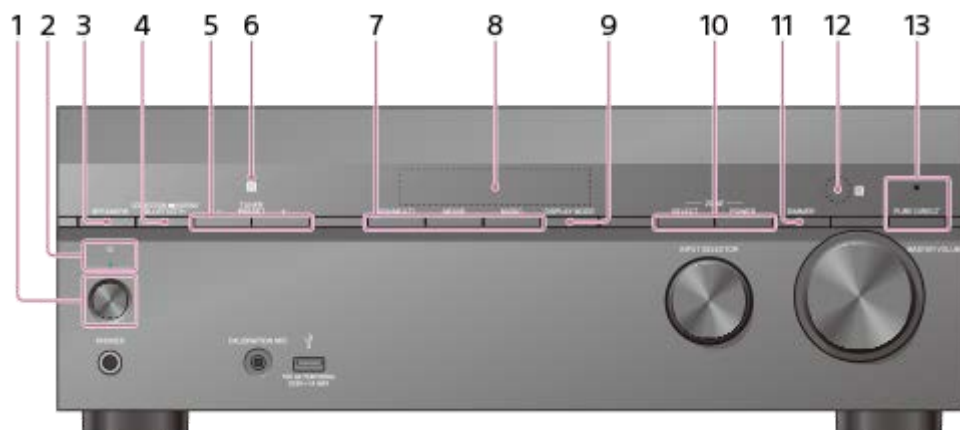
* アンプにつないだ機器の音声を楽しめます。音声は映像より遅れます。

関連項目

- [映像や音声を楽しむ](#)
- [ネットワーク機能を使ってできること](#)
- [スピーカーの位置を補正する（S P Kリロケーション／ファントムS B）](#)
- [天井スピーカーからの音をより自然な表現で楽しむ（インシーリングスピーカーモード）](#)
- [センタースピーカーの音を持ち上げる（センタースピーカーリフトアップ）](#)
- [選べるサウンドフィールドとその効果](#)
- [低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しむ（サウンド・オブティマイザー）](#)
- [マルチゾーン機能を使ってできること](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

本体前面（上部）



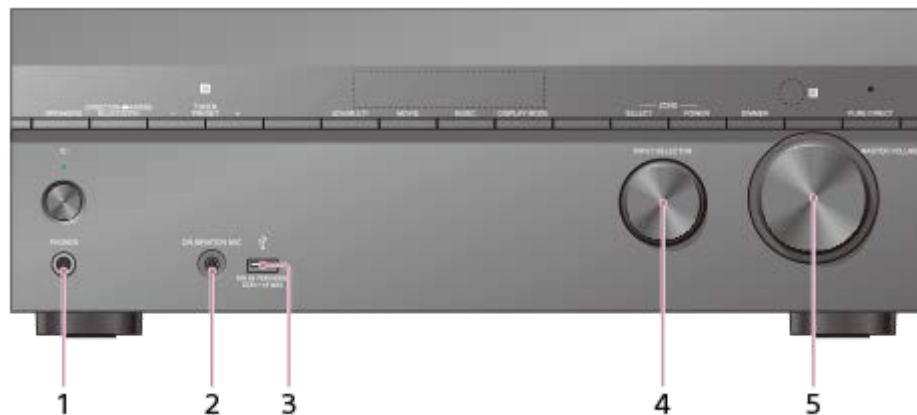
1. **⏻（電源）**
 2. **電源表示ランプ**
 3. **SPEAKERS**
 4. **CONNECTION — PAIRING BLUETOOTH**
アンプをBLUETOOTH機能に切り替え、ペアリングモードにします。
 5. **TUNER PRESET +/-**
プリセットしたFMチューナーの放送局を選びます。
 6. **NFCセンサー**
 7. **2CH/MULTI、MOVIE（*）、MUSIC（*）**
好みの音場（サウンドフィールド）を選びます。
 8. **表示窓**
 9. **DISPLAY MODE**
表示窓の情報を切り替えます。
 10. **ZONE SELECT、ZONE POWER**
ゾーン機能を楽しむときに使います。
 11. **DIMMER**
表示窓の明るさを調節します。
 12. **リモコン受光部**
リモコンからの信号を受信します。
 13. **PURE DIRECT**
ピュアダイレクトモードを選んでいるときは、ボタンの上のランプが点灯します。
- * 入力やスピーカーパターンの設定、または音声フォーマットによっては、映画用および音楽用のサウンドフィールドが機能しない場合があります。

関連項目

- [本体前面（下部）](#)
- [電源表示ランプ](#)
- [表示窓上のインジケーター](#)
- [電源を入れる](#)
- [4. フロントスピーカーを選ぶ](#)
- [ワンタッチ接続でBLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（NFC）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

本体前面（下部）



1. **PHONES端子**
ヘッドホンをつなぎます。
2. **CALIBRATION MIC端子**
3. **ψ (USB) FOR AV PERIPHERALポート（AV周辺機器用）**
AV周辺機器用のUSBメモリーを接続します。
4. **INPUT SELECTOR**
5. **MASTER VOLUME**

関連項目

- [本体前面（上部）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

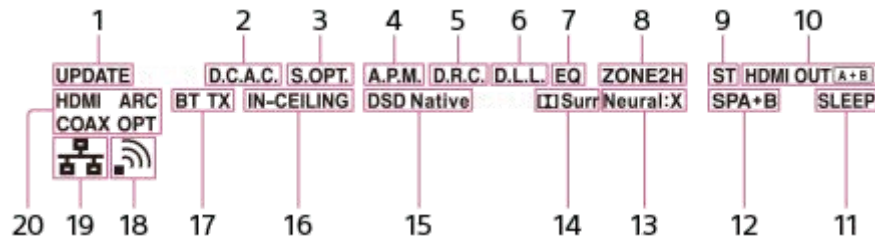
電源表示ランプ

- 緑色：電源が入っている状態
 - オレンジ色：スタンバイ状態で、次のいずれかの設定になっている状態
 - － [HDMI機器制御]、[Bluetoothスタンバイ]、[ネットワークスタンバイ] または [リモート起動] を [入] に設定している
 - － [スタンバイスルー] を [入] または [自動] に設定している
 - － [ゾーン2機能] または [HDMIゾーン機能] を [入] に設定している
 - 消灯：スタンバイ状態で、以下のすべてを [切] に設定している状態
 - － [HDMI機器制御]
 - － [スタンバイスルー]
 - － [Bluetoothスタンバイ]
 - － [ネットワークスタンバイ]
 - － [リモート起動]
 - － [ゾーン2機能] および [HDMIゾーン機能]
-

関連項目

- [本体前面（上部）](#)
- [リモコン（上部）](#)

表示窓上のインジケータ



1. **UPDATE**
新しいソフトウェアをダウンロード可能なときに点灯します。
2. **D.C.A.C.**
自動音場補正 (D.C.A.C. EX) の測定結果が適用されているときに点灯します。
3. **S.OPT**
サウンド・オブティマイザーが働いているときに点灯します。
4. **A.P.M.**
A.P.M. (自動位相マッチング) 機能が働いているときに点灯します。自動位相マッチング機能は、D.C.A.C.機能の中でのみ設定できます。
5. **D.R.C.**
ダイナミックレンジの調整が働いているときに点灯します。
6. **D.L.L.**
D.L.L. (デジタル・レガート・リニア) 機能が働いているときに点灯します。
7. **EQ**
イコライザーが働いているときに点灯します。
8. **ZONE2、ZONE H**
ゾーン2の電源が入っているときに [ZONE2]、HDMIゾーンの電源が入っているときに [ZONE H] が点灯します。
9. **ST**
FMステレオ放送局を受信しているときに点灯します。
10. **HDMI OUT A + B**
音声／映像信号を出力しているHDMI出力端子を表示します。
11. **SLEEP**
スリープタイマーが働いているときに点灯します。
12. **スピーカースystem表示**
13. **Neural:X**
DTS Neural:X処理が働いているときに点灯します。
14. **□ Surr**
ドルビーサラウンド処理が働いているときに点灯します。
15. **DSD Native**
DSDネイティブ再生をしているときに点灯します。
16. **IN-CEILING**
インシーリングスピーカーモードを使用しているときに点灯します。
17. **BLUETOOTH表示**
BLUETOOTH機器が接続されているときに [BT] が点灯します。接続操作中は点滅します。
[Bluetoothモード] が [送信] に設定されているときは、[BT TX] が点灯します。
18. **無線LAN信号強度表示**
無線LAN信号の強度を示します。アンプのネットワーク設定が行われていない場合は、電源を入れたあと30分間表示が点滅します。
 - 信号なし
 - 弱い
 - 適度
 - 強い

19. 有線LAN表示

有線LAN接続されているときに点灯します。

20. 入力表示

現在アンプに入力されている信号を点灯表示します。

HDMI

選択したHDMI IN端子からデジタル信号が入力されています。

ARC

テレビ入力を選択され、eARCまたはARC信号が入力されています。

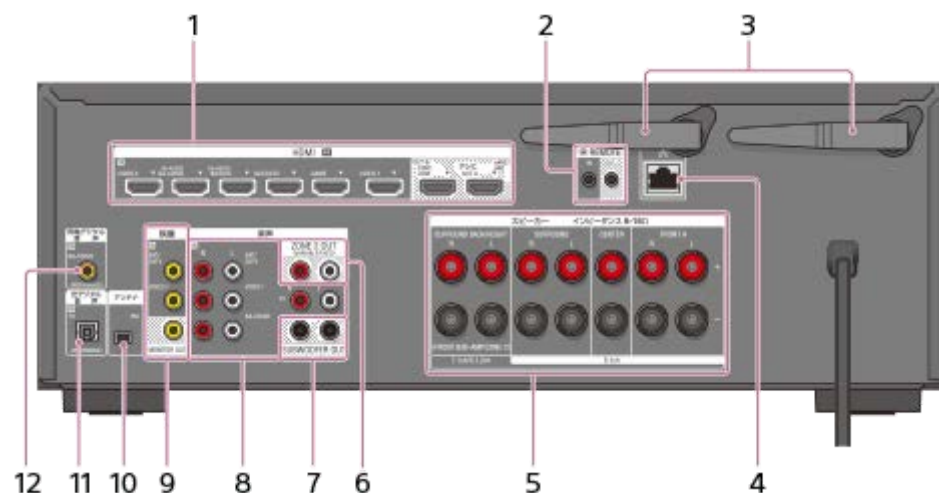
COAX

デジタル信号が同軸デジタル音声IN端子から入力されています。

OPT

デジタル信号が光デジタル音声IN端子から入力されています。

本体後面



1. HDMI IN/OUT 端子 (*1) (*2)

2. IR REMOTE IN/OUT端子

- IRリピーター (別売) をIR REMOTE IN端子につなぐと、離れた場所からアンプを操作できます。
- IRブラスター (別売) をIR REMOTE OUT端子につなぐと、アンプに接続したCDプレーヤーなどの機器を再生または停止できます。

3. 無線LANアンテナ

4. LANポート

5. スピーカー端子

6. ZONE 2 OUT端子

7. SUBWOOFER OUT端子

8. 音声IN端子

9. 映像IN/MONITOR OUT 端子 (*2)

10. FMアンテナ端子

11. 光デジタル音声IN端子

12. 同軸デジタル音声IN端子

*1 このアンプのHDMI IN端子およびHDMI OUT端子はすべてHDCP 2.2に対応しています。HDCP 2.2は、4K映画などのコンテンツを保護するために拡張された新しい著作権保護技術です。

*2 これらの入力端子から入力した映像を見るには、それぞれの入力に応じた出力端子にテレビをつないでください。アンプとテレビの接続について詳しくは「[テレビを接続する](#)」をご覧ください。

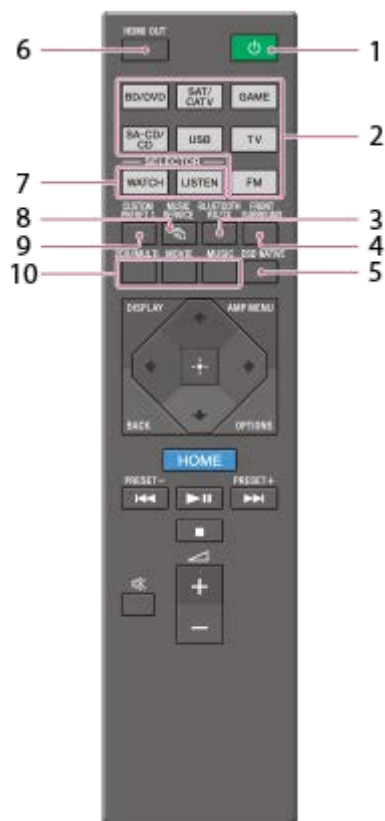
関連項目

- [映像信号の入出力について](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

リモコン（上部）

付属のリモコンを使ってアンプを操作してください。



1. 電源

本体の電源をオンまたはスタンバイ状態にします。

2. 入力切り替え用ボタン

使用する機器を選びます。

入力切り替え用ボタンを押すと、アンプの電源が入ります。

3. BLUETOOTH RX/TX

「Bluetoothモード」を「受信」または「送信」に切り替えます。

「受信」モードのときは、アンプが音声を再生機器から受信して出力します。

「送信」モードのときは、アンプが音声をBLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーに送信します。

4. FRONT SURROUND

フロントサラウンドモードを有効にして、2本のフロントスピーカーのみでバーチャルサラウンド効果を楽しめます。

5. DSD NATIVE

DSDネイティブ再生機能を有効にします。

この機能は、ソース機器の再生を停止しているときのみ入/切できます。

6. HDMI OUT（HDMI出力）

HDMIテレビOUT AおよびHDMI OUT B/HDMI ZONE端子につないだ2台のテレビへの出力を切り替えます。

「HDMI設定」メニューの「HDMI出力Bモード」を「メイン」に設定しているときは、ボタンを押すたびに、「HDMI A」、「HDMI B」、「HDMI A+B」および「HDMI OFF」と出力が切り替わります。「ゾーン」に設定しているときは、ボタンを押すたびに「HDMI A」または「HDMI OFF」に切り替わります。両端子からの出力をオフにしたいときは「HDMI OFF」を選びます。

7. WATCH、LISTEN

ホームメニューから直接「Watch」または「Listen」を選びます。WatchまたはListen画面でこれらのボタンを押すと、フォーカスを動かしてお好みの入力を選べます。

8. MUSIC SERVICE

Spotify Connect（＊1）を使ってアンプで音楽を聞いたことがある場合は、MUSIC SERVICEを押すとSpotifyの音楽の続きを再生できます。

9. CUSTOM PRESET 1

アンプの各種設定を保存、呼び出します。ボタンを短く押して、プリセット登録したカスタム設定を呼び出します。長押しすると現在の設定をプリセット登録します。

10. 2CH/MULTI、MOVIE（＊2）、MUSIC（＊2）

お好みの音場（サウンドフィールド）を選びます。

＊1 Spotifyのプレミアムアカウントをお持ちの場合のみ、アンプでSpotifyの音楽を再生できます。

＊2 入力やスピーカーパターンの設定、または音声フォーマットによっては、映画用および音楽用のサウンドフィールドが機能しない場合があります。

ご注意

- 上記の説明は例としてあげています。
- つないでいる機器の種類によっては、付属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

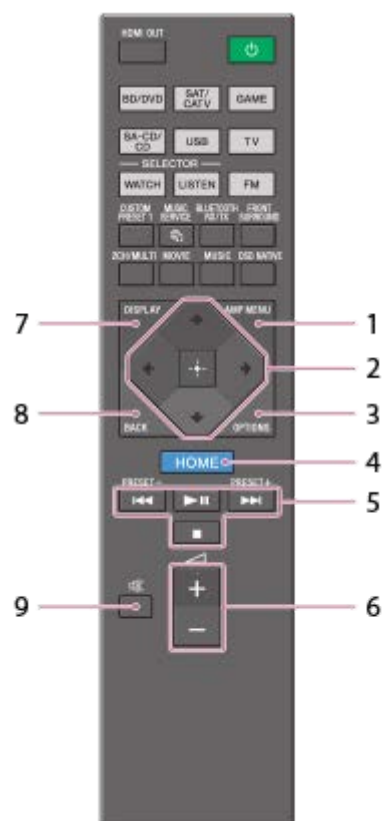
関連項目

- [電源表示ランプ](#)
- [リモコン（下部）](#)
- [スタンバイ時の消費電力を抑える](#)
- [インターネットで提供されているラジオや音楽サービスを楽しむ](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

リモコン（下部）

付属のリモコンを使ってアンプを操作してください。



1. AMP MENU

アンプを操作するためのメニューを表示窓に表示します。

2. ,

を押してメニュー項目を選び、 を押して決定します。

3. OPTIONS

オプションメニューを表示させます。

4. HOME

テレビ画面にホームメニューを表示します。

5. (＊) ,

スキップ、再生、一時停止、停止の操作を行います。

PRESET + / -

プリセットした放送局やチャンネルを選びます。長押しすると、自動的に放送局をスキャンします。

6. + (＊) / -

すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。

7. DISPLAY

テレビ画面に情報を表示します。

8. BACK

メニューまたはオンスクリーンガイドをテレビ画面に表示しているとき、前のメニューへ戻る、またはメニューを閉じます。

9. (消音)

一時的に音を消します。消音を解除するときは、ボタンをもう一度押します。

＊ および + ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作するときの目印としてお使いください。

ご注意

- 上記の説明は例としてあげています。
- つないでいる機器の種類によっては、付属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

関連項目

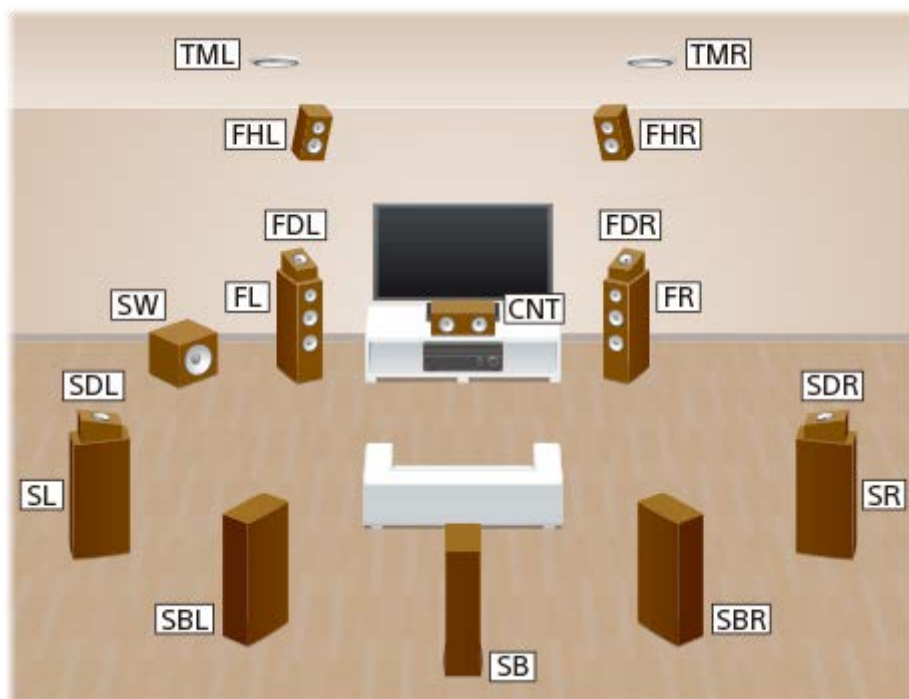
- [リモコン（上部）](#)

4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

スピーカーの名称と働き

スピーカーの設置例



図で使われている略称	スピーカー名	機能
FL	フロントLスピーカー	フロントL／フロントRチャンネルの音声を出力します。
FR	フロントRスピーカー	
CNT	センタースピーカー	センターチャンネルの音声（セリフやボーカルなど）を出力します。
SL	サラウンドLスピーカ－	サラウンドL／サラウンドRチャンネルの音声を出力します。
SR	サラウンドRスピーカ－	
SBL	サラウンドバックLスピーカ－	サラウンドバックL／サラウンドバックRチャンネルの音声を出力します。
SBR	サラウンドバックRスピーカ－	
SB	サラウンドバックスピーカ－	サラウンドバックチャンネルの音声を出力します。
SW	アクティブサブウーファ－	LFE（重低音効果）チャンネルの音声を出力し、LFE以外のチャンネルの低音域を補強します。

図で使 われて いる略 称	スピーカー名	機能
FHL	フロントハイルスピー カー	フロントハイル／フロントハイRチャンネルから音声を出力して高低差のあるサ ウンド効果を追加します。
FHR	フロントハイRスピー カー	
TML	トップミドルLスピー カー	トップミドルL／トップミドルRチャンネルの音声を出力します。
TMR	トップミドルRスピー カー	
FDL	フロントドルビーアト モスイネーブルDLス ピーカー	トップミドルL／トップミドルRチャンネルの音声を出力し、天井に反射させま す。天井スピーカーを設置せずに、ドルビーアトモス3Dコンテンツの音声を再 生します。
FDR	フロントドルビーアト モスイネーブルDRス ピーカー	
SDL	サラウンドドルビーア トモスイネーブルDL スピーカー	トップミドルL／トップミドルRチャンネルの音声を出力し、天井に反射させま す。天井スピーカーを設置せずに、ドルビーアトモス3Dコンテンツの音声を再 生します。
SDR	サラウンドドルビーア トモスイネーブルDR スピーカー	
Z2L	ゾーン2Lスピーカー	別の場所（「ゾーン2」）に音声を出力します。ゾーン2については「 5.1チャ ンネルスピーカーシステムを設置する（ゾーン2にもスピーカーを設置する場 合） 」をご覧ください。
Z2R	ゾーン2Rスピーカー	

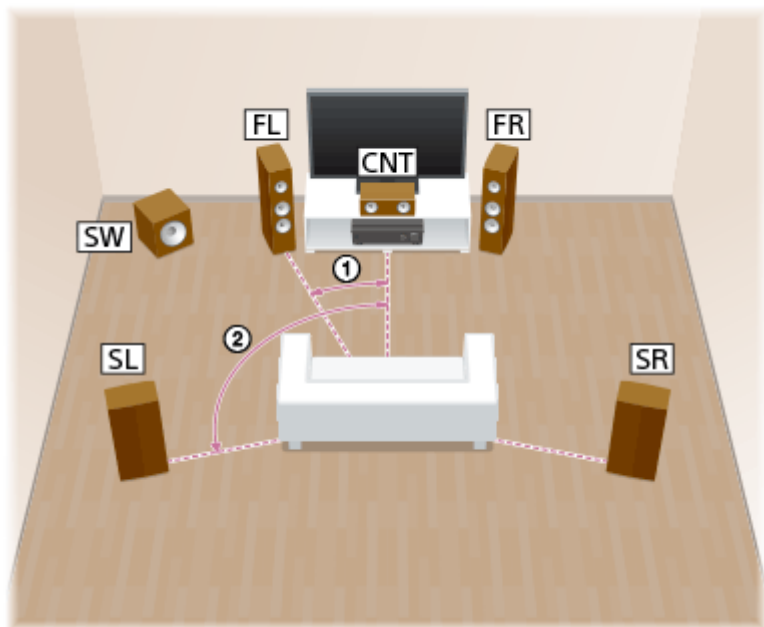
関連項目

- [5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（ゾーン2にもスピーカーを設置する場合）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する

映画館のようなマルチチャンネル音声を十分に楽しむには、5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）およびアクティブサブウーファーが必要です。



① 30°

② 100° - 120°

ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

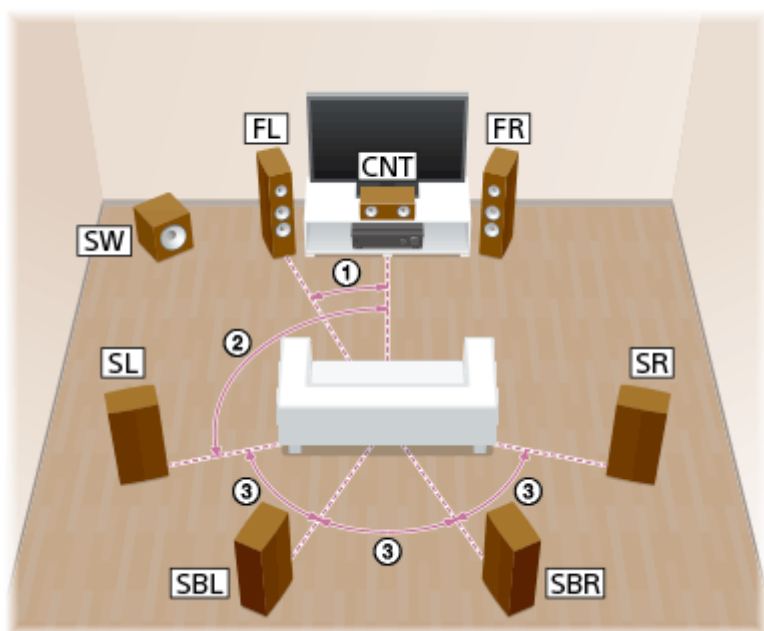
関連項目

- [スピーカーの名称と働き](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

7.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合）

DVDやブルーレイディスクに記録された6.1チャンネルまたは7.1チャンネルの音声を忠実に再現することができます。



- ① 30°
- ② 100° - 120°
- ③ 等角度

ご注意

- 6.1チャンネルシステムで設置する場合は、サラウンドバックスピーカー1本を視聴位置の真後ろに配置してください。

ヒント

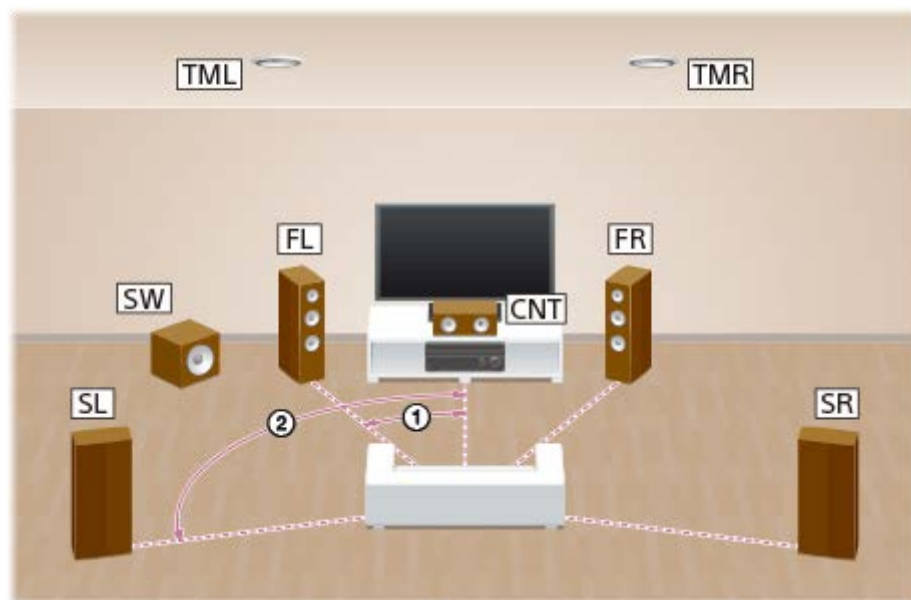
- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

関連項目

- [スピーカーの名称と働き](#)
- [7.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合）](#)

5.1.2チャンネルスピーカーシステムを設置する（トップミドルスピーカーをつなぐ場合）

2本のトップミドルスピーカーを接続し、垂直方向のサウンド効果を楽しむことができます。



① 30°

② 100° - 120°

ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

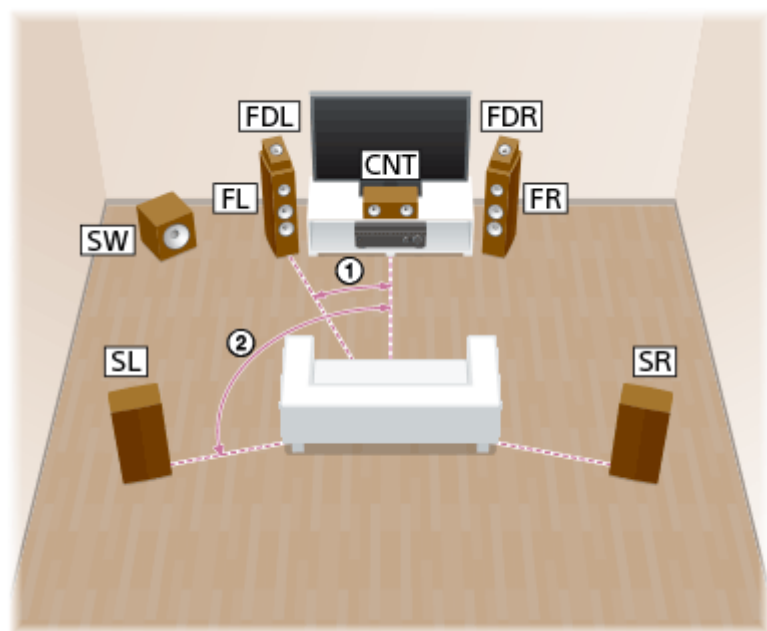
関連項目

- [スピーカーの名称と働き](#)
- [5.1.2チャンネルスピーカーシステムを接続する（トップミドルスピーカーをつなぐ場合）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

5.1.2チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカーをつなぐ場合）

2本のフロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカーを接続し、垂直方向のサウンド効果を楽しむことができます。



① 30°

② 100° - 120°

ヒント

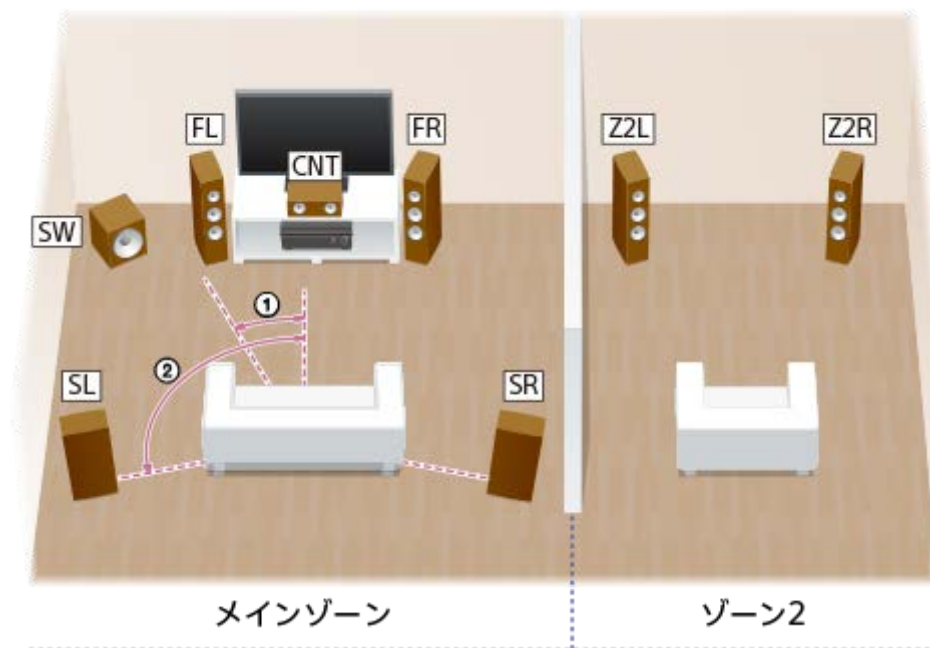
- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

関連項目

- [スピーカーの名称と働き](#)
- [5.1.2チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカーをつなぐ場合）](#)

5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（ゾーン2にもスピーカーを設置する場合）

映画館のようなマルチチャンネル音声を充分に楽しむには、5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）およびアクティブサブウーファーが必要です。また、ゾーン2スピーカーを追加することにより、音声を別の部屋（「ゾーン2」）で楽しめます。例えば、メインゾーンではDVDを視聴しながら、ゾーン2では音楽サービスから受信した音楽を聞くことができます。



ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

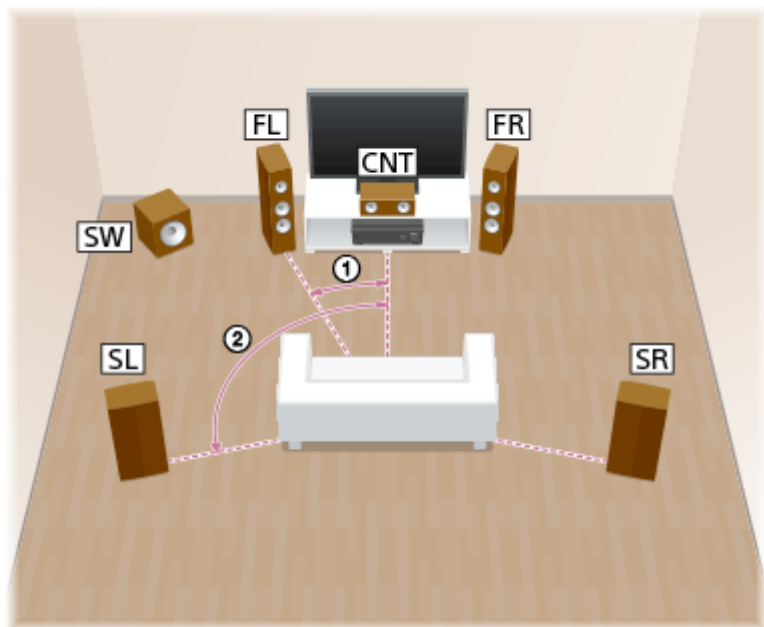
関連項目

- [スピーカーの名称と働き](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（ゾーン2にもスピーカーを設置する場合）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（バイアンプ接続を使う場合）

バイアンプ接続を利用して、内蔵のアンプをツイーターとウーファーへ個別に接続することで、フロントスピーカーの音質を向上させることができます。



① 30°

② 100° - 120°

ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

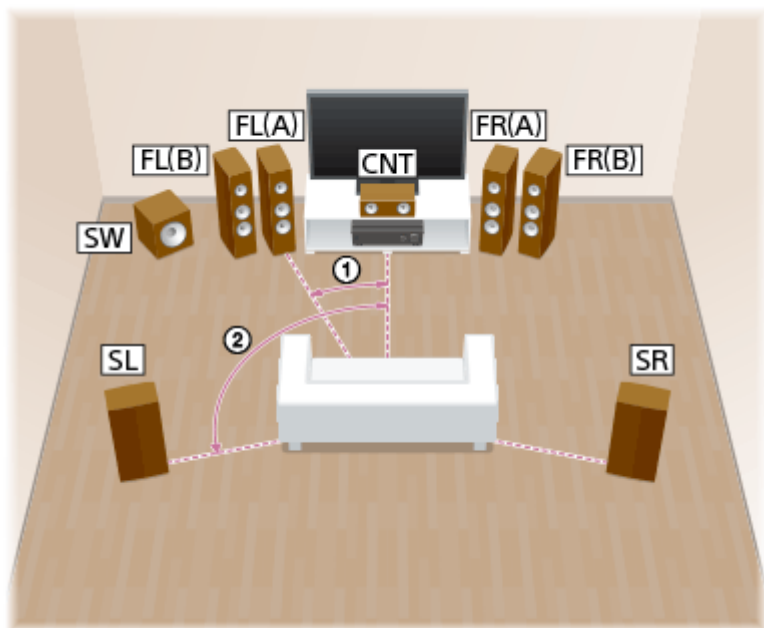
関連項目

- [スピーカーの名称と働き](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（バイアンプ接続を使う場合）](#)

5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントBスピーカーをつなぐ場合）

フロントスピーカーシステムをもう1組お持ちの場合は、スピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2)端子に接続することができます（フロントBスピーカー接続）。

音声は、フロントAスピーカーまたはフロントBスピーカーからのみの出力、フロントAスピーカーとフロントBスピーカー両方からの出力が選べます。



① 30°

② 100° - 120°

ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

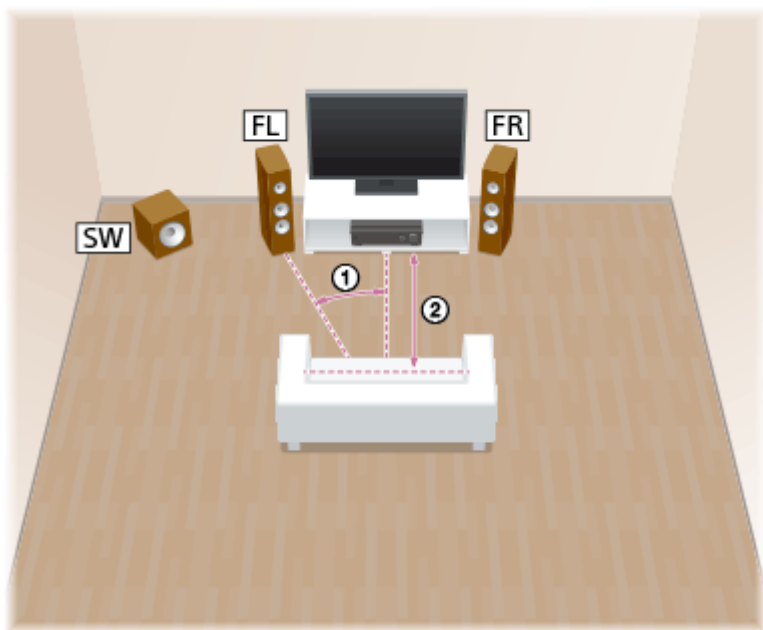
関連項目

- [スピーカーの名称と働き](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントBスピーカーをつなぐ場合）](#)
- [4. フロントスピーカーを選ぶ](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

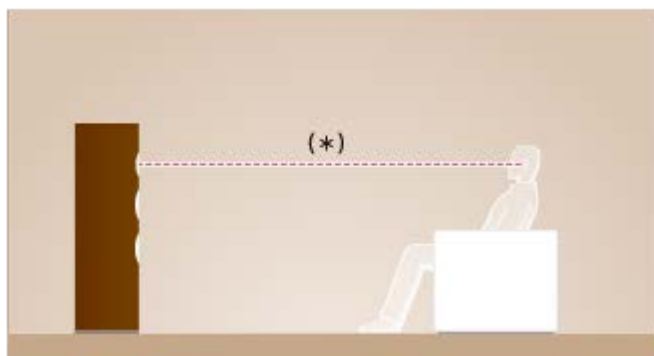
2.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントサラウンドを楽しむ場合）

サウンドフィールドの設定で「フロントサラウンド」を選ぶと、2本のフロントスピーカーのみでバーチャルサラウンド効果を楽しめます。
フロントサラウンドを楽しむには、以下のようにスピーカーを配置してください。



① 30°

② 1.5 m - 3 m



* フロントスピーカーのツイーターと、音声を聞く人の耳の高さを合わせます。

ヒント

- フロントスピーカーは少しずつ向きを変えてみて、サラウンド効果をより感じられる向きを探して調整してください。

関連項目

- [スピーカーの名称と働き](#)
- [2.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントサラウンドを楽しむ場合）](#)
- [選べるサウンドフィールドとその効果](#)

スピーカー配置とスピーカーパターンの設定について

お使いのスピーカー構成に合わせてスピーカーパターンを選びます。次の表はスピーカー構成と設定の例です。

各ゾーンのスピーカー構成		[サラウンドバックスピーカー 割り当て] (*)	[スピーカーパターン] の設定
メインゾーン	ゾーン 2		
5.1チャンネル	使用せ ず	—	[5.1]
7.1チャンネル (サラウンドバックスピーカー使 用)	使用せ ず	—	[7.1]
5.1.2チャンネル (トップミドルスピーカー使 用)	使用せ ず	—	[5.1.2 (TM)]
5.1.2チャンネル (フロントドルビーアトモスイ ネーブルドスピーカー使用)	使用せ ず	—	[5.1.2 (FD)]
5.1チャンネル	2チャ ンネル	[ゾーン2]	[5.1]
5.1チャンネル (バイアンプ接続)	使用せ ず	[バイアンプ]	[5.1]
5.1チャンネル (フロントBスピーカー接続)	使用せ ず	[フロントB]	[5.1]
2.1チャンネル (フロントサラウンドを楽しむ場 合)	使用せ ず	—	[2.1]

* スピーカーパターンをサラウンドバックおよびハイト／オーバーヘッドスピーカーを使わない設定にしたときのみ [サラウンドバックスピー
カー割り当て] を設定できます。

ヒント

- [スピーカー設定] メニューの [S P Kリロケーション／ファントムS B] を [タイプA] または [タイプB] に設定すると、
聴感上最大で7.1.2チャンネル相当のサラウンド効果が楽しめます。[S P Kリロケーション／ファントムS B] の設定を行う
場合は、事前に自動音場補正を行ってください。

関連項目

- [スピーカーパターンを選ぶ \(スピーカーパターン\)](#)
- [サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する \(サラウンドバックスピーカー割り当て\)](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する](#)
- [5. 自動音場補正を行う](#)
- [スピーカーの位置を補正する \(S P Kリロケーション／ファントムS B\)](#)

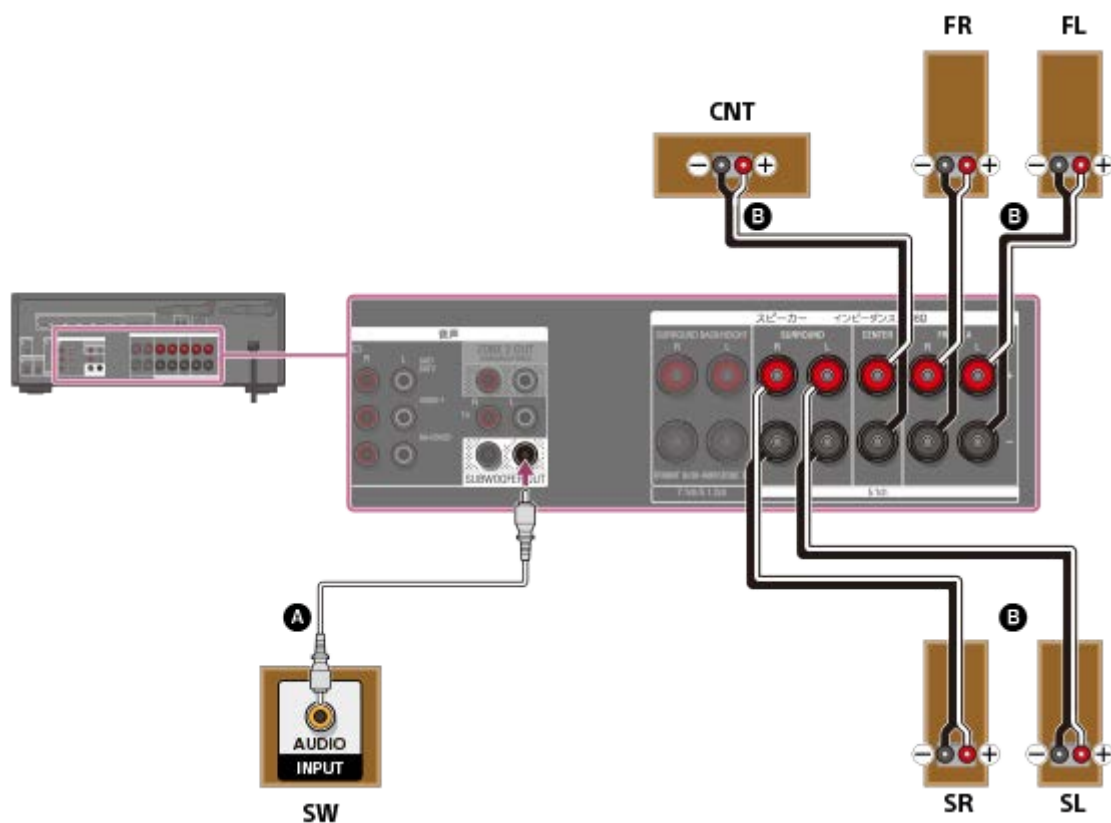
マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する

各スピーカーを下図のようにつないでください。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- **A** モノラル音声ケーブル（別売）
- **B** スピーカーケーブル（別売）

ご注意

- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、6 Ω ～ 16 Ωです。
- スピーカーの設置および接続後は、必ず「スピーカー設定」メニューの「スピーカーパターン」を使って好みのスピーカーパターンを選んでください。

関連項目

- [スピーカーの名称と働き](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する](#)
- [スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [スピーカーケーブルのつなぎかた](#)

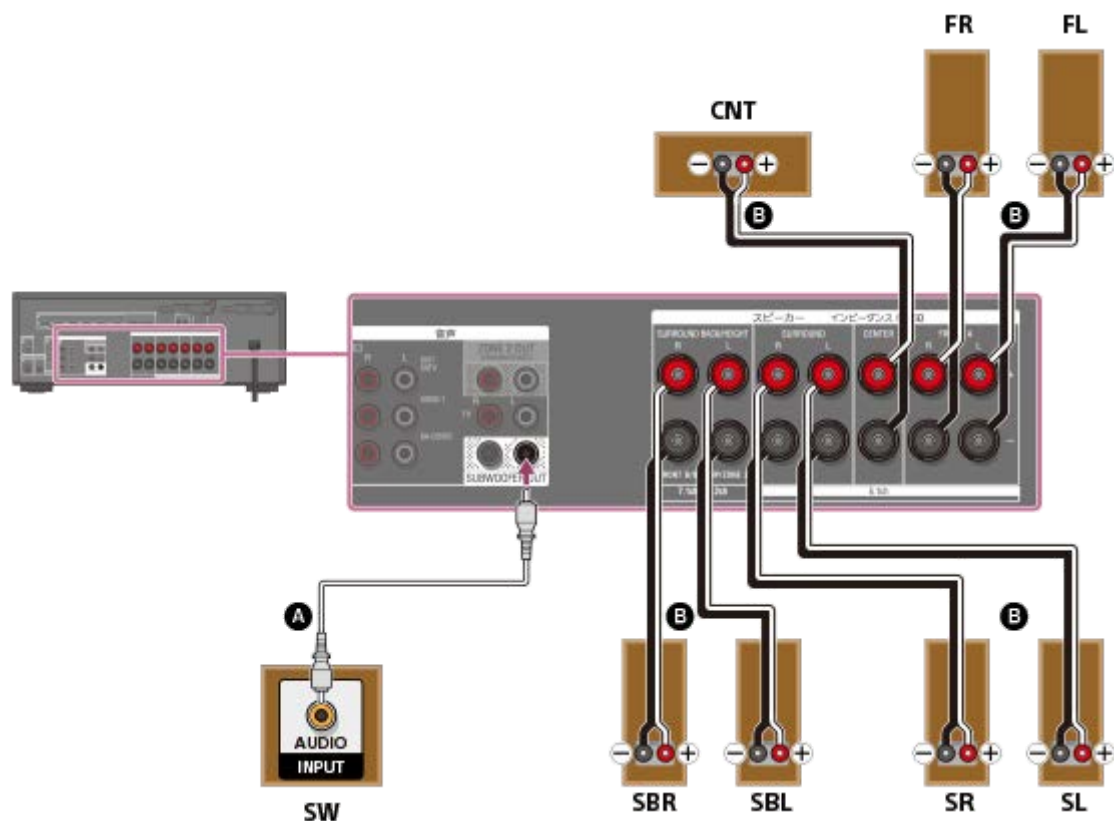
マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

7.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合）

各スピーカーを下図のようにつないでください。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- A モノラル音声ケーブル（別売）
- B スピーカーケーブル（別売）

サラウンドバックスピーカーを1台のみ接続する場合は、サラウンドバックスピーカーをL（+/-）端子に接続してください。

接続後、[スピーカー設定]の[スピーカーパターン]でサラウンドバックスピーカーを1台のみ接続したスピーカーパターンを選んでください。

ご注意

- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、6 Ω ～ 16 Ωです。
- スピーカーの設置および接続後は、必ず[スピーカー設定]メニューの[スピーカーパターン]を使って好みのスピーカーパターンを選んでください。

関連項目

- [スピーカーの名称と働き](#)
- [7.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合）](#)
- [スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）](#)

- ケーブル類を接続するときの注意
- スピーカーケーブルのつなぎかた

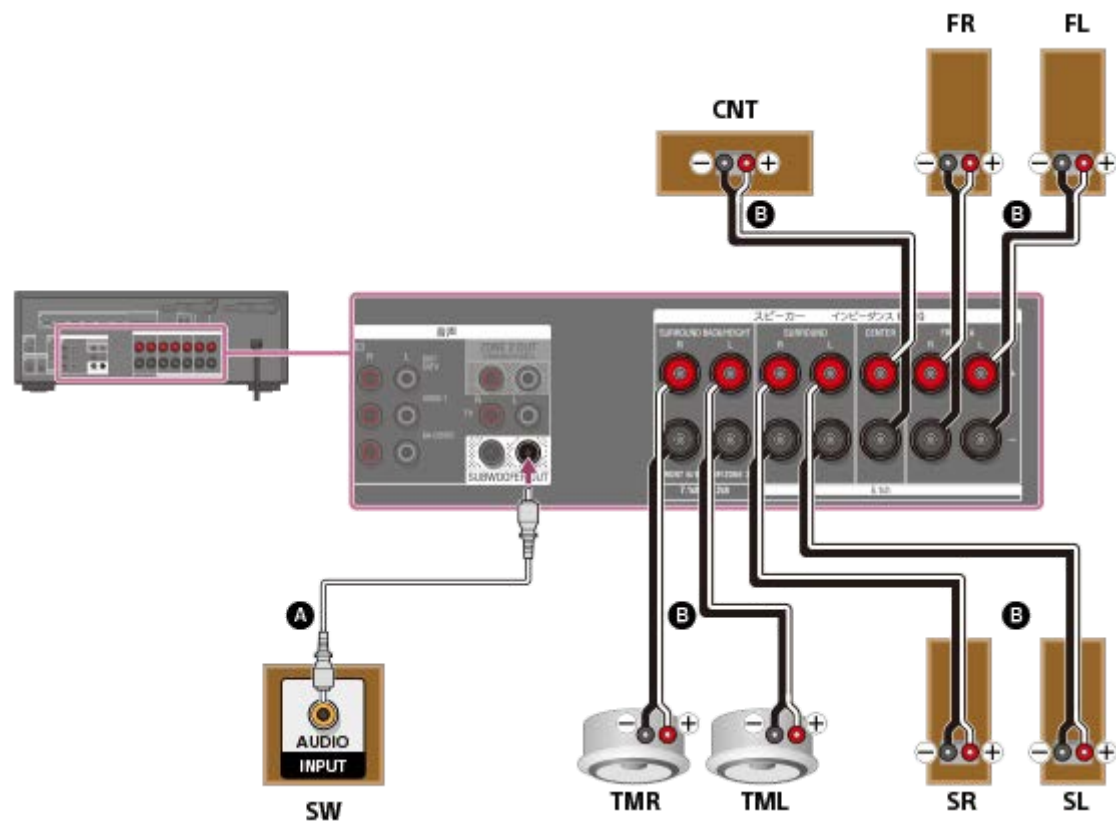
4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

5.1.2チャンネルスピーカーシステムを接続する（トップミドルスピーカーをつなぐ場合）

各スピーカーを下図のようにつないでください。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- **A** モノラル音声ケーブル（別売）
- **B** スピーカーケーブル（別売）

ご注意

- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、 $6\Omega \sim 16\Omega$ です。
- スピーカーの設置および接続後は、必ず「スピーカー設定」メニューの「スピーカーパターン」を使って好みのスピーカーパターンを選んでください。

関連項目

- [スピーカーの名称と働き](#)
- [5.1.2チャンネルスピーカーシステムを設置する（トップミドルスピーカーをつなぐ場合）](#)
- [スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [スピーカーケーブルのつなぎかた](#)

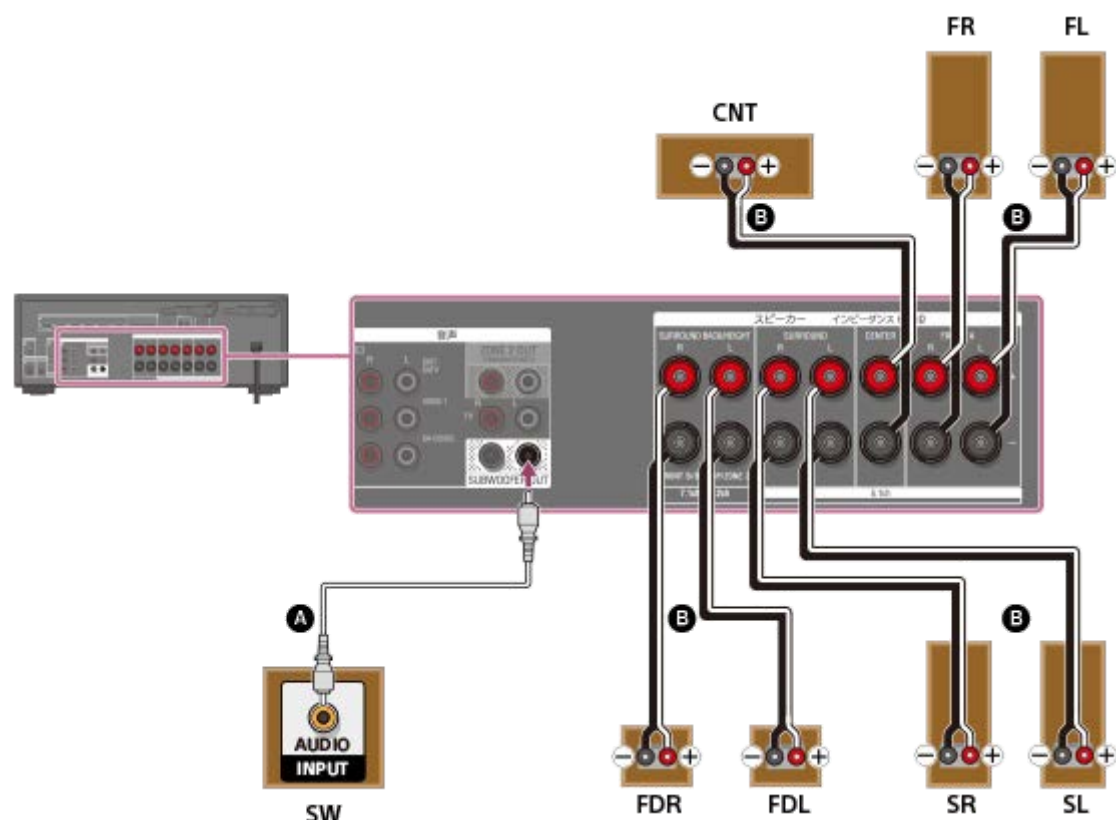
マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

5.1.2チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカーをつなぐ場合）

各スピーカーを下図のようにつないでください。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- A モノラル音声ケーブル（別売）
- B スピーカーケーブル（別売）

ご注意

- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、6 Ω ～ 16 Ωです。
- スピーカーの設置および接続後は、必ず「スピーカー設定」メニューの「スピーカーパターン」を使って好みのスピーカーパターンを選んでください。

関連項目

- [スピーカーの名称と働き](#)
- [5.1.2チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカーをつなぐ場合）](#)
- [スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [スピーカーケーブルのつなぎかた](#)

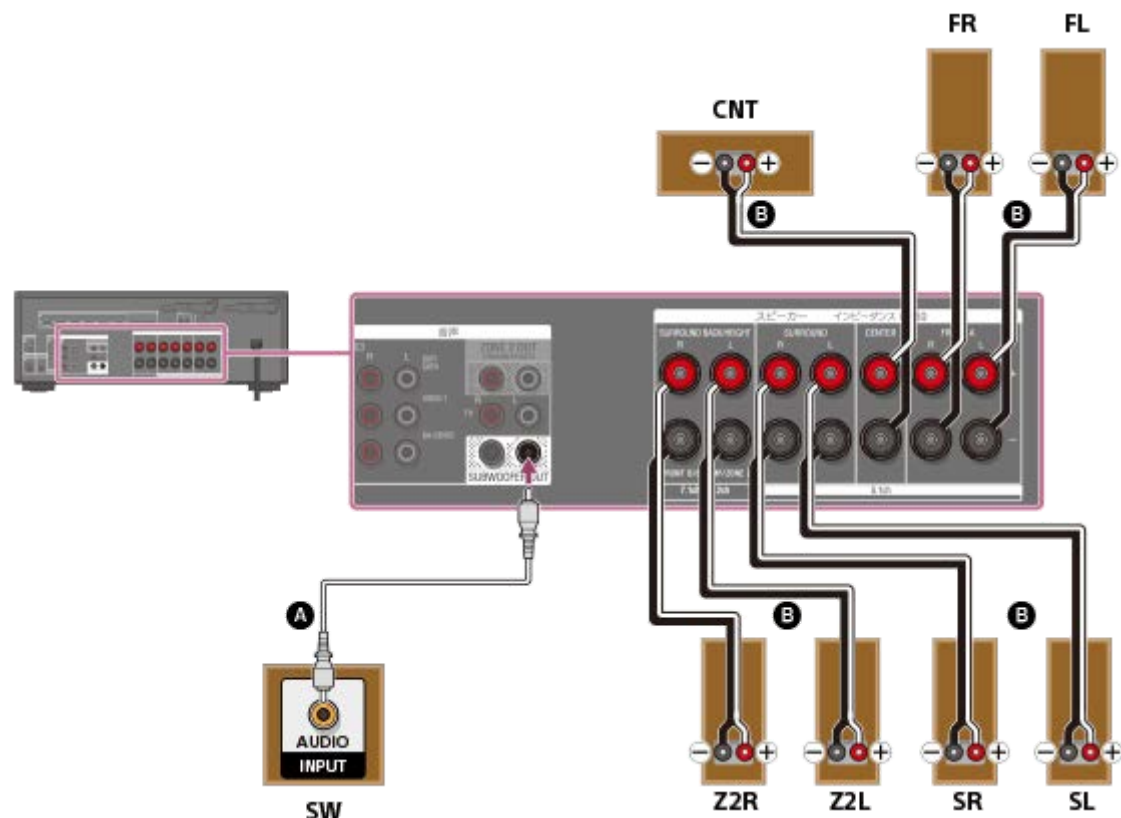
マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（ゾーン2にもスピーカーを設置する場合）

各スピーカーを下図のようにつないでください。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



● **A** モノラル音声ケーブル（別売）

● **B** スピーカーケーブル（別売）

ゾーン2スピーカーの接続後は、[スピーカー設定]メニューの[サラウンドバックスピーカー割り当て]を[ゾーン2]に設定してください。

ご注意

- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、6 Ω ～ 16 Ωです。
- スピーカーの設置および接続後は、必ず[スピーカー設定]メニューの[スピーカーパターン]を使って好みのスピーカーパターンを選んでください。
- スピーカーパターンをサラウンドバックスピーカーおよびハイト／オーバーヘッドスピーカーを使わない設定にしたときのみ、[サラウンドバックスピーカー割り当て]を設定できます。
- [USB]、[Bluetooth]（BLUETOOTH RX（受信）モード時のみ）、[Home Network]、[Music Service List] および [FM TUNER] からの音声信号、または音声IN端子からの音声のみゾーン2のスピーカーから出力されます。
- 光デジタル音声IN端子、同軸デジタル音声IN端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力信号は、ゾーン2のスピーカーから出力できません。

- スピーカーの名称と働き
- 5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（ゾーン2にもスピーカーを設置する場合）
- 7.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合）
- サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する（サラウンドバックスピーカー割り当て）
- ゾーン2に設置したスピーカーで音声を楽しむ
- ケーブル類を接続するときのご注意
- スピーカーケーブルのつなぎかた

4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（バイアンプ接続を使う場合）

バイアンプ接続を利用して、内蔵のアンプをツイーターとウーファーへ個別に接続することで、フロントスピーカーの音質を向上させることができます。

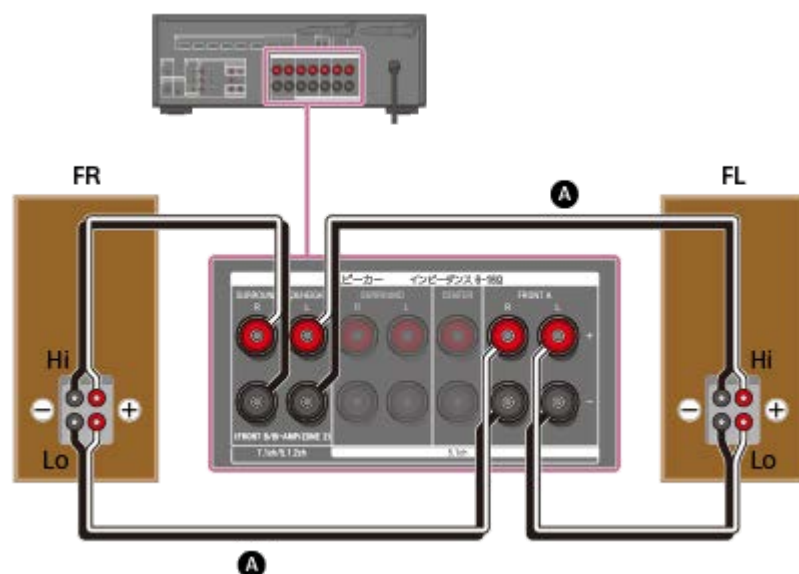
サラウンドバックスピーカーとハイト／オーバーヘッドスピーカーを使用していない場合は、バイアンプ接続でフロントスピーカーをスピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2)端子につなぐことができます。各スピーカーを下図のようにつないでください。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。

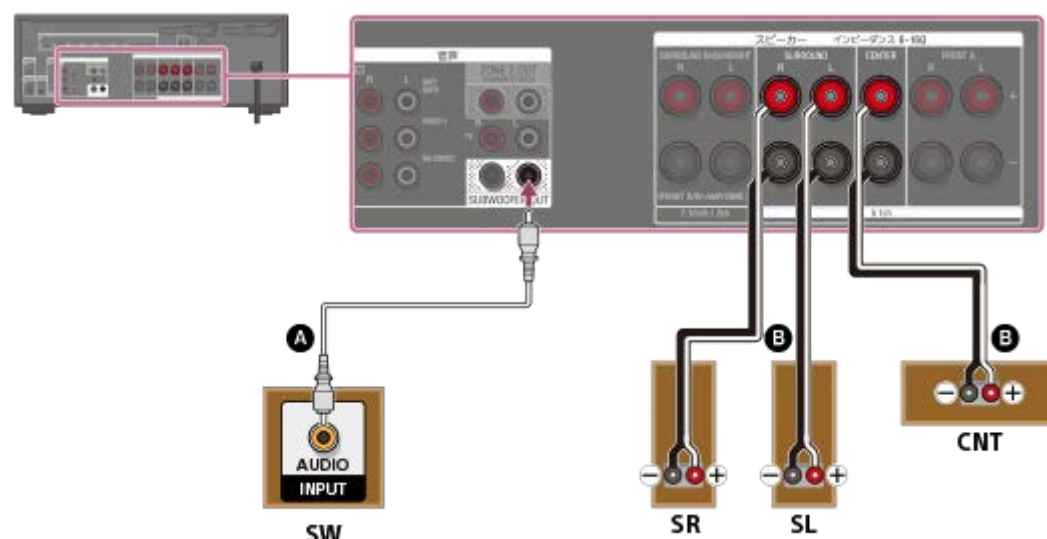
バイアンプ接続でフロントスピーカーを接続する

フロントスピーカーのLo（またはHi）側の端子をスピーカーFRONT A端子につなぎ、フロントスピーカーのHi（またはLo）側の端子をスピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2)端子につなぎます。故障を防ぐため、それぞれのスピーカーに付いているHi/Loのショート金具を必ず外してください。



● A スピーカーケーブル（別売）

フロントスピーカー以外のスピーカーを接続する



- **A モノラル音声ケーブル（別売）**
- **B スピーカーケーブル（別売）**

バイアンプ接続後は、[スピーカー設定] メニューの [サラウンドバックスピーカー割り当て] を [バイアンプ] に設定してください。

ご注意

- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、 $6\ \Omega \sim 16\ \Omega$ です。
- スピーカーの設置および接続後は、必ず [スピーカー設定] メニューの [スピーカーパターン] を使って好みのスピーカーパターンを選んでください。
- スピーカーパターンをサラウンドバックスピーカーおよびハイト／オーバーヘッドスピーカーを使わない設定にしたときのみ、[サラウンドバックスピーカー割り当て] を設定できます。

関連項目

- [スピーカーの名称と働き](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（バイアンプ接続を使う場合）](#)
- [スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）](#)
- [サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する（サラウンドバックスピーカー割り当て）](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [スピーカーケーブルのつなぎかた](#)

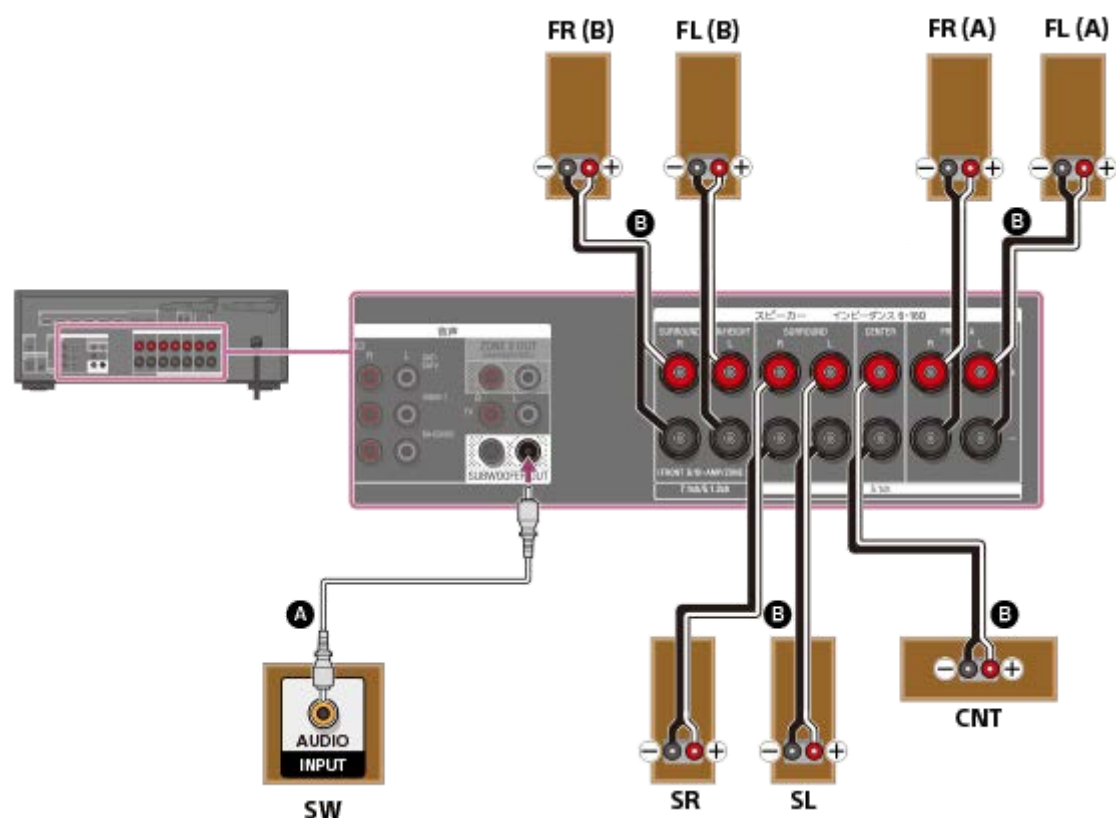
5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントBスピーカーをつなぐ場合）

サラウンドバックスピーカーとハイト／オーバーヘッドスピーカーを使用していない場合は、もう1組のフロントスピーカーシステムをスピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2)端子につなぐことができます（フロントBスピーカー接続）。

各スピーカーを下図のようにつないでください。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- **A** モノラル音声ケーブル（別売）
- **B** スピーカーケーブル（別売）

フロントBスピーカーの接続後は、[スピーカー設定]メニューの[サラウンドバックスピーカー割り当て]を[フロントB]に設定してください。

本体前面のSPEAKERSでお好みのフロントスピーカーシステムを選べます。

ご注意

- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、6 Ω ～ 16 Ωです。
- スピーカーの設置および接続後は、必ず[スピーカー設定]メニューの[スピーカーパターン]を使ってお好みのスピーカーパターンを選んでください。
- スピーカーパターンをサラウンドバックスピーカーおよびハイト／オーバーヘッドスピーカーを使わない設定にしたときのみ、[サラウンドバックスピーカー割り当て]を設定できます。

関連項目

- [4. フロントスピーカーを選ぶ](#)

- スピーカーの名称と働き
- 5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントBスピーカーをつなぐ場合）
- スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）
- サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する（サラウンドバックスピーカー割り当て）
- ケーブル類を接続するときのご注意
- スピーカーケーブルのつなぎかた

4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

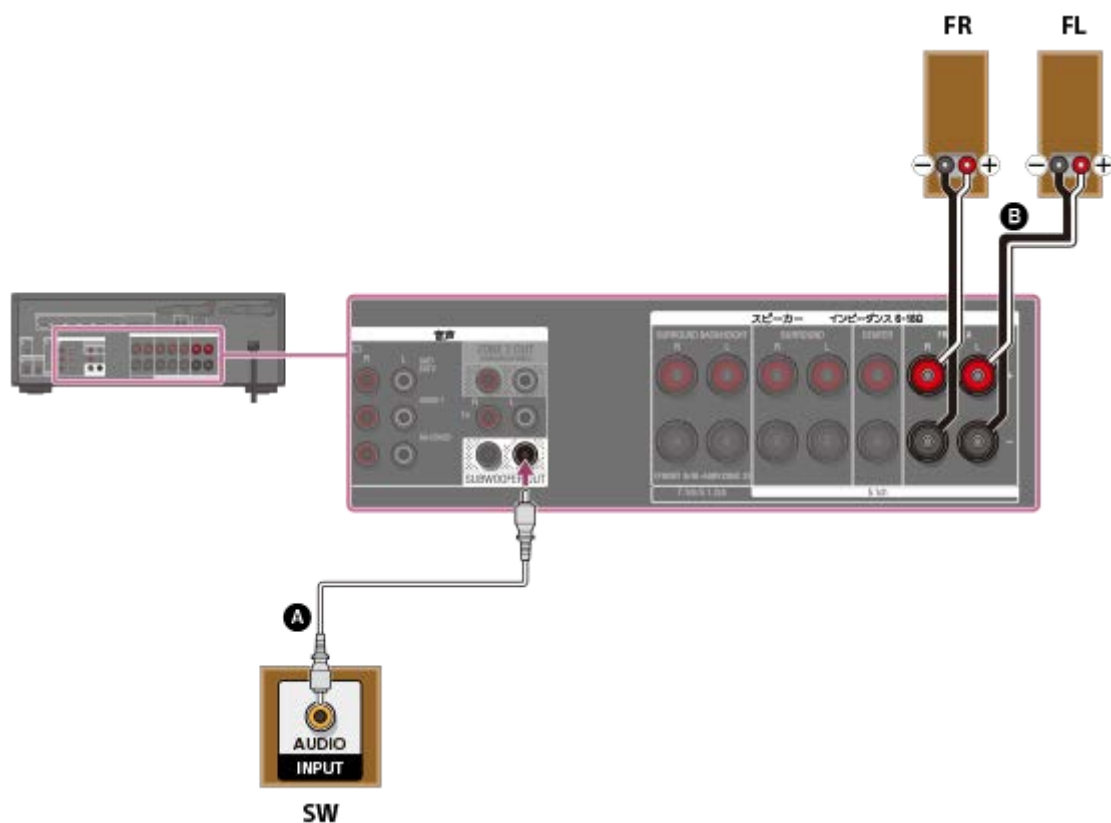
マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

2.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントサラウンドを楽しむ場合）

各スピーカーを下図のようにつないでください。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- **A** モノラル音声ケーブル（別売）
- **B** スピーカーケーブル（別売）

バーチャルサラウンド効果を楽しむには、サウンドフィールドを「フロントサラウンド」に設定してください。

ご注意

- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、6 Ω ～ 16 Ω です。
- スピーカーの設置および接続後は、必ず「スピーカー設定」メニューの「スピーカーパターン」を使って好みのスピーカーパターンを選んでください。

関連項目

- [4. フロントスピーカーを選ぶ](#)
- [スピーカーの名称と働き](#)
- [2.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントサラウンドを楽しむ場合）](#)
- [スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [スピーカーケーブルのつなぎかた](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

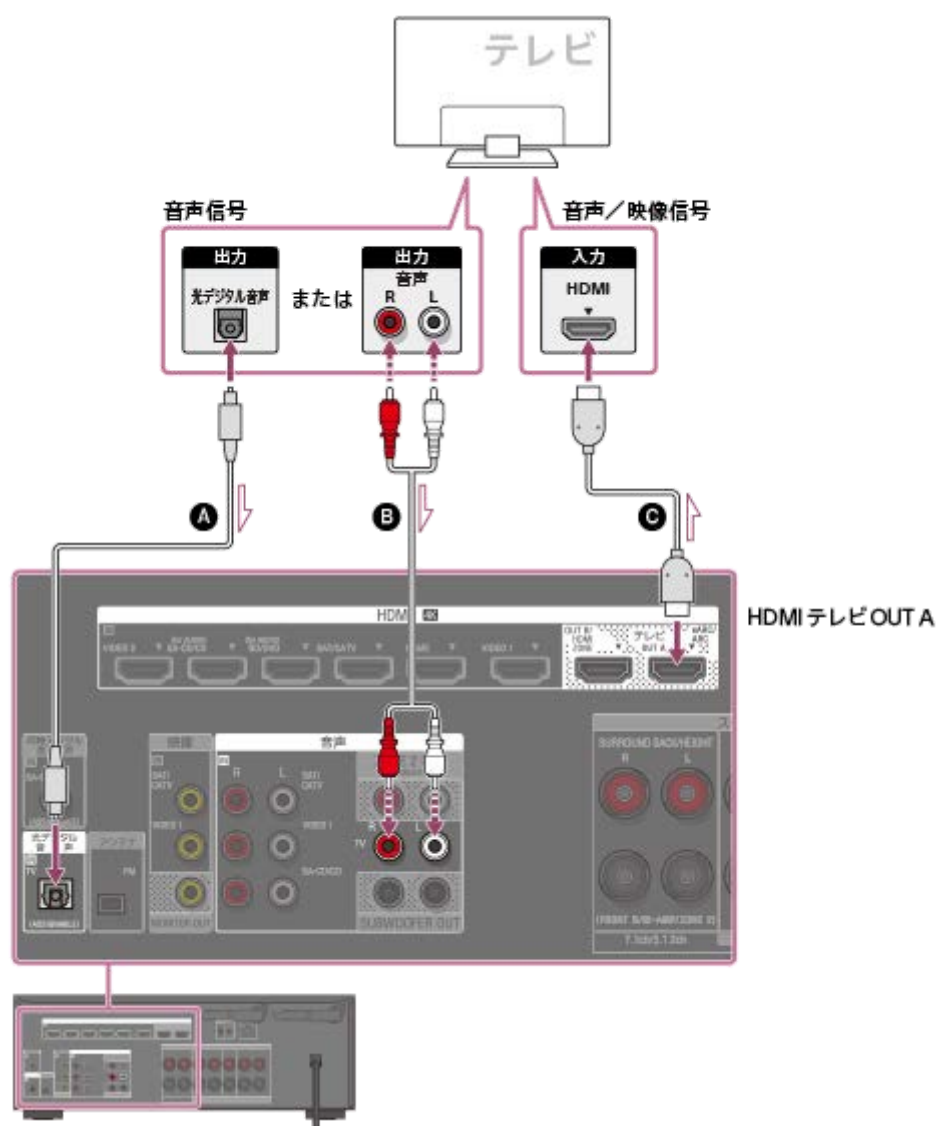
テレビを接続する

HDMI OUT端子またはMONITOR OUT端子にテレビをつなぎます。テレビをHDMI OUT端子につないでいる場合は、テレビ画面に表示されるメニューを使ってアンプを操作できます。
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

HDMI接続でeARCおよびARC機能非対応のテレビをつなぐ

実線は音声信号の推奨接続、破線は音声信号の代替接続を示しています。

HDMIケーブル**C**で接続することによって、テレビへ映像／音声信号を出力できます。ただし、アンプに接続したスピーカーからテレビの音声を出力するためには、光デジタル音声ケーブル**A**または音声ケーブル**B**での接続も必要です。



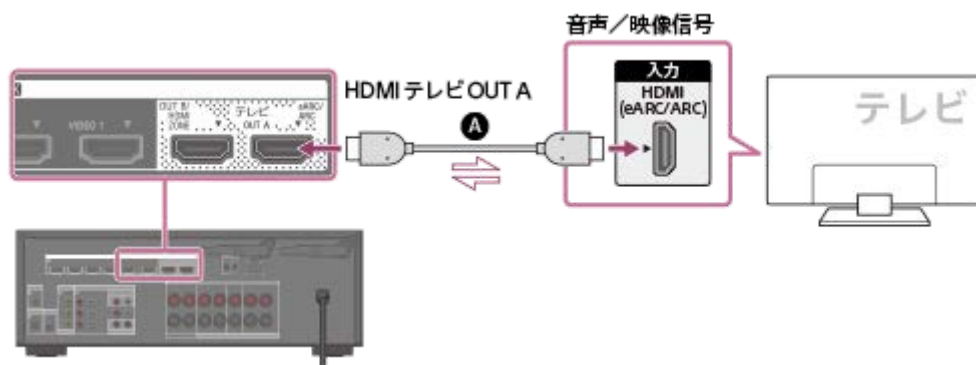
- **A** 光デジタル音声ケーブル（別売）
- **B** 音声ケーブル（別売）
- **C** HDMIケーブル（別売）

ご注意

- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。ソニー製のHDMIケーブルまたは他のHDMI認証を受けたケーブルのご使用をおすすめします。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。

HDMI接続でeARCまたはARC機能対応のテレビをつなぐ

1本のHDMIケーブルをつなぐだけで、アンプに接続したスピーカーからテレビの音声を聞くことができます。アンプからは音声／映像信号が同時に送れます。



● HDMIケーブル（別売）

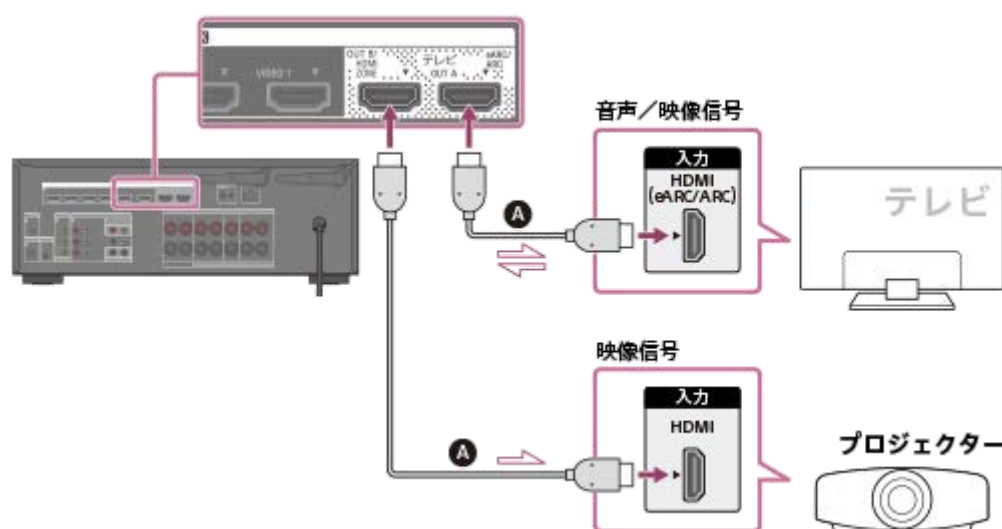
ご注意

- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。ソニー製のHDMIケーブルまたは他のHDMI認証を受けたケーブルのご使用をおすすめします。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。
- この接続でお使いになるには、HDMI機器制御機能を有効に設定する必要があります。HOMEを押して、ホームメニューを表示し、[Setup]-[HDMI設定]を選び、[HDMI機器制御]を[入]に設定してください。また、テレビのeARCまたはARC機能もオンに設定してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書を参照してください。
- 本機のHDMIテレビOUT A端子の表示が「ARC」の場合は、ソフトウェアアップデートを行ってください。詳しくは「[ソフトウェアをアップデートする（ソフトウェアアップデート）](#)」をご覧ください。HDMIテレビOUT A端子の表示が「eARC/ARC」の場合は、ソフトウェアはeARC機能に対応しています。

ヒント

- テレビのHDMI端子（「eARC」または「ARC」表示のある端子）に他の機器を接続している場合は、機器を外し、アンプを接続してください。

テレビとプロジェクターを接続する



● HDMIケーブル（別売）

ご注意

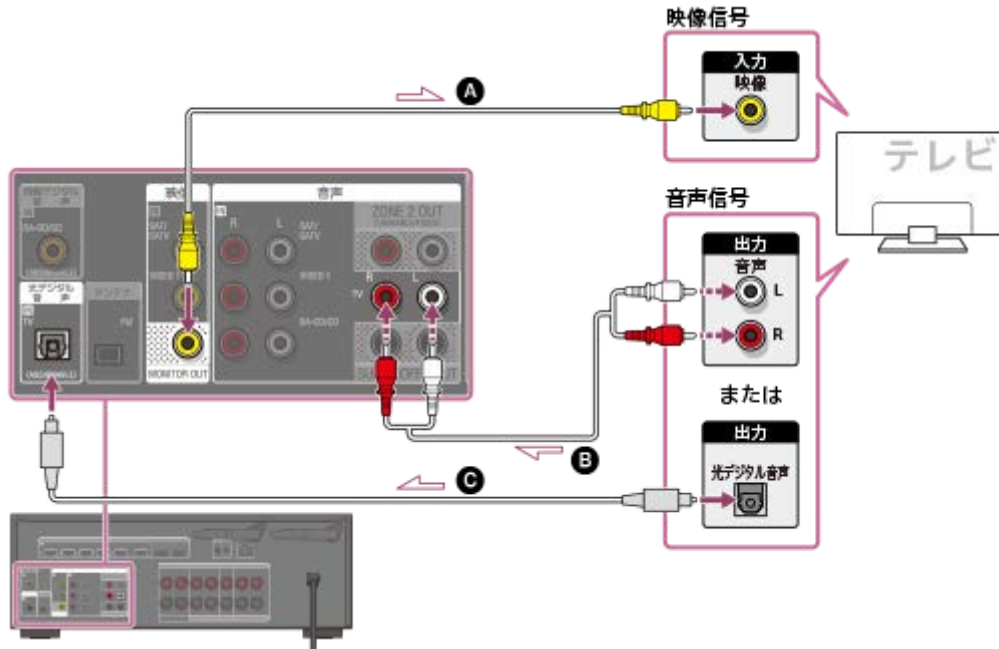
- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。ソニー製のHDMIケーブルまたは他のHDMI認証を受けたケーブルのご使用をおすすめします。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。

- プロジェクターにテレビと同じ映像を表示させる場合は、[Setup] - [HDMI設定]を選んで、[HDMI出力Bモード]を[メイン]に設定してから、HDMI OUTを押して[HDMI B]または[HDMI A+B]を選んでください。また、テレビとプロジェクターに別の映像を表示させる場合は、[HDMI出力Bモード]を[ゾーン]に設定して、マルチゾーン機能を使用する必要があります。

HDMI端子がないテレビをつなぐ

実線は音声信号の推奨接続、破線は音声信号の代替接続を示しています。

映像ケーブル **A** の接続に加え、光デジタル音声ケーブル **C** または音声ケーブル **B** での接続が必要です。



- A** 映像ケーブル（別売）
- B** 音声ケーブル（別売）
- C** 光デジタル音声ケーブル（別売）

ご注意

- テレビまたはプロジェクターを本体後面のMONITOR OUT端子につないでください。
- テレビとアンテナの接続状態によっては、テレビ画面の映像が乱れることがあります。このような場合は、アンテナをアンプからさらに離れたところに設置してください。

ヒント

- テレビを本体後面の音声IN TV端子につなぐ場合、テレビの音声出力端子に[固定]または[可変]の設定があるときは、[固定]に設定してください。

関連項目

- [映像信号の入出力について](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [HDMI接続について](#)
- [4Kテレビを接続する](#)
- [テレビの音声をアンプで楽しむ（eARC/ARC）](#)
- [HDMI機器を制御する（HDMI機器制御）](#)
- [アンプの電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ（スタンバイスルー）](#)
- [接続機器のHDMI音声信号出力を設定する（音声信号出力）](#)
- [HDMI OUT B端子からの出力方法を選ぶ（HDMI出力Bモード）](#)

- [HDMI信号フォーマットを設定する（HDMI信号フォーマット）](#)

4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

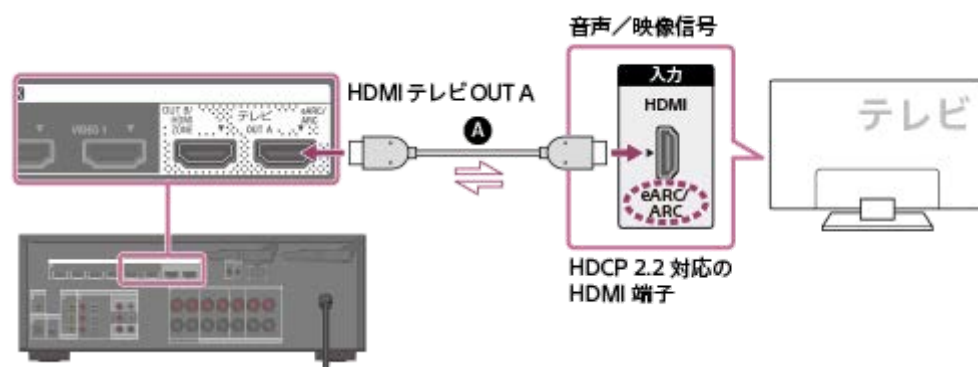
4Kテレビを接続する

アンプのすべてのHDMI端子は、HDCP 2.2（High-bandwidth Digital Content Protection System Revision 2.2）に準拠し、4K解像度の信号の入出力に対応しています。

HDCP 2.2は、4K映像など4Kコンテンツの著作権をより強固に保護するために策定された新しい著作権保護規格です。HDCP 2.2に準拠した著作権保護付きの4Kコンテンツを見る場合は、アンプのHDMI端子を、テレビやAV機器のHDCP 2.2 対応のHDMI端子につなぎます。お使いのテレビやAV機器のどのHDMI端子がHDCP 2.2に対応しているかは、テレビまたはAV機器に付属の取扱説明書を参照してください。

4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号の場合は、HDMI信号フォーマットを設定する必要があります。詳しくは、「[HDMI信号フォーマットを設定する（HDMI信号フォーマット）](#)」をご覧ください。

テレビのHDMI端子にeARCまたはARC表示があり、HDCP2.2に対応している場合（*）



A HDMIケーブル（別売）

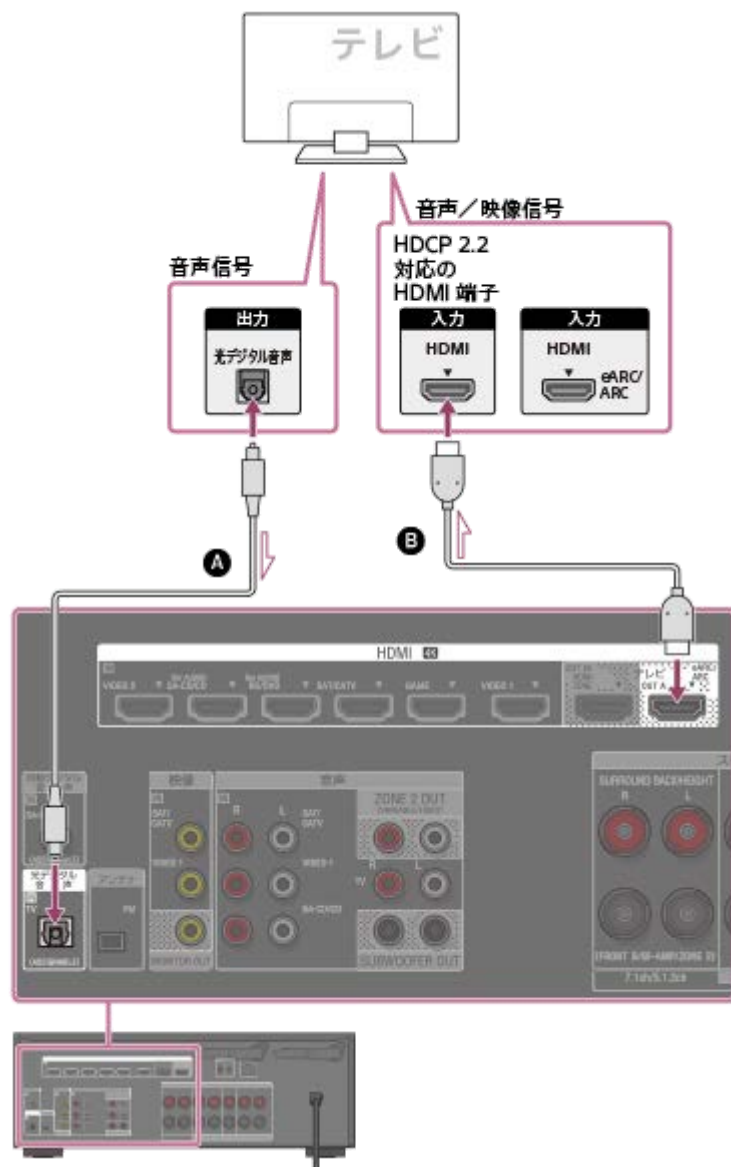
* eARCおよびARC機能はHDMIケーブルを使って、デジタル音声をテレビからアンプに送信します。

ご注意

- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。ソニー製のHDMIケーブルまたは他のHDMI認証を受けたケーブルのご使用をおすすめします。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。

テレビのeARCまたはARC表示のあるHDMI端子がHDCP 2.2に非対応の場合

テレビのeARCまたはARC表示のあるHDMI端子がHDCP 2.2に対応していない場合、このHDMI端子を使うとHDCP 2.2で著作権保護されたコンテンツを視聴することができません。HDCP 2.2で著作権保護されたコンテンツを視聴するときは、テレビのHDCP 2.2対応のHDMI入力端子につないでください。この接続の場合、eARCまたはARC機能を使わないため、テレビのデジタル音声を聞くためには、テレビの光デジタル音声出力端子とアンプの光デジタル音声入力端子を光デジタル音声ケーブルでつなぐ必要があります。



- **A** 光デジタル音声ケーブル（別売）
- **B** HDMIケーブル（別売）

ご注意

- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。ソニー製のHDMIケーブルまたは他のHDMI認証を受けたケーブルのご使用をおすすめします。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。

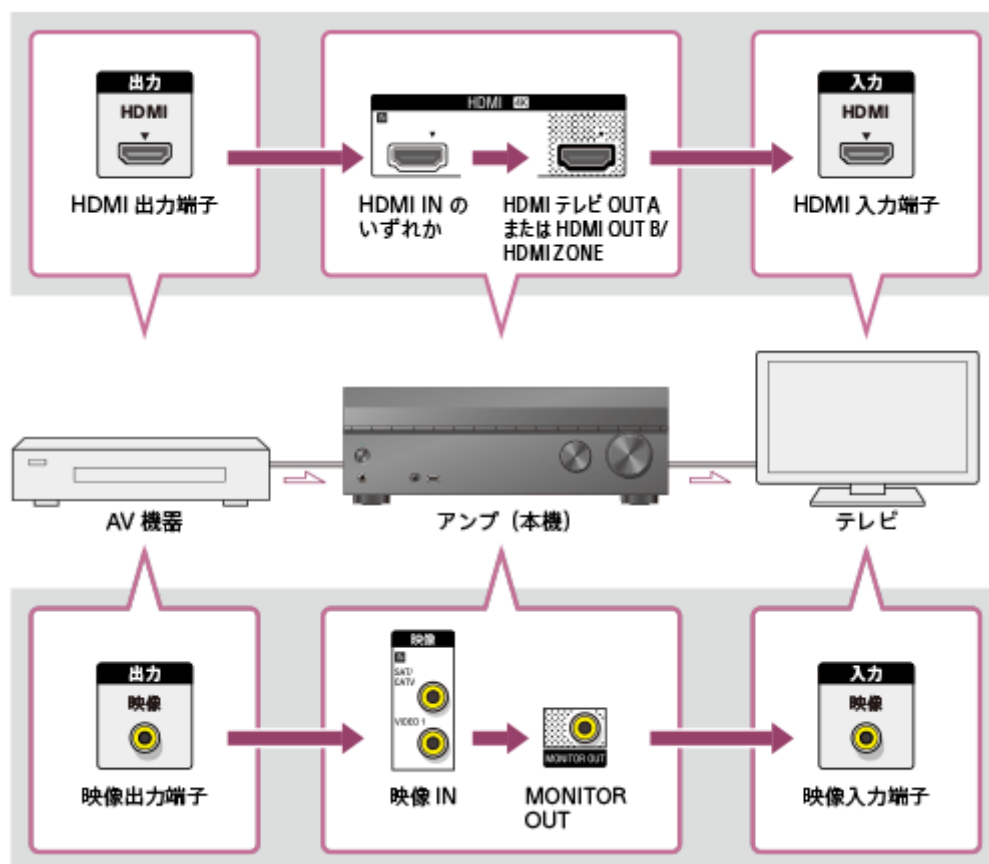
関連項目

- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [HDMI接続について](#)
- [テレビの音声をアンプで楽しむ（eARC/ARC）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

映像信号の入出力について

アンプのHDMI IN端子に入力されたデジタル映像信号は、HDMIテレビOUT AまたはHDMI OUT B/HDMI ZONE端子からのみ出力されます。映像IN端子から入力されたアナログ映像信号は、MONITOR OUT端子からのみ出力されます。以下の図を参考に接続してください。



ご注意

- MONITOR OUT端子につないだテレビには、アンプのホームメニューなどの画面は表示されません。テレビ画面の表示を使ってアンプを操作する場合は、HDMIテレビOUT AまたはHDMI OUT B/HDMI ZONE端子にテレビをつないでください。

ケーブル類を接続するときのご注意

- 必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。
- すべてのケーブルをつなぐ必要はありません。接続する機器の端子に合わせて接続してください。
- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。ソニー製のHDMIケーブルまたは他のHDMI認証を受けたケーブルのご使用をおすすめします。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。高帯域幅を必要とする映像フォーマットについて詳しくは、「[HDMI接続について](#)」の「対応する映像フォーマット」をご覧ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルをDVI-D機器につなぐと、音声や映像が失われることがあります。音声为正しく出力されない場合は、セパレート音声ケーブルやデジタル接続ケーブルをつなぎ、入力端子の割り当てを再設定してください。
- 光デジタル音声ケーブルをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル音声ケーブルを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ヒント

- デジタル音声端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHzおよび96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。

複数のデジタル機器を同時につなぎたいときに、空いている入力端子がない場合は

入力端子の再割り当てを行ってください。

関連項目

- [HDMI接続について](#)
- [他の音声入力端子を使う（入力の割り当て）](#)
- [HDMI信号フォーマットを設定する（HDMI信号フォーマット）](#)

HDMI接続について

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は、映像および音声信号をデジタルフォーマットで伝送するインターフェースです。ソニーの“ブラビアリンク”に対応する機器をHDMIケーブルでつなぐと、操作が簡単になります。

HDMIの特長

- HDMIで転送されたデジタル音声信号をアンプにつないだスピーカーから出力できます。ドルビーデジタル、DTS、DSDおよびリニアPCMの音声信号に対応しています。
- HDMI接続により、マルチチャンネルリニアPCM（最大8チャンネル）の信号を192 kHz以下のサンプリング周波数で受信することができます。
- DTS-HD Master Audio、ドルビーTrueHD、およびオブジェクトベースの音声フォーマット（DTS:X、ドルビーアトモス）にも対応しています。
- eARC/ARC機能により、テレビの音声信号を受信することができます。eARCはHDMI2.1で規格化された新機能です。
- 3Dコンテンツを楽しむには、3Dに対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー/プレーヤー、PlayStation 4など）とアンプを、イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のコンテンツを再生してください。
- 4Kコンテンツを楽しむには、4Kに対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー/プレーヤーなど）とアンプを、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）でつなぎ、4K対応のコンテンツを再生してください。
- 4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする4Kコンテンツなどを楽しむには、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）が必要です。
- アンプのすべてのHDMI端子は次の規格・機能に対応しています。
 - HDMI端子はHDCP 2.2 (High-bandwidth Digital Content Protection System Revision 2.2) に準拠しています。テレビやAV機器のHDCP 2.2対応端子につないでください。詳しくは、お使いのテレビまたはAV機器の取扱説明書を参照してください。
 - HDMI OUT端子およびHDMI IN VIDEO 1端子を除くHDMI IN端子は、最大18 Gbpsのデータ転送の帯域幅に対応（HDMI IN VIDEO 1端子は最大9 Gbpsのデータ転送の帯域幅に対応）しています。
 - ITU-R BT.2020規格に準拠した広色域をサポート。
 - 4K映像信号、3D映像信号の伝送をサポート。
 - Deep Color、HDR（ハイダイナミックレンジ）信号のパススルー伝送が可能です。
- HDCP 2.2は、4K映像などの高精細コンテンツのために強化された最新の著作権保護技術です。
- BT.2020は、スーパーハイビジョンテレビのために策定された新しい広色域規格です。
- HDRは、より広い明るさのダイナミックレンジで映像を表示できる最新の映像フォーマットです。本機はHDR10方式、HLG（Hybrid Log-Gamma）方式、Dolby Vision方式に対応しています。

対応する映像フォーマット

フォーマット	2D	3D		
		フレームパッキング方式	サイドバイサイド（ハーフ）方式	オーバーアンダー方式（トップアンドボトム方式）
4096 × 2160p @ 59.94/60 Hz	○（*1）	—	—	—
4096 × 2160p @ 50 Hz	○（*1）	—	—	—
4096 × 2160p @ 29.97/30 Hz	○（*2）	—	—	—

フォーマット	2D	3D		
		フレームパッキング方式	サイドバイサイド（ハーフ）方式	オーバーアンダー方式（トップアンドボトム方式）
4096 × 2160p @ 25 Hz	○（＊2）	—	—	—
4096 × 2160p @ 23.98/24 Hz	○（＊2）	—	—	—
3840 × 2160p @ 59.94/60 Hz	○（＊1）	—	—	—
3840 × 2160p @ 50 Hz	○（＊1）	—	—	—
3840 × 2160p @ 29.97/30 Hz	○（＊2）	—	—	—
3840 × 2160p @ 25 Hz	○（＊2）	—	—	—
3840 × 2160p @ 23.98/24 Hz	○（＊2）	—	—	—
1920 × 1080p @ 59.94/60 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 50 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 25 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
720 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—
720 × 576p @ 50 Hz	○	—	—	—

フォーマット	2D	3D		
		フレームパッキング方式	サイドバイサイド（ハーフ）方式	オーバーアンダー方式（トップアンドボトム方式）
640 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—

- *1 入力信号の映像フォーマットがYCbCr 4:4:4、YCbCr 4:2:2、RGB 4:4:4、またはYCbCr 4:2:0 Deep Color（10 bitまたは12 bit）のときは、[HDMI設定] メニューで [HDMI信号フォーマット] を [拡張フォーマット] に設定してください。詳しくは、「[HDMI信号フォーマットを設定する（HDMI信号フォーマット）](#)」をご覧ください。接続には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。
- *2 入力信号の映像フォーマットがDeep Color（10 bitまたは12 bit）のときは、[HDMI設定] メニューで [HDMI信号フォーマット] を [拡張フォーマット] に設定してください。詳しくは、「[HDMI信号フォーマットを設定する（HDMI信号フォーマット）](#)」をご覧ください。接続には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。

ご注意

- お使いのテレビや映像機器によっては、4Kコンテンツや3Dコンテンツが表示されない場合があります。アンプが対応しているHDMI映像フォーマットを確認してください。
- アンプにテレビを2台つないでいる場合は、Dolby Visionコンテンツが表示されないことがあります。詳しくは、「[HDMI映像信号を出力するテレビを切り替える](#)」をご覧ください。
- つないだ機器について詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。

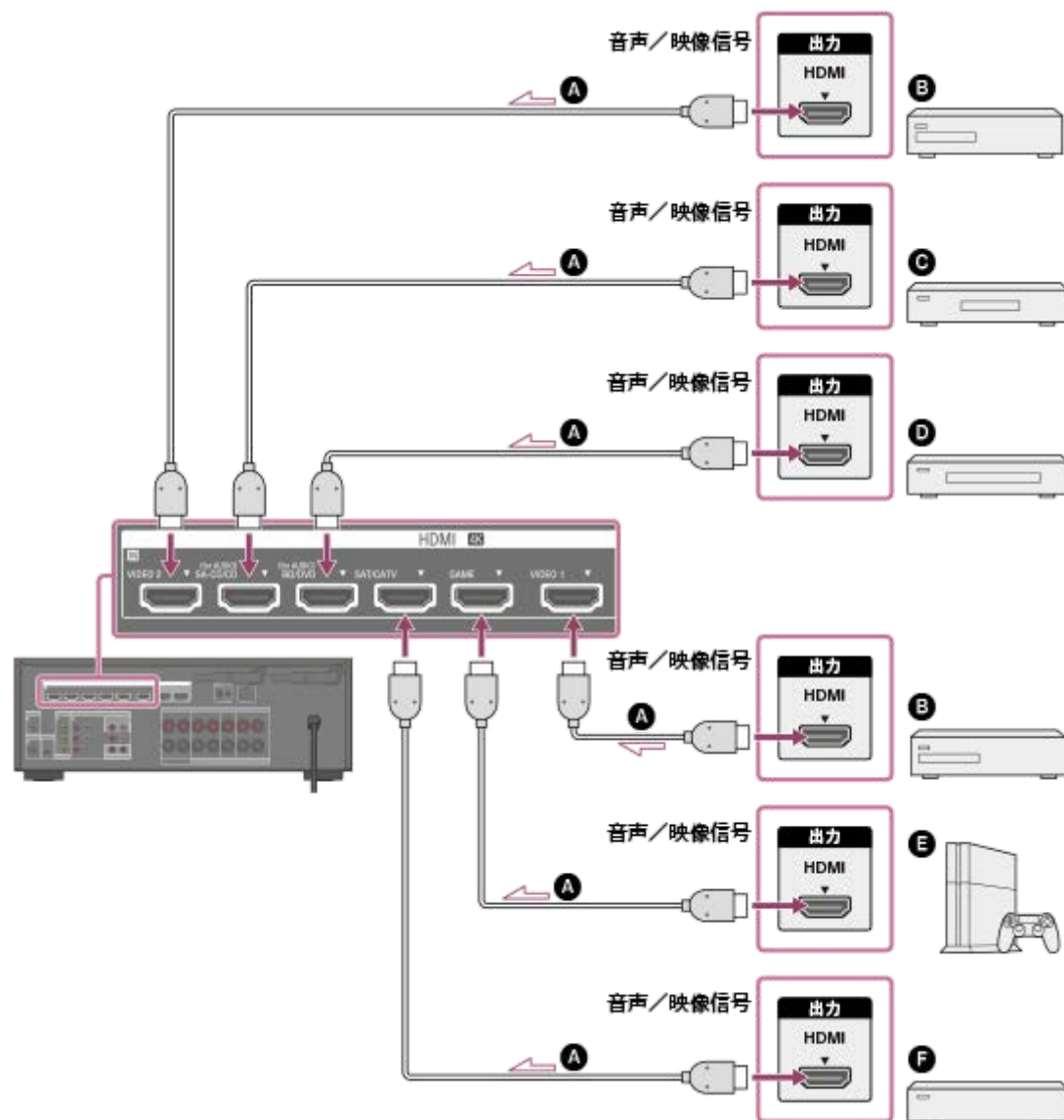
関連項目

- [HDMI端子を使って機器を接続する](#)
- [再生できるデジタル音声フォーマット](#)
- [“ブラビアリンク”とは？](#)
- [“ブラビアリンク”の準備をする](#)
- [HDMI映像信号を出力するテレビを切り替える](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

HDMI端子を使って機器を接続する

機器を下図のようにつないでください。必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。
このアンプのすべてのHDMI端子はHDCP 2.2 (High-bandwidth Digital Content Protection System Revision 2.2) に対応しています。4KコンテンツなどのHDCP 2.2対応の著作権保護されたコンテンツを見る場合は、これらの端子を、AV機器のHDCP 2.2対応のHDMI端子につなぎます。詳しくは、それぞれの機器に付属の取扱説明書を参照してください。



- **A** HDMIケーブル (別売)
- **B** DVDレコーダー/プレーヤー
- **C** スーパーオーディオCDプレーヤー、CDプレーヤー
- **D** ブルーレイディスクレコーダー/プレーヤー
- **E** PlayStation4などのゲーム機器
- **F** ケーブルテレビ (CATV) ボックスまたは衛星放送チューナー

ご注意

- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。ソニー製のHDMIケーブルまたは他のHDMI認証を受けたケーブルのご使用をおすすめします。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル (イーサネット対応) をお使いください。

ヒント

- このHDMI接続は一例です。各HDMI機器をいずれかのHDMI入力端子につないでください。
- BD/DVDおよびSA-CD/CD入力では、より良い音質が得られます。より高品質な音声を楽しむには、お使いの機器をこれらのHDMI端子につなぎ、BD/DVDまたはSA-CD/CDを入力に選んでください。
- 画質は接続端子の種類によって異なります。お使いの機器にHDMI端子がある場合は、HDMI接続することをおすすめします。

関連項目

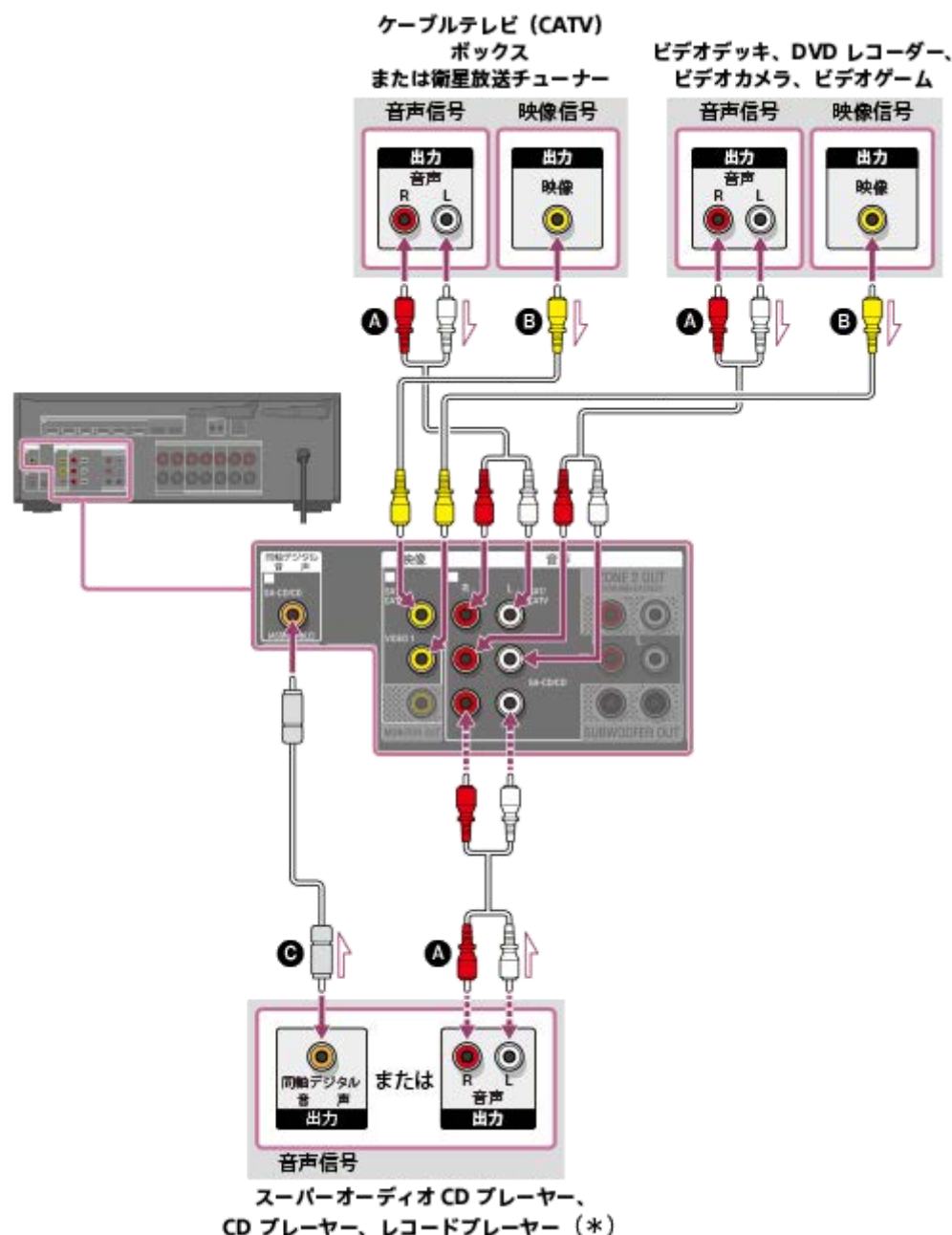
- [映像信号の入出力について](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [HDMI接続について](#)
- [HDCP 2.2で著作権保護された4Kコンテンツを見る](#)
- [各入力の名前を変更する（名前）](#)
- [HDMI端子以外の端子を使って機器を接続する](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

HDMI端子以外の端子を使って機器を接続する

機器を下図のようにつないでください。

実線は推奨接続、破線は代替接続を示しています。いずれかの方法で接続してください。
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。



- **A** 音声ケーブル（別売）
- **B** 映像ケーブル（別売）
- **C** 同軸デジタル音声ケーブル（別売）

* フォノ（PHONO）出力端子しかないレコードプレーヤーを接続する場合は、レコードプレーヤーとアンプの間にフォノイコライザー（別売）をつなぐ必要があります。

ご注意

- 音声IN端子につないだ機器の音声を聞く場合は、同じ機器名（SAT/CATV、VIDEO 1、TV、SA-CD/CDなど）が記されている HDMI IN端子および同軸デジタル音声IN／光デジタル音声IN端子には何もつながないでください。

ヒント

- 音声INの各端子（SAT/CATV、VIDEO 1、SA-CD/CD）には、表示されているもの以外の機器も接続できます。
- 本体前面の表示窓に表示する各入力名を変更できます。詳しくは、「[各入力の名前を変更する（名前）](#)」をご覧ください。
- 画質は接続する端子に左右されます。お使いの機器にHDMI端子がある場合は、HDMI接続することをおすすめします。

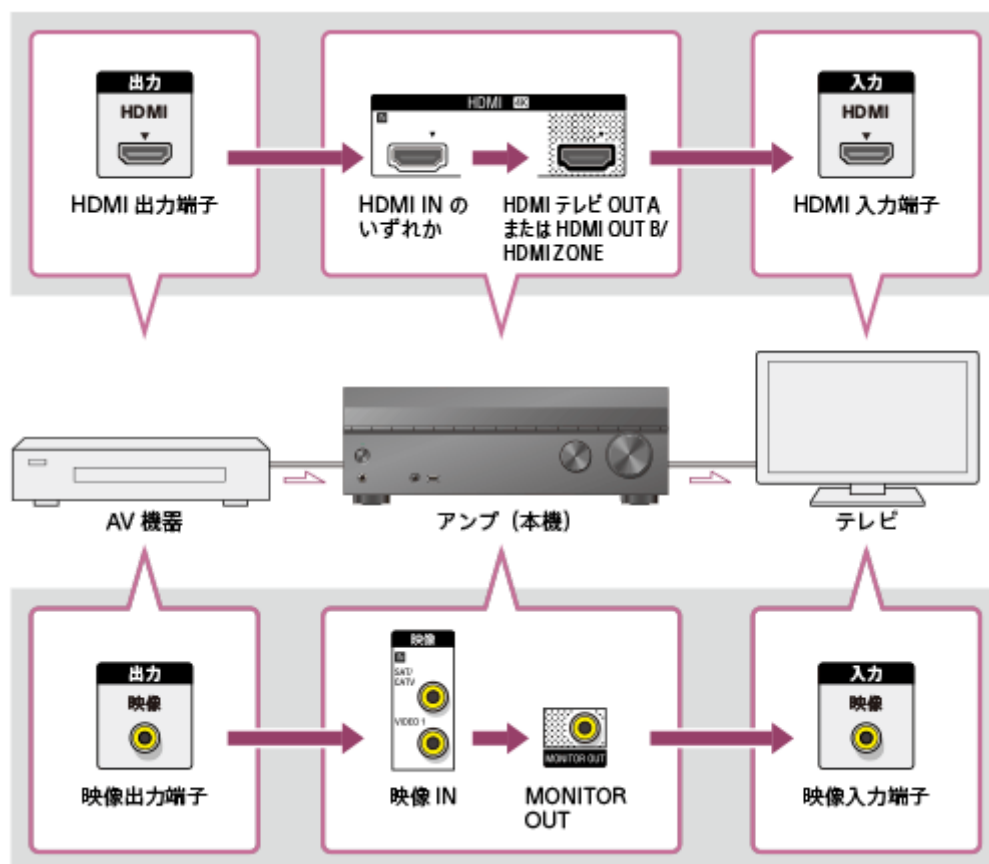
関連項目

- [映像信号の入出力について](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [他の音声入力端子を使う（入力の割り当て）](#)
- [各入力の名前を変更する（名前）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

映像信号の入出力について

アンプのHDMI IN端子に入力されたデジタル映像信号は、HDMIテレビOUT AまたはHDMI OUT B/HDMI ZONE端子からのみ出力されます。映像IN端子から入力されたアナログ映像信号は、MONITOR OUT端子からのみ出力されます。以下の図を参考に接続してください。



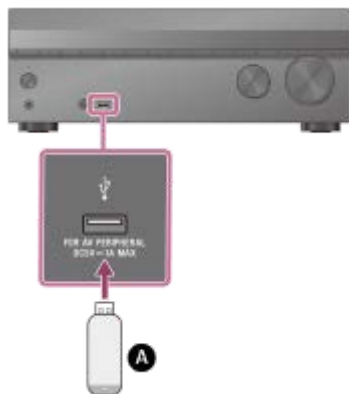
ご注意

- MONITOR OUT端子につないだテレビには、アンプのホームメニューなどの画面は表示されません。テレビ画面の表示を使ってアンプを操作する場合は、HDMIテレビOUT AまたはHDMI OUT B/HDMI ZONE端子にテレビをつないでください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

USB機器を接続する

AV周辺機器用のUSBメモリーなどのUSB機器を下図のようにつないでください。



A USB機器

ご注意

- iPhone、iPad、iPodをUSB接続で再生することはできません。

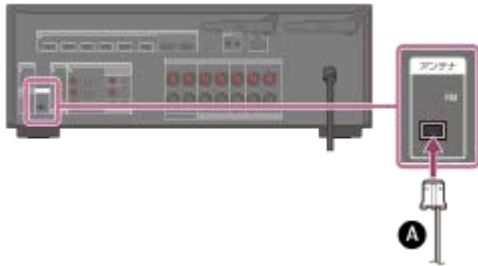
関連項目

- [USB機器の音楽を楽しむ](#)
- [USBの仕様および対応USB機器](#)
- [USB機器使用上のご注意](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

アンテナを接続する

付属のFMアンテナ線を下図のようにつないでください。
必ず電源コードを抜いた状態で、アンテナ線をつないでください。



A FMアンテナ線（付属）

ご注意

- FMアンテナ線は必ず完全に伸ばしてください。
- FMアンテナ線を接続したら、できるだけ水平になるように設置してください。

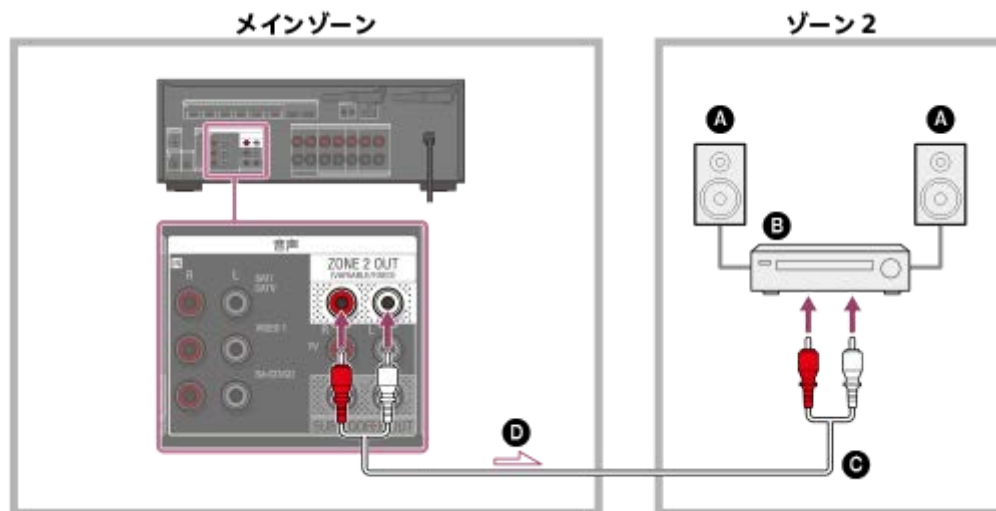
関連項目

- [FMラジオを聞く](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ゾーン2に設置したもう1台のアンプを接続する

メインゾーン以外のゾーンで、アンプにつないだ機器の音声を楽しめます。例えば、メインゾーンではDVDを視聴し、ゾーン2では音楽サービスから受信した音楽を聞くことができます。



- A スピーカー
- B アンプ
- C 音声ケーブル (別売)
- D 音声信号

ご注意

- [USB]、[Bluetooth] (BLUETOOTH RX (受信) モード時のみ)、[Home Network]、[Music Service List] および [FM TUNER] からの音声信号、または音声IN端子からの音声のみゾーン2のスピーカーから出力されます。
- 光デジタル音声IN端子、同軸デジタル音声IN端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力信号は、ゾーン2のスピーカーから出力できません。

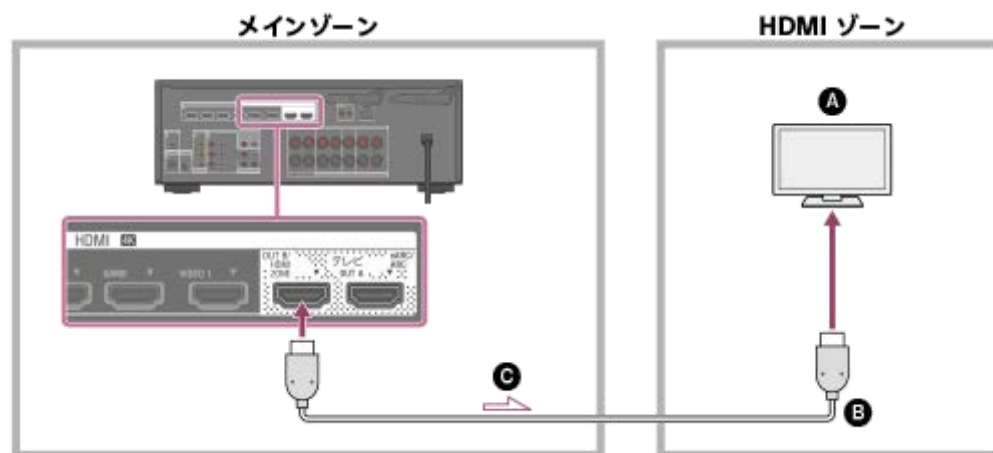
関連項目

- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)

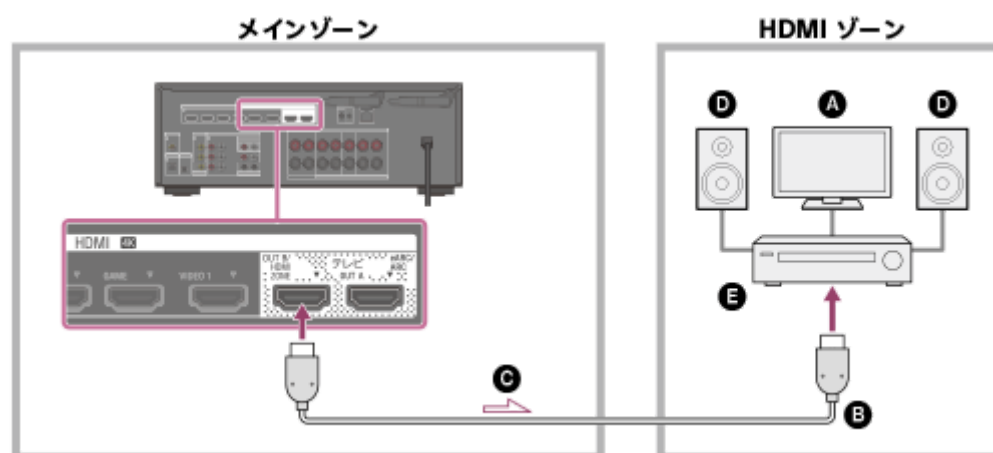
HDMIゾーンに設置したもう1台のアンプやテレビを接続する

HDMI入力の映像／音声信号はHDMI OUT B/HDMI ZONE端子を使ってHDMIゾーンに出力されます。

テレビにのみつなぐ場合



もう1台のアンプにつなぐ場合



- A テレビ
- B HDMIケーブル（別売）
- C 音声／映像信号
- D スピーカー
- E アンプ

ご注意

- この接続を使うには、[Setup] - [HDMI設定] を選び、[HDMI出力Bモード] を [ゾーン] に設定してください。
- HDMIゾーンの入力選択については「[別の部屋のアンプやテレビをHDMI接続して映像や音楽を楽しむ（HDMIゾーン）](#)」をご覧ください。

- ケーブル類を接続するときの注意

4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

再生できるデジタル音声フォーマット

デコードできるデジタル音声フォーマットは、接続機器のデジタル音声出力端子によって異なります。以下の音声フォーマットに対応しています。[] 内は表示窓に表示される文言を示しています。

デジタル音声フォーマット	最大デコードチャンネル数	アンプとの接続
ドルビーデジタル [DOLBY D]	5.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
ドルビーデジタルプラス [DOLBY D +] (*1)	7.1	HDMI、eARC、ARC
ドルビーTrueHD [DOLBY HD] (*1)	7.1	HDMI、eARC
ドルビーアトモス – ドルビーデジタルプラス [DAtmos] (*1) (*2)	5.1.2、7.1または7.1.2 (*3)	HDMI、eARC、ARC
ドルビーアトモス – ドルビーTrueHD [DAtmos] (*1) (*2)	5.1.2、7.1または7.1.2 (*3)	HDMI、eARC
DTS [DTS]	5.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
DTS-ES Discrete [DTS-ES Dsc]	6.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
DTS-ES Matrix [DTS-ES Mtx]	6.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
DTS 96/24 [DTS 96/24]	5.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
DTS-HD High Resolution Audio [DTS-HD HR] (*1)	7.1	HDMI、eARC
DTS-HD Master Audio [DTS-HD MA] (*1)	7.1	HDMI、eARC
DTS:X [DTS:X] (*1)	5.1.2、7.1または7.1.2 (*3)	HDMI、eARC
DTS:X Master Audio [DTS:X MA] (*1)	5.1.2、7.1または7.1.2 (*3)	HDMI、eARC
DSD [DSD] (*1) (*4)	5.1	HDMI
マルチチャンネルリニアPCM [PCM] (*1)	7.1	HDMI、eARC
MPEG-2 AAC (LC) [MPEG-2 AAC] (*1)	5.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC

*1 再生機器が上記のフォーマットに対応していない場合は、音声信号は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

*2 スピーカーパターンが2.0、2.1、3.0、3.1、4.0、4.1、5.0、5.1に設定されている場合は、ドルビーアトモスはドルビーTrueHDまたはドルビーデジタルプラスとしてデコードされます。

*3 [S P Kリロケーション／ファントムS B] が[タイプA] または[タイプB] に設定されているときのみ。

*4 ワイヤレスヘッドホン／スピーカーには出力できません。

ケーブル類を接続するときのご注意

- 必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。
- すべてのケーブルをつなぐ必要はありません。接続する機器の端子に合わせて接続してください。
- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。ソニー製のHDMIケーブルまたは他のHDMI認証を受けたケーブルのご使用をおすすめします。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。高帯域幅を必要とする映像フォーマットについて詳しくは、「[HDMI接続について](#)」の「対応する映像フォーマット」をご覧ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルをDVI-D機器につなぐと、音声や映像が失われることがあります。音声为正しく出力されない場合は、セパレート音声ケーブルやデジタル接続ケーブルをつなぎ、入力端子の割り当てを再設定してください。
- 光デジタル音声ケーブルをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル音声ケーブルを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ヒント

- デジタル音声端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHzおよび96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。

複数のデジタル機器を同時につなぎたいときに、空いている入力端子がない場合は

入力端子の再割り当てを行ってください。

関連項目

- [HDMI接続について](#)
- [他の音声入力端子を使う（入力の割り当て）](#)
- [HDMI信号フォーマットを設定する（HDMI信号フォーマット）](#)

HDMI接続について

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は、映像および音声信号をデジタルフォーマットで伝送するインターフェースです。ソニーの“ブラビアリンク”に対応する機器をHDMIケーブルでつなぐと、操作が簡単になります。

HDMIの特長

- HDMIで転送されたデジタル音声信号をアンプにつないだスピーカーから出力できます。ドルビーデジタル、DTS、DSDおよびリニアPCMの音声信号に対応しています。
- HDMI接続により、マルチチャンネルリニアPCM（最大8チャンネル）の信号を192 kHz以下のサンプリング周波数で受信することができます。
- DTS-HD Master Audio、ドルビーTrueHD、およびオブジェクトベースの音声フォーマット（DTS:X、ドルビーアトモス）にも対応しています。
- eARC/ARC機能により、テレビの音声信号を受信することができます。eARCはHDMI2.1で規格化された新機能です。
- 3Dコンテンツを楽しむには、3Dに対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー/プレーヤー、PlayStation 4など）とアンプを、イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のコンテンツを再生してください。
- 4Kコンテンツを楽しむには、4Kに対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー/プレーヤーなど）とアンプを、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）でつなぎ、4K対応のコンテンツを再生してください。
- 4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする4Kコンテンツなどを楽しむには、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）が必要です。
- アンプのすべてのHDMI端子は次の規格・機能に対応しています。
 - HDMI端子はHDCP 2.2 (High-bandwidth Digital Content Protection System Revision 2.2) に準拠しています。テレビやAV機器のHDCP 2.2対応端子につないでください。詳しくは、お使いのテレビまたはAV機器の取扱説明書を参照してください。
 - HDMI OUT端子およびHDMI IN VIDEO 1端子を除くHDMI IN端子は、最大18 Gbpsのデータ転送の帯域幅に対応（HDMI IN VIDEO 1端子は最大9 Gbpsのデータ転送の帯域幅に対応）しています。
 - ITU-R BT.2020規格に準拠した広色域をサポート。
 - 4K映像信号、3D映像信号の伝送をサポート。
 - Deep Color、HDR（ハイダイナミックレンジ）信号のパススルー伝送が可能です。
- HDCP 2.2は、4K映像などの高精細コンテンツのために強化された最新の著作権保護技術です。
- BT.2020は、スーパーハイビジョンテレビのために策定された新しい広色域規格です。
- HDRは、より広い明るさのダイナミックレンジで映像を表示できる最新の映像フォーマットです。本機はHDR10方式、HLG（Hybrid Log-Gamma）方式、Dolby Vision方式に対応しています。

対応する映像フォーマット

フォーマット	2D	3D		
		フレームパッキング方式	サイドバイサイド（ハーフ）方式	オーバーアンダー方式（トップアンドボトム方式）
4096 × 2160p @ 59.94/60 Hz	○（*1）	—	—	—
4096 × 2160p @ 50 Hz	○（*1）	—	—	—
4096 × 2160p @ 29.97/30 Hz	○（*2）	—	—	—

フォーマット	2D	3D		
		フレームパッキング方式	サイドバイサイド（ハーフ）方式	オーバーアンダー方式（トップアンドボトム方式）
4096 × 2160p @ 25 Hz	○（＊2）	—	—	—
4096 × 2160p @ 23.98/24 Hz	○（＊2）	—	—	—
3840 × 2160p @ 59.94/60 Hz	○（＊1）	—	—	—
3840 × 2160p @ 50 Hz	○（＊1）	—	—	—
3840 × 2160p @ 29.97/30 Hz	○（＊2）	—	—	—
3840 × 2160p @ 25 Hz	○（＊2）	—	—	—
3840 × 2160p @ 23.98/24 Hz	○（＊2）	—	—	—
1920 × 1080p @ 59.94/60 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 50 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 25 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
720 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—
720 × 576p @ 50 Hz	○	—	—	—

フォーマット	2D	3D		
		フレームパッキング方式	サイドバイサイド（ハーフ）方式	オーバーアンダー方式（トップアンドボトム方式）
640 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—

- *1 入力信号の映像フォーマットがYCbCr 4:4:4、YCbCr 4:2:2、RGB 4:4:4、またはYCbCr 4:2:0 Deep Color（10 bitまたは12 bit）のときは、[HDMI設定] メニューで [HDMI信号フォーマット] を [拡張フォーマット] に設定してください。詳しくは、「[HDMI信号フォーマットを設定する（HDMI信号フォーマット）](#)」をご覧ください。接続には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。
- *2 入力信号の映像フォーマットがDeep Color（10 bitまたは12 bit）のときは、[HDMI設定] メニューで [HDMI信号フォーマット] を [拡張フォーマット] に設定してください。詳しくは、「[HDMI信号フォーマットを設定する（HDMI信号フォーマット）](#)」をご覧ください。接続には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。

ご注意

- お使いのテレビや映像機器によっては、4Kコンテンツや3Dコンテンツが表示されない場合があります。アンプが対応しているHDMI映像フォーマットを確認してください。
- アンプにテレビを2台つないでいる場合は、Dolby Visionコンテンツが表示されないことがあります。詳しくは、「[HDMI映像信号を出力するテレビを切り替える](#)」をご覧ください。
- つないだ機器について詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。

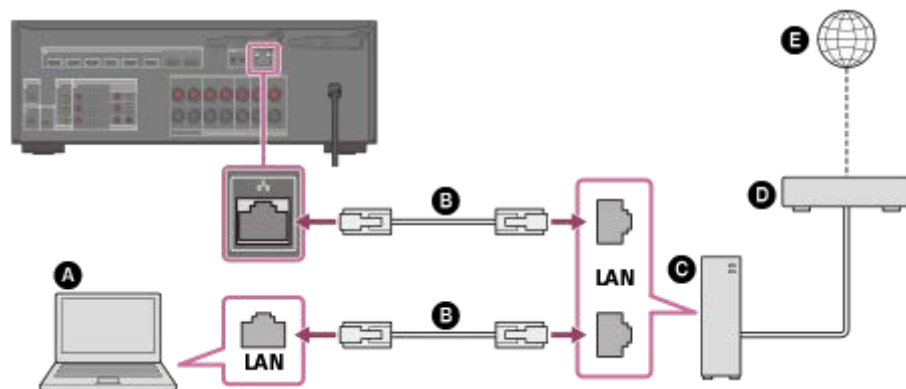
関連項目

- [HDMI端子を使って機器を接続する](#)
- [再生できるデジタル音声フォーマット](#)
- [“ブラビアリンク”とは？](#)
- [“ブラビアリンク”の準備をする](#)
- [HDMI映像信号を出力するテレビを切り替える](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

LANケーブルを使ってネットワークに接続する（有線LANに接続する場合のみ）

下図はアンプとサーバーを使ったホームネットワークの構成例です。
サーバーをルーターにつなぐときは、有線接続をおすすめします。



- **A** サーバー（パソコンなど）
- **B** LANケーブル（*）（別売）
- **C** ルーター
- **D** モデム
- **E** インターネット

* カテゴリー7のケーブルをおすすめします。

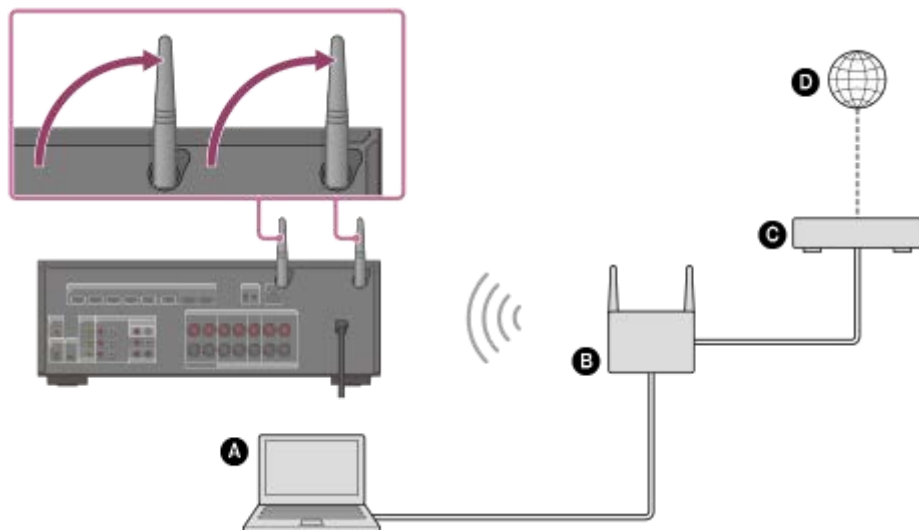
関連項目

- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [有線LAN接続の設定をする](#)
- [アンプに名前を割り当てる（機器名）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

無線LANアンテナを使ってネットワークに接続する（無線LANに接続する場合のみ）

下図はアンプとサーバーを使ったホームネットワークの構成例です。
サーバーをルーターにつなぐときは、有線接続をおすすめします。



- **A** サーバー（パソコンなど）
- **B** ルーター
- **C** モデム
- **D** インターネット

ご注意

- 無線接続の場合は、サーバー上の音声再生がときどき途切れることがあります。

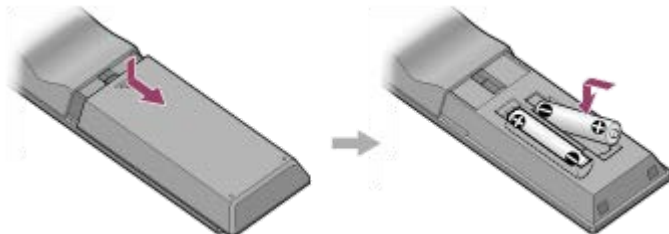
関連項目

- [アンプに名前を割り当てる（機器名）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

リモコンに電池を入れる

リモコンに単4形マンガン乾電池（付属）2本を入れます。乾電池を入れるときは+と-が正しい向きか確認してください。



ご注意

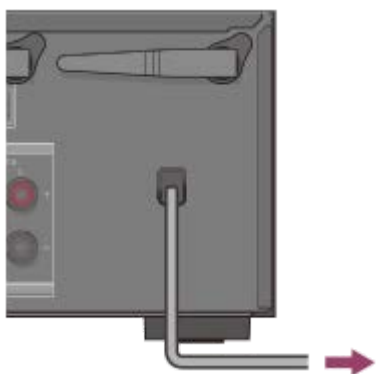
- 極端に温度や湿度の高い場所にリモコンを放置しないでください。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- マンガン乾電池と他の種類の乾電池を混ぜて使わないでください。
- リモコンを使うときは、本体前面のリモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。誤動作の原因になります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液もれや腐食を避けるために乾電池を取り出してください。
- リモコンが認識されなくなったら、乾電池を2本とも新しいものに交換してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

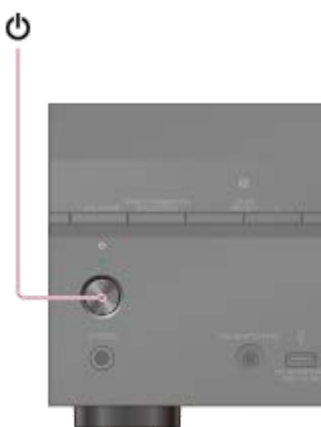
電源を入れる

電源コードをつなぐ前に、必ずスピーカーやアンプとつないでお使いになるすべての機器との接続を行ってください。

1 電源コードを壁のコンセントにつなぐ。



2 ㊦（電源）を押して、電源を入れる。



リモコンの㊦（電源）でも電源を入れることができます。電源を切るときには、もう一度㊦（電源）を押します。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

かんたん設定を使って初期設定を行う

アンプの電源を初めて入れたときやアンプを初期化したあとに電源を入れると、テレビ画面にかんたん設定画面が表示されます。かんたん設定画面の指示に従って、以下の機能を設定できます。

- **スピーカー設定**
お使いのスピーカー構成、配置に応じて自動音場補正を行うことができます。
- **ネットワーク設定**
ネットワークへの接続方法、およびネットワークに接続するための設定を行うことができます。

ご注意

- この機能を使うには、テレビの入力を、アンプをつないでいる入力に切り替えてください。
- [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているときは、自動音場補正は実行できません。

かんたん設定画面が表示されない、または手動でかんたん設定画面を表示させたい場合は、ホームメニューの [Setup] - [かんたん設定] から表示できます。

関連項目

- [1. 自動音場補正について](#)
- [2. 自動音場補正を実行する前に](#)
- [3. 測定用マイクをつなぐ](#)
- [4. フロントスピーカーを選ぶ](#)
- [5. 自動音場補正を行う](#)
- [6. 自動音場補正の結果を確認する](#)
- [有線LAN接続の設定をする](#)
- [無線LAN接続の設定をする](#)

1. 自動音場補正について

自動音場補正機能で以下の自動補正を行うことができます。

- 各スピーカーとアンプの接続の確認
- スピーカーレベルの調節
- 各スピーカーと視聴位置の距離の測定（＊1）
- スピーカーサイズの測定（＊1）
- 周波数特性の測定（EQ）（＊1）
- 周波数特性の測定（位相）（＊1）（＊2）

＊1 サウンドフィールドで「ダイレクト」が選ばれていて、かつアナログ入力を選ばれているときは、測定結果は使用できません。

＊2 音声フォーマットによっては、測定結果が使用できないことがあります。

ご注意

- 自動音場補正（D.C.A.C.）は視聴環境に合わせて最適な音声バランスを実現するためのものです。ただし、スピーカーのレベルは、［スピーカー設定］メニューの［テストトーン］を使ってお好みに合わせて手動で調節できます。

関連項目

- [各スピーカーからテストトーンを出力する（テストトーン）](#)

2. 自動音場補正を実行する前に

自動音場補正を実行する前に、以下の項目を実行または確認してください。

- スピーカーを配置し、接続が完了していること。
- CALIBRATION MIC端子には付属の測定用マイクのみをつなぐ。この端子には他のマイクをつながないでください。
- バイアンプ接続またはフロントBスピーカー接続を使用する場合は、スピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2)端子の割り当てを正しく設定してください。
- スピーカー出力が「SPK OFF」以外に設定されていることを確認する。
- ヘッドホンを抜く。
- 測定エラーを避けるため、測定用マイクとスピーカーの間にある障害物を取り除く。
- 測定を正確に行うために、必ず静かな場所で測定する。

ご注意

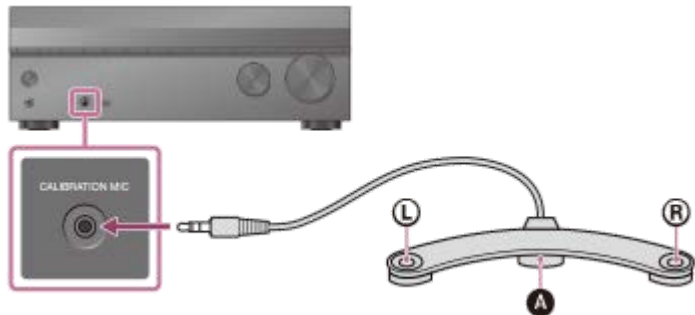
- 「Bluetoothモード」が「送信」に設定されているときは、自動音場補正は実行できません。
- 補正中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲のお子さまに充分配慮してください。
- 自動音場補正を実行する前に消音機能が作動している場合は、消音機能は自動的に解除されます。
- ダイポールスピーカーなど、特殊なスピーカーを使用している場合は、正しい測定が行えない、または自動音場補正を実行できないことがあります。

関連項目

- [アクティブサブウーファーの設定を確認する](#)
- [スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）](#)
- [サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する（サラウンドバックスピーカー割り当て）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

3. 測定用マイクをつなぐ



A 測定用マイク（付属）

1 CALIBRATION MIC端子に付属の測定用マイクをつなぐ。

2 測定用マイクを配置する。

視聴位置に測定用マイクを設置して、測定用マイクが耳の位置と同じ高さになるようにしてください。

ご注意

- 測定用マイクのプラグは、CALIBRATION MIC端子の奥までしっかり差し込んでください。測定用マイクがしっかりつながれていないと、正しく測定できないことがあります。
- 測定用マイクは、L（左）とR（右）が同じ高さになるよう水平に設置してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

4. フロントスピーカーを選ぶ

使用するフロントスピーカーを選びます。
操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

- 1 本体前面のSPEAKERSをくり返し押して、使用したいフロントスピーカーシステムを選ぶ。

SPEAKERS



どの端子が選ばれているか表示窓のインジケーターで確認できます。

- **SPA :**
スピーカーFRONT A端子につないだスピーカー
- **SPB (*) :**
スピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2)端子につないだスピーカー
- **SPA+B (*) :**
スピーカーFRONT A端子およびスピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2)端子の両方につないだスピーカー (パラレル接続)
- **(表示なし) :**
[SPK OFF] が表示窓に表示されます。どのスピーカー端子からも音声信号は出力されません。


* [SPB] または [SPA+B] を選ぶには、[スピーカー設定] メニューの [サラウンドバックスピーカー割り当て] を使ってSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2)端子の割り当てを [フロントB] に設定してください。

ご注意

- ヘッドホンを接続しているときはこの設定はできません。
- 本体前面のSPEAKERSを押すと、[Bluetoothモード] が自動的に[受信]に変更されます。

5. 自動音場補正を行う

視聴位置から自動音場補正を実行します。


- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。
- 2 【自動音場補正】を選ぶ。
- 3 【サラウンドバックスピーカー割り当てを変更する】を選び、使用するスピーカーに合わせて次の画面で設定を選ぶ。
ハイト／オーバーヘッドスピーカーを使用する場合は、【ハイトスピーカーに使う】を選んでください。
- 4 【スピーカーパターン設定へ進む】を選び、次の画面でスピーカーパターンを設定する。
【ハイト／オーバーヘッドスピーカー】を【FH】または【---】以外に設定した場合は、次の画面で【天井の高さ】を設定します。
- 5 アンプに測定用マイクが接続されていることを確認し、【マイクの接続・設置が完了したので次へ進む】を選ぶ。
- 6 画面の指示を確認し、を押して【測定開始】を選ぶ。
5秒後に測定が始まります。
測定が完了するまで約30秒かかります。その間、テストトーンが各スピーカーから順番に出力されます。
測定が終わると、ビープ音とともに画面が切り替わります。
- 7 お好みの項目を選ぶ。
 - **保存**：測定結果を保存し、設定を終了します。
 - **リトライ**：自動音場補正を再度実行します。
 - **キャンセル**：測定結果を保存せずに設定を終了します。

測定結果について詳しくは、「[6. 自動音場補正の結果を確認する](#)」をご覧ください。
- 8 測定結果を保存する。
手順7で【保存】を選びます。

ご注意

- 測定が失敗したときは、メッセージの指示に従い【リトライ】を選んでください。エラーコードや警告メッセージについて詳しくは、「[自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧](#)」をご覧ください。
- PHONES端子にヘッドホンを接続しているときは、この機能は実行できません。

ヒント

- 測定中に以下の操作を行うと自動音場補正の測定がキャンセルされます。
 - （電源）を押す。

- リモコンの入力切り替え用ボタンを押す、または本体前面のINPUT SELECTORつまみを回す。
- リモコンのHOME、AMP MENU、HDMI OUTまたは \times を押す。
- 本体前面のSPEAKERSを押す。
- 音量を調節する。
- PHONES端子にヘッドホンをつなぐ。
- リモコンまたは本体前面のMUSICを押す。

6. 自動音場補正の結果を確認する

下記の手順に従って、[自動音場補正] で取得したエラーコードや警告メッセージを確認してください。

エラーコードが表示されたら

エラーを確認し、もう一度自動音場補正を実行してください。

1 [リトライ] を選ぶ。

2 テレビ画面の指示に従って操作し、を押して[測定開始]を選ぶ。

数秒後に測定が始まります。

測定が完了するまで約30秒かかります。その間、テストトーンが各スピーカーから順番に出力されます。測定が終わると、ビープ音が鳴り画面が切り替わります。

3 お好みの項目を選ぶ。

- **保存**：測定結果を保存し、設定を終了します。
- **リトライ**：自動音場補正を再度実行します。
- **キャンセル**：測定結果を保存せずに設定を終了します。

4 測定結果を保存する。

手順3で[保存]を選択します。

5 S P Kリロケーション/ファントムS B機能の画面が表示された場合は、「**スピーカーの位置を補正する (S P Kリロケーション/ファントムS B)**」を参考にお好みの設定を選ぶ。

以下の場合この画面は表示されないため、手順6に進んでください。

- サラウンドバックスピーカーがなく、サラウンドスピーカーがあるスピーカーパターンに設定されていて、[サラウンドスピーカー配置]が[フロント]に設定されている。
- [インシーリングスピーカーモード]が[フロント&センター]または[フロント]に設定されている。

6 「**自動音場補正の補正タイプを選ぶ (補正タイプ)**」を参考にお好みの補正タイプを選ぶ。

7 画面に「**キャリブレーション・マッチング機能を有効にしますか?**」と表示されるので、[はい]または[いいえ]を選ぶ。

- **はい**：視聴位置のスイートスポットを広げ、各スピーカーの左右で音の波面を整えることにより、より自然な音を楽しむことができます。
- **いいえ**：自動音場補正機能の測定結果をそのまま適用します。

8 [終了]を選ぶ。

警告メッセージが表示されたら

警告メッセージを確認して、[OK]を選びます。警告メッセージについて詳しくは、「[自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧](#)」をご覧ください。

ヒント

- アクティブサブウーファーの位置によって測定結果が異なる場合がありますが、測定結果の値のままで使用できます。

関連項目

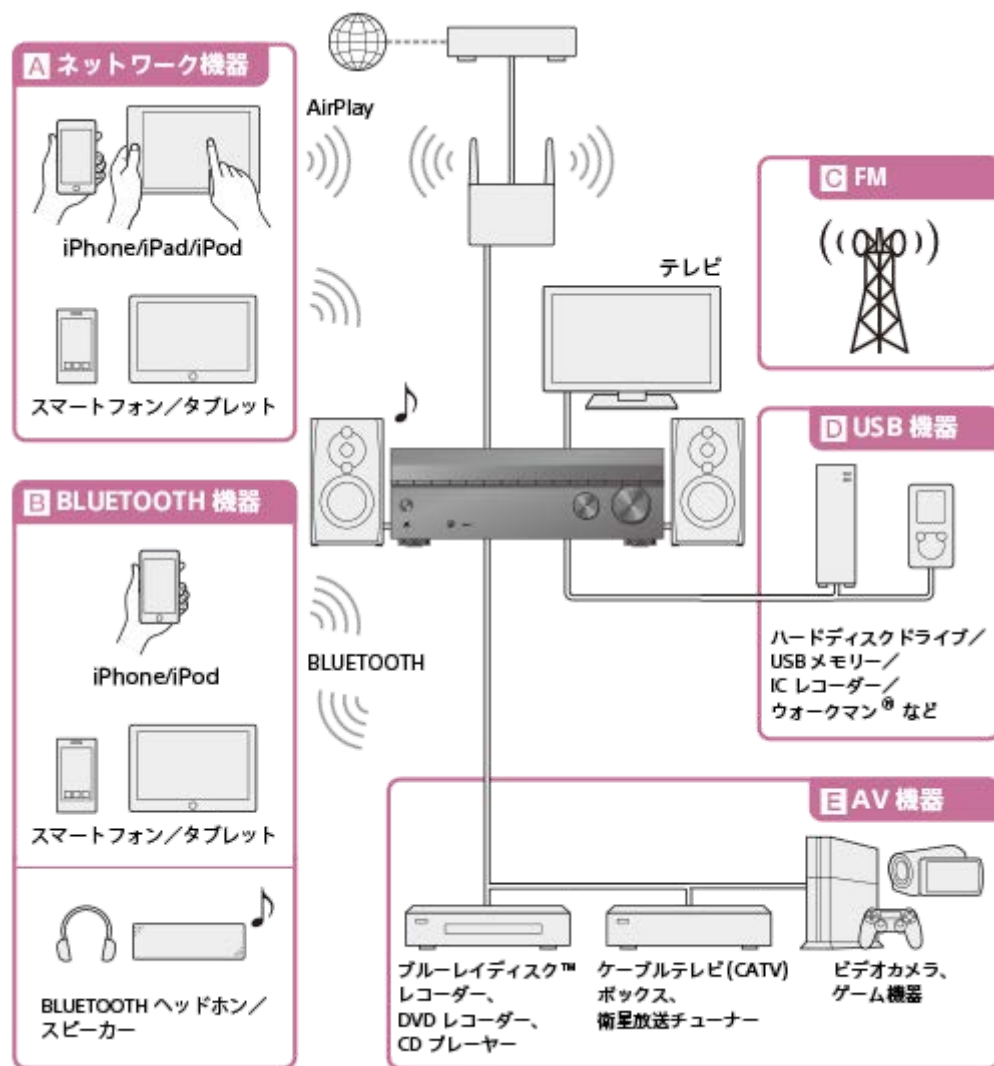
- [自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧](#)

4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

映像や音声を楽しむ

ここでは、アンプを使用する映像や音声の楽しみかたを説明します。
例えば、下図のように複数の機器をアンプにつなぐことができます。



【A】ネットワーク機器

iPhone/iPad/iPodまたはスマートフォンやタブレットの音声／音楽コンテンツを楽しむ

iPhone/iPad/iPodまたはスマートフォンやタブレットに保存した音楽などのコンテンツをネットワーク経由でアンプに送ることができます。

[ネットワーク機能を使ってできること](#)

【B】BLUETOOTH機器

iPhone/iPodまたはスマートフォンやタブレットの音楽コンテンツを楽しむ

iPhone/iPodまたはスマートフォンやタブレットに保存した音楽などのコンテンツをBLUETOOTH経由でアンプに送ることができます。

[BLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（ペアリング操作）](#)

BLUETOOTHレシーバー（ヘッドホン／スピーカー）で聞く

BLUETOOTH TX（送信）モードを使うと、BLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーで音声を楽しむことができます。アンプとヘッドホンやスピーカーはBLUETOOTH接続でつながるため、ケーブルを気にすることなく場所を問わずに音楽を楽しめます。

[BLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーに送信して音声を聞く（ペアリング操作）](#)

㊦ FM

FMラジオを聞く

内蔵のFMチューナーで、高音質のFMラジオ放送を楽しむことができます。
プリセット登録機能を使って、30局まで好みのFMチャンネルの登録ができます。

[FMラジオを聞く](#)

㊧ USB機器

USB機器のコンテンツを楽しむ

外部ハードディスク、USBメモリー、またはウォークマンなどのUSB機器を本体前面の ♪（USB）ポートに接続し、アンプに接続したスピーカーやヘッドホンで音楽を楽しむことができます。

アンプはハイレゾ音源に対応していますので、ハイレゾ対応機器の高解像度の音源を音質を損なうことなく楽しめます。

[USB機器の音楽を楽しむ](#)

㊨ AV機器

ブルーレイディスクレコーダー、CDプレーヤー、ケーブルテレビ（CATV）ボックス、衛星放送チューナーまたはゲーム機器などのAV機器の映像／音声を楽しむ

AV機器をアンプに接続して、映像や音声などのさまざまなコンテンツを楽しむことができます。

アンプはHDCP 2.2対応のHDMI端子を装備しているため、衛星放送やストリーミングサービスなどの4Kコンテンツを楽しむことも可能です。

[つないだ機器の映像や音声を楽しむ](#)

関連項目

- [ネットワーク機能を使ってできること](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

テレビ画面に表示されたメニューを使う

アンプのメニューをテレビ画面に表示できます（＊）。

＊ HDMI OUT B/HDMI ZONE端子につないだテレビにメニューを表示させる場合は、[HDMI出力Bモード]を[メイン]に設定してください。

① テレビの入力を、アンプをつないでいるHDMI入力に切り替える。

② HOMEを押して、テレビ画面にホームメニューを表示する。



③ ◀/▶をくり返し押して好みのメニューを選び、[+]を押して決定する。

ホームメニューの項目

Watch：接続機器の映像を見るときに選びます。

Listen：内蔵FMチューナーや接続機器の音声を聞かるときに選びます。

Custom Preset：さまざまな設定を保存し、それらを読み出すときに選びます。

Sound Effects：音響効果を楽しむときに選びます。

Zone Controls（＊）：マルチゾーン機能を使うときに選びます。

Setup：さまざまな設定を調節するときに選びます。

＊ [ゾーン設定]メニューの[Zone Controls]が[非表示]に設定されているときは表示されません。

ヒント

- 画面の左下に[OPTIONS]が表示されているときは、OPTIONSを押してオプションメニューを表示させ、関連した機能を選びます。
- 前の画面に戻るには、BACKを押します。
- メニューを閉じるには、HOMEを押してホームメニューを表示させ、もう一度HOMEを押します。

つないだ機器の映像や音声を楽しむ

① テレビの入力を、アンプをつないでいるHDMI入力に切り替える。

② HOMEを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

テレビによっては、テレビ画面にホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。



③ ホームメニューから「Watch」または「Listen」を選ぶ。

メニュー項目リストが表示されます。

④ お好みの機器を選ぶ。

⑤ 機器の電源を入れて再生を開始する。

⑥ \angle +/-を押して、音量を調節する。

本体前面のMASTER VOLUMEつまみでも操作できます。

⑦ サラウンド音声を楽しむには、2CH/MULTI、MOVIE、MUSIC、またはFRONT SURROUNDを押す。

本体前面の2CH/MULTI、MOVIE、またはMUSICボタンでも操作できます。

ご注意

- スピーカーの破損を防ぐために、電源を切る前に音量を下げておいてください。

ヒント

- 本体前面のINPUT SELECTORつまみを回すか、リモコンの入力切り替え用ボタンを押しても、お好みの機器を選べます。
- 本体前面のMASTER VOLUMEつまみ、またはリモコンの \angle +/-ボタンを使うと、音量の調整速度や調節量を変えられます。音量を素早く上げ/下げするには以下の操作を行います。

- 本体前面のMASTER VOLUMEつまみを素早く回す。
 - リモコンのボタンを押したままにする。
- 音量を微調整するには以下の操作を行います。
- 本体前面のMASTER VOLUMEつまみをゆっくり回す。
 - リモコンのボタンを短く押す。

関連項目

- [音場を選ぶ \(サウンドフィールド\)](#)

4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

テレビの音声をアンプで楽しむ（eARC/ARC）

テレビのeARCまたはARC機能対応のHDMI入力端子にアンプを接続した場合は、光デジタル音声ケーブルやアナログ音声ケーブルを接続せずにテレビの音声をアンプに接続したスピーカーで聞くことができます。テレビの音声をアンプにつないだスピーカーから出力するには、以下の手順で設定してください。

- 1 ホームメニューから **[Setup] - [HDMI設定]** を選ぶ。
- 2 **[HDMI機器制御]** を選ぶ。
- 3 **[入]** を選ぶ。
- 4 **[eARC]** を選ぶ。
- 5 **お好みの設定を選ぶ。**
 - **入**： eARC機能が有効になります。eARC対応のテレビにつないでいるときは、eARC機能が働きます。ARC機能対応（eARC機能非対応）のテレビにつないでいるときは、ARC機能が働きます。
 - **切**： ARC機能が有効になり、eARC機能は無効になります。eARC対応またはARC対応のテレビにつないでいるときは、ARC機能が働きます。
- 6 リモコンのHOMEを押してホームメニューに戻り、**[Watch] - [TV]** を選ぶ。

お使いのテレビがeARCまたはARC機能に対応していない場合、またはHDMIケーブル以外のケーブル（光デジタル音声ケーブルまたは音声ケーブル）経由の音声信号を選びたい場合

1. ホームメニューから **[Setup] - [入力設定]** を選ぶ。
2. テレビをつないだ入力の **[入力モード]** を、接続方法に合わせて切り替える。

ご注意

- 必ず事前にテレビの音量をオフにするか、または消音機能を有効にしてください。
- 手順4と5は、テレビ入力の **[入力モード]** の設定が **[自動]** になっている場合にのみ操作できます。
- お使いのテレビにシステムオーディオコントロールがない場合、テレビのスピーカーとアンプにつないだスピーカーから音声を出力するには、**[HDMI設定]** メニューで **[音声信号出力]** を **[テレビ + アンプ]** に設定してください。
- ARC機能はソニー製以外の機器でも働く場合がありますが、動作を保証するものではありません。
- お使いのテレビによっては、eARCまたはARCの設定項目が用意されている場合があります。テレビ側の設定も確認してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書を参照してください。

関連項目

- [eARC機能を使うための準備をする](#)
- [デジタル音声とアナログ音声を切り替える（入力モード）](#)
- [テレビを接続する](#)
- [再生できるデジタル音声フォーマット](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

HDCP 2.2で著作権保護された4Kコンテンツを見る

4Kコンテンツなど、HDCP 2.2で著作権保護されたコンテンツを見る場合は、テレビとアンプのHDCP 2.2対応のHDMI端子同士をつなぎます。著作権保護された4Kコンテンツは、HDCP 2.2対応のHDMI端子に対応機器を接続しないと視聴できません。お使いのテレビまたは4K対応機器がHDCP 2.2対応のHDMI端子を装備しているかどうかは、テレビまたは4K対応機器に付属の取扱説明書を参照してください。

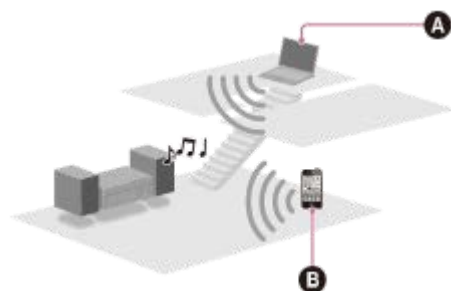
関連項目

- [4Kテレビを接続する](#)
- [テレビを接続する](#)


マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ネットワーク経由でiTunesまたはiPhone/iPad/iPodの音声を楽しむ（AirPlay）

iPhone、iPad、iPod、またはパソコンのiTunesライブラリ内の音源を再生して、無線ネットワーク経由で楽しむことができます。



- A パソコン
- B iPhone/iPad/iPod

- 1 iPhone/iPad/iPod画面またはiTunesウィンドウのAirPlayアイコン（など）をタップまたはクリックする。
- 2 iTunesまたはiPhone/iPad/iPodのAirPlayメニューで、[STR-DN1080 XXXXXX]（*）を選ぶ。
- 3 iPhone/iPad/iPodまたはiTunes内のコンテンツを再生する。

* XXXXXX は、それぞれの機器固有の識別番号です。

AirPlay再生の操作をする

アンプが出力先の機器として選ばれているとき、リモコンの  +/-、 、、、 ボタンが使えます。

ご注意

- アンプとつないで使う前に、iPhone/iPad/iPodまたはiTunesを最新バージョンにアップデートしてください。
- iPhone/iPad/iPod、iTunes、およびAirPlayの操作について詳しくは、各機器の取扱説明書を参照してください。

ヒント

- 再生が始まらない場合は、もう一度手順1からやり直してください。
- iPhone/iPad/iPodまたはiTunesの音量を大きく設定すると、大音量の音声のアンプにつないだスピーカーから出力されることがありますのでご注意ください。
- iPhone/iPad/iPodまたはiTunesの音量レベルとアンプの音量レベルは、連動できないことがあります。

関連項目

- [対応iPhone/iPad/iPodモデル](#)

BLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（ペアリング操作）

ペアリングとは、実際の接続前に、BLUETOOTH機器同士がそれぞれ登録し合う操作のことです。いったんペアリング操作が完了すると、以降の登録操作は不要です。ペアリングを開始する前に、[Bluetoothモード] が [受信] に設定されていることを確認してください。

1 BLUETOOTH機器をアンプから1メートル以内の場所に置く。

2 本体前面のCONNECTION — PAIRING BLUETOOTHを長押しして、BLUETOOTH機能を選ぶ。

表示窓に [PAIRING] が点滅します。5分以内に手順3を行わないと、ペアリングは中止されます。その場合は、もう一度この手順をやり直してください。

3 BLUETOOTH機器でペアリングを行い、アンプを検出する。

詳しくは、BLUETOOTH機器の取扱説明書を参照してください。
BLUETOOTH機器の種類によっては、検出された機器のリストがBLUETOOTH機器の画面に表示されます。本機は [STR-DN1080 XXXXXX] (*) として表示されます。

4 BLUETOOTH機器の画面で [STR-DN1080 XXXXXX] (*) を選ぶ。

[STR-DN1080 XXXXXX] (*) が表示されない場合は、手順1からやり直してください。
BLUETOOTH接続が完了すると、表示窓にペアリングした機種名が表示され、[BT] が点灯します。

5 BLUETOOTH機器で再生を開始する。

6 音量を調節する。

まずBLUETOOTH機器の音量を調節し、音量がまだ小さすぎる場合は、アンプ側で音量レベルを調節します。

* XXXXXX は、それぞれの機器固有の識別番号です。

ペアリング操作を中止するには

入力を切り替えます。

ご注意

- 一部のBLUETOOTH機器のアプリは、アンプから操作できません。
- 手順4でBLUETOOTH機器の画面でパスキーの入力が求められたら、「0000」を入力します。パスキーは、「パスコード」、「PINコード」、「PINナンバー」、「パスワード」などと呼ばれる場合があります。
- 最大9台のBLUETOOTH機器とペアリングできます。10台目のBLUETOOTH機器をペアリングすると、最も接続履歴の古い機器が新しくペアリングした機器に置き替わります。
- [Bluetoothモード] が [切] に設定されているときは、本体前面のCONNECTION — PAIRING BLUETOOTHボタンは動きません。

ヒント

- [システム設定] メニューの [機器名] で、BLUETOOTH接続時に表示されるアンプの名前を変更することができます。

関連項目

- [リモコンを使ってBLUETOOTH機器を操作する](#)
- [BLUETOOTH接続中の機器の情報を確認する](#)
- [BLUETOOTHスタンバイモードを設定する（Bluetoothスタンバイ）](#)
- [BLUETOOTHオーディオコーデックを設定する（Bluetooth音声フォーマット - AAC/Bluetooth音声フォーマット - LDAC）](#)

4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

対応iPhone/iPad/iPodモデル

本機が対応しているiPhone/iPad/iPodモデルは以下のとおりです。アンプにつないで使用する前にiPhone/iPad/iPodを最新のソフトウェアにアップデートしてください。

BLUETOOTH接続時

- **iPhone :**
iPhone 7/iPhone 7 Plus/iPhone SE/iPhone 6s/iPhone 6s Plus/iPhone 6/iPhone 6 Plus/iPhone 5s/iPhone 5c/iPhone 5/iPhone 4s
- **iPod touch :**
iPod touch（第5世代および第6世代）

AirPlay使用時

- **iPhone:**
iPhone 7/iPhone 7 Plus/iPhone SE/iPhone 6s/iPhone 6s Plus/iPhone 6/iPhone 6 Plus/iPhone 5s/iPhone 5c/iPhone 5/iPhone 4s
- **iPad:**
iPad Pro 9.7インチ/iPad Pro 12.9インチ（第1世代）/iPad Air 2/iPad mini 4/iPad mini 3/iPad Air/iPad mini 2/iPad mini/iPad（第3世代および第4世代）/iPad 2
- **iPod touch:**
iPod touch（第5世代および第6世代）

AirPlay は、iOS 4.3.3 以降を搭載したiPhone、iPad、iPod touch に対応しています。またOS X Mountain Lion 以降を搭載したMac、およびiTunes 10.2.2 以降を搭載したPCに対応しています。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

USB機器の音楽を楽しむ

ψ (USB) ポートにUSB機器をつないで、保存されている音楽を楽しむことができます。

1 ホームメニューから [Listen] - [USB (Connected)] を選ぶ。

リモコンのUSBを押しても同じ操作ができます。

2 ファイルリストから再生したいトラックを選ぶ。

選んだトラックの再生が始まり、テレビ画面にトラックの情報が表示されます。

リモコンを使ってUSB機器を操作するには

アンプに付属のリモコンでUSB機器を操作することもできます。
USBを押してから、下記のボタンをお使いください。

- ►|| : 再生開始または一時停止
- ■ : 再生停止
- ◀◀/▶▶ : 前/次のトラック先頭へ移動

オプションメニューを使って再生設定を行うには

手順2のあとOPTIONSを押すと、オプションメニューから以下の再生設定ができます。

● オートプレイ

〔入〕に設定した場合は、リモコンのUSBを押すとつないだUSB機器に保存されている音楽ファイルの再生が自動的に始まります。

● リピート設定

次のとおりUSB機器に保存されている音楽ファイルのリピート再生の設定ができます。

- － すべて： USB機器内のすべてのファイルをリピート再生する。
- － フォルダ： 選択フォルダー内のすべてのファイルをリピート再生する。
- － トラック： 再生中のファイルのみをリピート再生する。
- － 切： 選択フォルダー内のすべてのファイルを再生し、最終ファイル再生後に停止する。

● シャッフル設定

〔入〕に設定した場合は、つないだUSB機器に保存されている音楽ファイルをシャッフル再生します。シャッフル再生の対象ファイルは、〔リピート設定〕の設定に基づきます。

ご注意

- USB機器内の以下のファイルおよびフォルダーを認識できます。
 - － ルートフォルダーを含め、9階層目までのフォルダー
 - － 1階層につき、500までのファイル/フォルダー
- DRM (Digital Rights Management) 著作権保護付きの音源は、再生できません。

関連項目

- [USB機器を接続する](#)

USBの仕様および対応USB機器

USB接続で再生できる音声ファイルフォーマット（＊1）

MP3（MPEG 1 Audio Layer-3）（＊2）：

.mp3

AAC/HE-AAC（＊2）：

.m4a、.aac、.mp4、.3gp

WMA9 Standard：

.wma

WMA 10 Pro（＊3）：

.wma

LPCM（＊2）：

.wav

FLAC：

.flac、.fla

ドルビーデジタル（＊2）：

.ac3

DSF：

.dsf

DSDIFF（＊4）：

.dff

AIFF：

.aiff、.aif

ALAC：

.m4a

Vorbis：

.ogg

Monkey's Audio：

.ape

＊1 あらゆるエンコード／ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性を保証するものではありません。

＊2 拡張子が「.mka」のファイルは再生できます。

＊3 Losslessなどでエンコードされたファイルは再生できません。

＊4 DSTでエンコードされたファイルは再生できません。

ご注意

- ファイルフォーマットやエンコードの状況によっては、再生できないことがあります。
- パソコンで編集したファイルは再生できないことがあります。
- ファイルによっては早送り／早戻しができないことがあります。
- デジタル著作権管理（DRM）などで保護されたファイルは再生できません。
- 本機はUSB機器内の、以下のファイルおよびフォルダーを認識できます。
 - － ルートフォルダーを含め、9階層目までのフォルダー
 - － 1階層につき、500までのファイル／フォルダー
- USB機器によっては、本機で再生できないことがあります。
- 本機はマストレージクラス（MSC）デバイス（フラッシュメモリーやハードディスクドライブなど）や101キーボードを認識できます。

対応USB機器

マストレージクラス（MSC）、High Speedタイプ

最大電流

1 A

検証済ソニー製USB機器

本機で使用できることを確認済みのソニー製USB機器は下記のとおりです。

ウォークマン：

NW-A16

NW-A25/A25HN/A26HN/A27HN/ZX100

NW-A35/A35HN/A36HN/A37HN/WM1A/WM1Z

NW-E062/E063

NW-E083

NW-E393/E394/E395

NW-F887/F800シリーズ

NW-M504/M505

NW-S14/S15

NW-S774/S775/S776

NW-S784/S785/S786

NW-W274S

NW-WH303

NW-WH505

NW-WS413/WS414

NW-WS615

NW-WS623/WS625

NW-ZX1

NW-ZX2

NWZ-A15

NWZ-B162/B162F/B163F

NWZ-B172/B172F/B173/B173F

NWZ-B183F

NWZ-E053

NWZ-E363/E364/E365

NWZ-E373/E374/E375

NWZ-E383/E384/E385

NWZ-E454

NWZ-E463/E464/E465

NWZ-E473/E475

NWZ-E583/E584/E585

NWZ-F805N

NWZ-F885/F800シリーズ

NWZ-S774BT

NWZ-W252

NWZ-W274S

NWZ-WH303

NWZ-WH505

NWZ-WS613

NWZ-Z1050

ポケットビット（ソニー製USBメモリー）：

USM16GQX/USM128GQX

USM4GP/USM32GP

USM8GT/USM64GT

USM64GU

USM8GV

ICレコーダー／ラジオレコーダー／リニアPCMレコーダー：

ICD-FX88

ICD-PX232

ICD-PX240

ICD-PX333/PX333D/PX333M

ICD-PX370/PX470/PX470F

ICD-PX440

ICD-SX733/SX734/SX1000

ICD-SX2000

ICD-TX650

ICD-UX533/UX534F

ICD-UX543/UX543F/UX544F

ICD-UX560F

ICZ-R51

ICZ-R100

ICZ-R250TV

PCM-D100

外付けハードディスク：

HD-D2B

HD-E2

HD-S1A

ご注意

- USB機器によっては、一部の地域では入手できない場合があります。
- ハードディスクの最初のパーティションに保存されたデータ以外を読み取ることはできません。
- ここにリストアップされていない機種の場合は保証しません。
- ここにリストアップされているUSB機器のすべての動作を保証するものではありません。
- リストアップされている機種をフォーマットするときは、その機器自体または機種専用のフォーマット用ソフトウェアを使って行ってください。
- USB機器をつなぐときは、ライブラリーやデータベースを作成中であることを示す表示が消えていることを確認してください。

USB機器使用上のご注意

- 操作中にUSB機器を取り外さないでください。データ破損やUSB機器の破損を防ぐため、USB機器を取り外すときは、アンプの電源を切ってください。
- アンプとUSB機器をUSBハブを介してつながないでください。
- USB機器内の以下のファイルおよびフォルダーを認識できます。
 - － ルートフォルダーを含め、9階層目までのフォルダー
 - － 1階層につき、500までのファイル／フォルダー

最大ファイル数および最大フォルダー数は、ファイルやフォルダー構成によって異なります。USB機器に別の種類のファイルや不必要なフォルダーを保存しないでください。

- あらゆるエンコード／ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性を保証するものではありません。互換性のないUSB機器を使うと、雑音の原因となったり、音が途切れたり、またはまったく再生できないこともあります。
- 下記のような場合は、再生開始までに時間がかかることがあります。
 - － フォルダー構成が複雑な場合
 - － メモリー容量が極端に大きい場合
- つないだUSB機器のすべての機能に対応していない場合があります。
- アンプでの再生順は、つないだUSB機器の再生順とは異なることがあります。
- ファイルが入っていないフォルダーを選ぶと、[このカテゴリーには再生できるファイルがありません。] と表示されます。
- 非常に長いトラック、またはファイルサイズが非常に大きいトラックを再生しているときは、一部の操作が再生を遅らせる原因となることがあります。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

FMラジオを聞く

内蔵チューナーを通してFM放送を聞くことができます。アンプには必ず事前にテレビおよびFMアンテナ線をつないでください。

1 ホームメニューから [Listen] - [FM TUNER] を選ぶ。

FM画面が表示されます。

FM画面

▲/▼/◀/▶と⊞を押し、それぞれの項目を選んで操作できます。



A: 周波数表示

チューナーが受信中の周波数を表示します。

ヒント

- FMを押してFM画面を表示させることもできます。
- すでに放送局をプリセット登録済みの場合は、以下の操作で聞きたい放送局が選べます。
 - ― 手順1で⊞を押してプリセットリストを表示させ、放送局を選ぶ。
 - ― PRESET+/-を繰り返し押して放送局を選ぶ。
- 以下の操作で自動選局できます。
 - ― PRESET+/-を押したままにする。
 - ― ▲/▼を繰り返し押す。
- OPTIONSを押して表示されるオプションメニューから、以下の操作ができます。
 - ― ダイレクト選局
 - ― プリセット登録
 - ― プリセット名入力
 - ― FMモード切り替え

関連項目

- [アンテナを接続する](#)
- [テレビを接続する](#)

- 放送局を直接選局する（ダイレクト選局）
- FMラジオ放送局を登録する（プリセット登録）
- 登録した局名を変更する（プリセット名入力）
- FMステレオ放送の受信状態が悪い

4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

FMラジオ放送局を登録する（プリセット登録）

お気に入りの放送局として、FM局を最大30局登録できます。

1 ホームメニューから [Listen] - [FM TUNER] を選ぶ。

FM画面が表示されます。

2 プリセットしたい放送局を受信する。

3 OPTIONSを押す。

4 オプションメニューから [プリセット登録] を選ぶ。

プリセット登録画面が表示されます。




5 プリセット番号を選ぶ。

選んだプリセット番号で放送局が登録されます。

6 手順2から5をくり返して、他の放送局を登録する。

FM 1からFM 30までFM放送局を登録できます。

プリセット登録した放送局を聞く

[+]を押してプリセットリストを表示させ、聞きたい放送局を選ぶ。

関連項目

- [登録した局名を変更する（プリセット名入力）](#)

登録した局名を変更する（プリセット名入力）

- 1 ホームメニューから **【Listen】 - 【FM TUNER】** を選ぶ。
- 2 **OPTIONS**を押す。
オプションメニューが表示されます。
- 3 **【プリセット名入力】** を選ぶ。
プリセット一覧がテレビ画面に表示されます。
- 4 **名前をつけたいプリセット番号**を選ぶ。
オンスクリーンキーボードがテレビ画面に表示されます。
- 5 **▲/▼/◀/▶**と \boxplus を押して、文字を一つずつ選んで名前を入力する。
- 6 **【Enter】** を選ぶ。
入力した名前が登録されます。

名前の入力を中止する

BACKを押す。

ご注意

- テレビ画面に表示できても、表示窓には表示できない文字があります。

放送局を直接選局する（ダイレクト選局）

放送局の周波数を直接入力できます。

1 ホームメニューから [Listen] - [FM TUNER] を選ぶ。

2 **OPTIONS**を押す。

オプションメニューが表示されます。

3 **〔ダイレクト選局〕**を選ぶ。

4 **▲/▼/◀/▶**を押して周波数を入力する。

1. **◀/▶**を押して数字を選ぶ。
2. **▲/▼**を押して数字を変える。

5 **[+/-]**を押す。

ご注意

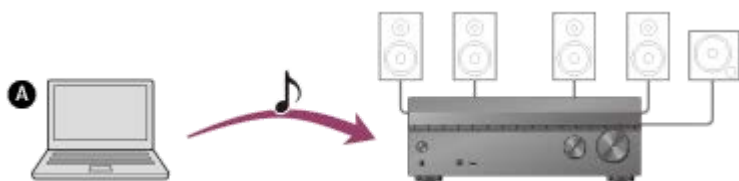
- 合わせた周波数が無効または範囲外の場合は、[---.--- MHz] が表示され、画面が現在の周波数に戻ります。正しい周波数が入力されていることを確認してください。周波数が正しく入力されていない場合は、手順4と5をくり返してください。それでも放送局を受信できない場合は、お住まいの地域では入力した周波数が使われていない可能性があります。

ヒント

- 選局時は100 kHzステップで周波数が切り替わります。

ホームネットワーク上のサーバー内にあるコンテンツを楽しむ（DLNA）

ホームネットワーク上のサーバー内にある音楽ファイルを再生できます。
サーバーの音楽ファイルを再生できるよう、サーバー側でいくつかの設定が必要な場合があります。詳しくは、各機器やアプリケーションの取扱説明書またはヘルプを参照してください。



A サーバー（パソコンなど）

1 ホームメニューから [Listen] - [Home Network] を選ぶ。

テレビ画面に利用できるサーバーのリストが表示されます。
前回最後に選んだ項目（プレイリスト、アルバム、フォルダーなど）がテレビ画面に表示された場合は、BACKを押してサーバーリストを表示させてください。利用できるサーバーがない場合は、[通信設定]メニューから[接続サーバー設定]画面を表示し、OPTIONSを押して、[サーバーリスト更新]を選び、サーバーリストを更新してください。

2 サーバーを選ぶ。

テレビ画面にコンテンツリストが表示されます。

3 お好みの項目（プレイリスト、アルバム、フォルダーなど）を選ぶ。

この手順をくり返して選択肢を絞り込み、お好みの項目を表示させてください。表示される項目は、接続しているサーバーによって異なります。

4 お好みのファイルを選ぶ。

再生が始まります。

オプションメニューを使って再生設定を行う

手順4のあとOPTIONSを押すと、オプションメニューから以下の再生設定ができます。

● リピート設定

次のとおりホームネットワーク上のサーバー内にある音楽ファイルのリピート再生の設定ができます。

- フォルダ： 選択フォルダー内のすべてのファイルをリピート再生する。
- トラック： 再生中のファイルのみをリピート再生する。
- 切： 選択フォルダー内のすべてのファイルを再生し、最終ファイル再生後に停止する。

● シャッフル設定

[入] に設定した場合は、ホームネットワーク上のサーバー内に保存されている音楽をシャッフル再生します。シャッフル再生の対象ファイルは、[リピート設定]の設定に基づきます。

- ホームネットワークサーバーに保存された以下のファイルやフォルダーを認識できます。
 - 19階層までのフォルダー
 - 1階層につき、999までのファイル／フォルダー
- DRM（Digital Rights Management）著作権保護付きのコンテンツは、再生できません。
- トラックによっては再生できない場合があります。

ヒント

- サーバー機器がWake-on-LANに対応している場合は、手順2で自動的にサーバーの電源が入ります。サーバーがWake-on-LANに対応していない場合は、あらかじめサーバーの電源を入れてください。お使いのサーバーのWake-on-LAN設定または操作について詳しくは、サーバーの取扱説明書またはヘルプを参照してください。

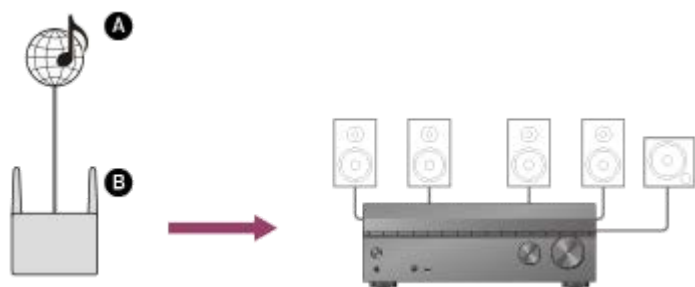
関連項目

- [ホームネットワーク対応リスト](#)
- [サーバーリストからサーバーを削除する](#)
- [ネットワークに接続できない](#)
- [サーバーがサーバーリストに表示されない（テレビ画面にサーバーが見つからないことを示すメッセージが表示される）](#)
- [再生が始まらない、または自動的に次のトラックまたはファイルへ進まない](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

インターネットで提供されているラジオや音楽サービスを楽しむ

インターネットラジオや音楽サービスを聞くことができます。
この機能を使うには、アンプをインターネットに接続のうえ、下記操作で表示されるガイドに従って設定が必要です。



- A インターネット
- B ルーター

- 1 ホームメニューから【Listen】 - 【Music Service List】を選ぶ。または、リモコンのMUSIC SERVICEを押す。
テレビ画面に現在利用可能なサービスの一覧が表示されます。サービスの一覧を更新するには、OPTIONSを押して【サーバーリスト更新】を選びます。
- 2 お好みのインターネットラジオや音楽サービスを選ぶ。
各音楽サービスを楽しむためのガイドがテレビ画面に表示されます。ガイドに従って操作してください。

ヒント

- Spotify Connectを使ってアンプで音楽を聞いたことがある場合は、MUSIC SERVICEを押すとSpotifyの音楽の続きを再生できます。

関連項目

- [Chromecast built-in™ を使ってスマートフォンやタブレットの音声を楽しむ](#)
- [Spotify Connectで音楽を楽しむ](#)

Chromecast built-in™ を使ってスマートフォンやタブレットの音声を楽しむ

Chromecast built-in機能を有効にすると、モバイル機器上のChromecast対応アプリで選んだ音声／音楽コンテンツを再生できます。

また、あらかじめアンプや他の部屋に配置したワイヤレススピーカーなどのChromecast対応機器をグループに登録すれば、複数の部屋で同じ音楽を楽しむこともできます。

詳しくは、下記Chromecastのウェブサイトを参照してください。

g.co/cast/audiolearn

1 ホームメニューから【Listen】 - 【Music Service List】を選ぶ。

音楽サービス一覧画面が表示されます。

2 【Chromecast built-in】を選び、機能を有効にする。

画面の指示に従ってChromecast built-inを使うための設定を行ってください。

この設定を行うと、【ネットワークスタンバイ】が自動的に【入】に設定され、アンプをスタンバイ状態からすばやく起動させて、音楽を再生できます。

3 モバイル機器をアンプと同じネットワークに接続する。

4 Chromecast対応アプリをモバイル機器にインストールする。

5 Chromecast対応アプリを起動してキャストアイコンをタップし、【STR-DN1080 XXXXXX】（*）、または【STR-DN1080 XXXXXX】（*）が含まれるグループを選ぶ。



6 Chromecast対応アプリで音楽を選び再生する。

アンプまたは選んだグループ内の各機器で音楽が再生されます。

* XXXXXXは、それぞれの機器固有の識別番号です。

ご注意

- Chromecast built-inを使って音楽を再生しているときは、リモコンまたは本体前面の2CH/MULTIボタンでのみ【マルチチャンネルステレオ】または【2chステレオ】を選べます。他のサウンドフィールドは選べません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

Spotify Connectで音楽を楽しむ

Spotifyアプリで音楽を選んでアンプで再生できます。アンプで音楽を再生するにはSpotifyプレミアムアカウントが必要です。

- 1 モバイル機器をアンプと同じネットワークにWi-Fi接続する。
- 2 Spotifyアプリをモバイル機器にインストールする。
- 3 Spotifyアプリを起動し、Spotifyプレミアムアカウントにログインする。
- 4 Spotifyアプリで音楽を選び再生する。
- 5 Spotifyアプリで接続アイコンをタップし、本機を音声出力機器として選ぶ。
音楽が再生されます。



モバイル機器で再生していた音楽の続きを再生する

リモコンのMUSIC SERVICEを押す。

Spotify Connectを使ってアンプで音楽を聞いたことがある場合は、Spotifyの音楽の続きが再生されます。

ご注意

- Spotify Connectをお使いになる前に、[通信設定] メニューの [ネットワークスタンバイ] を [入] に設定してください。
[入] に設定すると、アンプをスタンバイ状態からすばやく起動させて、音楽を再生できます。

ワンタッチ接続でBLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（NFC）

NFC機能を使ってワンタッチ接続でBLUETOOTH機器の音声を楽しめます。

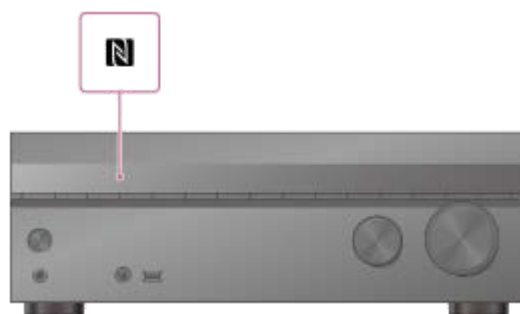
- 1 Android™ OS 4.0以前を搭載したNFC対応のBLUETOOTH機器の場合は、「NFC簡単接続」アプリをお使いのスマートフォンまたはタブレットにダウンロードする。

下記のQRコードを読み取って、Google Playのウェブサイトアクセスしてください。



Android OS 4.1以降を搭載したNFC対応のBLUETOOTH機器をお使いの場合は、「NFC簡単接続」アプリをインストールする必要はありません。

- 2 BLUETOOTH機器で本体前面の **N** マークをタッチする。



- 3 BLUETOOTH機器の画面に表示される指示に従って、BLUETOOTH接続操作を完了する。

- 4 接続が完了し、表示窓の【BT】が点灯していることを確認する。

- 5 BLUETOOTH機器で再生を開始する。

- 6 音量を調節する。

最初にBLUETOOTH機器の音量を調節してください。それでも音量が小さい場合は、アンプの音量を調節してください。

対応スマートフォン／タブレット

NFC機能を搭載したスマートフォン／タブレット（対応OS：Android 2.3.3以降、Android 3.xは除く）

ご注意

- 【Bluetoothモード】は手順2の後、自動的に【受信】に設定されます。

- ソフトウェアアップデート画面が表示されている間は、この機能は働きません。
- NFC対応BLUETOOTHレシーバー（ヘッドホン／スピーカー）には対応していません。

ヒント

- アンプがスタンバイ状態のときにBLUETOOTH機器をつなぎたい場合は、[通信設定]メニューの[ネットワークスタンバイ]を[入]に設定してください。

関連項目

- [対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル](#)
- [リモコンを使ってBLUETOOTH機器を操作する](#)
- [BLUETOOTH接続中の機器の情報を確認する](#)
- [BLUETOOTHスタンバイモードを設定する（Bluetoothスタンバイ）](#)
- [BLUETOOTHオーディオコーデックを設定する（Bluetooth音声フォーマット - AAC/Bluetooth音声フォーマット - LDAC）](#)

音場を選ぶ（サウンドフィールド）

スピーカー接続や入力音源に合わせて、さまざまな音場（サウンドフィールド）のモードを選べます。

1 ホームメニューから【Sound Effects】 - 【サウンドフィールド】を選ぶ。

2 お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

映画を見るときは、【Movie】表示のあるサウンドフィールドをおすすめします。
音楽を聞くとときは、【Music】表示のあるサウンドフィールドをおすすめします。

ご注意

- 以下の場合、サウンドフィールドは選べません。
 - 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
 - ワイヤレスマルチルーム機能を使用しているとき
- PHONES端子にヘッドホンをつなぐと、自動的に【ヘッドホン(2ch)】に切り替わります。
- 入力やスピーカーパターンの設定、または音声フォーマットによっては、映画用および音楽用のサウンドフィールドが機能しない場合があります。
- Chromecast built-inを使って音楽を再生しているときは、リモコンまたは本体前面の2CH/MULTIボタンでのみ【マルチチャンネルステレオ】または【2chステレオ】を選べます。他のサウンドフィールドは選べません。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。
- サウンドフィールドの設定によっては、一部のスピーカーやアクティブサブウーファーから音が出力されないことがあります。

ヒント

- リモコンの2CH/MULTI、MOVIE、MUSICまたはFRONT SURROUNDボタンでサウンドフィールドを選ぶこともできます。ただし、【USB】、【Bluetooth】、【Home Network】、【Music Service List】（Spotify Connectでの音楽再生時）以外の入力選ばれている場合、MUSICを押しても【オーディオエンハンサー】は選べません。
- 【音声設定】メニューから【サウンドフィールド】を選ぶこともできます。

関連項目

- [選べるサウンドフィールドとその効果](#)
- [音場（サウンドフィールド）を初期設定状態に戻す](#)

選べるサウンドフィールドとその効果

サウンドフィールド		表示窓	サウンドフィールドの効果
2CH/MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	2チャンネル音声信号を、サラウンド効果を加えずに再生できます。モノラル音声信号やマルチチャンネル音声信号は、2チャンネルに変換して再生します。 2本のフロントスピーカーのみで、バーチャルサラウンド効果を加えずに音声信号をそのまま再生したいときに適しています。 フロント左/右の2本のスピーカーのみから音が出ます。アクティブサブウーファーからは音が出ません。
	マルチチャンネルステレオ	MULTI ST.	接続されているすべてのスピーカーから音声を出します。 2チャンネル音声信号やモノラル音声信号の場合は、サラウンド効果を加えずに、すべてのスピーカーから出力します。 マルチチャンネル音声信号の場合は、スピーカーの設定やコンテンツによって、一部のスピーカーからは音声が出力されないことがあります。
	ダイレクト	DIRECT	すべての音声信号を、サラウンド効果を加えずに再生できます。
	A.F.D. (Auto Format Decoding)	A.F.D.	入力された音声信号に応じて、適切な処理方法でデコードし、再生できます。
MOVIE	Dolby Surround	DOLBY SURR	ドルビーサラウンドアップミキサーが従来型の音声コンテンツをマルチチャンネルに拡張し、ハイトスピーカーを含めた、マルチチャンネルスピーカー構成で再生できます。 これにより、従来の映画や音楽コンテンツの再生時でも高さ方向への音像を作り出せるようになるため、これまで以上に高い臨場感を得ることができます。 このアップミキサーは、ドルビープロロジックIIに代わる新しい拡張技術です。
	Neural:X	NEURAL:X	Neural:XはDTSの新しいアップミキサー技術で、ステレオ、5.1チャンネル、7.1チャンネルの映画や音楽をお使いのスピーカー構成に合わせて再配置します。 これにより、従来の映画や音楽コンテンツの再生時でも高さ方向への音像を作り出せるようになるため、これまで以上に高い臨場感を得ることができます。
	フロントサラウンド	FRONT SUR.	ソニーオリジナルのバーチャル信号処理技術により、2本のフロントスピーカーでも豊かなサラウンド効果が楽しめます。

サウンドフィールド		表示窓	サウンドフィールドの効果
MUSIC	オーディオ エンハンサ ー	A. ENHANCER	<p>ソニーオリジナルのDSEE HX（Digital Sound Enhancement Engine HX）により、既存の音源をハイレゾ相当の情報量をもつ高解像度音源にアップスケールし、レコーディングスタジオやコンサートの臨場感を再現します。</p> <p>オーディオエンハンサーは、以下から入力された、サンプリング周波数が44.1 kHzまたは48 kHzの2チャンネル音源にのみ働きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● USB ● Home Network ● Music Service List（Spotify Connectでの音楽再生時） ● Bluetooth <p>ただし、ワイヤレスマルチルーム再生時には働きません。</p>
ヘッドホン	ヘッドホン (2ch)	HP 2CH	<p>ヘッドホンを接続しているときに自動的に選ばれます。（その他のサウンドフィールドは選べなくなります。）2チャンネル音声信号は、サウンド効果を加えずに再生され、モノラル音声信号やマルチチャンネル音声信号は2チャンネルに変換して再生されます。</p>

ご注意

- サラウンドスピーカーと2本のサラウンドバックスピーカーをつないでいるときに、[ダイレクト] を選んで5.1チャンネルの音声再生すると、音声フォーマットによっては7.1チャンネルのサラウンドシステムのように、サラウンドバックスピーカーからサラウンドスピーカーと同じ音声が出力されます。サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの音声レベルは、自動的に最適なバランスに調節されます。
- [マルチチャンネルステレオ]、[A.F.D.]、[Dolby Surround] 以外のサウンドフィールドを選んでいるときは、ドルビーアトモスはドルビーTrueHDまたはドルビーデジタルプラスとしてデコードされます。
- [USB]、[Bluetooth]、[Home Network]、[Music Service List]（Spotify Connectでの音楽再生時）以外の入力を選ばれている場合、MUSICを押しても[オーディオエンハンサー]は選べません。

音場（サウンドフィールド）とスピーカー出力の関係一覧

選択した音場（サウンドフィールド）とスピーカー出力の関係は以下の表のとおりです。

ご注意

- 音が出ないときは、すべてのスピーカーが正しいスピーカー端子にしっかり接続されているか、スピーカーパターンの選択が正しいかを確認してください。

2chコンテンツ

音場（サウンドフィールド）		表示窓の表示	フロントスピーカー出力	センタースピーカー出力	サラウンドスピーカー出力	サラウンドバックスピーカー出力	アクティブサブウーファー出力	ハイトスピーカー出力
2CH/MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	◎	—	—	—	—	—
	マルチチャンネルステレオ	MULTI ST.	◎	○	○	○	○（*1）	○
	ダイレクト（アナログ入力）	DIRECT	◎	—	—	—	—	—
	ダイレクト（その他）	DIRECT	◎	—	—	—	○（*2）	—
	A.F.D.（Auto Format Decoding）	A.F.D.	◎	●	●	●	○（*2）	●（*3）
MOVIE	Dolby Surround	DOLBY SURR	◎	○	○	○	○（*1）	○
	Neural:X	NEURAL:X	◎	○	○	○	○（*1）	○（*4）
	フロントサラウンド	FRONT SUR.	◎	—	—	—	○（*1）	—
MUSIC	オーディオエンハンサー	A. ENHANCER	◎	—	—	—	○（*2）	—

—：音声が出力されません。

◎：音声が出力されます。

○：スピーカーパターンの設定および再生コンテンツによっては音声が出力されます。

●：ドルビー系ストリームとDTS系ストリームの場合は、スピーカーパターンの設定によって音声が出力されます。
リニアPCM、DSD、AACの場合は音声が出力されません。

*1 以下の条件を満たしている場合に音声が出力されます。

- アクティブサブウーファーが接続されている。
- アクティブサブウーファーありのスピーカーパターン（[x.1]）が設定されている。

*2 以下の条件を満たしている場合に音声出力されます。

- アクティブサブウーファーが接続されている。
- アクティブサブウーファーありのスピーカーパターン（[x.1]）が設定されている。
- [スピーカー設定] の [サイズ] が [小] に設定されている。

*3 DTS系ストリームの場合は、スピーカーパターンを [5.1.2 (FH)] に設定する必要があります。

*4 スピーカーパターンを [5.1.2 (FH)] に設定する必要があります。

マルチチャンネルコンテンツ

音場（サウンドフィールド）		表示窓の表示	フロントスピーカー出力	センタースピーカー出力	サラウンドスピーカー出力	サラウンドバックスピーカー出力	アクティブサブウーファー出力	ハイトスピーカー出力
2CH/MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	◎	—	—	—	—	—
	マルチチャンネルステレオ	MULTI ST.	◎	○	○	○	○	○（*1）
	ダイレクト	DIRECT	◎	○	○	○	○	○（*1）
	A.F.D.（Auto Format Decoding）	A.F.D.	◎	○	○	○	○	○（*1）
MOVIE	Dolby Surround	DOLBY SURR	◎	○	○	○	○	○
	Neural:X	NEURAL:X	◎	○	○	○	○	○（*2）
	フロントサラウンド	FRONT SUR.	◎	—	—	—	○	—
MUSIC	オーディオエンハンサー	A. ENHANCER	◎	○	○	○	○	○（*1）

—： 音声出力されません。

◎： 音声出力されます。

○： スピーカーパターンの設定および再生コンテンツによっては音声出力されます。

*1 DTS系ストリームの場合は、スピーカーパターンを [5.1.2 (FH)] に設定する必要があります。

*2 スピーカーパターンを [5.1.2 (FH)] に設定する必要があります。

関連項目

- [スピーカーの名称と働き](#)
- [選べるサウンドフィールドとその効果](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

音場（サウンドフィールド）を初期設定状態に戻す

以下の操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

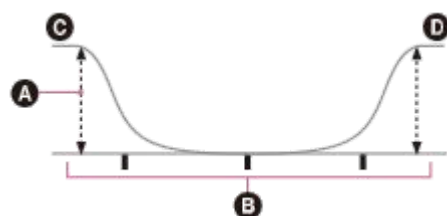
- 1 電源を切る。
- 2 MUSICを押しながら⏻（電源）を押す。

「S.F. CLEAR」が表示窓に表示され、すべての音場（サウンドフィールド）が初期設定状態に戻ります。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

イコライザーを調節する（イコライザ設定）

以下のパラメーターを使って、フロント、センター、サラウンド／サラウンドバック、ハイトスピーカーの音質（低域／高域のレベル）を調節できます。



- A** レベル (dB)
- B** 周波数 (Hz)
- C** 低域
- D** 高域

- 1** ホームメニューから **[Setup]** - **[スピーカー設定]** を選ぶ。
- 2** **[イコライザ設定]** を選ぶ。
- 3** **[Front]**、**[Center]**、**[Surround]** または **[Height]** を選ぶ。
- 4** **[低音]** または **[高音]** を選ぶ。
- 5** ゲインを調節する。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - － **[ピュアダイレクト]** が **[入]** に設定されているとき
 - － **[Bluetoothモード]** が **[送信]** に設定されているとき
 - － **[DSDネイティブ再生]** が **[入]** に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
- **[低音]** および **[高音]** の周波数は固定です。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。
- PHONES端子にヘッドホンを接続しているときは、**[Front]** の **[低音]** と **[高音]** ゲインのみ調節できます。

ヒント

- ホームメニューの **[Sound Effects]** から **[イコライザ設定]** を選ぶこともできます。また、AMP MENUを押して表示窓の **[<EQ>]** メニューからイコライザーを調節することもできます。

低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しむ（サウンド・オブティマイザー）

サウンド・オブティマイザーを使うと、低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しめます。自動音場補正を実行したあとに、環境に合った音量レベルに調節されます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【音声設定】を選ぶ。
- 2 【サウンド・オブティマイザー】を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - 標準：映画のレベルを基準に調節する場合に選びます。
 - 弱：CDなど平均音圧が高めに加工されたソフト用に調節する場合に選びます。
 - 切

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - － 【ピュアダイレクト】が【入】に設定されているとき
 - － PHONES端子にヘッドホンを接続しているとき
 - － 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
 - － 【DSDネイティブ再生】が【入】に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
 - － 【ダイレクト】が使われていてアナログ入力選ばれているとき
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

ヒント

- ホームメニューの【Sound Effects】から【サウンド・オブティマイザー】を選ぶこともできます。

天井スピーカーからの音をより自然な表現で楽しむ（インシーリングスピーカーモード）

現在の入力でインシーリングスピーカーモードを使うかどうかを設定します。

フロントスピーカーやセンタースピーカーが天井に設置されている環境の場合、音声出力位置を、画面の位置まで下げることによって、より自然な音声表現を楽しむことができます。

1 ホームメニューから【Setup】 - 【音声設定】を選ぶ。

2 【インシーリングスピーカーモード】を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- **フロント&センター**：天井に設置されたフロントスピーカーとセンタースピーカー両方の音声出力位置を画面の位置まで下げます。
- **フロント**：天井に設置されたフロントスピーカーの音声出力位置を画面の位置まで下げます。
- **切**：この機能は働きません。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - PHONES端子にヘッドホンを接続しているとき
 - 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
 - 【ピュアダイレクト】が【入】に設定されているとき
 - ワイヤレスマルチルーム機能を使用しているとき
 - 【DSDネイティブ再生】が【入】に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
- 以下以外のサウンドフィールドを選んでいる場合、この機能は働きません。
 - 2chステレオ
 - マルチチャンネルステレオ
- 【ダイレクト】が使われていてアナログ入力選ばれている場合、この機能は働きません。
- 音声フォーマットによっては、この機能は働かない場合があります。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

ヒント

- ホームメニューの【Sound Effects】から【インシーリングスピーカーモード】を選ぶこともできます。
- お聞きの環境で最適な音声を得るために、【スピーカー設定】メニューの【天井の高さ】を設定して、自動音場補正を実行してください。

原音に忠実な音を楽しむ（ピュアダイレクト）

ピュアダイレクトモードにより、すべての入力で原音により忠実な音を楽しめます。ピュアダイレクトモードがオンのときは、音質に影響を及ぼすノイズを抑えるために、表示窓は消灯します。

- 1 ホームメニューから **【Sound Effects】** - **【ピュアダイレクト】** を選ぶ。
- 2 **【入】** を選ぶ。

ピュアダイレクトを解除するには

以下の操作を行うとピュアダイレクトモードが解除されます。

- 手順2で **【切】** を選ぶ。
- 本体前面のPURE DIRECTを押す。
- 音場（サウンドフィールド）を変える。
- テレビのシーン設定を変える（シーンセレクト）。
- **【スピーカー設定】** メニューの **【自動位相マッチング】**、**【補正タイプ】** または **【イコライザ設定】** の設定を変える。
- **【音声設定】** メニューの **【サウンド・オブティマイザー】**、**【インシーリングスピーカーモード】** または **【ダイナミックレンジ調整】** の設定を変える。

ご注意

- ピュアダイレクトモードが選ばれているときは、**【自動位相マッチング】**、**【補正タイプ】**、**【イコライザ設定】**、**【サウンド・オブティマイザー】**、**【インシーリングスピーカーモード】** および **【ダイナミックレンジ調整】** は働きません。

ヒント

- 本体前面のPURE DIRECTボタンでも、ピュアダイレクトモードの入／切を切り替えることができます。
- ホームメニューの **【Setup】** - **【音声設定】** から **【ピュアダイレクト】** を選ぶこともできます。

DTS:Xダイアログコントロール機能を使う

DTS:Xダイアログコントロールは、DTS:Xストリームの再生中にセリフの音量を調節する機能です。この機能により、セリフの音量を背景の音から際立たせ、騒がしい環境でもセリフを聞き取りやすくします。

- 1 **OPTIONSを押す。**
オプションメニューが表示されます。
- 2 **【Dialog Control】を選ぶ。**
- 3 **▲/▼を押してセリフの音量を調節する。**

ご注意

- 音声信号によってはこの機能は働きません。
- テレビの視聴中はオプションメニューが表示できません。表示窓の【<AUDIO>】（音声設定） - 【DIALOG CTL】から設定してください。

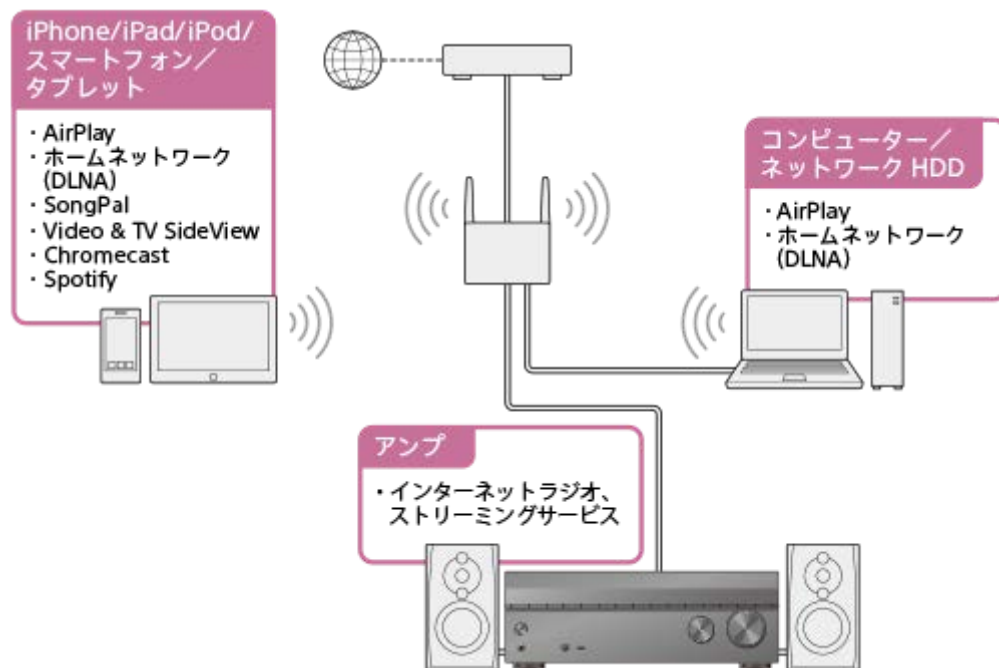
関連項目

- [表示窓のメニューを使って操作する](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ネットワーク機能を使ってできること

有線または無線でホームネットワークに接続しているパソコン、ネットワークHDD（ハードディスクドライブ）、iPhone/iPad/iPod、またはその他のスマートフォンやタブレットの音声／音楽コンテンツを再生して楽しめます。また、インターネットに接続することで、インターネットラジオや音楽のストリーミングの配信も聞くことができます。対応アプリを使えば、スマートフォンからアンプを操作できます。



● AirPlay

本機はAirPlayに対応しています。iPhone/iPad/iPod、またはiTunesライブラリの音声／音楽コンテンツを再生して楽しむことができます。

[ネットワーク経由でiTunesまたはiPhone/iPad/iPodの音声を楽しむ（AirPlay）](#)

● ホームネットワーク（DLNA）

ホームネットワークを利用して、ネットワーク上の機器（パソコン、ネットワークHDDなど）からさまざまなフォーマットの音声を再生できます。

[ホームネットワーク上のサーバー内にあるコンテンツを楽しむ（DLNA）](#)

● SongPal

スマートフォンやタブレットにインストールしたSongPalを使って、アンプをワイヤレスで操作できます。アンプの再生機能やマルチゾーン機能、SongPal Link機能をお使いの方におすすめします。

[スマートフォンやタブレット機器を使って操作する（SongPal）](#)

[複数の機器で同じ音楽を聞く／別の場所で異なる音楽を聞く（SongPal Link）](#)

[同じ音楽を別の部屋で聞く（ワイヤレスマルチルーム）](#)

● Video & TV SideView

スマートフォンやタブレットにインストールされたVideo & TV SideViewを用いて、アンプをワイヤレスで操作できます。アンプと合わせてソニー製のTVをよく使われている方におすすめします。

[Video & TV SideView機器をアンプに登録する](#)

● インターネットのストリーミングサービス

本機をインターネットに接続することで、インターネットのさまざまな配信サービスを楽しめます。
[インターネットで提供されているラジオや音楽サービスを楽しむ](#)

● Chromecast built-in

Chromecast built-in対応アプリから音声／音楽コンテンツを選択し、アンプで再生できます。
[Chromecast built-in™ を使ってスマートフォンやタブレットの音声を楽しむ](#)

● Spotify

Spotifyアプリから音声／音楽コンテンツを選択し、アンプで再生できます。
[Spotify Connectで音楽を楽しむ](#)

● Sony | Music Center for PC

Sony | Music Center for PCを使えば、パソコンにダウンロードしたSony | Music Center for PCライブラリ内のハイレゾ音源を含む音楽ファイルをアンプで楽しめます。
[Sony | Music Center for PCを使ってハイレゾ音源を再生して楽しむ](#)

ご注意

- スマートフォンからのコンテンツに対する以下の遠隔操作は、アンプが見える位置からのみ行ってください。
 - 再生／停止／一時停止
 - 曲送り／曲戻し
 - 音量の調整
 - 消音
 - リピート／シャッフル再生

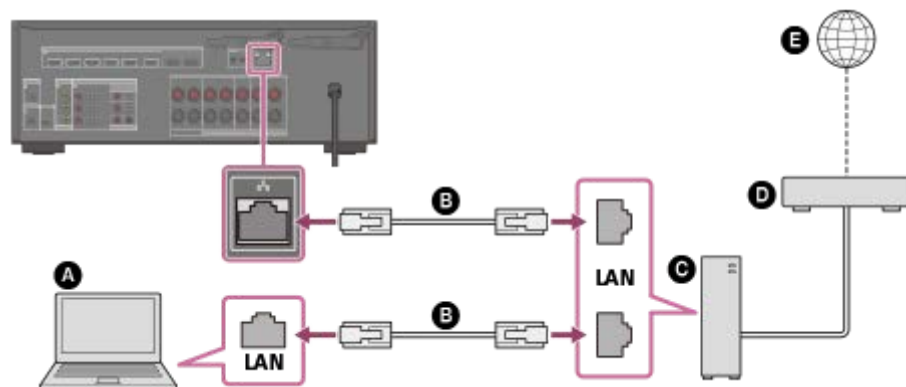
関連項目

- ホームネットワーク上のサーバー内にあるコンテンツを楽しむ（DLNA）
- ネットワーク経由でiTunesまたはiPhone/iPad/iPodの音声を楽しむ（AirPlay）
- インターネットで提供されているラジオや音楽サービスを楽しむ
- スマートフォンやタブレット機器を使って操作する（SongPal）
- 複数の機器で同じ音楽を聞く／別の場所で異なる音楽を聞く（SongPal Link）
- Video & TV SideView機器をアンプに登録する
- Chromecast built-in™ を使ってスマートフォンやタブレットの音声を楽しむ
- Spotify Connectで音楽を楽しむ
- Sony | Music Center for PCを使ってハイレゾ音源を再生して楽しむ

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

LANケーブルを使ってネットワークに接続する（有線LANに接続する場合のみ）

下図はアンプとサーバーを使ったホームネットワークの構成例です。
サーバーをルーターにつなぐときは、有線接続をおすすめします。



- **A** サーバー（パソコンなど）
- **B** LANケーブル（*）（別売）
- **C** ルーター
- **D** モデム
- **E** インターネット

* カテゴリー7のケーブルをおすすめします。

関連項目

- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [有線LAN接続の設定をする](#)
- [アンプに名前を割り当てる（機器名）](#)

有線LAN接続の設定をする

以下の手順で有線LAN接続を設定できます。

- ① ホームメニューから **【Setup】 - 【通信設定】** を選ぶ。
- ② **【ネットワーク設定】** を選ぶ。
- ③ **【有線LAN設定】** を選ぶ。
テレビ画面にIPアドレスの取得方法を選ぶ画面が表示されます。
- ④ **【自動取得】** を選ぶ。
確認画面が表示されます。
- ⑤ **▲/▼** を押して情報を確認し、**▶** を押す。
- ⑥ **【接続診断】** を選ぶ。
ネットワーク接続を開始します。詳しくは、テレビ画面に表示されるメッセージを参照してください。

固定IPアドレスを使用するときは

手順4で **【手動】** を選び、テレビ画面に表示される指示に従って操作します。

ヒント

- 通信設定を確認するときは、**【ネットワーク接続診断】** をご覧ください。

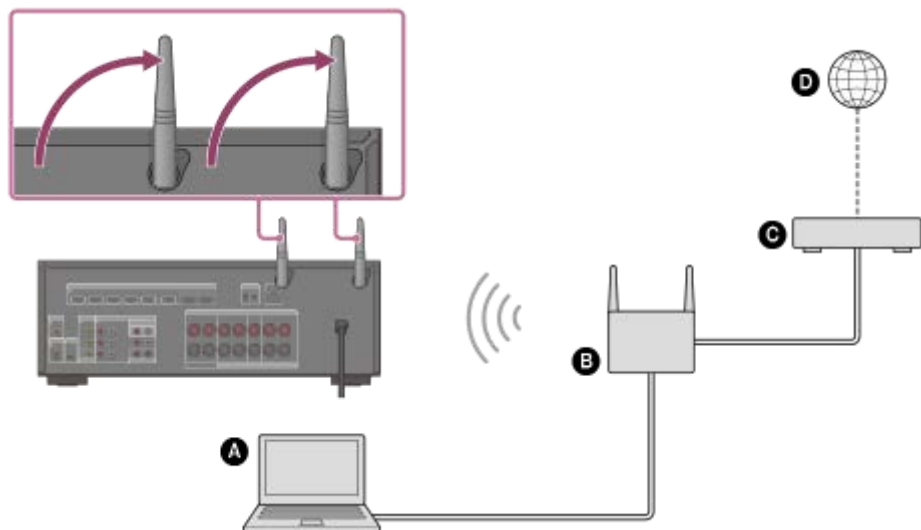
関連項目

- [LANケーブルを使ってネットワークに接続する（有線LANに接続する場合のみ）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

無線LANアンテナを使ってネットワークに接続する（無線LANに接続する場合のみ）

下図はアンプとサーバーを使ったホームネットワークの構成例です。
サーバーをルーターにつなぐときは、有線接続をおすすめします。



- **A** サーバー（パソコンなど）
- **B** ルーター
- **C** モデム
- **D** インターネット

ご注意

- 無線接続の場合は、サーバー上の音声再生がときどき途切れることがあります。

関連項目

- [アンプに名前を割り当てる（機器名）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

無線LAN接続の設定をする

ネットワーク設定を始める前に

お使いの無線LANルーター（アクセスポイント）にWPS（Wi-Fi Protected Setup）に対応したボタンがある場合は、アンプを簡単にWi-Fi（無線LAN）ネットワークに接続できます。

WPSボタンがない場合は、以下の情報を選択、または入力する必要があります。あらかじめ以下の情報を確認してください。

- 無線LANルーター／アクセスポイントのネットワーク名（SSID）（＊1）
- ネットワークのセキュリティキー（パスキー）（＊2）

＊1 SSID（Service Set Identifier）は、アクセスポイントを特定化するための名前です。

＊2 この情報は、無線LAN ルーター／アクセスポイントのラベル、取扱説明書、無線ネットワークの設定者、またはインターネットサービスプロバイダーから提供された資料から取得してください。

1 ホームメニューから【Setup】 - 【通信設定】を選ぶ。


2 【ネットワーク設定】を選ぶ。

3 【無線LAN設定】を選ぶ。

4 【Wi-Fi Protected Setup (WPS)】を選ぶ。

5 【開始】を選ぶ。

6 アクセスポイントのWPSボタンを押す。

ネットワーク接続を開始します。
通信設定が完了し、表示窓に  が点灯します。

任意のネットワーク名（SSID）による設定方法を選んだ場合は

手順4で任意のネットワーク名（SSID）を選び、オンスクリーンキーボードを使って、セキュリティキー（パスキー）を入力し、[Enter] を選んで入力を確定させると、ネットワーク接続を開始します。詳しくは、テレビ画面に表示されるメッセージを参照してください。

固定IPアドレスを手動で入力するときは

手順4で [新しい接続先の登録] - [手動登録] を選び、テレビ画面に表示される指示に従って操作します。

WPS PINコードを使って設定するときは

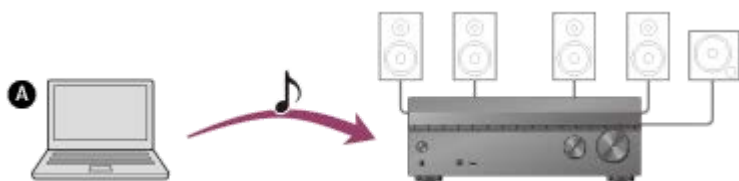
手順4で [新しい接続先の登録] - [(WPS) PIN方式] を選び、テレビ画面に表示される指示に従って操作します。

ヒント

- ネットワーク接続状態を確認するときは、[ネットワーク接続診断] をご覧ください。

ホームネットワーク上のサーバー内にあるコンテンツを楽しむ（DLNA）

ホームネットワーク上のサーバー内にある音楽ファイルを再生できます。
サーバーの音楽ファイルを再生できるよう、サーバー側でいくつかの設定が必要な場合があります。詳しくは、各機器やアプリケーションの取扱説明書またはヘルプを参照してください。



A サーバー（パソコンなど）

1 ホームメニューから [Listen] - [Home Network] を選ぶ。

テレビ画面に利用できるサーバーのリストが表示されます。
前回最後に選んだ項目（プレイリスト、アルバム、フォルダーなど）がテレビ画面に表示された場合は、BACKを押してサーバーリストを表示させてください。利用できるサーバーがない場合は、[通信設定]メニューから[接続サーバー設定]画面を表示し、OPTIONSを押して、[サーバーリスト更新]を選び、サーバーリストを更新してください。

2 サーバーを選ぶ。

テレビ画面にコンテンツリストが表示されます。

3 お好みの項目（プレイリスト、アルバム、フォルダーなど）を選ぶ。

この手順をくり返して選択肢を絞り込み、お好みの項目を表示させてください。表示される項目は、接続しているサーバーによって異なります。

4 お好みのファイルを選ぶ。

再生が始まります。

オプションメニューを使って再生設定を行う

手順4のあとOPTIONSを押すと、オプションメニューから以下の再生設定ができます。

● リピート設定

次のとおりホームネットワーク上のサーバー内にある音楽ファイルのリピート再生の設定ができます。

- フォルダ： 選択フォルダー内のすべてのファイルをリピート再生する。
- トラック： 再生中のファイルのみをリピート再生する。
- 切： 選択フォルダー内のすべてのファイルを再生し、最終ファイル再生後に停止する。

● シャッフル設定

[入] に設定した場合は、ホームネットワーク上のサーバー内に保存されている音楽をシャッフル再生します。シャッフル再生の対象ファイルは、[リピート設定]の設定に基づきます。

- ホームネットワークサーバーに保存された以下のファイルやフォルダーを認識できます。
 - 19階層までのフォルダー
 - 1階層につき、999までのファイル／フォルダー
- DRM（Digital Rights Management）著作権保護付きのコンテンツは、再生できません。
- トラックによっては再生できない場合があります。

ヒント

- サーバー機器がWake-on-LANに対応している場合は、手順2で自動的にサーバーの電源が入ります。サーバーがWake-on-LANに対応していない場合は、あらかじめサーバーの電源を入れてください。お使いのサーバーのWake-on-LAN設定または操作について詳しくは、サーバーの取扱説明書またはヘルプを参照してください。

関連項目

- [ホームネットワーク対応リスト](#)
- [サーバーリストからサーバーを削除する](#)
- [ネットワークに接続できない](#)
- [サーバーがサーバーリストに表示されない（テレビ画面にサーバーが見つからないことを示すメッセージが表示される）](#)
- [再生が始まらない、または自動的に次のトラックまたはファイルへ進まない](#)

サーバーリストからサーバーを削除する

通常利用しないサーバーがサーバーリストに表示される場合は、以下の操作で削除することができます。

1 ホームメニューから **【Setup】 - 【通信設定】** を選ぶ。

2 **【接続サーバー設定】** を選ぶ。

3 削除したいサーバーを選び、**OPTIONS**を押す。

4 オプションメニューから **【削除】** を選ぶ。

5 確認画面で **【はい】** を選ぶ。

「リストから機器を削除しました。」がテレビ画面に表示され、選んだサーバーが削除されます。

ご注意

- サーバーリスト更新時などにネットワーク上に削除したサーバーが見つかった場合は、削除されたあともそのサーバーはサーバーリストに表示されます。


関連項目

- [ホームネットワーク上のサーバー内にあるコンテンツを楽しむ（DLNA）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ホームネットワーク上の各コントローラー機器からアンプを操作できるように設定する (ホームネットワーク アクセス制御)

ホームネットワーク上のコントローラー機器のリストを確認し、リスト上の個別の機器に対してアンプの操作を許可するかどうかを設定できます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【通信設定】を選ぶ。
- 2 【ホームネットワーク アクセス制御】を選ぶ。
登録コントローラー機器のリスト（20台まで）が表示されます。
- 3 設定したいコントローラー機器を選び、を押す。
- 4 以下のいずれの設定を選ぶ。
 - 許可する：コントローラー機器からのアクセスを許可します。
 - 許可しない：コントローラー機器からのアクセスは許可しません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

DLNAについて

本機はDLNAの認証を取得した製品です。ホームネットワーク内の各機器と接続して使用する場合、プレーヤーまたはレンダラーの働きをします。

DLNAとは

DLNAはDigital living network allianceの略称で、ホームネットワーク内のAV機器、PC、情報家電を相互接続し、連携して利用するための仕様を指します。

プレーヤー機能

本製品をホームネットワークにつなぐと、ホームネットワーク上にあるサーバー（*）のコンテンツ（音楽）を、本製品で再生できます。

- * サーバーとは、ソニールームリンクに対応したブルーレイディスクレコーダー、Xperia スマートフォン、Xperia タブレット、nasne（ナスネ）™、VAIO PCなど、およびその他のDLNA認証サーバーが該当します。詳しくはこちらのサイトをご覧ください。
<https://www.sony.jp/support/dlna/>

レンダラー機能

本製品をホームネットワークにつないで、コントローラー（*1）で操作すると、以下をお楽しみいただけます。

- 本製品で、コントローラー内にあるコンテンツ（音楽）を再生する。
- 本製品で、ホームネットワーク上にあるサーバー（*2）のコンテンツ（音楽）を再生する。

- *1 コントローラーとは、ソニールームリンクに対応したXperia スマートフォン、Xperia タブレット、ウォークマン、VAIO PCなど、およびその他のDLNA認証コントローラーが該当します。詳しくはこちらのサイトをご覧ください。
<https://www.sony.jp/support/dlna/>
- *2 サーバーとは、ソニールームリンクに対応したブルーレイディスクレコーダー、Xperia スマートフォン、Xperia タブレット、nasne（ナスネ）™、VAIO PCなど、およびその他のDLNA認証サーバーが該当します。詳しくはこちらのサイトをご覧ください。
<https://www.sony.jp/support/dlna/>

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

対応iPhone/iPad/iPodモデル

本機が対応しているiPhone/iPad/iPodモデルは以下のとおりです。アンプにつないで使用する前にiPhone/iPad/iPodを最新のソフトウェアにアップデートしてください。

BLUETOOTH接続時

- **iPhone :**
iPhone 7/iPhone 7 Plus/iPhone SE/iPhone 6s/iPhone 6s Plus/iPhone 6/iPhone 6 Plus/iPhone 5s/iPhone 5c/iPhone 5/iPhone 4s
- **iPod touch :**
iPod touch（第5世代および第6世代）

AirPlay使用時

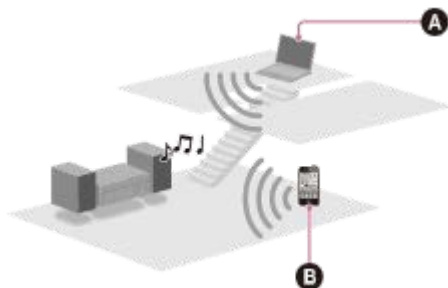
- **iPhone:**
iPhone 7/iPhone 7 Plus/iPhone SE/iPhone 6s/iPhone 6s Plus/iPhone 6/iPhone 6 Plus/iPhone 5s/iPhone 5c/iPhone 5/iPhone 4s
- **iPad:**
iPad Pro 9.7インチ/iPad Pro 12.9インチ（第1世代）/iPad Air 2/iPad mini 4/iPad mini 3/iPad Air/iPad mini 2/iPad mini/iPad（第3世代および第4世代）/iPad 2
- **iPod touch:**
iPod touch（第5世代および第6世代）

AirPlay は、iOS 4.3.3 以降を搭載したiPhone、iPad、iPod touch に対応しています。またOS X Mountain Lion 以降を搭載したMac、およびiTunes 10.2.2 以降を搭載したPCに対応しています。


マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ネットワーク経由でiTunesまたはiPhone/iPad/iPodの音声を楽しむ（AirPlay）

iPhone、iPad、iPod、またはパソコンのiTunesライブラリ内の音源を再生して、無線ネットワーク経由で楽しむことができます。





- A パソコン
- B iPhone/iPad/iPod

- 1 iPhone/iPad/iPod画面またはiTunesウィンドウのAirPlayアイコン（など）をタップまたはクリックする。
- 2 iTunesまたはiPhone/iPad/iPodのAirPlayメニューで、[STR-DN1080 XXXXXX]（*）を選ぶ。
- 3 iPhone/iPad/iPodまたはiTunes内のコンテンツを再生する。

* XXXXXX は、それぞれの機器固有の識別番号です。

AirPlay再生の操作をする

アンプが出力先の機器として選ばれているとき、リモコンの  +/-、 、、、 ボタンが使えます。

ご注意

- アンプとつないで使う前に、iPhone/iPad/iPodまたはiTunesを最新バージョンにアップデートしてください。
- iPhone/iPad/iPod、iTunes、およびAirPlayの操作について詳しくは、各機器の取扱説明書を参照してください。

ヒント

- 再生が始まらない場合は、もう一度手順1からやり直してください。
- iPhone/iPad/iPodまたはiTunesの音量を大きく設定すると、大音量の音声のアンプにつないだスピーカーから出力されることがありますのでご注意ください。
- iPhone/iPad/iPodまたはiTunesの音量レベルとアンプの音量レベルは、連動できないことがあります。

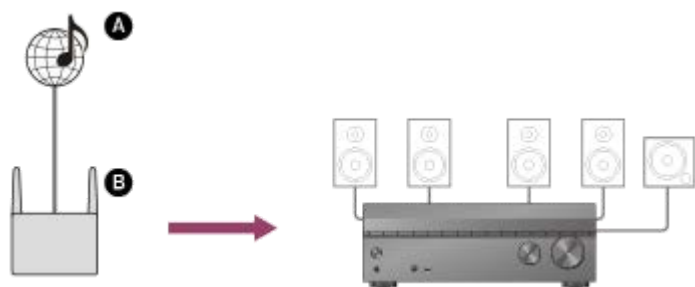
関連項目

- [対応iPhone/iPad/iPodモデル](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

インターネットで提供されているラジオや音楽サービスを楽しむ

インターネットラジオや音楽サービスを聞くことができます。
この機能を使うには、アンプをインターネットに接続のうえ、下記操作で表示されるガイドに従って設定が必要です。



- A インターネット
- B ルーター

- 1 ホームメニューから【Listen】 - 【Music Service List】を選ぶ。または、リモコンのMUSIC SERVICEを押す。
テレビ画面に現在利用可能なサービスの一覧が表示されます。サービスの一覧を更新するには、OPTIONSを押して【サーバーリスト更新】を選びます。
- 2 お好みのインターネットラジオや音楽サービスを選ぶ。
各音楽サービスを楽しむためのガイドがテレビ画面に表示されます。ガイドに従って操作してください。

ヒント

- Spotify Connectを使ってアンプで音楽を聞いたことがある場合は、MUSIC SERVICEを押すとSpotifyの音楽の続きを再生できます。

関連項目

- [Chromecast built-in™ を使ってスマートフォンやタブレットの音声を楽しむ](#)
- [Spotify Connectで音楽を楽しむ](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

スマートフォンやタブレット機器を使って操作する（SongPal）

SongPalは、スマートフォン／タブレットから、SongPal対応のソニー製オーディオ機器を操作するためのアプリです。

お手持ちのスマートフォンやタブレットを使ってGoogle Play™（Playストア）またはApp Storeで「SongPal」を検索し、ダウンロードしてください。

SongPalを使うと、以下のことができます。

- アンプの入力、音量、よく使う設定を変更する。
- スマートフォンやタブレット、ホームネットワーク上のサーバーに保存している音声／音楽コンテンツをアンプで楽しむ。
- スマートフォンやタブレットのディスプレイを使って音楽をビジュアルで楽しむ。
- Wi-FiルーターがWPS機能に対応していなくても、SongPalを使って簡単にWi-Fi接続の設定ができる。
- SongPal Link機能を使用する。

SongPal、SongPal Linkの詳しい使いかたについては、SongPalのヘルプをご覧ください。

- 1 SongPalをお使いのモバイル機器にダウンロードする。
- 2 アンプとモバイル機器をBLUETOOTH接続またはネットワーク接続でつなぐ。
- 3 SongPalを起動し、画面の指示に従ってセットアップする。

セットアップが完了すると、SongPalを使ってアンプを操作できます。

ご注意

- SongPalは、アンプのネットワーク機能とBLUETOOTH機能を使用します。[Bluetoothモード]を[受信]に設定してください。
- アンプとSongPalをお使いのモバイル機器は、同じネットワークにつないでください。
- SongPalは、最新バージョンをお使いください。
- SongPalの仕様および画面デザインは予告なく変更する場合があります。

関連項目

- [複数の機器で同じ音楽を聞く／別の場所で異なる音楽を聞く（SongPal Link）](#)
- [対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル](#)
- [ワンタッチ接続でBLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（NFC）](#)
- [LANケーブルを使ってネットワークに接続する（有線LANに接続する場合のみ）](#)
- [無線LANアンテナを使ってネットワークに接続する（無線LANに接続する場合のみ）](#)
- [ホームオートメーションコントローラーからの操作を可能にする（外部機器からの操作）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

複数の機器で同じ音楽を聞く／別の場所で異なる音楽を聞く（SongPal Link）

SongPalを使って、パソコンやスマートフォンに保存した音楽や音楽配信サービスを、複数の部屋で同時に聞くことができます。

このアンプはSongPal Linkの3つの機能（ワイヤレスマルチルーム機能、ワイヤレスサラウンド機能、ワイヤレスステレオ機能）のうち、ワイヤレスマルチルーム機能に対応しています。

SongPal Linkについて詳しくは、下記のURLを参照してください。

<http://www.sony.net/nasite>

同じ音楽を別の部屋で聞く（ワイヤレスマルチルーム）



ワイヤレスマルチルーム機能を使うと、ホームネットワーク経由で以下の音源からの音声を別の部屋でも同時に聞くことができます。

- USBメモリーやパソコン、スマートフォンに保存した音楽
- インターネットで提供されている音楽サービス
- HDMI IN端子、光デジタル音声IN端子、同軸デジタル音声INおよび音声INにつないだ機器
- HDMIテレビOUT A端子につないだeARCまたはARC機能対応テレビ（＊）

操作はスマートフォン／iPhoneにインストールしたSongPalアプリで行います。
複数のSongPal対応機器を使うには、それらを同じネットワークに接続する必要があります。
設定を行うには、SongPalアプリのヘルプを参照してください。

＊ eARCまたはARC機能を使うには、[HDMI設定]メニューの[HDMI機器制御]を[入]に設定し、eARC機能を使う場合はさらに[eARC]を[入]に設定してください。

ご注意

- ワイヤレスマルチルーム機能を使用して以下の音源から入力された音声を聞く場合、別の部屋などにある他のスピーカーの音声出力と同期させるため、アンプの音声は映像より遅れて出力されます。
 - － **A** HDMI IN端子、光デジタル音声IN端子、同軸デジタル音声IN端子および音声IN端子につないだ機器
 - － **B** HDMIテレビOUT A端子につないだeARCまたはARC機能対応テレビ

映像と音声のずれが気になる場合は、以下の手順でアンプと他のスピーカーとの同期を解除（＊）してください。

＊ アンプと他のスピーカーの同期を解除すると、アンプの音声は映像と同期できますが、他のスピーカーの音声は遅れて出力されます。

A の音声を聞いている場合：

1. OPTIONSを押す。
オプションメニューが表示されます。
2. [Multi-room Sync] - [Off] を選ぶ。

B の音声を聞いている場合：

1. AMP MENUを押す。
本体の表示窓にメニューが表示されます。
2. **▲/▼**と**⏏**を押して、[<AUDIO>]（音声設定）- [M/R SYNC] - [OFF] の順に選ぶ。

- BLUETOOTHおよびAirPlay経由で受信した音声は、ワイヤレスマルチルーム機能を使って他の部屋で聞くことはできません。
- ワイヤレスマルチルーム機能を使用しているときは、サウンドフィールドは選べません。

ヒント

- Chromecast対応アプリから音声／音楽コンテンツを選んで複数の部屋で音楽を楽しむ場合は、Chromecast対応アプリで操作してください。詳しくは、「[Chromecast built-in™ を使ってスマートフォンやタブレットの音声を楽しむ](#)」をご覧ください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

Video & TV SideView機器をアンプに登録する

モバイル機器やタブレット機器などにインストールされたVideo & TV SideViewで、アンプを操作できます。
Video & TV SideViewを初めて使用する場合は、Video & TV SideViewがインストールされたモバイル機器をアンプに登録する必要があります。

お手持ちのスマートフォンやタブレットを使い、Google Play™（Playストア）またはApp StoreでVideo & TV SideViewを検索し、ダウンロードしてください。

- 1 Video & TV SideViewアプリをお使いのモバイル機器にダウンロードする。
- 2 アンプの電源を入れ、お使いのモバイル機器と同じネットワークに接続する。
- 3 HOMEを押してホームメニューに戻る。
- 4 Video & TV SideViewを起動し、メニューの「機器登録」を選び、Video & TV SideView画面とアンプの画面の指示に従って操作を行う。

接続が完了すると、Video & TV SideViewを使ってアンプを操作できます。

ご注意

- 登録はホームメニューでのみ実行できます。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

登録したVideo & TV SideView機器を確認する（登録済モバイル機器リスト）

アンプを操作可能なVideo & TV SideView機器を確認できます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【通信設定】を選ぶ。
- 2 【登録済モバイル機器リスト】を選ぶ。

ご注意

- 最大で5台のVideo & TV SideView機器を登録できます。すでに5台に達していて、新たな機器を追加したい場合は、不要な機器を削除してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

Video & TV SideView機器を機器リストから削除する

アンプを操作可能なVideo & TV SideView機器を削除できます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【通信設定】を選ぶ。
- 2 【登録済モバイル機器リスト】を選ぶ。
- 3 削除したい機器を選び、OPTIONSを押す。
- 4 オプションメニューから【削除】を選ぶ。
- 5 【はい】を選ぶ。

選んだ機器が機器リストから削除されます。

関連項目

- [Video & TV SideView機器をアンプに登録する](#)

Chromecast built-in™ を使ってスマートフォンやタブレットの音声を楽しむ

Chromecast built-in機能を有効にすると、モバイル機器上のChromecast対応アプリで選んだ音声／音楽コンテンツを再生できます。

また、あらかじめアンプや他の部屋に配置したワイヤレススピーカーなどのChromecast対応機器をグループに登録すれば、複数の部屋で同じ音楽を楽しむこともできます。

詳しくは、下記Chromecastのウェブサイトを参照してください。

g.co/cast/audiolearn

1 ホームメニューから【Listen】 - 【Music Service List】を選ぶ。

音楽サービス一覧画面が表示されます。

2 【Chromecast built-in】を選び、機能を有効にする。

画面の指示に従ってChromecast built-inを使うための設定を行ってください。

この設定を行うと、【ネットワークスタンバイ】が自動的に【入】に設定され、アンプをスタンバイ状態からすばやく起動させて、音楽を再生できます。

3 モバイル機器をアンプと同じネットワークに接続する。

4 Chromecast対応アプリをモバイル機器にインストールする。

5 Chromecast対応アプリを起動してキャストアイコンをタップし、【STR-DN1080 XXXXXX】（*）、または【STR-DN1080 XXXXXX】（*）が含まれるグループを選ぶ。



6 Chromecast対応アプリで音楽を選び再生する。

アンプまたは選んだグループ内の各機器で音楽が再生されます。

* XXXXXXは、それぞれの機器固有の識別番号です。

ご注意

- Chromecast built-inを使って音楽を再生しているときは、リモコンまたは本体前面の2CH/MULTIボタンでのみ【マルチチャンネルステレオ】または【2chステレオ】を選べます。他のサウンドフィールドは選べません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

Spotify Connectで音楽を楽しむ

Spotifyアプリで音楽を選んでアンプで再生できます。アンプで音楽を再生するにはSpotifyプレミアムアカウントが必要です。

- 1 モバイル機器をアンプと同じネットワークにWi-Fi接続する。
- 2 Spotifyアプリをモバイル機器にインストールする。
- 3 Spotifyアプリを起動し、Spotifyプレミアムアカウントにログインする。
- 4 Spotifyアプリで音楽を選び再生する。
- 5 Spotifyアプリで接続アイコンをタップし、本機を音声出力機器として選ぶ。
音楽が再生されます。



モバイル機器で再生していた音楽の続きを再生する

リモコンのMUSIC SERVICEを押す。

Spotify Connectを使ってアンプで音楽を聞いたことがある場合は、Spotifyの音楽の続きが再生されます。

ご注意

- Spotify Connectをお使いになる前に、[通信設定] メニューの [ネットワークスタンバイ] を [入] に設定してください。
[入] に設定すると、アンプをスタンバイ状態からすばやく起動させて、音楽を再生できます。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

Sony | Music Center for PCを使ってハイレゾ音源を再生して楽しむ

Sony | Music Center for PCを使えば、パソコンにダウンロードしたSony | Music Center for PCライブラリ内のハイレゾ音源を含む音楽ファイルをアンプで楽しむことができます。また、Sony | Music Center for PCの再生コントロールを使用して、再生、停止、音量調節などをパソコン側から操作することができます。詳しくはSony | Music Center for PCのサポートサイトをご覧ください。

ホームネットワーク上の各コントローラー機器からアンプを操作できるように設定する (ホームネットワーク アクセス制御)

ホームネットワーク上のコントローラー機器のリストを確認し、リスト上の個別の機器に対してアンプの操作を許可するかどうかを設定できます。

- 1 ホームメニューから **【Setup】 - 【通信設定】** を選ぶ。
- 2 **【ホームネットワーク アクセス制御】** を選ぶ。
登録コントローラー機器のリスト（20台まで）が表示されます。
- 3 設定したいコントローラー機器を選び、**[+]**を押す。
- 4 以下のいずれの設定を選ぶ。
 - **許可する**：コントローラー機器からのアクセスを許可します。
 - **許可しない**：コントローラー機器からのアクセスは許可しません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

新たに検出されたホームネットワーク上のコントローラー機器からアンプを操作できるようにする（ホームネットワーク 自動アクセス許可）

ホームネットワーク上で新たに検出されたコントローラー機器に対してアンプへの自動アクセスを許可するかどうかを設定できます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【通信設定】を選ぶ。
- 2 【ホームネットワーク 自動アクセス許可】を選ぶ。
- 3 【入】または【切】を選ぶ。

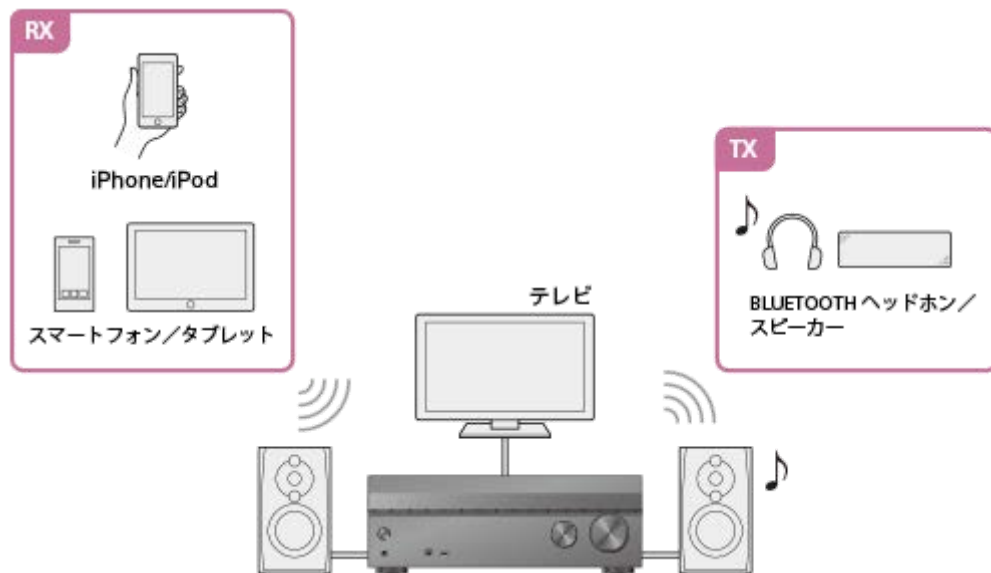
マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ホームネットワークコントローラー機器を機器リストから削除する

- ① ホームメニューから【Setup】 - 【通信設定】を選ぶ。
- ② 【ホームネットワーク アクセス制御】を選ぶ。
- ③ 削除したい機器を選び、OPTIONSを押す。
- ④ オプションメニューから【削除】を選ぶ。
- ⑤ 【はい】を選ぶ。

選んだ機器が機器リストから削除されます。

BLUETOOTH機能を使ってできること



● RX（受信モード）

BLUETOOTH機器の音声／音楽コンテンツをアンプに送信して聞く

BLUETOOTH機能に対応したiPhone/iPod、またはスマートフォンやタブレットの音声／音楽コンテンツを、アンプに送信して楽しむことができます。

NFC機能に対応した機器なら、アンプに近づけるだけで、ワンタッチ接続が可能です。

[ワンタッチ接続でBLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（NFC）](#)

[BLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（ペアリング操作）](#)

● TX（送信モード）

アンプにつないだAV機器から送信した音声をBLUETOOTHレシーバー（ヘッドホン／スピーカー）で聞く

アンプにつないだAV機器の音声をBLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーで楽しむことができます。（NFC機能はお使いになれません。）音が途切れる場合は、BLUETOOTHレシーバーをアンプに近づけてください。

[BLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（ペアリング操作）](#)

本機が対応するBLUETOOTHのバージョンとプロファイルについては、「[対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル](#)」をご覧ください。

ワンタッチ接続でBLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（NFC）

NFC機能を使ってワンタッチ接続でBLUETOOTH機器の音声を楽しめます。

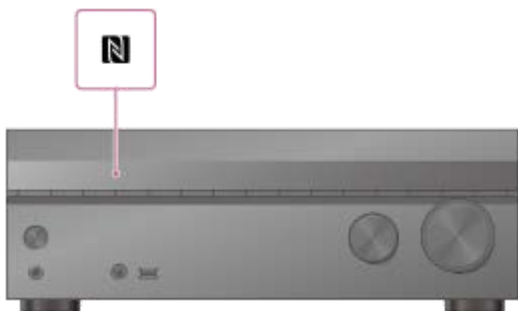
- 1 **Android™ OS 4.0以前を搭載したNFC対応のBLUETOOTH機器の場合は、「NFC簡単接続」アプリをお使いのスマートフォンまたはタブレットにダウンロードする。**

下記のQRコードを読み取って、Google Playのウェブサイトアクセスしてください。



Android OS 4.1以降を搭載したNFC対応のBLUETOOTH機器をお使いの場合は、「NFC簡単接続」アプリをインストールする必要はありません。

- 2 **BLUETOOTH機器で本体前面の  マークをタッチする。**



- 3 **BLUETOOTH機器の画面に表示される指示に従って、BLUETOOTH接続操作を完了する。**

- 4 **接続が完了し、表示窓の [BT] が点灯していることを確認する。**

- 5 **BLUETOOTH機器で再生を開始する。**

- 6 **音量を調節する。**

最初にBLUETOOTH機器の音量を調節してください。それでも音量が小さい場合は、アンプの音量を調節してください。

対応スマートフォン／タブレット

NFC機能を搭載したスマートフォン／タブレット（対応OS：Android 2.3.3以降、Android 3.xは除く）

ご注意

- [Bluetoothモード] は手順2の後、自動的に [受信] に設定されます。

- ソフトウェアアップデート画面が表示されている間は、この機能は働きません。
- NFC対応BLUETOOTHレシーバー（ヘッドホン／スピーカー）には対応していません。

ヒント

- アンプがスタンバイ状態のときにBLUETOOTH機器をつなぎたい場合は、[通信設定]メニューの[ネットワークスタンバイ]を[入]に設定してください。

関連項目

- [対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル](#)
- [リモコンを使ってBLUETOOTH機器を操作する](#)
- [BLUETOOTH接続中の機器の情報を確認する](#)
- [BLUETOOTHスタンバイモードを設定する（Bluetoothスタンバイ）](#)
- [BLUETOOTHオーディオコーデックを設定する（Bluetooth音声フォーマット - AAC/Bluetooth音声フォーマット - LDAC）](#)

BLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（ペアリング操作）

ペアリングとは、実際の接続前に、BLUETOOTH機器同士がそれぞれ登録し合う操作のことです。いったんペアリング操作が完了すると、以降の登録操作は不要です。ペアリングを開始する前に、[Bluetoothモード] が [受信] に設定されていることを確認してください。

1 BLUETOOTH機器をアンプから1メートル以内の場所に置く。

2 本体前面のCONNECTION — PAIRING BLUETOOTHを長押しして、BLUETOOTH機能を選ぶ。

表示窓に [PAIRING] が点滅します。5分以内に手順3を行わないと、ペアリングは中止されます。その場合は、もう一度この手順をやり直してください。

3 BLUETOOTH機器でペアリングを行い、アンプを検出する。

詳しくは、BLUETOOTH機器の取扱説明書を参照してください。
BLUETOOTH機器の種類によっては、検出された機器のリストがBLUETOOTH機器の画面に表示されます。本機は [STR-DN1080 XXXXXX] (*) として表示されます。

4 BLUETOOTH機器の画面で [STR-DN1080 XXXXXX] (*) を選ぶ。

[STR-DN1080 XXXXXX] (*) が表示されない場合は、手順1からやり直してください。
BLUETOOTH接続が完了すると、表示窓にペアリングした機種名が表示され、[BT] が点灯します。

5 BLUETOOTH機器で再生を開始する。

6 音量を調節する。

まずBLUETOOTH機器の音量を調節し、音量がまだ小さすぎる場合は、アンプ側で音量レベルを調節します。

* XXXXXX は、それぞれの機器固有の識別番号です。

ペアリング操作を中止するには

入力を切り替えます。

ご注意

- 一部のBLUETOOTH機器のアプリは、アンプから操作できません。
- 手順4でBLUETOOTH機器の画面でパスキーの入力が求められたら、「0000」を入力します。パスキーは、「パスコード」、「PINコード」、「PINナンバー」、「パスワード」などと呼ばれる場合があります。
- 最大9台のBLUETOOTH機器とペアリングできます。10台目のBLUETOOTH機器をペアリングすると、最も接続履歴の古い機器が新しくペアリングした機器に置き替わります。
- [Bluetoothモード] が [切] に設定されているときは、本体前面のCONNECTION — PAIRING BLUETOOTHボタンは動きません。

ヒント

- [システム設定] メニューの [機器名] で、BLUETOOTH接続時に表示されるアンプの名前を変更することができます。




関連項目

- [リモコンを使ってBLUETOOTH機器を操作する](#)
- [BLUETOOTH接続中の機器の情報を確認する](#)
- [BLUETOOTHスタンバイモードを設定する（Bluetoothスタンバイ）](#)
- [BLUETOOTHオーディオコーデックを設定する（Bluetooth音声フォーマット - AAC/Bluetooth音声フォーマット - LDAC）](#)

4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

リモコンを使ってBLUETOOTH機器を操作する

リモコンの以下のボタンを使ってBLUETOOTH機器を操作できます。

- （*）：再生開始または一時停止
- ：再生停止
- ：前の曲または次の曲の先頭へ移動

* BLUETOOTH接続が解除された状態のときにを押すと、最後に接続したBLUETOOTH機器と自動的に接続します。

ご注意

- これらの操作は特定のBLUETOOTH機器では働かないことがあります。また、お使いのBLUETOOTH機器によっては実際の操作が異なることがあります。
- BLUETOOTH RX/TXボタンはBLUETOOTH機能が働いているとき、または「Bluetoothモード」が「切」に設定されているときは働きません。

関連項目

- [BLUETOOTH接続中の機器の情報を確認する](#)
- [BLUETOOTHスタンバイモードを設定する（Bluetoothスタンバイ）](#)
- [BLUETOOTHオーディオコーデックを設定する（Bluetooth音声フォーマット - AAC/Bluetooth音声フォーマット - LDAC）](#)

対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル

「プロファイル」は各種BLUETOOTH製品の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は、以下のBLUETOOTHバージョンおよびプロファイルに対応しています。

- **対応BLUETOOTHバージョン：** BLUETOOTH標準規格Ver. 4.1準拠
- **対応BLUETOOTHプロファイル：**
 - A2DP 1.2（Advanced Audio Distribution Profile）：高音質な音声／音楽コンテンツを送受信する。
 - AVRCP 1.5（Audio Video Remote Control Profile）：一時停止、停止、再生、音量調節など、オーディオ／映像機器を操作する。

対応するBLUETOOTH機器の最新の情報については、「[カスタマーサポートウェブサイト](#)」に記載のウェブサイトをご確認ください。

ご注意

- BLUETOOTH機器の仕様によって、機能に差が生じる場合があります。
- BLUETOOTHの無線接続では、BLUETOOTH機器とアンプとの間で音声データや操作のための信号を送受信して処理を行うため、BLUETOOTH機器本体で再生する場合とは異なり、操作に対する反応が遅れたり、再生開始までに遅延が生じることがあります。

BLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーに送信して音声を聞く（ペアリング操作）

アンプで再生されている音声をBLUETOOTHレシーバー（ヘッドホン／スピーカー）で聞くことができます。

1 ホームメニューから [Setup] - [Bluetooth設定] を選ぶ。

2 [Bluetoothモード] を [送信] に設定する。

表示窓に [BT TX] と表示されます。

3 BLUETOOTHレシーバーのBLUETOOTH機能をオンにする。

4 [Bluetooth設定] メニューの [機器リスト] からBLUETOOTHレシーバーの名称を選ぶ。

BLUETOOTHレシーバーの名前が見つからない場合は、[検索] を選んでください。

5 ホームメニューに戻り、お好みの入力を選ぶ。

BLUETOOTHレシーバーから音声が出力されます。

6 音量を調節する。

最初にBLUETOOTHレシーバーを適度な音量にします。それでも音量が小さいときは、アンプ側で音量を調節します。

BLUETOOTHレシーバーに接続した状態では、アンプ側の音量調節はできず、本体前面のMASTER VOLUMEつまみやリモコンの \triangle +/- はBLUETOOTHレシーバーにしか働きません。

ご注意

- BLUETOOTHレシーバーによっては音量を調節できない場合があります。
- 入力に [Bluetooth] が選ばれている場合、[Bluetoothモード] を [送信] に設定できません。
- BLUETOOTHレシーバーは9台まで登録することができます。9台分を登録したあと新たなBLUETOOTHレシーバーをペアリングすると、9台のなかで最も接続履歴の古いBLUETOOTHレシーバーの登録情報が、新たなBLUETOOTHレシーバーの情報で上書きされます。
- BLUETOOTHレシーバーは [機器リスト] に15台まで表示することができます。
- 音声送信中はオプションメニューのサウンド効果や設定の変更はできません。
- 著作権保護コンテンツとして保護されているコンテンツは出力できません。
- BLUETOOTHの無線接続では、BLUETOOTH機器とアンプとの間で音声データや操作のための信号を送受信して処理を行うため、送信側での音声／音楽再生に比べて、BLUETOOTHレシーバー側での再生がわずかに遅れます。
- SCMS-T非対応のBLUETOOTHレシーバーへは音声を出力できません。
- BLUETOOTHレシーバーが正しく接続されているときは、スピーカーやHDMI OUT端子からは音声が出力されません。
- [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているときは、[Bluetooth] およびオーディオ機器コントロールが無効になります。
- NFC対応BLUETOOTHレシーバーには対応していません。

ヒント

- BLUETOOTH機器からのAAC音声、LDAC音声の受信を入／切できます。
- リモコンのBLUETOOTH RX/TXボタンでも「Bluetoothモード」の切り替えができます。
- 手順3の機器がペアリング済みで、最後に接続していた機器の場合、BLUETOOTH RX/TXボタンを押すだけで自動的にアンプと接続できます。この場合、手順4の操作を行う必要はありません。

関連項目

- [BLUETOOTHモードを選ぶ（Bluetoothモード）](#)
- [BLUETOOTH機器の一覧を確認する（機器リスト）](#)
- [BLUETOOTHオーディオコーデックを設定する（Bluetooth音声フォーマット - AAC/Bluetooth音声フォーマット - LDAC）](#)

対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル

「プロファイル」は各種BLUETOOTH製品の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は、以下のBLUETOOTHバージョンおよびプロファイルに対応しています。

- **対応BLUETOOTHバージョン：** BLUETOOTH標準規格Ver. 4.1準拠
- **対応BLUETOOTHプロファイル：**
 - A2DP 1.2（Advanced Audio Distribution Profile）：高音質な音声／音楽コンテンツを送受信する。
 - AVRCP 1.5（Audio Video Remote Control Profile）：一時停止、停止、再生、音量調節など、オーディオ／映像機器を操作する。

対応するBLUETOOTH機器の最新の情報については、「[カスタマーサポートウェブサイト](#)」に記載のウェブサイトをご確認ください。

ご注意

- BLUETOOTH機器の仕様によって、機能に差が生じる場合があります。
- BLUETOOTHの無線接続では、BLUETOOTH機器とアンプとの間で音声データや操作のための信号を送受信して処理を行うため、BLUETOOTH機器本体で再生する場合とは異なり、操作に対する反応が遅れたり、再生開始までに遅延が生じることがあります。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

スマートフォンやタブレット機器を使って操作する（SongPal）

SongPalは、スマートフォン／タブレットから、SongPal対応のソニー製オーディオ機器を操作するためのアプリです。

お手持ちのスマートフォンやタブレットを使ってGoogle Play™（Playストア）またはApp Storeで「SongPal」を検索し、ダウンロードしてください。

SongPalを使うと、以下のことができます。

- アンプの入力、音量、よく使う設定を変更する。
- スマートフォンやタブレット、ホームネットワーク上のサーバーに保存している音声／音楽コンテンツをアンプで楽しむ。
- スマートフォンやタブレットのディスプレイを使って音楽をビジュアルで楽しむ。
- Wi-FiルーターがWPS機能に対応していなくても、SongPalを使って簡単にWi-Fi接続の設定ができる。
- SongPal Link機能を使用する。

SongPal、SongPal Linkの詳しい使いかたについては、SongPalのヘルプをご覧ください。

- 1 SongPalをお使いのモバイル機器にダウンロードする。
- 2 アンプとモバイル機器をBLUETOOTH接続またはネットワーク接続でつなぐ。
- 3 SongPalを起動し、画面の指示に従ってセットアップする。

セットアップが完了すると、SongPalを使ってアンプを操作できます。

ご注意

- SongPalは、アンプのネットワーク機能とBLUETOOTH機能を使用します。[Bluetoothモード]を[受信]に設定してください。
- アンプとSongPalをお使いのモバイル機器は、同じネットワークにつないでください。
- SongPalは、最新バージョンをお使いください。
- SongPalの仕様および画面デザインは予告なく変更する場合があります。

関連項目

- [複数の機器で同じ音楽を聞く／別の場所で異なる音楽を聞く（SongPal Link）](#)
- [対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル](#)
- [ワンタッチ接続でBLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（NFC）](#)
- [LANケーブルを使ってネットワークに接続する（有線LANに接続する場合のみ）](#)
- [無線LANアンテナを使ってネットワークに接続する（無線LANに接続する場合のみ）](#)
- [ホームオートメーションコントローラーからの操作を可能にする（外部機器からの操作）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

複数の機器で同じ音楽を聞く／別の場所で異なる音楽を聞く（SongPal Link）

SongPalを使って、パソコンやスマートフォンに保存した音楽や音楽配信サービスを、複数の部屋で同時に聞くことができます。

このアンプはSongPal Linkの3つの機能（ワイヤレスマルチルーム機能、ワイヤレスサラウンド機能、ワイヤレスステレオ機能）のうち、ワイヤレスマルチルーム機能に対応しています。

SongPal Linkについて詳しくは、下記のURLを参照してください。

<http://www.sony.net/nasite>

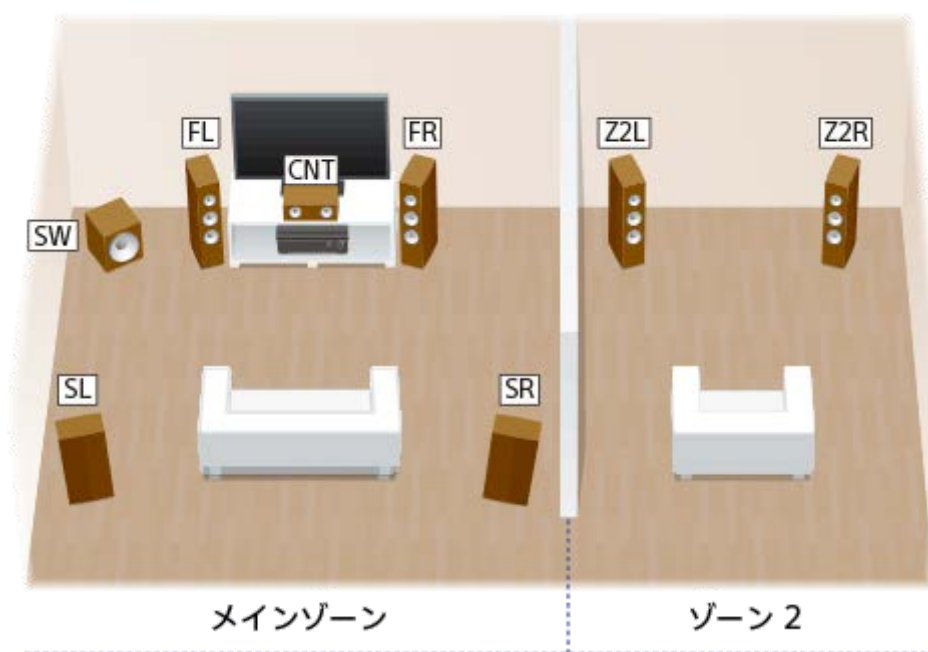
マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

マルチゾーン機能を使ってできること

● 2か所で音声を聞く — ゾーン2

別の部屋のスピーカーを本体後面のスピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2)端子につなぐと、別の部屋でも同時に音声を楽しめます。例えば、リビングルームとキッチンの2か所それぞれに設置した機器から同じ音楽を同時に聞くことができます。または、リビングルームで映画を見ながら、キッチンでは別の音楽を楽しめます。

音量もそれぞれの部屋で個別に調節できます。

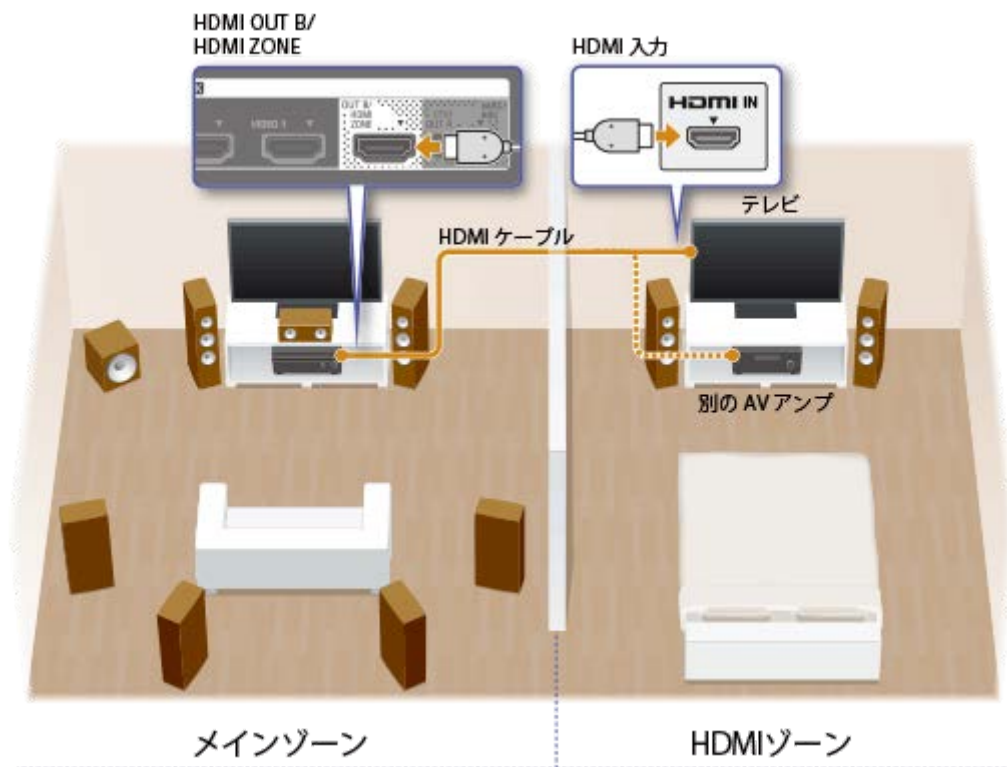


ヒント

- ゾーン2にもう1台アンプを設置して使用することもできます。その場合は、ゾーン2に設置したアンプをメインゾーンに設置したアンプの音声ZONE 2 OUT端子につないでください。

● HDMIゾーン

別の部屋のHDMI入力端子を備えたテレビや、もう一台のアンプを本体後面のHDMI OUT B/HDMI ZONE端子につなぐと、その部屋でも映像と音声が楽しめます。例えば、リビングルームのAV機器の映像や音楽を寝室でも高品質に再生できます。



ご注意

- ゾーン2およびHDMIゾーンで使用できる音源には制限があります。詳しくは、「[各ゾーンで視聴できる入力](#)」をご覧ください。

関連項目

- 5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（ゾーン2にもスピーカーを設置する場合）
- ゾーン2に設置したもう1台のアンプを接続する
- ゾーン2に設置したスピーカーで音声を楽しむ
- ゾーン2に設置したもう1台のアンプにつないだスピーカーで音声を楽しむ
- HDMIゾーンに設置したもう1台のアンプやテレビを接続する
- HDMI OUT B端子からの出力方法を選ぶ（HDMI出力Bモード）
- メインゾーンのHDMI出力の優先度を設定する（HDMI出力優先端子）
- 別の部屋のアンプやテレビをHDMI接続して映像や音楽を楽しむ（HDMIゾーン）

各ゾーンで視聴できる入力

視聴できる入力はゾーンによって異なります。

メインゾーンで視聴できる入力

メインゾーンでは、アンプにつないだすべての機器からの入力を選べます。

入力	視聴できる映像／音声信号
BD/DVD	<ul style="list-style-type: none"> HDMI IN BD/DVD端子からの信号
GAME	<ul style="list-style-type: none"> HDMI IN GAME端子からの信号
SAT/CATV	<ul style="list-style-type: none"> HDMI IN SAT/CATV端子からの信号 映像／音声IN SAT/CATV端子からの信号
VIDEO 1	<ul style="list-style-type: none"> HDMI IN VIDEO 1端子からの信号 映像／音声IN VIDEO 1端子からの信号
VIDEO 2	<ul style="list-style-type: none"> HDMI IN VIDEO 2端子からの信号
TV	<ul style="list-style-type: none"> 光デジタル音声IN TV端子からの信号 音声IN TV端子からの信号
SA-CD/CD	<ul style="list-style-type: none"> HDMI IN SA-CD/CD端子からの信号 同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子からの信号 音声IN SA-CD/CD端子からの信号
FM TUNER	<ul style="list-style-type: none"> 内蔵FMチューナーが受信するFM放送
USB	<ul style="list-style-type: none"> 本体前面の ♪（USB）ポートからの信号
Bluetooth	<ul style="list-style-type: none"> BLUETOOTH機能で受信した信号
Home Network	<ul style="list-style-type: none"> ホームネットワーク上の信号
Music Service List	<ul style="list-style-type: none"> インターネットの音楽サービスからの信号

ゾーン2で視聴できる入力

ゾーン2では、以下の入力を利用できます。

ゾーン2で映像を見ることはできません。HDMI IN端子につないだ機器の音声は聞けません。

入力	視聴できる映像／音声信号
SOURCE	● メインゾーンで選んでいる入力の信号（音声のみ）
SAT/CATV	● 音声IN SAT/CATV端子からの信号
VIDEO 1	● 音声IN VIDEO 1端子からの信号
SA-CD/CD	● 音声IN SA-CD/CD端子からの信号
FM TUNER（*）	● 内蔵FMチューナーが受信するFM放送
USB（*）	● 本体前面のψ（USB）ポートからの信号
Bluetooth（*）	● BLUETOOTH機能で受信した信号
Home Network（*）	● ホームネットワーク上の音源
Music Service List（*）	● インターネットの音楽サービスからの信号

* メインゾーンおよびゾーン2から、[FM TUNER]、[USB]、[Bluetooth]、[Home Network]または[Music Service List]を選ぶことができます。どちらかのゾーンでいずれかの入力を選ばれている場合でも、最後に選んだ入力が優先されます。

ご注意

- HDMI IN、光デジタル音声IN、同軸デジタル音声IN端子からの信号はゾーン2のスピーカーからは出力できません。
- AV機器を再生中に、ゾーン2の入力が[USB]、[Home Network]または[Music Service List]の場合、メインゾーンでBLUETOOTHレシーバー（ヘッドホン／スピーカー）をつなぐと、ゾーン2の入力は自動的に[SOURCE]に設定されます。この場合、ゾーン2からは、FMチューナーとアナログ音声の信号のみ出力されます。
- AV機器を再生中に、メインゾーンでBLUETOOTHレシーバー（ヘッドホン／スピーカー）をつないでいる場合、ゾーン2の入力を[USB]、[Home Network]または[Music Service List]に切り替えると、BLUETOOTHレシーバーの接続が解除されます。

HDMIゾーンで視聴できる入力

HDMIゾーンでは、以下の入力を利用できます。HDMI IN端子（HDMI IN VIDEO 1端子を除く）から入力される映像と音声のみ視聴できます。

入力	視聴できる映像／音声信号
SOURCE	● メインゾーンで視聴中の信号（HDMI IN端子（HDMI IN VIDEO 1端子を除く）につないだ入力のみ）
BD/DVD	● HDMI IN BD/DVD端子からの信号

入力	視聴できる映像／音声信号
GAME	<ul style="list-style-type: none"> HDMI IN GAME端子からの信号
SAT/CATV	<ul style="list-style-type: none"> HDMI IN SAT/CATV端子からの信号
VIDEO 2	<ul style="list-style-type: none"> HDMI IN VIDEO 2端子からの信号
SA-CD/CD	<ul style="list-style-type: none"> HDMI IN SA-CD/CD端子からの信号

ご注意

- [HDMI設定] メニューの [HDMI出力Bモード] を [ゾーン] に設定した場合は、HDMI OUT B/HDMI ZONE端子が対応する帯域幅は9 Gbpsまでになります。

関連項目

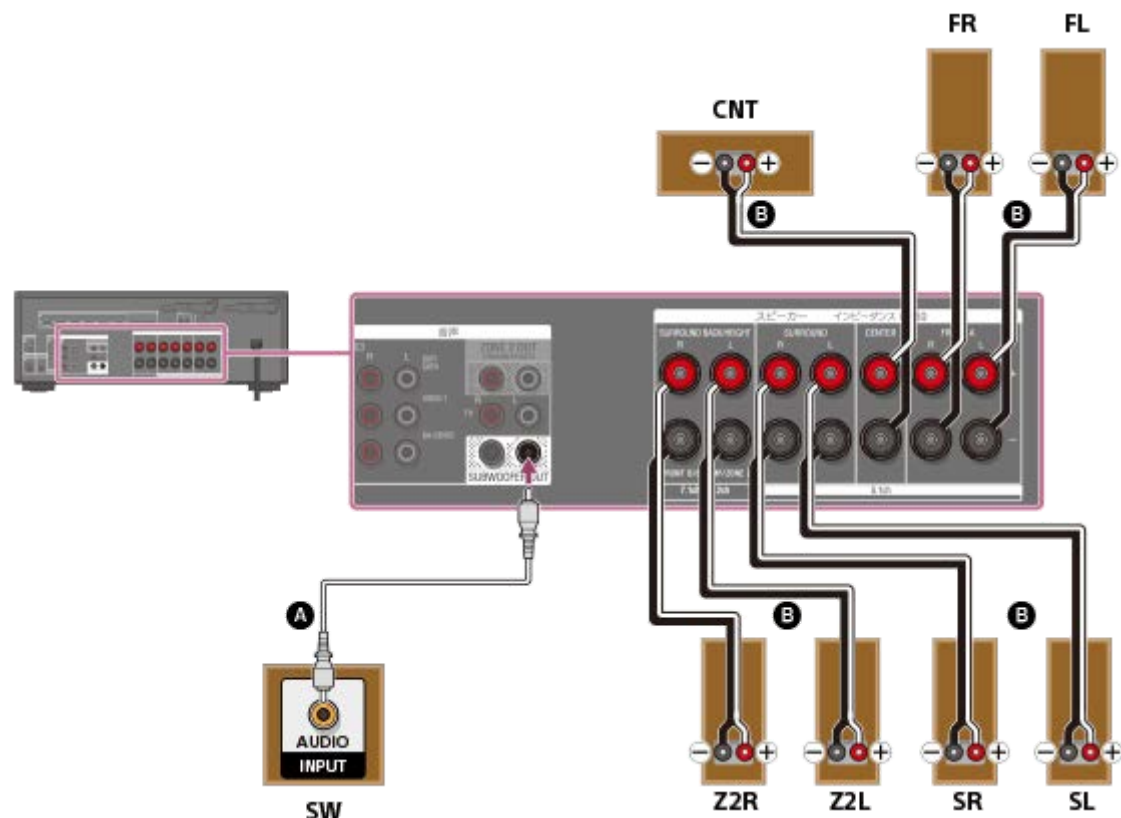
- [HDMI OUT B端子からの出力方法を選ぶ（HDMI出力Bモード）](#)

5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（ゾーン2にもスピーカーを設置する場合）

各スピーカーを下図のようにつないでください。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



● **A** モノラル音声ケーブル（別売）

● **B** スピーカーケーブル（別売）

ゾーン2スピーカーの接続後は、[スピーカー設定]メニューの[サラウンドバックスピーカー割り当て]を[ゾーン2]に設定してください。

ご注意

- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、6 Ω ～ 16 Ωです。
- スピーカーの設置および接続後は、必ず[スピーカー設定]メニューの[スピーカーパターン]を使って好みのスピーカーパターンを選んでください。
- スピーカーパターンをサラウンドバックスピーカーおよびハイト/オーバーヘッドスピーカーを使わない設定にしたときのみ、[サラウンドバックスピーカー割り当て]を設定できます。
- [USB]、[Bluetooth]（BLUETOOTH RX（受信）モード時のみ）、[Home Network]、[Music Service List] および [FM TUNER] からの音声信号、または音声IN端子からの音声のみゾーン2のスピーカーから出力されます。
- 光デジタル音声IN端子、同軸デジタル音声IN端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力信号は、ゾーン2のスピーカーから出力できません。

- スピーカーの名称と働き
- 5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（ゾーン2にもスピーカーを設置する場合）
- 7.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合）
- サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する（サラウンドバックスピーカー割り当て）
- ゾーン2に設置したスピーカーで音声を楽しむ
- ケーブル類を接続するときのご注意
- スピーカーケーブルのつなぎかた

4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

ゾーン2に設置したスピーカーの設定をする

ゾーン2に設置したスピーカーで音声を楽しむ前に、以下の手順でスピーカーの設定を行ってください。

- ① ホームメニューから **【Setup】 - 【スピーカー設定】** を選ぶ。
- ② **【スピーカーパターン】** を選ぶ。
- ③ テレビ画面に表示されるスピーカー設置例を参考に以下のとおり設定し、**【保存】** を選ぶ。
 - リスナーレベルスピーカー： 5.1、 5.0、 4.1、 4.0、 3.1、 3.0、 2.1または2.0
 - ハイト／オーバーヘッドスピーカー： --
- ④ **【スピーカー設定】** メニューの **【サラウンドバックスピーカー割り当て】** を **【ゾーン2】** に設定する。

関連項目

- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（ゾーン2にもスピーカーを設置する場合）](#)
- [スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）](#)
- [サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する（サラウンドバックスピーカー割り当て）](#)
- [ゾーン2に設置したスピーカーで音声を楽しむ](#)

ゾーン2に設置したスピーカーで音声を楽しむ

以下の手順でゾーン2でもアンプにつないだ機器からの音声を楽しめます。

ご注意

- 事前に「[ゾーン2に設置したスピーカーの設定をする](#)」の手順に従って、ゾーン2に設置したスピーカーの設定を行ってください。

- 1 ホームメニューから【Zone Controls】 - 【ゾーン2機能】 - 【入】を選ぶ。
ゾーン2が起動します。
- 2 【ゾーン2入力】で出力したいソース信号の入力を選ぶ。
ゾーン2でメインゾーンと同じ音声を聞きたいときは、【SOURCE】を選びます。
- 3 手順2で選んだ入力の接続機器を再生する。
- 4 【ゾーン2音量】で適切な音量に調節する。

ヒント

- 本体前面のZONE SELECTとZONE POWERで使用したいゾーンを起動することもできます。
- 表示窓に【2. xxxx（入力名）】が表示されている間に、本体前面のINPUT SELECTORで出力したいソース信号を選ぶこともできます。
- 表示窓に【2. xxxx（入力名）】が表示されている間に、本体前面のMASTER VOLUMEつまみを使って音量を調節することもできます。

ゾーン2操作を解除するには

ホームメニューから【Zone Controls】 - 【ゾーン2機能】を選び、【切】を選ぶ。

ゾーン2操作で利用できる入力

「[各ゾーンで視聴できる入力](#)」をご覧ください。

ヒント

- 専用アプリSongPalを使うと、お使いのスマートフォンやタブレットから設定の変更やゾーン入力の切り替えなど、ゾーン操作が簡単にできます。

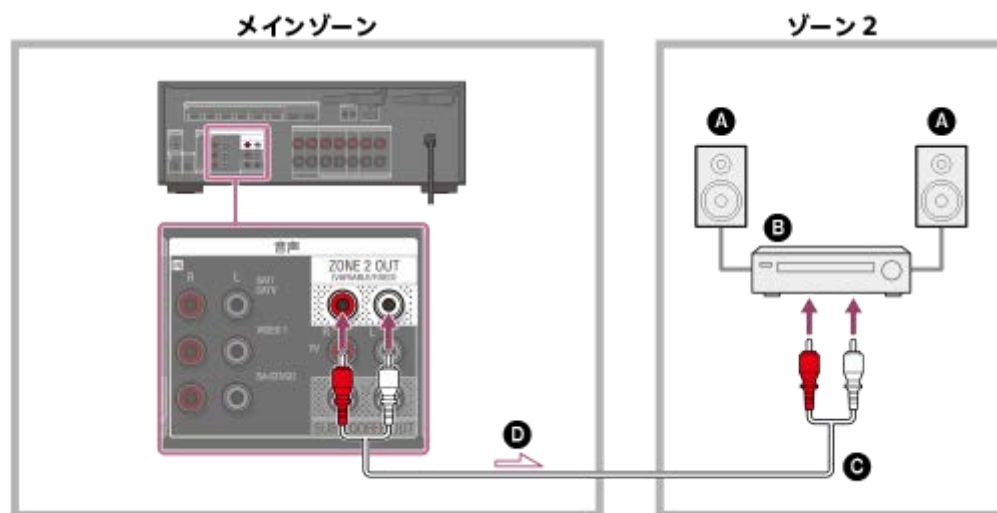
関連項目

- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（ゾーン2にもスピーカーを設置する場合）](#)
- [ゾーン2に設置したスピーカーの設定をする](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ゾーン2に設置したもう1台のアンプを接続する

メインゾーン以外のゾーンで、アンプにつないだ機器の音声を楽しめます。例えば、メインゾーンではDVDを視聴し、ゾーン2では音楽サービスから受信した音楽を聞くことができます。



- A スピーカー
- B アンプ
- C 音声ケーブル (別売)
- D 音声信号

ご注意

- [USB]、[Bluetooth] (BLUETOOTH RX (受信) モード時のみ)、[Home Network]、[Music Service List] および [FM TUNER] からの音声信号、または音声IN端子からの音声のみゾーン2のスピーカーから出力されます。
- 光デジタル音声IN端子、同軸デジタル音声IN端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力信号は、ゾーン2のスピーカーから出力できません。

関連項目

- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)

ゾーン2の音量を調節する（ゾーン2音声出力モード）

音声ZONE 2 OUT端子の音量調節を可変または固定に設定できます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【ゾーン設定】を選ぶ。
- 2 【ゾーン2音声出力モード】を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - **可変**：ゾーン2のアンプで音量調整できない場合に選びます。本体後面の音声ZONE 2 OUT端子の音量レベルが調整可能になります。
 - **固定**：ゾーン2のアンプで音量調整を行う場合に選びます。本体後面の音声ZONE 2 OUT端子の音量レベルが固定されます。

ご注意

- 【可変】に設定されているときは、初期設定で音量が絞られています。設定完了後、音声を聞きながら音量を上げてください。スピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2)端子からの音量は音声ZONE 2 OUT端子と連動して調節されます。

関連項目

- [ゾーン2に設置したもう1台のアンプにつないだスピーカーで音声を楽しむ](#)

ゾーン2に設置したもう1台のアンプにつないだスピーカーで音声を楽しむ

以下の手順でゾーン2でもアンプにつないだ機器からの音声を楽しめます。

1 ホームメニューから [Zone Controls] - [ゾーン2機能] - [入] を選ぶ。

ゾーン2が起動します。

2 ゾーン2のアンプの電源を入れる。

3 [ゾーン2入力] で出力したいソース信号の入力を選ぶ。

ゾーン2でメインゾーンと同じ音声を聞きたいときは、[SOURCE] を選びます。

4 手順3で選んだ入力の接続機器を再生する。

5 適切な音量に調節する。

ゾーン2のアンプを使って音量を調節します。[ゾーン設定] メニューの [ゾーン2音声出力モード] を [可変] に設定している場合は、ホームメニューから [Zone Controls] - [ゾーン2音量] を選んでゾーン2の音量を調節することもできます。

ヒント

- 本体前面のZONE SELECTとZONE POWERでゾーン2を起動することもできます。
- 表示窓に [2. xxxx (入力名)] が表示されている間に、本体前面のINPUT SELECTORで出力したいソース信号を選ぶこともできます。
- 表示窓に [2. xxxx (入力名)] が表示されている間に、本体前面のMASTER VOLUMEつまみを使って音量を調節することもできます。

ゾーン2操作を解除するには

ホームメニューから [Zone Controls] - [ゾーン2機能] を選び、[切] を選ぶ。

ゾーン2操作で利用できる入力

「[各ゾーンで視聴できる入力](#)」をご覧ください。

ヒント

- 専用アプリSongPalを使うと、お使いのスマートフォンやタブレットから設定の変更やゾーン入力の切り替えなど、ゾーン操作が簡単にできます。

関連項目

- [ゾーン2に設置したもう1台のアンプを接続する](#)

- [ゾーン2の音量を調節する（ゾーン2音声出力モード）](#)

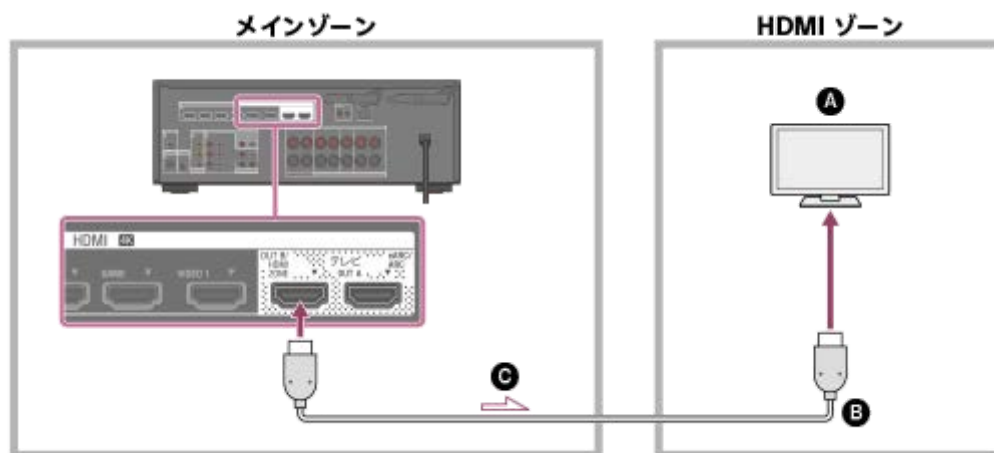
4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

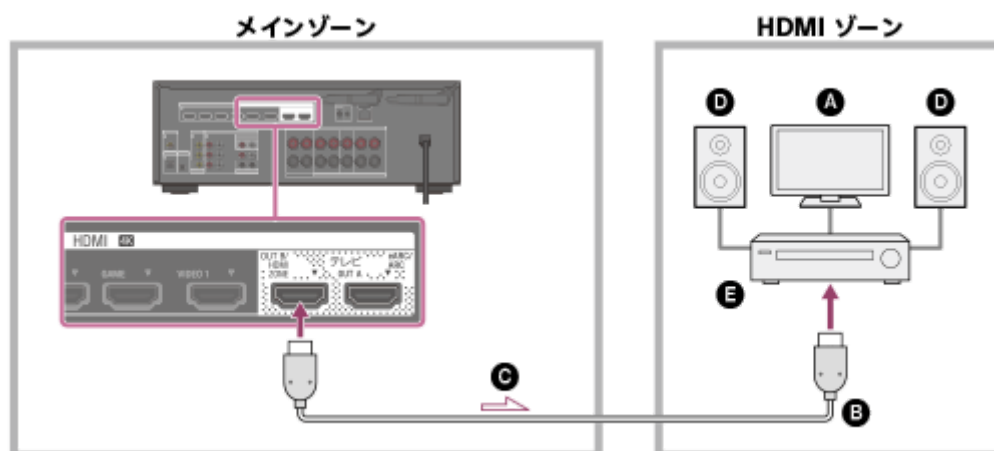
HDMIゾーンに設置したもう1台のアンプやテレビを接続する

HDMI入力の映像／音声信号はHDMI OUT B/HDMI ZONE端子を使ってHDMIゾーンに出力されます。

テレビにのみつなぐ場合



もう1台のアンプにつなぐ場合



- A テレビ
- B HDMIケーブル（別売）
- C 音声／映像信号
- D スピーカー
- E アンプ

ご注意

- この接続を使うには、[Setup] - [HDMI設定] を選び、[HDMI出力Bモード] を [ゾーン] に設定してください。
- HDMIゾーンの入力選択については「[別の部屋のアンプやテレビをHDMI接続して映像や音楽を楽しむ（HDMIゾーン）](#)」をご覧ください。

- ケーブル類を接続するときの注意

4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

HDMI OUT B端子からの出力方法を選ぶ（HDMI出力Bモード）

HDMIゾーンの接続には、HDMI OUT B/HDMI ZONE端子が使用できます。

- 1 ホームメニューから **[Setup] - [HDMI設定]** を選ぶ。
- 2 **[HDMI出力Bモード]** を選ぶ。
- 3 **お好みの設定を選ぶ。**
 - **メイン**：HDMI OUT B/HDMI ZONE端子をHDMI OUT B出力に使用します。テレビやプロジェクターを1つの部屋（メインゾーン）のみで見る場合に選びます。
 - **ゾーン**：HDMI OUT B/HDMI ZONE端子をHDMIゾーン出力に使用します。アンプにつないだ機器の映像や音声を別の部屋（HDMIゾーン）で楽しむ場合に選びます。

ご注意

- [ゾーン] が選ばれているときは、HDMI機器制御機能は働きません。HDMIゾーンの入力選択について詳しくは、「[別の部屋のアンプやテレビをHDMI接続して映像や音楽を楽しむ（HDMIゾーン）](#)」をご覧ください。
- [HDMI設定] メニューの [HDMI出力Bモード] を [ゾーン] に設定した場合は、HDMI OUT B/HDMI ZONE端子が対応する帯域幅は9 Gbpsまでになります。

メインゾーンのHDMI出力の優先度を設定する（HDMI出力優先端子）

HDMIゾーンが起動しているときにメインゾーンとHDMIゾーンで同じHDMI入力を選んだ場合、メインゾーンでの音声および映像信号に干渉が生じる場合があります。メインゾーンへのHDMI入力を優先するように設定することによって、干渉を防ぎます。

1 ホームメニューから【Setup】 - 【HDMI設定】を選ぶ。

2 【HDMI出力優先端子】を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- **メイン/ゾーン**：メインゾーンとHDMIゾーンで同じHDMI入力を楽しめます。ただし、両方のゾーンで音声および映像信号に干渉が生じる場合があります。
- **メイン**：メインゾーンで干渉の影響がない音声および映像を楽しめます。ただし、HDMIゾーンで同じHDMI入力を選んでも、HDMIゾーンには映像と音声が出力されません。

ご注意

- この機能は、【HDMI出力Bモード】が【ゾーン】に設定されているときのみ働きます。

ヒント

- メインゾーンとHDMIゾーンに異なる解像度のテレビをつなぎ、どちらのゾーンでも同じHDMI入力を選んだ場合、それぞれのテレビに出力される映像信号はいずれかのテレビの低い方の解像度に制限されます。

別の部屋のアンプやテレビをHDMI接続して映像や音楽を楽しむ（HDMIゾーン）

以下の手順でHDMIゾーンでもアンプからの音声を楽しめます。

- 1 ホームメニューから **【Zone Controls】 - 【HDMIゾーン機能】 - 【入】** を選ぶ。

HDMIゾーンが起動します。

- 2 HDMIゾーンのアンプまたはテレビの電源を入れる。

- 3 **【HDMIゾーン入力】** で出力したいソース信号の入力を選ぶ。

メインゾーンと同じ音声を聞きたいときは、**【SOURCE】** を選びます。

- 4 手順3で選んだ入力の接続機器を再生する。

- 5 適切な音量に調節する。

HDMIゾーンのアンプまたはテレビを使って音量を調節します。本機からHDMIゾーンの音量調節はできません。

ヒント

- 本体前面のZONE SELECTとZONE POWERでHDMIゾーンを起動することもできます。
- 表示窓に **【H. xxxx（入力名）】** が表示されている間に、本体前面のINPUT SELECTORで出力したいソース信号を選ぶこともできます。

HDMIゾーン操作を解除するには

ホームメニューから **【Zone Controls】 - 【HDMIゾーン機能】** を選び、**【切】** を選ぶ。

HDMIゾーン操作で利用できる入力

「各ゾーンで視聴できる入力」 をご覧ください。

ヒント

- 専用アプリSongPalを使うと、お使いのスマートフォンやタブレットから設定の変更やゾーン入力の切り替えなど、ゾーン操作が簡単にできます。

関連項目

- [HDMIゾーンに設置したもう1台のアンプやテレビを接続する](#)
- [スマートフォンやタブレット機器を使って操作する（SongPal）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

“ブラビアリンク”とは？

“ブラビアリンク”はHDMI機器制御（＊1）機能をソニーが独自に拡張した機能です。“ブラビアリンク”対応のテレビやブルーレイディスクレコーダーなどの機器をHDMIケーブル（＊2）（別売）でつなぐと、テレビのリモコンひとつで機器の操作ができます。

“ブラビアリンク”を活用すると、以下の機能が使えます。

- テレビの電源と同時にアンプと接続機器の電源も切る（電源オフ連動）
- アンプにつないだスピーカーからテレビの音声を楽しむ（システムオーディオコントロール）
- テレビの音声をアンプで楽しむ（eARC/ARC）
- つないだ機器のコンテンツをすぐに楽しむ（ワンタッチプレイ）
- テレビリモコンからのメニュー操作
- アンプの電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ（スタンバイスルー）
- 番組のジャンルに応じた音場（サウンドフィールド）に自動的に切り替える（オートジャンルセクター）
- 最適な音場（サウンドフィールド）を自動で選ぶ（シーンセレクト）
- オーディオ機器コントロール
- エコーキャンセリング連動

＊1 HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

＊2 18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）のご使用をおすすめします。

ご注意

- HDMI機器制御機能が搭載されたソニー製以外の機器でも電源オフ連動、システムオーディオコントロール、ワンタッチプレイ、テレビリモコンからのメニュー操作が使用できる場合がありますが、動作を保証するものではありません。

関連項目

- テレビの音声をアンプで楽しむ（eARC/ARC）
- アンプの電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ（スタンバイスルー）
- HDMI接続について

“ブラビアリンク”の準備をする

“ブラビアリンク”を使うために、HDMI機器制御機能を有効に設定します。アンプおよびつないだ機器ごとにHDMI機器制御機能を個別に有効に設定する必要があります。

- 1 ホームメニューから **【Setup】 - 【HDMI設定】** を選ぶ。
- 2 **【HDMI機器制御】** を選ぶ。
- 3 **【入】** を選ぶ。
アンプのHDMI機器制御機能が有効になります。
- 4 **HOME**を押して、ホームメニューに戻る。
- 5 もう一度**HOME**を押して、ホームメニューを閉じる。
- 6 テレビのリモコンでアンプが接続されているHDMI入力を選択して、テレビ画面にテレビの設定メニューを表示する。
アンプや、アンプに接続した機器のメニューが表示される場合は、手順8に進んでください。
- 7 **テレビのHDMI機器制御機能を有効にする。**
テレビの設定については、テレビの取扱説明書を参照してください。
- 8 **アンプに接続した機器のHDMI機器制御機能を有効にする。**
接続した機器の設定については、お使いの機器の取扱説明書を参照してください。

ご注意

- HDMIケーブルを抜いたり接続を変えたりした場合は、もう一度上記の操作を行ってください。
- この機能は、**【HDMI出力Bモード】** が **【メイン】** に設定されているときのみ働きます。

テレビの電源と同時にアンプと接続機器の電源も切る（電源オフ連動）

テレビの電源を切ると、アンプとアンプに接続された機器の電源も連動して切れます。

- ① ホームメニューから **【Setup】 - 【HDMI設定】** を選ぶ。
- ② **【電源オフ連動】** を選ぶ。
- ③ **お好みの設定を選ぶ。**
 - **自動**：アンプの入力が **【BD/DVD】**、**【GAME】**、**【SAT/CATV】**、**【VIDEO 1】**、**【VIDEO 2】**、**【TV】**、**【SA-CD/CD】** のとき、テレビの電源を切ると、アンプの電源も連動して切れます。
 - **する**：アンプの入力にかかわらず、テレビの電源を切ると、アンプの電源も連動して切れます。
 - **しない**：アンプの入力にかかわらず、テレビの電源を切っても、アンプの電源は連動しません。

ご注意

- 機器の状態によっては、接続された機器の電源が切れない場合があります。
- 電源オフ連動はソニー製以外の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

アンプにつないだスピーカーからテレビの音声を楽しむ（システムオーディオコントロール）

テレビを視聴しているときにアンプの電源を入れると、テレビの音声は自動的にアンプに接続されたスピーカーから出力されます。テレビのリモコンでアンプの音量を調節できます。

前回テレビを見たときに、音声がアンプに接続されたスピーカーから出力されていた場合は、テレビの電源を入れるとアンプの電源も自動的に入ります。

テレビのメニューからも操作できます。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

ご注意

- テレビによっては、アンプの音量の数字がテレビ画面に表示されます。テレビ画面に表示された数字は表示窓の数字と異なる場合があります。
- システムオーディオコントロールはソニー製以外の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。
- テレビの設定によっては、システムオーディオコントロールが使えない場合があります。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- [HDMI機器制御] が [入] に設定されていると、システムオーディオコントロールの設定に応じて [HDMI設定] メニューの [音声信号出力] 設定は自動的に設定されます。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

つないだ機器のコンテンツをすぐに楽しむ（ワンタッチプレイ）

アンプに接続された機器（ブルーレイディスクレコーダー、PlayStation®4 など）のコンテンツを再生すると、自動的にアンプとテレビの電源が入り、アンプの入力は再生した機器の入力に切り替わり、音声はアンプに接続したスピーカーから出力されます。

ご注意

- 「スタンバイスルー」が「自動」または「入」に設定されていて、かつ、前回テレビを見たときに、音声テレビのスピーカーから出力されていた場合は、他機器のコンテンツを再生してもアンプの電源は入らずに、テレビから音声と映像が出力されます。
- テレビによっては、再生途中のコンテンツの開始部分が正しく再生されない場合があります。
- ワンタッチプレイはソニー製以外の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

関連項目

- [アンプの電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ（スタンバイスルー）](#)

番組のジャンルに応じた音場（サウンドフィールド）に自動的に切り替える（オートジャンルセクター）

オートジャンルセクターは、視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を検出し、アンプのサウンドフィールドをその番組のジャンルに合わせて自動的に切り替え、最適なサウンド設定で番組を視聴できます。この機能は、テレビとアンプに接続された機器がオートジャンルセクターに対応している場合に使用できます。詳しくは、テレビや機器の取扱説明書を参照してください。

① ホームメニューから **[Setup] - [HDMI設定]** を選ぶ。

② **[オートジャンルセクター]** を選ぶ。

- **自動**：デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じて、サウンドフィールドが自動的に切り替わります。
- **手動**：音声設定のサウンドフィールドの設定で選んだサウンドフィールドまたは本体前面、リモコンの2CH/MULTI、MOVIE、MUSICボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

番組情報対応一覧（番組情報（EPG情報）：オートジャンルセクターで切り替わるサウンドフィールド）

- **ニュース／報道**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **スポーツ**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **情報／ワイドショー**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **ドラマ**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **ミュージック**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **バラエティ**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **映画**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **アニメ／特撮**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **ドキュメンタリー**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **劇場／公演**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **趣味／教育**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **福祉**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **その他**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **スポーツ（CS）**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **洋画（CS）**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **邦画（CS）**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）

ご注意

- 番組情報（EPG情報）に応じてサウンドフィールドが切り替わる時、音が途切れることがあります。
- オートジャンルセクターはソニー独自の機能です。ソニー製以外の機器では使えません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

最適な音場（サウンドフィールド）を自動で選ぶ（シーンセレクト）

テレビのシーンセレクトの設定に応じて、アンプの音場（サウンドフィールド）を自動的に切り替えます。
詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

シーンセレクトとアンプのサウンドフィールドは以下のように切り替わります。

- **ニュース**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **シネマ**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **スポーツ**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **ミュージック**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **アニメ**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **フォト**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **ゲーム**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **グラフィックス**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）

ご注意

- シーンセレクトはソニー独自の機能です。ソニー製以外の機器では使えません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

オーディオ機器コントロール

テレビのアプリからオーディオ機器コントロールアプリを選び、アプリを使ってアンプの設定、サウンドフィールド、入力切り替えなどができます。

この機能はテレビがオーディオ機器コントロールアプリに対応していて、テレビがインターネットに接続している場合に使えます。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

ご注意

- オーディオ機器コントロールアプリはソニー独自の機能です。ソニー製以外の機器では使えません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

テレビリモコンからのメニュー操作

テレビのリンクメニューからアンプを選択して、アンプを操作することができます。この機能はテレビがリンクメニューに対応している場合に使えます。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

ご注意

- テレビのリンクメニューで、アンプは「チューナー」としてテレビに認識されます。
- テレビによっては、一部の操作が行えないことがあります。
- テレビリモコンからのメニュー操作はソニー製以外の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

エコーキャンセリング連動

テレビを視聴しながらSkypeなどのソーシャル視聴機能をお使いになるときに、通話時のエコーを低減します。この機能はテレビがソーシャル視聴機能に対応している場合に使えます。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

ご注意

- エコーキャンセリング連動は、アンプ側で [TV] またはHDMI入力端子につないだ機器からの入力を選んでいるときに働きます。
- ソーシャル視聴機能を使ったときにアンプ側でHDMI入力端子につないだ機器からの入力を選んでいる場合は、自動的にテレビからの入力に切り替わります。ソーシャル視聴機能とテレビ番組の音声はアンプに接続されたスピーカーから出力されます。
- この機能はテレビから音声出力されているときは使えません。
- エコーキャンセリング連動はソニー独自の機能です。ソニー製以外の機器では使えません。

HDMI映像信号を出力するテレビを切り替える

〔HDMI出力Bモード〕が〔メイン〕に設定されていて、HDMIテレビOUT A端子およびHDMI OUT B/HDMI ZONE端子にテレビを2台つないでいる場合は、リモコンのHDMI OUTボタンを押して2台のテレビへの出力を切り替えることができます。

1 2台のテレビを接続し、アンプと2台のテレビの電源を入れる。

2 HDMI OUTを押す。

ボタンを押すたびに、出力が下記のように切り替わります。
HDMI A - HDMI B - HDMI A+B - HDMI OFF（出力しない）

ご注意

- HDMIテレビOUT AとHDMI OUT B/HDMI ZONE端子につないだ各テレビの対応映像フォーマットが異なる場合、〔HDMI A+B〕が働かないことがあります。
- つないでいる再生機器によっては、〔HDMI A+B〕が働かない場合があります。
- アンプにDolby Vision対応テレビを2台つないで〔HDMI A+B〕を選んだ場合、Dolby VisionコンテンツはHDR10またはSDR（スタンダードダイナミックレンジ）フォーマットで出力されます。Dolby Visionコンテンツをそのまま楽しむには、アンプにDolby Vision対応テレビを1台のみつなぐか、〔HDMI A〕または〔HDMI B〕を選んでください。
- 〔HDMI出力Bモード〕が〔ゾーン〕に設定されている場合は、〔HDMI B〕および〔HDMI A+B〕には切り替えられません。
- 〔HDMI OFF〕（出力しない）を選んでいるときも、HDMI信号はHDMIゾーンへは出力されます。

関連項目

- [HDMI OUT B端子からの出力方法を選ぶ（HDMI出力Bモード）](#)

デジタル音声とアナログ音声を切り替える（入力モード）

機器をアンプのデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、視聴するコンテンツの種類によって、音声入力をどちらかに固定したり、切り替えたりすることができます。

1 ホームメニューから **【Setup】** - **【入力設定】** を選ぶ。

2 **【入力モード】** を選ぶ。

- **自動**：デジタル音声信号が優先されます。複数のデジタル接続をしている場合は、HDMIの音声信号が優先されます。デジタル音声信号がない場合は、アナログ音声信号が選ばれます。
テレビ入力が選ばれているときは、eARCまたはARC信号が優先されます。お使いのテレビがeARCまたはARC機能に対応していない場合は、光デジタル音声信号が選ばれます。
- **光 IN**：デジタル音声信号入力を光デジタル音声IN端子に指定します。
- **同軸 IN**：デジタル音声信号入力を同軸デジタル音声IN端子に指定します。
- **アナログ IN**：アナログ音声信号入力を音声IN（L/R）端子に指定します。

ご注意

- 入力信号によっては、**【入力モード】** がテレビ画面上で暗く表示され、設定できない場合があります。

他の音声入力端子を使う（入力の割り当て）

端子の初期設定がつないでいる機器に対応していない場合は、光デジタル音声INおよび同軸デジタル音声IN端子の割り当てを他の入力に変更できます。

例：DVDプレーヤーを光デジタル音声IN端子につないでいるとき、光デジタル音声IN端子を〔BD/DVD〕に割り当てる。

- 1 ホームメニューから〔Setup〕 - 〔入力設定〕を選ぶ。
- 2 割り当てたい入力名を選ぶ。
- 3 ◀/▶をくり返し押して〔光 / 同軸〕を選ぶ。
- 4 ⬆/⬇をくり返し押して割り当てたい端子を選ぶ。

割り当て可能な音声入力端子

光 IN：

BD/DVD、GAME、SAT/CATV、VIDEO 1、VIDEO 2、SA-CD/CD

同軸 IN：

BD/DVD、GAME、SAT/CATV、VIDEO 1、VIDEO 2、SA-CD/CD（*）

未設定：

BD/DVD（*）、GAME（*）、SAT/CATV（*）、VIDEO 1（*）、VIDEO 2（*）、SA-CD/CD

* 初期設定

ご注意

- デジタル音声入力を割り当てると、入力モード設定が自動的に変わることがあります。
- 1つの入力に対して複数の入力を割り当てることはできません。
- 割り当てた端子から音声が出力されない場合は、入力モード設定も確認してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

Custom Presetについて

視聴環境に合わせて、プレーヤーやテレビなどに関わるアンプのさまざまな設定を一括して保存できます。保存したそれらの設定をワンタッチで登録し、設定した環境を簡単に呼び出すことができます。

例えば、[1: Movie] に以下のように設定を保存しておくことによって、[入力]、[サウンドフィールド]、[補正タイプ] の設定を個別に切り替えることなく、ワンタッチで一括して切り替えることができます。

- 入力： BD/DVD
- サウンドフィールド： マルチチャンネルステレオ (MULTI ST.)
- 補正タイプ： エンジニア

関連項目

- [プリセットに設定を保存する](#)

プリセットに設定を保存する

- 1 ホームメニューから [Custom Preset] を選ぶ。
- 2 [1: Movie]、[2: Music]、[3: Party]、または [4: Night] の中から設定を編集したいプリセットを選んだ状態で **OPTIONS** を押す。
- 3 オプションメニューからお好みのメニューを選ぶ。
 - **編集**：お好みに合わせて設定をカスタマイズおよび保存できます。
 - **現在設定の取込**：現在の設定を読み込み、プリセットとして保存します。[入力] および [音量] は保存されません。[現在設定の取込] を選んだ場合は、手順4と5は必要ありません。
- 4 手順3で [編集] を選んだ場合は、編集画面が表示されたら **▲/▼** と **+** を押して設定したい項目を選び、お好みに合わせて設定を変更する。
- 5 設定した項目の左にあるチェックボックスがチェックされていない場合は、**◀/▶/▼** を押してチェックボックスを選び、**+** を押してチェックを入れる。
設定が反映されます。

ご注意

- チェックボックスがチェックされていない設定項目は、プリセットを呼び出しても現在の設定内容は変更されません。設定を反映させるには、[編集] を選び、編集画面で設定項目のチェックボックスをチェックしてください。

ヒント

- リモコンの CUSTOM PRESET 1 を3秒間押し続けると、メニューで [現在設定の取込] を選んだときと同様に、現在の設定で [1: Movie] を上書きできます。
- [3: Party] を選ぶと、ゾーン2およびHDMIゾーンが自動的に起動し、メインゾーンと同じ音楽が同時に楽しめます。

関連項目

- [プリセットした設定を呼び出す](#)
- [設定を保存できる項目とその初期設定値](#)
- [各ゾーンで視聴できる入力](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

プリセットした設定を呼び出す

- 1 ホームメニューから [Custom Preset] を選ぶ。
- 2 お好みのプリセットを選ぶ。

ヒント

- リモコンのCUSTOM PRESET 1を押して、[1: Movie] に保存した設定を直接呼び出せます。

関連項目

- [設定を保存できる項目とその初期設定値](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

設定を保存できる項目とその初期設定値

以下の項目に表示されている「-」は、編集画面で各設定項目の左にあるチェックボックスがチェックされていないことを示しています。この場合は、設定値が表示されている項目であっても機能しません。

1: Movie

- 入力： BD/DVD
- チューナープリセット： -
- 音量： -
- HDMI出力： -
- ゾーン連動： -
- スリープタイマー： -
- サウンドフィールド： マルチチャンネルステレオ
- サウンド・オブティマイザー： -
- インシーリングスピーカーモード： -
- ピュアダイレクト： -
- 補正タイプ： -
- フロント低音調整： -
- フロント高音調整： -
- センター低音調整： -
- センター高音調整： -
- サラウンド低音調整： -
- サラウンド高音調整： -
- ハイト低音調整： -
- ハイト高音調整： -

2: Music

- 入力： SA-CD/CD
- チューナープリセット： -
- 音量： -
- HDMI出力： -
- ゾーン連動： -
- スリープタイマー： -
- サウンドフィールド： マルチチャンネルステレオ
- サウンド・オブティマイザー： -
- インシーリングスピーカーモード： -
- ピュアダイレクト： -
- 補正タイプ： -
- フロント低音調整： -
- フロント高音調整： -
- センター低音調整： -
- センター高音調整： -
- サラウンド低音調整： -
- サラウンド高音調整： -
- ハイト低音調整： -
- ハイト高音調整： -

3: Party

- 入力： -
- チューナープリセット： -
- 音量： 27
- HDMI出力： -

- ゾーン連動：入
- スリープタイマー：切
- サウンドフィールド：マルチチャンネルステレオ
- サウンド・オブティマイザー：切
- インシーリングスピーカーモード：－
- ピュアダイレクト：－
- 補正タイプ：－
- フロント低音調整：－
- フロント高音調整：－
- センター低音調整：－
- センター高音調整：－
- サラウンド低音調整：－
- サラウンド高音調整：－
- ハイト低音調整：－
- ハイト高音調整：－

4: Night

- 入力：－
- チューナープリセット：－
- 音量：11
- HDMI出力：－
- ゾーン連動：－
- スリープタイマー：30分
- サウンドフィールド：－
- サウンド・オブティマイザー：標準
- インシーリングスピーカーモード：－
- ピュアダイレクト：－
- 補正タイプ：－
- フロント低音調整：－
- フロント高音調整：－
- センター低音調整：－
- センター高音調整：－
- サラウンド低音調整：－
- サラウンド高音調整：－
- ハイト低音調整：－
- ハイト高音調整：－

関連項目

- [プリセットに設定を保存する](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

スリープタイマーを使う

一定の時間が経過したあとにアンプの電源が切れるよう設定できます。

1 ホームメニューから **〔Setup〕** - **〔システム設定〕** を選ぶ。

2 **〔スリープタイマー〕** を選ぶ。

3 お好みの時間を選ぶ。

- 2時間
- 1時間30分
- 1時間
- 30分
- 切

スリープタイマーを使用中は、本体前面の表示窓に **〔SLEEP〕** が点灯します。

ヒント

- 電源が切れるまでの残り時間は、システム設定画面で確認できます。また、残り時間が1分を切ると、テレビ画面の右下に残り時間が表示されます。
- 以下の操作を行うと、スリープタイマーが解除されます。
 - 手順3で **〔切〕** を選ぶ。
 - 電源を入/切する。
 - アンプのソフトウェアをアップデートする。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

スタンバイ時の消費電力を抑える

以下のとおり設定すると、スタンバイ時の消費電力を抑えられます。

- [HDMI設定] メニューの [HDMI機器制御] および [スタンバイスルー] を [切] にする。
- [通信設定] メニューの [リモート起動] および [ネットワークスタンバイ] を [切] にする。
- [Bluetooth設定] メニューの [Bluetoothスタンバイ] を [切] にする。
- [Zone Controls] メニューの [ゾーン2機能] または [HDMIゾーン機能] を [切] にする。

関連項目

- [HDMI機器を制御する（HDMI機器制御）](#)
- [アンプの電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ（スタンバイスルー）](#)
- [ネットワークで接続された機器からリモート起動する（リモート起動）](#)
- [BLUETOOTHスタンバイモードを設定する（Bluetoothスタンバイ）](#)
- [スタンバイ状態からの起動時間を短くする（ネットワークスタンバイ）](#)
- [ゾーン2に設置したスピーカーで音声を楽しむ](#)

表示窓で情報を確認する

表示窓で、音場（サウンドフィールド）などさまざまな情報を確認できます。

1 情報を確認したい入力を選ぶ。

2 本体前面のDISPLAY MODEをくり返し押す。

DISPLAY MODEを押すたびに表示窓の表示は次のとおり切り替わります。

入力のインデックス名（＊1） - 選択した入力 - 最近適用したサウンドフィールド（＊2） - 音量レベル - ストリーム情報（＊3）

FMラジオ聴取時

プリセット放送局名（＊1） - 周波数 - 最近適用したサウンドフィールド（＊2） - 音量レベル

*1 インデックス名は、入力またはプリセットした放送局に名前を付けた場合のみ表示されます。空白スペースのみが入力された場合、またはインデックス名が入力名と同じ場合は、インデックス名は表示されません。

*2 ピュアダイレクトモードを選んでいるときは、表示窓に[PURE.DIRECT]が表示されます。

*3 ストリーム情報は表示されない場合があります。

関連項目

- [表示窓上のインジケーター](#)

かんたん設定を使って初期設定を行う

アンプの電源を初めて入れたときやアンプを初期化したあとに電源を入れると、テレビ画面にかんたん設定画面が表示されます。かんたん設定画面の指示に従って、以下の機能を設定できます。

- **スピーカー設定**
お使いのスピーカー構成、配置に応じて自動音場補正を行うことができます。
- **ネットワーク設定**
ネットワークへの接続方法、およびネットワークに接続するための設定を行うことができます。

ご注意

- この機能を使うには、テレビの入力を、アンプをつないでいる入力に切り替えてください。
- [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているときは、自動音場補正は実行できません。

かんたん設定画面が表示されない、または手動でかんたん設定画面を表示させたい場合は、ホームメニューの [Setup] - [かんたん設定] から表示できます。

関連項目

- [1. 自動音場補正について](#)
- [2. 自動音場補正を実行する前に](#)
- [3. 測定用マイクをつなぐ](#)
- [4. フロントスピーカーを選ぶ](#)
- [5. 自動音場補正を行う](#)
- [6. 自動音場補正の結果を確認する](#)
- [有線LAN接続の設定をする](#)
- [無線LAN接続の設定をする](#)

1. 自動音場補正について

自動音場補正機能で以下の自動補正を行うことができます。

- 各スピーカーとアンプの接続の確認
- スピーカーレベルの調節
- 各スピーカーと視聴位置の距離の測定（＊1）
- スピーカーサイズの測定（＊1）
- 周波数特性の測定（EQ）（＊1）
- 周波数特性の測定（位相）（＊1）（＊2）

＊1 サウンドフィールドで「ダイレクト」が選ばれていて、かつアナログ入力を選ばれているときは、測定結果は使用できません。

＊2 音声フォーマットによっては、測定結果が使用できないことがあります。

ご注意

- 自動音場補正（D.C.A.C.）は視聴環境に合わせて最適な音声バランスを実現するためのものです。ただし、スピーカーのレベルは、［スピーカー設定］メニューの［テストトーン］を使ってお好みに合わせて手動で調節できます。

関連項目

- [各スピーカーからテストトーンを出力する（テストトーン）](#)

2. 自動音場補正を実行する前に

自動音場補正を実行する前に、以下の項目を実行または確認してください。

- スピーカーを配置し、接続が完了していること。
- CALIBRATION MIC端子には付属の測定用マイクのみをつなぐ。この端子には他のマイクをつながないでください。
- バイアンプ接続またはフロントBスピーカー接続を使用する場合は、スピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2)端子の割り当てを正しく設定してください。
- スピーカー出力が「SPK OFF」以外に設定されていることを確認する。
- ヘッドホンを抜く。
- 測定エラーを避けるため、測定用マイクとスピーカーの間にある障害物を取り除く。
- 測定を正確に行うために、必ず静かな場所で測定する。

ご注意

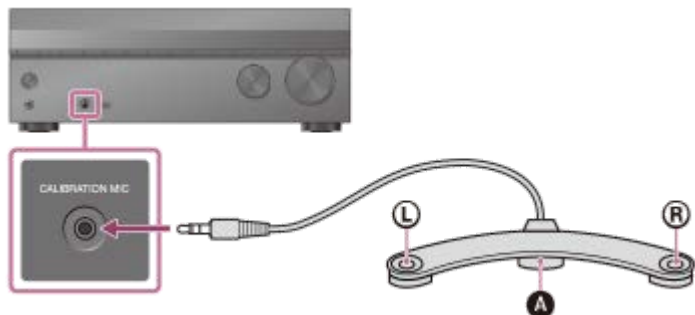
- 「Bluetoothモード」が「送信」に設定されているときは、自動音場補正は実行できません。
- 補正中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲のお子さまに充分配慮してください。
- 自動音場補正を実行する前に消音機能が作動している場合は、消音機能は自動的に解除されます。
- ダイポールスピーカーなど、特殊なスピーカーを使用している場合は、正しい測定が行えない、または自動音場補正を実行できないことがあります。

関連項目

- [アクティブサブウーファースの設定を確認する](#)
- [スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）](#)
- [サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する（サラウンドバックスピーカー割り当て）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

3. 測定用マイクをつなぐ



A 測定用マイク（付属）

1 CALIBRATION MIC端子に付属の測定用マイクをつなぐ。

2 測定用マイクを配置する。

視聴位置に測定用マイクを設置して、測定用マイクが耳の位置と同じ高さになるようにしてください。

ご注意

- 測定用マイクのプラグは、CALIBRATION MIC端子の奥までしっかり差し込んでください。測定用マイクがしっかりつながれていないと、正しく測定できないことがあります。
- 測定用マイクは、L（左）とR（右）が同じ高さになるよう水平に設置してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

4. フロントスピーカーを選ぶ

使用するフロントスピーカーを選びます。
操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

- 1 本体前面のSPEAKERSをくり返し押して、使用したいフロントスピーカーシステムを選ぶ。

SPEAKERS



どの端子が選ばれているか表示窓のインジケーターで確認できます。

- **SPA :**
スピーカーFRONT A端子につないだスピーカー
- **SPB (※) :**
スピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2)端子につないだスピーカー
- **SPA+B (※) :**
スピーカーFRONT A端子およびスピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2)端子の両方につないだスピーカー (パラレル接続)
- **(表示なし) :**
[SPK OFF] が表示窓に表示されます。どのスピーカー端子からも音声信号は出力されません。


* [SPB] または [SPA+B] を選ぶには、[スピーカー設定] メニューの [サラウンドバックスピーカー割り当て] を使ってSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2)端子の割り当てを [フロントB] に設定してください。

ご注意

- ヘッドホンを接続しているときはこの設定はできません。
- 本体前面のSPEAKERSを押すと、[Bluetoothモード] が自動的に[受信]に変更されます。

5. 自動音場補正を行う

視聴位置から自動音場補正を実行します。


- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。
- 2 【自動音場補正】を選ぶ。
- 3 【サラウンドバックスピーカー割り当てを変更する】を選び、使用するスピーカーに合わせて次の画面で設定を選ぶ。
ハイト／オーバーヘッドスピーカーを使用する場合は、【ハイトスピーカーに使う】を選んでください。
- 4 【スピーカーパターン設定へ進む】を選び、次の画面でスピーカーパターンを設定する。
【ハイト／オーバーヘッドスピーカー】を【FH】または【---】以外に設定した場合は、次の画面で【天井の高さ】を設定します。
- 5 アンプに測定用マイクが接続されていることを確認し、【マイクの接続・設置が完了したので次へ進む】を選ぶ。
- 6 画面の指示を確認し、を押して【測定開始】を選ぶ。
5秒後に測定が始まります。
測定が完了するまで約30秒かかります。その間、テストトーンが各スピーカーから順番に出力されます。
測定が終わると、ビープ音とともに画面が切り替わります。
- 7 お好みの項目を選ぶ。
 - **保存**： 測定結果を保存し、設定を終了します。
 - **リトライ**： 自動音場補正を再度実行します。
 - **キャンセル**： 測定結果を保存せずに設定を終了します。

測定結果について詳しくは、「[6. 自動音場補正の結果を確認する](#)」をご覧ください。
- 8 測定結果を保存する。
手順7で【保存】を選びます。

ご注意

- 測定が失敗したときは、メッセージの指示に従い【リトライ】を選んでください。エラーコードや警告メッセージについて詳しくは、「[自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧](#)」をご覧ください。
- PHONES端子にヘッドホンを接続しているときは、この機能は実行できません。

ヒント

- 測定中に以下の操作を行うと自動音場補正の測定がキャンセルされます。
 - （電源）を押す。

- リモコンの入力切り替え用ボタンを押す、または本体前面のINPUT SELECTORつまみを回す。
- リモコンのHOME、AMP MENU、HDMI OUTまたは \times を押す。
- 本体前面のSPEAKERSを押す。
- 音量を調節する。
- PHONES端子にヘッドホンをつなぐ。
- リモコンまたは本体前面のMUSICを押す。

6. 自動音場補正の結果を確認する

下記の手順に従って、[自動音場補正] で取得したエラーコードや警告メッセージを確認してください。

エラーコードが表示されたら

エラーを確認し、もう一度自動音場補正を実行してください。

① [リトライ] を選ぶ。

② テレビ画面の指示に従って操作し、を押して[測定開始]を選ぶ。

数秒後に測定が始まります。

測定が完了するまで約30秒かかります。その間、テストトーンが各スピーカーから順番に出力されます。測定が終わると、ビープ音が鳴り画面が切り替わります。

③ お好みの項目を選ぶ。

- **保存**：測定結果を保存し、設定を終了します。
- **リトライ**：自動音場補正を再度実行します。
- **キャンセル**：測定結果を保存せずに設定を終了します。

④ 測定結果を保存する。

手順3で[保存]を選択します。

⑤ S P Kリロケーション/ファントムS B機能の画面が表示された場合は、「**スピーカーの位置を補正する (S P Kリロケーション/ファントムS B)**」を参考にお好みの設定を選ぶ。

以下の場合この画面は表示されないため、手順6に進んでください。

- サラウンドバックスピーカーがなく、サラウンドスピーカーがあるスピーカーパターンに設定されていて、[サラウンドスピーカー配置]が[フロント]に設定されている。
- [インシーリングスピーカーモード]が[フロント&センター]または[フロント]に設定されている。

⑥ 「**自動音場補正の補正タイプを選ぶ (補正タイプ)**」を参考にお好みの補正タイプを選ぶ。

⑦ 画面に「**キャリブレーション・マッチング機能を有効にしますか?**」と表示されるので、[はい]または[いいえ]を選ぶ。

- **はい**：視聴位置のスイートスポットを広げ、各スピーカーの左右で音の波面を整えることにより、より自然な音を楽しむことができます。
- **いいえ**：自動音場補正機能の測定結果をそのまま適用します。

⑧ [終了] を選ぶ。

警告メッセージが表示されたら

警告メッセージを確認して、[OK]を選びます。警告メッセージについて詳しくは、「[自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧](#)」をご覧ください。

ヒント

- アクティブサブウーファーの位置によって測定結果が異なる場合がありますが、測定結果の値のままで使用できます。

関連項目

- [自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧](#)

4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

スピーカーの位相特性を補正する（自動位相マッチング）

D.C.A.C. EX（デジタルシネマ自動音場補正）機能のA.P.M.（自動位相マッチング）機能を設定できます。スピーカーの位相特性を補正し、つながりのよいサラウンド空間を実現します。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。
- 2 【自動位相マッチング】を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - **自動**：自動位相マッチングの入／切が自動的に切り替わります。
 - **切**

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - － PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
 - － 【自動音場補正】を行っていない場合
 - － 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
 - － 【DSDネイティブ再生】が【入】に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
 - － 【ピュアダイレクト】が【入】に設定されているとき
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

自動音場補正の補正タイプを選ぶ（補正タイプ）

自動音場補正を実行し、設定を保存すると、補正タイプを選べます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。
- 2 【補正タイプ】を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - **フルフラット**：各スピーカーの周波数特性を平らにします。
 - **エンジニア**：「ソニー基準のリスニングルーム」の周波数特性にします。
 - **フロントリファレンス**：すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。
 - 切

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - － PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
 - － 【自動音場補正】を行っていない場合
 - － 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
 - － 【DSDネイティブ再生】が【入】に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
 - － 【ピュアダイレクト】が【入】に設定されているとき
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

各スピーカーからテストトーンを出力する（テストトーン）


各スピーカーから順にテストトーンを出力できます。

- 1 ホームメニューから **【Setup】 - 【スピーカー設定】** を選ぶ。
- 2 **【テストトーン】** を選ぶ。
- 3 **お好みの設定を選ぶ。**
 - **Off**
 - **Auto** : テストトーンが各スピーカーから順番に出力されます。
 - **Front L、Center、Front R、Surround R、Surround L、Sur Back L、Sur Back（*）、Sur Back R、Height L、Height R、Subwoofer** : テストトーンを出力するスピーカーを選べます。
 - * **【Sur Back】** は、サラウンドバックスピーカーを1つだけ接続しているときに表示されます。
- 4 **スピーカーレベルを調節する。**

ご注意

- **【Bluetoothモード】** が **【送信】** に設定されているときは、この機能は働きません。

ヒント

- すべてのスピーカーの音量を同時に調節するには、 +/-を押してください。本体前面のMASTER VOLUMEつまみでも操作できます。
- 調節中は、テレビ画面に調節した値が表示されます。

隣り合ったスピーカーからテストトーンを出力するには

「[テストトーンを出力して隣り合ったスピーカーのバランスを調節する（P.NOISE）](#)」をご覧ください。

隣り合ったスピーカーから音声を出力するには

「[音声を出力してスピーカーのバランスを調節する（P.AUDIO）](#)」をご覧ください。

関連項目

- [テストトーンを出力して隣り合ったスピーカーのバランスを調節する（P.NOISE）](#)
- [音声を出力してスピーカーのバランスを調節する（P.AUDIO）](#)

スピーカーレベルを調節する（レベル）

各スピーカー（フロント左／右、ハイト左／右、センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右、アクティブサブウーファー）のレベルを調節できます。

1 ホームメニューから **【Setup】 - 【スピーカー設定】** を選ぶ。

2 **【レベル】** を選ぶ。

3 スピーカーレベルを調節したいスピーカーを以下から選ぶ。

Front L、Center、Front R、Surround R、Surround L、Sur Back L、Sur Back（*）、Sur Back R、Height L、Height R、Subwoofer

* 【Sur Back】は、サラウンドバックスピーカーを1つだけ接続しているときに表示されます。

4 レベルを調節する。

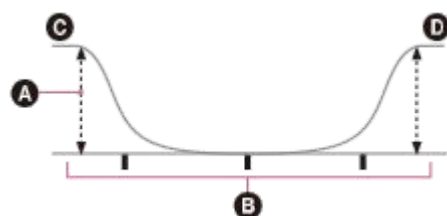
ご注意

- 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているときは、【レベル】を設定することはできません。
- PHONES端子にヘッドホンをつないでいるときは、フロント左とフロント右のレベル以外は調節できません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

イコライザーを調節する（イコライザ設定）

以下のパラメーターを使って、フロント、センター、サラウンド／サラウンドバック、ハイトスピーカーの音質（低域／高域のレベル）を調節できます。



- A** レベル (dB)
- B** 周波数 (Hz)
- C** 低域
- D** 高域

- 1 ホームメニューから **[Setup]** - **[スピーカー設定]** を選ぶ。
- 2 **[イコライザ設定]** を選ぶ。
- 3 **[Front]**、**[Center]**、**[Surround]** または **[Height]** を選ぶ。
- 4 **[低音]** または **[高音]** を選ぶ。
- 5 ゲインを調節する。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - － **[ピュアダイレクト]** が **[入]** に設定されているとき
 - － **[Bluetoothモード]** が **[送信]** に設定されているとき
 - － **[DSDネイティブ再生]** が **[入]** に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
- **[低音]** および **[高音]** の周波数は固定です。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。
- PHONES端子にヘッドホンを接続しているときは、**[Front]** の **[低音]** と **[高音]** ゲインのみ調節できます。

ヒント

- ホームメニューの **[Sound Effects]** から **[イコライザ設定]** を選ぶこともできます。また、AMP MENUを押して表示窓の **[<EQ>]** メニューからイコライザーを調節することもできます。

スピーカーの距離を調節する（距離）

視聴位置から各スピーカー（フロント左／右、ハイト左／右、センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右、アクティブサブウーファー）までの距離を調節できます。

1 ホームメニューから【Setup】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。

2 【距離】を選ぶ。

3 視聴位置からの距離を調節したいスピーカーを以下から選ぶ。

Front L、Center、Front R、Surround R、Surround L、Sur Back L、Sur Back（*）、Sur Back R、Height L、Height R、Subwoofer

* 【Sur Back】は、サラウンドバックスピーカーを1つだけ接続しているときに表示されます。

4 距離を調節する。

ご注意

- スピーカーパターンの設定によっては、調節できないパラメーターがあります。
- 以下の場合、【距離】を設定することはできません。
 - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
 - 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき

スピーカーのサイズを調節する（サイズ）

各スピーカー（フロント左／右、ハイト左／右、センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右）のサイズを調節できます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。
- 2 【サイズ】を選ぶ。
- 3 サイズを調節したいスピーカーを以下から選ぶ。
Front、Center、Surround、Height
- 4 お好みのサイズを選ぶ。
 - **大**：低音を効果的に再生する大きなスピーカーをつなぐ場合は、【大】を選びます。通常は【大】を選びます。
 - **小**：マルチチャンネルサラウンド音声を出力している場合に、音声が歪んだり、サラウンド効果が不十分に感じられるときは、【小】を選びます。低音リダイレクト回路を有効にし、各チャンネルの低音をアクティブサブウーファーまたは【大】に設定した他のスピーカーから出力します。

ご注意

- 以下の場合、【サイズ】を設定することはできません。
 - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
 - 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
 - 【スピーカーパターン】が【2.0】に設定されているとき

ヒント

- サラウンドバックスピーカーはサラウンドスピーカーと同じ設定になります。
- フロントスピーカーの設定を【小】にすると、センター、サラウンド、サラウンドバック、ハイトスピーカーも自動的に【小】に設定されます。
- アクティブサブウーファーを使用しない場合は、フロントスピーカーは自動的に【大】に設定されます。

スピーカーのクロスオーバー周波数を設定する（クロスオーバー周波数）

［スピーカー設定］メニューの［サイズ］が［小］に設定されているスピーカーの、低音域のクロスオーバー周波数を設定できます。自動音場補正のあとに、測定されたスピーカーのクロスオーバー周波数が、各スピーカーに設定されます。

- 1 ホームメニューから［Setup］ - ［スピーカー設定］を選ぶ。
- 2 ［クロスオーバー周波数］を選ぶ。
- 3 クロスオーバー周波数を調節したいスピーカーを画面上で選ぶ。
- 4 ▲/▼を押してクロスオーバー周波数を設定する。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - － PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
 - － ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき
 - － どのスピーカーの［サイズ］も［小］に設定されていないとき
- サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する（サラウンドバックスピーカー割り当て）

スピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2)端子への割り当てを設定できます。

① ホームメニューから【Setup】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。

② 【サラウンドバックスピーカー割り当て】を選ぶ。

③ お好みの設定を選ぶ。

- **サラウンドバック**：以下のいずれの接続も使用していないとき。
- **フロントB**：フロントBスピーカーをつないで使うとき。
- **バイアンプ**：バイアンプ接続を使うとき。
- **ゾーン2**：ゾーン2に設置したスピーカーをつないで使うとき。

ご注意

- 以下の場合のみ【サラウンドバックスピーカー割り当て】を設定することができます。
 - サラウンドバックスピーカー、ハイト/オーバーヘッドスピーカーを含まないスピーカーパターンに設定されているとき
 - PHONES端子にヘッドホンをつないでいないとき
 - 【Bluetoothモード】が【送信】以外に設定されているとき

関連項目

- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（バイアンプ接続を使う場合）](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントBスピーカーをつなぐ場合）](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（ゾーン2にもスピーカーを設置する場合）](#)
- [スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）](#)
- [4. フロントスピーカーを選ぶ](#)

スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）

スピーカーの設置に合わせてスピーカーパターンを選べます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。
- 2 【スピーカーパターン】を選ぶ。
- 3 テレビ画面に表示されるスピーカー設置例を参考に、【リスナーレベルスピーカー】でお使いのスピーカー構成に合わせてスピーカーパターンを選ぶ。
- 4 テレビ画面に表示されるスピーカー設置例を参考に、【ハイト／オーバーヘッドスピーカー】でお使いのスピーカー構成に合わせてハイト／オーバーヘッドスピーカーを選ぶ。
- 5 【保存】を選ぶ。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
 - 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
- サラウンドバックスピーカーを使うスピーカーパターンを選んだ場合は、【ハイト／オーバーヘッドスピーカー】は設定できません。

関連項目

- [スピーカー配置とスピーカーパターンの設定について](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

スピーカーの位置とそれに対応したスピーカー接続先端子を確認する（スピーカー接続ガイド）

選んだスピーカーの位置、およびそのスピーカーの接続先となる本体後面のスピーカー端子をお知らせする機能です。

1 ホームメニューから【Setup】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。

2 【スピーカー接続ガイド】を選ぶ。

メッセージが表示されます。

3 【続行】を選ぶ。

4 一覧からスピーカーを選ぶ。

スピーカーの位置、およびそのスピーカーの接続先となる本体後面のスピーカー端子が画面に表示されます。

ご注意

- スピーカーケーブルなどを接続するときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

センタースピーカーの音を持ち上げる（センタースピーカーリフトアップ）

フロントハイスピーカーを使って、センタースピーカーの音を画面内の適切な高さまで持ち上げることができます。これによって、違和感のない自然な表現を楽しめます。

1 ホームメニューから【Setup】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。

2 【センタースピーカーリフトアップ】を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- 1 - 10
- 切

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
 - センタースピーカーがないとき
 - 【スピーカーパターン】の設定で【ハイト/オーバーヘッドスピーカー】を【FH】（フロントハイスピーカー）以外に設定しているとき
 - 【2chステレオ】または【マルチチャンネルステレオ】が使われているとき
 - 音楽用の音場（サウンドフィールド）が使われているとき
 - 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
 - 【インシーリングスピーカーモード】が【フロント&センター】または【フロント】に設定されているとき
 - 【DSDネイティブ再生】が【入】に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき

適切なサラウンドスピーカーの角度に設定する（サラウンドスピーカー配置）

S P Kリロケーション／ファントムS B機能を正しく機能させるために、適切なサラウンドスピーカーの位置を選びます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。
- 2 【サラウンドスピーカー配置】を選ぶ。
- 3 サラウンドスピーカーの配置角度に応じて設定を選ぶ。
 - **フロント**：サラウンドスピーカーの配置角度が90°以下（視聴位置より前方）の場合
 - **バック**：サラウンドスピーカーの配置角度が90°以上（視聴位置より後方）の場合

ご注意

- サラウンドスピーカーを使わないスピーカーパターンに設定した場合、この機能は働きません。

関連項目

- [スピーカーの位置を補正する（S P Kリロケーション／ファントムS B）](#)

スピーカーの位置を補正する（SPKリロケーション／ファントムSB）

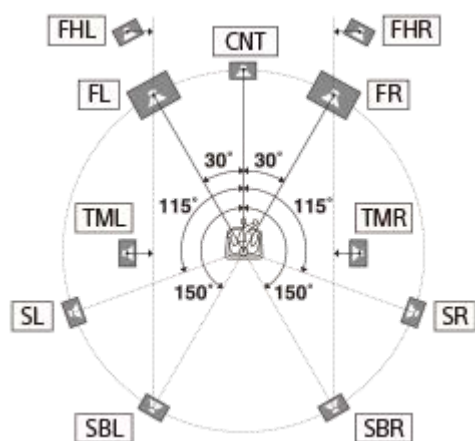
自動音場補正（D.C.A.C. EX）の測定結果をもとにスピーカーの位置（測定位置からの各スピーカー配置角度）を補正し、理想的なスピーカー配置によって得られるサラウンド効果に近づけることができます。またこれにより、例えば5.1.2チャンネルスピーカーシステムでも、聴感上最大で7.1.2チャンネルスピーカーシステム相当のサラウンド効果を楽しめます。

① ホームメニューから【Setup】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。

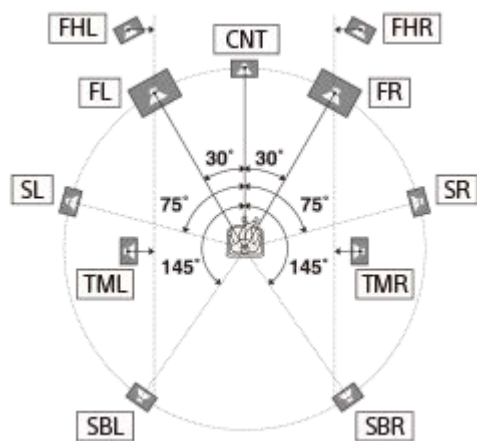
② 【SPKリロケーション／ファントムSB】を選ぶ。

③ お好みの設定を選ぶ。

- **タイプA**：各スピーカーの距離と角度を補正して、理想的に配置されたサラウンドシステムの音場を再現します。サラウンドスピーカーが設置されているときは、背後にサラウンドバックスピーカーを配置したような効果を生み出します。
フロントハイスピーカーやトップミドルスピーカーなどハイトスピーカーが設置されているときは、ハイトスピーカーをフロントスピーカーの左右の位置と同一線上に配置したような効果を生み出します。



- **タイプB**：各スピーカーの距離と角度を補正して、理想的に配置されたサラウンドシステムの音場を再現します。さらに、サラウンドスピーカーが設置されているときは、サラウンドスピーカー4個をほぼ均等の角度に配置したような効果を生み出します。
フロントハイスピーカーやトップミドルスピーカーなどハイトスピーカーが設置されているときは、ハイトスピーカーをフロントスピーカーの左右の位置と同一線上に配置したような効果を生み出します。



- **切** : スピーカーの位置を補正しません。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - － [ダイレクト] が使われていてアナログ入力選ばれているとき
 - － サラウンドバックスピーカーを使わないスピーカーパターンで、[サラウンドスピーカー配置] が [フロント] に設定されているとき
 - － [インシーリングスピーカーモード] が [フロント&センター] または [フロント] に設定されているとき
 - － [DSDネイティブ再生] が [入] に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
- [SPKリロケーション/ファントムSB] の設定を行う場合は、事前に自動音場補正を行ってください。

関連項目

- [5. 自動音場補正を行う](#)
- [適切なサラウンドスピーカーの角度に設定する \(サラウンドスピーカー配置\)](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

天井の高さを設定する（天井の高さ）

床から天井までの高さを設定します。この機能の設定と自動音場補正を行うことにより、［インシーリングスピーカーモード］機能およびドルビーアトモスインネーブルドスピーカーをより効果的に使用できます。

- 1 ホームメニューから［Setup］ - ［スピーカー設定］を選ぶ。
- 2 ［天井の高さ］を選ぶ。
- 3 高さを調節する。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
 - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

距離の測定単位を選ぶ（距離単位）

距離を設定する際の単位を選ぶことができます。

1 ホームメニューから **〔Setup〕** - **〔スピーカー設定〕** を選ぶ。

2 **〔距離単位〕** を選ぶ。

3 **お好みの設定を選ぶ。**

- **メートル**：距離はメートル単位で表示されます。
- **フィート**：距離はフィート単位で表示されます。

音声信号を高音質で再生する（デジタル・レガート・リニア）

デジタル・レガート・リニア（D.L.L.）機能は、低音質のデジタル音声信号やアナログ音声信号を高音質で再生可能にするソニー独自の技術です。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【音声設定】を選ぶ。
- 2 【デジタル・レガート・リニア】を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - 切
 - 自動 1：非可逆圧縮された音声フォーマットとアナログ音声信号に対して機能します。
 - 自動 2：リニアPCM信号に対しても、非可逆圧縮された音声フォーマットとアナログ音声信号と同様に機能します。

ご注意

- USB機器のコンテンツ、ホームネットワーク経由のコンテンツ、インターネットラジオや音楽のストリーミングサービスのコンテンツでは機能しないことがあります。
- この機能は【2chステレオ】、【マルチチャンネルステレオ】または【ダイレクト】が選ばれているときに働きます。ただし、以下の場合は働きません。
 - － 【インシーリングスピーカーモード】が【フロント&センター】または【フロント】に設定されているとき
 - － 【FM TUNER】が入力として選ばれているとき
 - － サンプル周波数が44.1 kHz 以外のリニアPCM信号を受信しているとき
 - － 以下の信号を受信しているとき
 - － ドルビーデジタルプラス
 - － ドルビーTrueHD
 - － ドルビーアトモス
 - － DTS 96/24
 - － DTS-ES Matrix 6.1
 - － DTS-HD Master Audio
 - － DTS-HD High Resolution Audio
 - － DTS:X
 - － 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
 - － 【DSDネイティブ再生】が【入】に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
 - － 【ダイレクト】が使われていてアナログ入力を選ばれているとき

低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しむ（サウンド・オブティマイザー）

サウンド・オブティマイザーを使うと、低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しめます。自動音場補正を実行したあとに、環境に合った音量レベルに調節されます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【音声設定】を選ぶ。
- 2 【サウンド・オブティマイザー】を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - **標準**：映画のレベルを基準に調節する場合に選びます。
 - **弱**：CDなど平均音圧が高めに加工されたソフト用に調節する場合に選びます。
 - **切**

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - － 【ピュアダイレクト】が【入】に設定されているとき
 - － PHONES端子にヘッドホンを接続しているとき
 - － 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
 - － 【DSDネイティブ再生】が【入】に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
 - － 【ダイレクト】が使われていてアナログ入力選ばれているとき
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

ヒント

- ホームメニューの【Sound Effects】から【サウンド・オブティマイザー】を選ぶこともできます。

音場を選ぶ（サウンドフィールド）

スピーカー接続や入力音源に合わせて、さまざまな音場（サウンドフィールド）のモードを選べます。

1 ホームメニューから【Sound Effects】 - 【サウンドフィールド】を選ぶ。

2 お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

映画を見るときは、【Movie】表示のあるサウンドフィールドをおすすめします。
音楽を聞くとときは、【Music】表示のあるサウンドフィールドをおすすめします。

ご注意

- 以下の場合、サウンドフィールドは選べません。
 - 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
 - ワイヤレスマルチルーム機能を使用しているとき
- PHONES端子にヘッドホンをつなぐと、自動的に【ヘッドホン(2ch)】に切り替わります。
- 入力やスピーカーパターンの設定、または音声フォーマットによっては、映画用および音楽用のサウンドフィールドが機能しない場合があります。
- Chromecast built-inを使って音楽を再生しているときは、リモコンまたは本体前面の2CH/MULTIボタンでのみ【マルチチャンネルステレオ】または【2chステレオ】を選べます。他のサウンドフィールドは選べません。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。
- サウンドフィールドの設定によっては、一部のスピーカーやアクティブサブウーファーから音が出力されないことがあります。

ヒント

- リモコンの2CH/MULTI、MOVIE、MUSICまたはFRONT SURROUNDボタンでサウンドフィールドを選ぶこともできます。ただし、【USB】、【Bluetooth】、【Home Network】、【Music Service List】（Spotify Connectでの音楽再生時）以外の入力選ばれている場合、MUSICを押しても【オーディオエンハンサー】は選べません。
- 【音声設定】メニューから【サウンドフィールド】を選ぶこともできます。

関連項目

- [選べるサウンドフィールドとその効果](#)
- [音場（サウンドフィールド）を初期設定状態に戻す](#)

天井スピーカーからの音をより自然な表現で楽しむ（インシーリングスピーカーモード）

現在の入力でインシーリングスピーカーモードを使うかどうかを設定します。

フロントスピーカーやセンタースピーカーが天井に設置されている環境の場合、音声出力位置を、画面の位置まで下げることによって、より自然な音声表現を楽しむことができます。

1 ホームメニューから【Setup】 - 【音声設定】を選ぶ。

2 【インシーリングスピーカーモード】を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- **フロント&センター**：天井に設置されたフロントスピーカーとセンタースピーカー両方の音声出力位置を画面の位置まで下げます。
- **フロント**：天井に設置されたフロントスピーカーの音声出力位置を画面の位置まで下げます。
- **切**：この機能は働きません。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - － PHONES端子にヘッドホンを接続しているとき
 - － 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
 - － 【ピュアダイレクト】が【入】に設定されているとき
 - － ワイヤレスマルチルーム機能を使用しているとき
 - － 【DSDネイティブ再生】が【入】に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
- 以下以外のサウンドフィールドを選んでいる場合、この機能は働きません。
 - － 2chステレオ
 - － マルチチャンネルステレオ
- 【ダイレクト】が使われていてアナログ入力選ばれている場合、この機能は働きません。
- 音声フォーマットによっては、この機能は働かない場合があります。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

ヒント

- ホームメニューの【Sound Effects】から【インシーリングスピーカーモード】を選ぶこともできます。
- お聞きの環境で最適な音声を得るために、【スピーカー設定】メニューの【天井の高さ】を設定して、自動音場補正を実行してください。

DSDネイティブ再生をする（DSDネイティブ再生）

PCM信号への変換を一切行わずにDSD（Direct Stream Digital）信号を直接処理し、DSD信号本来の音質を引き出すことができます。

1 ホームメニューから【Setup】 - 【音声設定】を選ぶ。

2 【DSDネイティブ再生】を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- 入：DSD信号に対してこの機能が適用されます。
- 切：DSD信号をPCM信号に変換して再生します。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - － 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
 - － ワイヤレスマルチルーム機能を使用しているとき
- 【DSDネイティブ再生】を【入】に設定してDSDフォーマットの信号を再生しているときは、【イコライザ設定】および【サブウーファーローパスフィルター】や【サウンド・オブティマイザー】などの設定は無効となり、サウンドフィールドも働きません。

ヒント

- この機能はリモコンのDSD NATIVEでも【入】に設定できます。

原音に忠実な音を楽しむ（ピュアダイレクト）

ピュアダイレクトモードにより、すべての入力で原音により忠実な音を楽しめます。ピュアダイレクトモードがオンのときは、音質に影響を及ぼすノイズを抑えるために、表示窓は消灯します。

- 1 ホームメニューから **【Sound Effects】** - **【ピュアダイレクト】** を選ぶ。
- 2 **【入】** を選ぶ。

ピュアダイレクトを解除するには

以下の操作を行うとピュアダイレクトモードが解除されます。

- 手順2で **【切】** を選ぶ。
- 本体前面のPURE DIRECTを押す。
- 音場（サウンドフィールド）を変える。
- テレビのシーン設定を変える（シーンセレクト）。
- **【スピーカー設定】** メニューの **【自動位相マッチング】**、**【補正タイプ】** または **【イコライザ設定】** の設定を変える。
- **【音声設定】** メニューの **【サウンド・オブティマイザー】**、**【インシーリングスピーカーモード】** または **【ダイナミックレンジ調整】** の設定を変える。

ご注意

- ピュアダイレクトモードが選ばれているときは、**【自動位相マッチング】**、**【補正タイプ】**、**【イコライザ設定】**、**【サウンド・オブティマイザー】**、**【インシーリングスピーカーモード】** および **【ダイナミックレンジ調整】** は働きません。

ヒント

- 本体前面のPURE DIRECTボタンでも、ピュアダイレクトモードの入／切を切り替えることができます。
- ホームメニューの **【Setup】** - **【音声設定】** から **【ピュアダイレクト】** を選ぶこともできます。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

アクティブサブウーファー出力のローパスフィルターを設定する（サブウーファーローパスフィルター）

アクティブサブウーファー出力のローパスフィルターを設定します。この機能は、音声入力端子がある入力ごとに独立して設定できます。お持ちのアクティブサブウーファーにクロスオーバー周波数調整機能がない場合に [入] に設定してください。

- 1 ホームメニューから [Setup] - [音声設定] を選ぶ。
- 2 [サブウーファーローパスフィルター] を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - 入：常にカットオフ周波数120 Hzのローパスフィルターが働きます。
 - 切：ローパスフィルターは働きません。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - － [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているとき
 - － [DSDネイティブ再生] が [入] に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

音声と映像出力を同期させる（AVシンク）

音声出力を遅らせて、音声と映像のずれを最小限に調節できます。
大画面の液晶ディスプレイやプラズマモニター、またはプロジェクターをお使いの場合に便利な機能です。この機能は、入力ごとに独立して設定できます。

- 1 ホームメニューから **【Setup】** - **【音声設定】** を選ぶ。
- 2 **【AVシンク】** を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - **0 ms - 300 ms**：遅れを0 ms ～ 300 msの範囲で10 ms単位で調節できます。
 - **HDMIオート**：HDMI接続でテレビをつないでいるときは、映像と音声のずれを自動的に調節します。テレビがAVシンク機能に対応している場合のみ機能します。

ご注意

- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。
- 以下の場合、この機能は働きません。
 - － **【Bluetoothモード】** が **【送信】** に設定されているとき
 - － **【DSDネイティブ再生】** が **【入】** に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき

ヒント

- **【AVシンク】** は、**OPTIONS**を押してオプションメニューから **【A/V Sync】** を選んでも設定できます。ただし、テレビの視聴中はオプションメニューが表示できません。その場合は、表示窓の **【<AUDIO>】**（音声設定） - **【A/V SYNC】** から設定してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

デジタル放送の音声を選択する（二重音声）

デジタル放送で二重音声が見聴可能な場合に、お好みの音声を選べます。この機能は、MPEG-2 AAC音源とドルビーデジタル音源でのみ働きます。

1 ホームメニューから【Setup】 - 【音声設定】を選ぶ。

2 【二重音声】を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- **主**：主音声が出力されます。
- **副**：副音声が出力されます。
- **主/副**：フロントスピーカー（左）から主音声、フロントスピーカー（右）から副音声と同時に出力されます。

ダイナミックレンジを圧縮する（ダイナミックレンジ調整）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に低音量で映画を見たいときなどに便利です。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【音声設定】を選ぶ。
- 2 【ダイナミックレンジ調整】を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - **自動**：この機能の使用を推奨する付加情報が音源にある場合に、ダイナミックレンジが自動的に圧縮されます。
 - **入**：レコーディングエンジニアが意図したとおりにダイナミックレンジが圧縮されます。
 - **切**

ご注意

- 現在この機能の使用を推奨する付加情報があるのは、ドルビーTrueHD（Dolby TrueHD）の音源のみです。

DTSDecoderのモードを切り替える（Neural:X）

DTSDecoderを「ダイレクトモード」（Neural:X 切）または「非ダイレクトモード」（Neural:X 入）に切り替えられます。

「ダイレクトモード」（Neural:X 切）では、コンテンツ制作者の意図に可能な限り忠実に音声を復元、再生します。
「非ダイレクトモード」（Neural:X 入）では、音源の配置に関わらず再生システムのスピーカーレイアウトに可能な限り合わせて音声を復元します。この機能はDTSストリームが入力されているときのみ働きます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【音声設定】を選ぶ。
- 2 【Neural:X】を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - 入：DTSDecoderが「非ダイレクトモード」に切り替わります。
 - 切：DTSDecoderが「ダイレクトモード」に切り替わります。

ご注意

- サウンドフィールドで【Neural:X】が選ばれているときは、この機能は【切】に設定できません。
- 以下の場合、この機能は【入】に設定できません。
 - － 【2chステレオ】、【ダイレクト】、【Dolby Surround】または【フロントサラウンド】が選ばれているとき
 - － 【ピュアダイレクト】が【入】に設定されているとき
 - － PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
 - － 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

映像信号を4Kにアップスケールする（4Kアップスケール）

映像信号を4Kにアップスケールし、HDMI OUT端子から出力できます。

- 1 ホームメニューから **〔Setup〕** - **〔HDMI設定〕** を選ぶ。
- 2 **〔4Kアップスケール〕** を選ぶ。
- 3 **お好みの設定を選ぶ。**
 - **自動**：4K対応のテレビをつないでいる場合は、自動的に4K HDMI出力にアップスケールします。
 - **切**

ご注意

- この機能は、HDMI IN端子から映像信号が受信されているときのみ働きます。HDMI映像入力信号は1080p/24 Hz 2Dである必要があります。
- HDMI OUT B/HDMI ZONE端子は **〔4Kアップスケール〕** に対応していません。映像信号は入力時と同じ解像度で出力されます。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

HDMI機器を制御する（HDMI機器制御）

HDMI機器制御機能を入／切できます。詳しくは「[“ブラビアリンク”の準備をする](#)」をご覧ください。

- 1 ホームメニューから **【Setup】 - 【HDMI設定】** を選ぶ。
- 2 **【HDMI機器制御】** を選ぶ。
- 3 **【入】** または **【切】** を選ぶ。

ご注意

- **【HDMI機器制御】** を **【入】** に設定すると、**【音声信号出力】** が自動的に変わることがあります。
- スタンバイ状態で、**【HDMI機器制御】** が **【入】** に設定されている場合は、本体前面の電源表示ランプがオレンジ色に点灯します。
- この機能は、**【HDMI出力Bモード】** が **【メイン】** に設定されているときのみ働きます。

関連項目

- [“ブラビアリンク”の準備をする](#)
- [電源表示ランプ](#)

テレビの電源と同時にアンプと接続機器の電源も切る（電源オフ連動）

テレビの電源を切ると、アンプとアンプに接続された機器の電源も連動して切れます。

- 1 ホームメニューから **【Setup】 - 【HDMI設定】** を選ぶ。
- 2 **【電源オフ連動】** を選ぶ。
- 3 **お好みの設定を選ぶ。**
 - **自動**：アンプの入力が **【BD/DVD】**、**【GAME】**、**【SAT/CATV】**、**【VIDEO 1】**、**【VIDEO 2】**、**【TV】**、**【SA-CD/CD】** のとき、テレビの電源を切ると、アンプの電源も連動して切れます。
 - **する**：アンプの入力にかかわらず、テレビの電源を切ると、アンプの電源も連動して切れます。
 - **しない**：アンプの入力にかかわらず、テレビの電源を切っても、アンプの電源は連動しません。

ご注意

- 機器の状態によっては、接続された機器の電源が切れない場合があります。
- 電源オフ連動はソニー製以外の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

eARC機能を使うための準備をする

1 アンプのHDMIテレビOUT A端子の表示が「ARC」の場合、ソフトウェアアップデートを行う。

ソフトウェアアップデートの手順は、「[ソフトウェアをアップデートする（ソフトウェアアップデート）](#)」をご覧ください。HDMIテレビOUT A端子の表示が「eARC/ARC」の場合は、ソフトウェアはeARC機能に対応しています。

2 ホームメニューから【Setup】 - 【HDMI設定】を選ぶ。

3 【eARC】を選ぶ。

4 【入】を選ぶ。

eARC機能が有効になります。eARC対応のテレビにつないでいるときは、eARC機能が働きます。ARC機能対応（eARC機能非対応）のテレビにつないでいるときは、ARC機能が働きます。

ご注意

- 手順3で【eARC】が表示されない場合は、ソフトウェアアップデートを行ってください。詳しくは、「[ソフトウェアをアップデートする（ソフトウェアアップデート）](#)」をご覧ください。
- お使いのテレビによっては、eARCの設定項目が用意されている場合があります。アンプ側で【eARC】を【入】に設定したときは、テレビ側の設定も確認してください。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

関連項目

- [テレビの音声をアンプで楽しむ（eARC/ARC）](#)
- [再生できるデジタル音声フォーマット](#)

アンプの電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ（スタンバイスルー）

アンプの電源を入れなくても接続機器の音声と映像を楽しめるようにする機能です。

1 ホームメニューから **【Setup】 - 【HDMI設定】** を選ぶ。

2 **【スタンバイスルー】** を選ぶ。

3 **お好みの設定を選ぶ。**

- **自動**：スタンバイ状態のときにテレビの電源を入れると、HDMI OUT端子からHDMI信号を出力します。“ブラビアリンク”対応のソニー製テレビをお使いの場合、この設定をおすすめします。この設定にすると、**【入】**に設定したときよりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えられます。
- **入**：スタンバイ状態でも、HDMI OUT端子から常にHDMI信号が出力されます。ソニー製以外のテレビをお使いの場合、この設定をおすすめします。
- **切**：スタンバイ状態時にはHDMI信号を出力しません。この設定にすると、**【入】**設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えられます。

ご注意

- スタンバイ状態で、**【スタンバイスルー】**が**【入】**または**【自動】**に設定されている場合は、本体前面の電源表示ランプがオレンジ色に点灯します。
- **【自動】**設定時は、**【入】**に設定した場合よりも、映像と音声テレビに出力されるまでに時間がかかることがあります。
- この機能は、HDMI OUT B/HDMI ZONE端子には働きません。
- **【自動】**はソニー製以外の機器でも働くことがありますが、動作を保証するものではありません。

関連項目

- [電源表示ランプ](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

接続機器のHDMI音声信号出力を設定する（音声信号出力）

HDMI接続した再生機器からのHDMI音声信号を設定できます。

- 1 ホームメニューから **[Setup] - [HDMI設定]** を選ぶ。
- 2 **[音声信号出力]** を選ぶ。
- 3 **お好みの設定を選ぶ。**
 - **アンプ**：再生機器からのHDMI音声信号を、アンプにつないだスピーカーにのみ出力します。マルチチャンネルの音声をそのまま再生できます。
 - **テレビ + アンプ**：再生機器からのHDMI音声信号を、アンプにつないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から出力します。

ご注意

- [アンプ] に設定されている場合、音声信号はテレビのスピーカーからは出力されません。
- [テレビ + アンプ] に設定されている場合、再生機器の音質はチャンネル数、サンプリング周波数など、テレビ側の音質に依存します。テレビがステレオ音声にしか対応していない場合、マルチチャンネル音源の再生時でも、アンプからもテレビと同じステレオ音声出力されます。
- アンプにプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、アンプにつないだスピーカーから音が出力されない場合があります。この場合は、[アンプ] に設定してください。
- [テレビ + アンプ] に設定しても、HDMI IN端子以外からの音声信号はテレビのスピーカーから出力することはできません。

番組のジャンルに応じた音場（サウンドフィールド）に自動的に切り替える（オートジャンルセクター）

オートジャンルセクターは、視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を検出し、アンプのサウンドフィールドをその番組のジャンルに合わせて自動的に切り替え、最適なサウンド設定で番組を視聴できます。この機能は、テレビとアンプに接続された機器がオートジャンルセクターに対応している場合に使用できます。詳しくは、テレビや機器の取扱説明書を参照してください。

① ホームメニューから **[Setup] - [HDMI設定]** を選ぶ。

② **[オートジャンルセクター]** を選ぶ。

- **自動**：デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じて、サウンドフィールドが自動的に切り替わります。
- **手動**：音声設定のサウンドフィールドの設定で選んだサウンドフィールドまたは本体前面、リモコンの2CH/MULTI、MOVIE、MUSICボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

番組情報対応一覧（番組情報（EPG情報）：オートジャンルセクターで切り替わるサウンドフィールド）

- **ニュース／報道**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **スポーツ**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **情報／ワイドショー**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **ドラマ**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **ミュージック**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **バラエティ**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **映画**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **アニメ／特撮**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **ドキュメンタリー**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **劇場／公演**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **趣味／教育**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **福祉**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **その他**：マルチチャンネルステレオ（MULTI ST.）
- **スポーツ（CS）**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **洋画（CS）**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）
- **邦画（CS）**：ドルビーサラウンド（DOLBY SURR）

ご注意

- 番組情報（EPG情報）に応じてサウンドフィールドが切り替わるとき、音が途切れることがあります。
- オートジャンルセクターはソニー独自の機能です。ソニー製以外の機器では使えません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

アクティブサブウーファースのレベルを設定する（サブウーファーレベル）

PCM信号がHDMI接続で入力されているとき、アクティブサブウーファースのレベルを0 dBまたは+10 dBに設定できます。HDMI入力端子に割り当てられている各入力のレベルを個別に設定できます。

- 1 ホームメニューから **[Setup] - [HDMI設定]** を選ぶ。
- 2 **[サブウーファーレベル]** を選ぶ。
- 3 **お好みの設定を選ぶ。**
 - **自動**：オーディオストリームに応じて、レベルを0 dBまたは+10 dBに自動で設定します。
 - **+10 dB**
 - **0 dB**

ご注意

- [FM TUNER]、[USB]、[Bluetooth]、[Home Network] または [Music Service List] を選んでいるときは、この設定は無効になります。

HDMI OUT B端子からの出力方法を選ぶ（HDMI出力Bモード）

HDMIゾーンの接続には、HDMI OUT B/HDMI ZONE端子が使用できます。

- 1 ホームメニューから **【Setup】 - 【HDMI設定】** を選ぶ。
- 2 **【HDMI出力Bモード】** を選ぶ。
- 3 **お好みの設定を選ぶ。**
 - **メイン**：HDMI OUT B/HDMI ZONE端子をHDMI OUT B出力に使用します。テレビやプロジェクターを1つの部屋（メインゾーン）のみで見る場合に選びます。
 - **ゾーン**：HDMI OUT B/HDMI ZONE端子をHDMIゾーン出力に使用します。アンプにつないだ機器の映像や音声を別の部屋（HDMIゾーン）で楽しむ場合に選びます。

ご注意

- **【ゾーン】** が選ばれているときは、HDMI機器制御機能は働きません。HDMIゾーンの入力選択について詳しくは、「[別の部屋のアンプやテレビをHDMI接続して映像や音楽を楽しむ（HDMIゾーン）](#)」をご覧ください。
- **【HDMI設定】** メニューの **【HDMI出力Bモード】** を **【ゾーン】** に設定した場合は、HDMI OUT B/HDMI ZONE端子が対応する帯域幅は9 Gbpsまでになります。

メインゾーンのHDMI出力の優先度を設定する（HDMI出力優先端子）

HDMIゾーンが起動しているときにメインゾーンとHDMIゾーンで同じHDMI入力を選んだ場合、メインゾーンでの音声および映像信号に干渉が生じる場合があります。メインゾーンへのHDMI入力を優先するように設定することによって、干渉を防ぎます。

1 ホームメニューから【Setup】 - 【HDMI設定】を選ぶ。

2 【HDMI出力優先端子】を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- **メイン/ゾーン**：メインゾーンとHDMIゾーンで同じHDMI入力を楽しめます。ただし、両方のゾーンで音声および映像信号に干渉が生じる場合があります。
- **メイン**：メインゾーンで干渉の影響がない音声および映像を楽しめます。ただし、HDMIゾーンで同じHDMI入力を選んでも、HDMIゾーンには映像と音声が出力されません。

ご注意

- この機能は、【HDMI出力Bモード】が【ゾーン】に設定されているときのみ働きます。

ヒント

- メインゾーンとHDMIゾーンに異なる解像度のテレビをつなぎ、どちらのゾーンでも同じHDMI入力を選んだ場合、それぞれのテレビに出力される映像信号はいずれかのテレビの低い方の解像度に制限されます。

HDMI信号フォーマットを設定する（HDMI信号フォーマット）

HDMI入力端子に接続した機器からの映像信号の入力に対して、HDMIの信号フォーマットが選べます。4Kの映像信号など、高精細な映像をテレビなどで表示したい場合には設定を変更してください。

- 1 ホームメニューから **【Setup】 - 【HDMI設定】** を選ぶ。
- 2 **【HDMI信号フォーマット】** を選ぶ。
- 3 設定を変更したい入力名を選ぶ。
- 4 お好みの設定を選ぶ。
 - **標準フォーマット**：拡張フォーマットを使わない場合に選びます。
 - **拡張フォーマット**：4K/60p 4:4:4、4:2:2および 4K/60p 4:2:0 10 bitなどの高精細な4Kフォーマットの信号を表示する場合に選びます。

ご注意

- 【拡張フォーマット】に設定したときは、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。
- 【拡張フォーマット】の設定では、一部の機器（ケーブルテレビ（CATV）ボックスまたは衛星放送チューナー、ブルーレイディスクレコーダー/プレーヤー、DVDレコーダー/プレーヤーなど）からの映像信号や音声信号が正常に入力されないことがあります。その場合には、【標準フォーマット】に設定してください。
- お使いのテレビによっては、HDMI信号フォーマットの設定項目が用意されている場合があります。アンプ側で【拡張フォーマット】に設定したときは、テレビ側の設定も確認してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書を参照してください。
- 高帯域幅を必要とする映像フォーマットについて詳しくは、「[HDMI接続について](#)」の「対応する映像フォーマット」をご覧ください。

関連項目

- [HDMI接続について](#)

他機器の種類を自動的に検出し、それに適合する色空間変換を設定する（HDMI映像出力フォーマット）

- 1 ホームメニューの [Setup] - [HDMI設定] を選ぶ。
- 2 [HDMI映像出力フォーマット] を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - **自動**：外部機器のタイプを自動的に検出し、対応する色空間変換設定に切り替えます。
 - **YCbCr (4:2:2)**：YCbCr (4:2:2) 映像信号を出力します。
 - **YCbCr (4:4:4)**：YCbCr (4:4:4) 映像信号を出力します。
 - **RGB**：HDCP対応のDVI端子のある機器に接続するときに選びます。

ご注意

- [HDMI映像出力フォーマット] の設定は、HDMI IN端子からの映像信号には影響しません。

ヒント

- この機能はHDMI接続された機器がなくても設定できます。
- この機能はHDMIケーブルを外しても設定が保持されます。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

入力端子の割り当てや表示を変更する

お好みと用途に合わせて各入力の設定をカスタマイズできます。
ホームメニューから [Setup] - [入力設定] を選び、以下の各項目を設定します。

入力

各入力の [アイコン]、[名前]、[Watch/Listen]、[表示 / 非表示]、[光 / 同軸] および [入力モード] の設定を変更できます。

ご注意

- 入力設定画面で、[HDMI]、[映像] および [音声] の設定は固定されており、変更できません。
- [TV] の [光 / 同軸] の設定は固定されており、変更できません。

ヒント

- WatchまたはListenメニューで、OPTIONSを押して入力設定画面を表示することもできます。

アイコン

Watch/Listenメニューに表示されるアイコンを設定できます。

名前

Watch/Listenメニューに表示される名前を変更できます。

Watch/Listen

ある入力をWatchメニューまたはListenメニューのどちらに表示させるかを設定できます。

- **Watch** : Watchメニューに表示させます。
- **Listen** : Listenメニューに表示させます。
- **Watch/Listen** : WatchメニューおよびListenメニュー両方に表示させます。

表示 / 非表示

入力を表示するかどうかを設定できます。

- **表示** : 入力を表示します。
- **非表示** : 入力を非表示にします。

光 / 同軸

各入力に割り当てられたデジタル音声入力端子を設定できます。

- **光IN**
- **同軸IN**
- **未設定**

入力モード

各入力の入力モードを設定します。

- **自動**
- **光IN**

- 同軸IN
- アナログIN

関連項目






- [各入力の名前を変更する（名前）](#)
- [他の音声入力端子を使う（入力の割り当て）](#)

4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

各入力の名前を変更する（名前）

各入力に最大8文字で名前を入力できます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【入力設定】を選ぶ。
- 2 【名前】で変更したい入力名を選ぶ。
オンスクリーンキーボードがテレビ画面に表示されます。
- 3 ///とを押して一文字ずつ選び、名前を入力する。
- 4 【Enter】を選ぶ。
入力した名前が登録されます。

有線LAN接続の設定をする

以下の手順で有線LAN接続を設定できます。

- 1 ホームメニューから **【Setup】 - 【通信設定】** を選ぶ。
- 2 **【ネットワーク設定】** を選ぶ。
- 3 **【有線LAN設定】** を選ぶ。
テレビ画面にIPアドレスの取得方法を選ぶ画面が表示されます。
- 4 **【自動取得】** を選ぶ。
確認画面が表示されます。
- 5 **▲/▼**を押して情報を確認し、**▶**を押す。
- 6 **【接続診断】** を選ぶ。
ネットワーク接続を開始します。詳しくは、テレビ画面に表示されるメッセージを参照してください。

固定IPアドレスを使用するときは

手順4で **【手動】** を選び、テレビ画面に表示される指示に従って操作します。

ヒント

- 通信設定を確認するときは、**【ネットワーク接続診断】** をご覧ください。

関連項目

- [LANケーブルを使ってネットワークに接続する（有線LANに接続する場合のみ）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

無線LAN接続の設定をする

ネットワーク設定を始める前に

お使いの無線LANルーター（アクセスポイント）にWPS（Wi-Fi Protected Setup）に対応したボタンがある場合は、アンプを簡単にWi-Fi（無線LAN）ネットワークに接続できます。

WPSボタンがない場合は、以下の情報を選択、または入力する必要があります。あらかじめ以下の情報を確認してください。

- 無線LANルーター／アクセスポイントのネットワーク名（SSID）（＊1）
- ネットワークのセキュリティキー（パスキー）（＊2）

＊1 SSID（Service Set Identifier）は、アクセスポイントを特定化するための名前です。

＊2 この情報は、無線LAN ルーター／アクセスポイントのラベル、取扱説明書、無線ネットワークの設定者、またはインターネットサービスプロバイダーから提供された資料から取得してください。

1 ホームメニューから【Setup】 - 【通信設定】を選ぶ。


2 【ネットワーク設定】を選ぶ。

3 【無線LAN設定】を選ぶ。

4 【Wi-Fi Protected Setup (WPS)】を選ぶ。

5 【開始】を選ぶ。

6 アクセスポイントのWPSボタンを押す。

ネットワーク接続を開始します。
通信設定が完了し、表示窓に  が点灯します。

任意のネットワーク名（SSID）による設定方法を選んだ場合は

手順4で任意のネットワーク名（SSID）を選び、オンスクリーンキーボードを使って、セキュリティキー（パスキー）を入力し、[Enter] を選んで入力を確定させると、ネットワーク接続を開始します。詳しくは、テレビ画面に表示されるメッセージを参照してください。

固定IPアドレスを手動で入力するときは

手順4で [新しい接続先の登録] - [手動登録] を選び、テレビ画面に表示される指示に従って操作します。

WPS PINコードを使って設定するときは

手順4で [新しい接続先の登録] - [(W P S) P I N方式] を選び、テレビ画面に表示される指示に従って操作します。

ヒント

- ネットワーク接続状態を確認するときは、[ネットワーク接続診断] をご覧ください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ネットワークの接続状態を確認する（ネットワーク接続状態）

現在のネットワークの接続状態が確認できます。

- ① ホームメニューから【Setup】 - 【通信設定】を選ぶ。
- ② 【ネットワーク接続状態】を選ぶ。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ネットワークに正しく接続されているかを確認する（ネットワーク接続診断）

ネットワーク診断を実行し、ネットワークに正しく接続されているかを確認することができます。

- 1 ホームメニューの【Setup】 - 【通信設定】を選ぶ。
- 2 【ネットワーク接続診断】を選ぶ。
- 3 画面に表示される指示に従って操作する。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

接続中のホームネットワークサーバーを表示する（接続サーバー設定）

接続サーバーの表示設定や接続が確認できます。また、リストからサーバーを削除することもできます。

① ホームメニューから【Setup】 - 【通信設定】を選ぶ。

② 【接続サーバー設定】を選ぶ。

関連項目

- [サーバーリストからサーバーを削除する](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

新たに検出されたホームネットワーク上のコントローラー機器からアンプを操作できるようにする（ホームネットワーク 自動アクセス許可）

ホームネットワーク上で新たに検出されたコントローラー機器に対してアンプへの自動アクセスを許可するかどうかを設定できます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【通信設定】を選ぶ。
- 2 【ホームネットワーク 自動アクセス許可】を選ぶ。
- 3 【入】または【切】を選ぶ。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ホームネットワーク上の各コントローラー機器からアンプを操作できるように設定する (ホームネットワーク アクセス制御)

ホームネットワーク上のコントローラー機器のリストを確認し、リスト上の個別の機器に対してアンプの操作を許可するかどうかを設定できます。

- 1 ホームメニューから **【Setup】 - 【通信設定】** を選ぶ。
- 2 **【ホームネットワーク アクセス制御】** を選ぶ。
登録コントローラー機器のリスト（20台まで）が表示されます。
- 3 設定したいコントローラー機器を選び、**[+]**を押す。
- 4 以下のいずれの設定を選ぶ。
 - **許可する**：コントローラー機器からのアクセスを許可します。
 - **許可しない**：コントローラー機器からのアクセスは許可しません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

登録したVideo & TV SideView機器を確認する（登録済モバイル機器リスト）

アンプを操作可能なVideo & TV SideView機器を確認できます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【通信設定】を選ぶ。
- 2 【登録済モバイル機器リスト】を選ぶ。

ご注意

- 最大で5台のVideo & TV SideView機器を登録できます。すでに5台に達していて、新たな機器を追加したい場合は、不要な機器を削除してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

スタンバイ状態からの起動時間を短くする（ネットワークスタンバイ）

この機能を［入］に設定すると、スタンバイ状態からの起動時間を短縮したり、ネットワーク接続機器からアンプを発見し、電源を入れたりすることができます。

- 1 ホームメニューの［Setup］ - ［通信設定］を選ぶ。
- 2 ［ネットワークスタンバイ］を選ぶ。
- 3 ［入］または［切］を選ぶ。

ご注意

- Chromecast built-in機能の使用に同意すると、この機能は自動的に［入］に設定されます。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ネットワークで接続された機器からリモート起動する（リモート起動）

この機能を「入」に設定すると、アンプがスタンバイ状態のときに、ネットワークで接続された機器から電源を入れることができます。

- 1 ホームメニューから「Setup」 - 「通信設定」を選ぶ。
- 2 「リモート起動」を選ぶ。
- 3 「入」または「切」を選ぶ。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ホームオートメーションコントローラーからの操作を可能にする（外部機器からの操作）

ホームネットワーク上の専用コントローラー（ホームオートメーションコントローラー）でアンプを制御することを許可するかどうかを設定します。

- 1 ホームメニューから **【Setup】** - **【通信設定】** を選ぶ。
- 2 **【外部機器からの操作】** を選ぶ。
- 3 **【入】** または **【切】** を選ぶ。

関連項目

- [新たに検出されたホームネットワーク上のコントローラー機器からアンプを操作できるようにする（ホームネットワーク 自動アクセス許可）](#)

BLUETOOTHモードを選ぶ（Bluetoothモード）

リモート機器のコンテンツをアンプで楽しんだり、アンプの音声をヘッドホンやスピーカーなどの機器で聞くことができます。

1 ホームメニューから [Setup] - [Bluetooth設定] を選ぶ。

2 [Bluetoothモード] を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- **受信**：アンプが受信モードに設定され、BLUETOOTH機器からの音声を受信、出力できるようになります。
- **送信**：アンプが送信モードに設定され、音声をBLUETOOTHレシーバー（ヘッドホン/スピーカー）に送信できるようになります。
表示窓に [BT TX] と表示されます。
- **切**：BLUETOOTH電源が切断され、BLUETOOTH機能が使用できなくなります。

ご注意

- アンプの入力が [Bluetooth] に設定されているときは、[Bluetoothモード] の切り替えはできません。
- [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているときは、アンプに接続されているスピーカーからは音が出ません。
- [送信] モードでアンプが音声を送信できる機器は1台のみです。

ヒント

- [Bluetooth設定] の [ワイヤレス再生品質] で、LDAC再生のデータ転送レートを設定できます。
- [送信] 設定時にスマートフォンからアンプに接続したとき、いずれの機器もアンプに接続されていない場合、自動的に設定が [受信] モードに切り替わり、アンプでスマートフォンの音声が聞けるようになります。
- リモコンのBLUETOOTH RX/TXボタンを押して、BLUETOOTH RX（受信）モードとBLUETOOTH TX（送信）モードを切り替えることができます。
- [送信] に設定されているときは、お使いの機器によってはアンプから機器の音量を調節することができます。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

BLUETOOTH機器の一覧を確認する（機器リスト）

「Bluetoothモード」が「送信」に設定されているときは、ペアリング、または検出されたヘッドホンなどのBLUETOOTH機器のリストを確認できます。リストで検出された機器を選び、ペアリングすることもできます。

- 1 ホームメニューから「Setup」 - 「Bluetooth設定」を選ぶ。
- 2 「機器リスト」を選ぶ。

ヒント

- リストを更新するには、「検索」を選びます。

関連項目

- [BLUETOOTHモードを選ぶ（Bluetoothモード）](#)

BLUETOOTHスタンバイモードを設定する（Bluetoothスタンバイ）

BLUETOOTHスタンバイモードを設定すると、スタンバイ状態のときでもBLUETOOTH機器からアンプの電源を入れることができます。

- 1 ホームメニューから **【Setup】 - 【Bluetooth設定】** を選ぶ。
- 2 **【Bluetoothスタンバイ】** を選ぶ。
- 3 **お好みの設定を選ぶ。**
 - **入**：ペアリングしたBLUETOOTH機器からアンプの電源を入れられます。
 - **切**：ペアリングしたBLUETOOTH機器からアンプの電源入れられません。

ご注意

- アンプがスタンバイ状態のとき、**【Bluetoothスタンバイ】** が **【入】** に設定されている場合は、本体前面の電源表示ランプがオレンジ色に点灯します。
- この機能は、**【Bluetoothモード】** が **【受信】** または **【送信】** に設定されているときのみ働きます。
- **【ネットワークスタンバイ】** と **【Bluetoothスタンバイ】** が **【入】** に設定されている場合、BLUETOOTH機器との接続が確立したときにアンプの電源が入ります。

関連項目

- [電源表示ランプ](#)

BLUETOOTHオーディオコーデックを設定する（Bluetooth音声フォーマット - AAC/Bluetooth音声フォーマット - LDAC）

AAC（Advanced Audio Coding）またはLDAC音声を有効または無効にできます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【Bluetooth設定】を選ぶ。
- 2 【Bluetooth音声フォーマット - AAC】または【Bluetooth音声フォーマット - LDAC】を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - 入：BLUETOOTH機器がAACまたはLDACに対応している場合、AACまたはLDAC音声が有効になります。
 - 切：AACまたはLDAC音声は無効です。

ご注意

- 設定を変更すると、次にBLUETOOTH機器と接続したときに設定が適用されます。
- この機能は、【Bluetoothモード】が【受信】または【送信】に設定されているときのみ働きます。
- BLUETOOTH機器が接続されているときは、この機能の設定は変更できません。

ヒント

- AACまたはLDAC音声が有効な場合、高音質の音声を楽しむことができます。
- LDACは、ソニーが開発したハイレゾ音源をBLUETOOTH経由でも伝送可能とする音声圧縮技術です。SBC等の既存BLUETOOTH向け圧縮技術とは異なり、ハイレゾ音源を低い周波数・低いビット数へダウンコンバートすることなく処理します（＊1）。また極めて効率的な符号化やパケット配分の最適化を施すことで、従来技術比約3倍（＊2）のデータ量の送信を可能とし、これまでにない高音質のBLUETOOTH無線伝送を実現しています。
 - * 1 DSDフォーマットは除く
 - * 2 990 kbps（96/48 kHz）または909 kbps（88.2/44.1 kHz）のビットレートを選択した場合のSBC（Subband Coding）との比較

LDAC再生のデータ転送レートを設定する（ワイヤレス再生品質）

LDAC再生のデータ転送レートを設定することができます。

1 ホームメニューから【Setup】 - 【Bluetooth設定】を選ぶ。

2 【ワイヤレス再生品質】を選ぶ。

3 お好みの設定を選ぶ。

- **自動**： LDAC再生のデータ転送レートを自動的に設定します。
- **音質優先**： 最高品質のデータ転送レートが使用されます。音声は高音質で伝送されますが、接続の品質が十分でない場合は音声再生が不安定になることがあります。
- **標準**： 標準的なデータ転送レートが使用されます。音質と再生の安定度のバランスが良い設定です。
- **接続優先**： 再生の安定が優先されます。音質は適度に良く、接続状況もおおむね安定します。接続が不安定な場合は、この設定をおすすめします。

ご注意

- この機能は、【Bluetoothモード】が【送信】、かつ【Bluetooth音声フォーマット - LDAC】が【入】に設定されているときのみ働きます。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ホームメニューに [Zone Controls] を表示するかを設定する (Zone Controls)

以下の手順でホームメニューに [Zone Controls] を表示するかどうかを設定できます。

- 1 ホームメニューから [Setup] - [ゾーン設定] を選ぶ。
- 2 [Zone Controls] を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - **表示** : ホームメニューに [Zone Controls] を表示します。
 - **非表示** : ホームメニューに [Zone Controls] を表示しません。

ゾーン2の音量を調節する（ゾーン2音声出力モード）

音声ZONE 2 OUT端子の音量調節を可変または固定に設定できます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【ゾーン設定】を選ぶ。
- 2 【ゾーン2音声出力モード】を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - **可変**：ゾーン2のアンプで音量調整できない場合に選びます。本体後面の音声ZONE 2 OUT端子の音量レベルが調整可能になります。
 - **固定**：ゾーン2のアンプで音量調整を行う場合に選びます。本体後面の音声ZONE 2 OUT端子の音量レベルが固定されます。

ご注意

- [可変] に設定されているときは、初期設定で音量が絞られています。設定完了後、音声を聞きながら音量を上げてください。スピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2)端子からの音量は音声ZONE 2 OUT端子と連動して調節されます。

関連項目

- [ゾーン2に設置したもう1台のアンプにつないだスピーカーで音声を楽しむ](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

音量レベルや音場（サウンドフィールド）の表示をオン／オフする（変更情報表示）

音量レベルや、サウンドフィールドなどが変更されたときにテレビ画面に表示される情報画面を入／切できます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【システム設定】を選ぶ。
- 2 【変更情報表示】を選ぶ。
- 3 【入】または【切】を選ぶ。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

自動的にスタンバイ状態になるように設定する（自動電源オフ）

操作や信号の入力がないときに、アンプが自動的にスタンバイ状態に切り替わるように設定できます。

① ホームメニューから **〔Setup〕** - **〔システム設定〕** を選ぶ。

② **〔自動電源オフ〕** を選ぶ。

③ **〔入〕** または **〔切〕** を選ぶ。

〔入〕に設定した場合は、操作しない状態が約20分間続くと自動的にスタンバイ状態に切り替わります。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
 - 〔FM TUNER〕が入力として選ばれているとき
 - アンプのソフトウェアがアップデート中のとき
 - BLUETOOTHレシーバー（ヘッドホン／スピーカー）を接続しているとき
- 自動電源オフ機能とスリープタイマーが同時に設定されている場合は、スリープタイマーが優先されます。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

表示窓の明るさを調節する（表示窓の明るさ）

表示窓の明るさを調節できます。

- 1 ホームメニューの [Setup] - [システム設定] を選ぶ。
- 2 [表示窓の明るさ] を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
 - 明るい
 - 暗い
 - 消灯

ヒント

- 本体前面のDIMMERボタンでも選べます。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

スリープタイマーを使う

一定の時間が経過したあとにアンプの電源が切れるよう設定できます。

1 ホームメニューから **〔Setup〕** - **〔システム設定〕** を選ぶ。

2 **〔スリープタイマー〕** を選ぶ。

3 **好みの時間を選ぶ。**

- **2時間**
- **1時間30分**
- **1時間**
- **30分**
- **切**

スリープタイマーを使用中は、本体前面の表示窓に **〔SLEEP〕** が点灯します。

ヒント

- 電源が切れるまでの残り時間は、システム設定画面で確認できます。また、残り時間が1分を切ると、テレビ画面の右下に残り時間が表示されます。
- 以下の操作を行うと、スリープタイマーが解除されます。
 - 手順3で **〔切〕** を選ぶ。
 - 電源を入/切する。
 - アンプのソフトウェアをアップデートする。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

新しいソフトウェアの情報を受け取る（ソフトウェアアップデート通知）

新しいバージョンのソフトウェアがあるときに、テレビ画面に情報を表示するかどうかを設定できます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【システム設定】を選ぶ。
- 2 【ソフトウェアアップデート通知】を選ぶ。
- 3 【入】または【切】を選ぶ。

ご注意

- 以下の場合は新しいソフトウェアバージョンの情報は表示されません。
 - － 最新バージョンがすでに使用されているとき
 - － ネットワークからデータを取得できないとき

個人情報を削除する（個人情報の初期化）

アンプに保存されている個人情報を削除できます。

アンプを廃棄、譲渡または転売する場合、安全のために個人情報はすべて削除してください。お使いになっているすべてのネットワークサービスからログアウトするなど、適切な対応を行ってください。

- 1 ホームメニューの【Setup】 - 【システム設定】を選ぶ。
- 2 【個人情報の初期化】を選ぶ。
- 3 画面に表示される指示に従って操作する。






ご注意

- この操作を行うと、オンスクリーンキーボードを使って入力した内容の履歴が削除されます。
- Spotify Connectを使ってアンプで音楽を聞いたことがある場合は、この操作によってアカウント情報やアンプに保存されているSpotify Presetが削除され、MUSIC SERVICEを押してもSpotifyの音楽の続きを再生できなくなります。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

アンプに名前を割り当てる（機器名）

ホームネットワーク上やBLUETOOTH接続時に他の機器から見分けがつきやすいように、機器名をアンプに割り当てる
ことができます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【システム設定】を選ぶ。
- 2 【機器名】を選ぶ。
オンスクリーンキーボードがテレビ画面に表示されます。
- 3 ///とを押して一文字ずつ選び、名前を入力する。
- 4 【Enter】を選ぶ。
入力した名前が登録されます。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ソフトウェアのバージョンやMACアドレスを確認する（本体情報）

アンプのソフトウェアバージョンやMACアドレスを確認できます。

- 1 ホームメニューから【Setup】 - 【システム設定】を選ぶ。
- 2 【本体情報】を選ぶ。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ソフトウェアライセンスを確認する（ソフトウェアライセンス）

ソフトウェアライセンス情報を確認することができます。

- 1 ホームメニューの [Setup] - [システム設定] を選ぶ。
- 2 [ソフトウェアライセンス] を選ぶ。
- 3 画面に表示される指示に従って操作する。

ソフトウェアを自動的にアップデートできるように設定する（自動アップデート設定）

ソフトウェアを自動的にアップデートできるように設定することができます。この機能を「入」に設定すると、選んだタイムゾーンの午前2時から5時の間に自動アップデートが実行されます。

1 ホームメニューの「Setup」 - 「システム設定」を選ぶ。

2 「自動アップデート設定」を選ぶ。

3 「自動アップデート」を選び、「入」を選ぶ。

4 「タイムゾーン」を選び、を押す。

5 地域を選び、お住まいの場所に近い都市を選ぶ。

ご注意

- アンプを使用していない深夜にアップデートをするためには、「自動アップデート」および「ネットワークスタンバイ」を「入」に設定しておく必要があります。
- 「自動アップデート」が「入」に設定され、かつ「ネットワークスタンバイ」が「切」に設定されている場合は、アンプの電源が切れた状態のときに自動的にアップデートが開始されます。
- 提供するアップデートの種類によっては、「自動アップデート」を「切」に設定していても自動的にアップデートが実行される場合があります。また、アンプの電源が切れた状態のときに自動的にアップデートが開始される場合があります。

関連項目

- [スタンバイ状態からの起動時間を短くする（ネットワークスタンバイ）](#)

ソフトウェアをアップデートする（ソフトウェアアップデート）

- 1 ホームメニューから **【Setup】 - 【システム設定】** を選ぶ。
- 2 **【ソフトウェアアップデート】** を選ぶ。
- 3 **【ネットワーク経由でアップデート】** または **【USBメモリーからアップデート】** を選ぶ。
【USBメモリーからアップデート】を選んだ場合は、カスタマーサポートウェブサイトから最新のバージョンのソフトウェアをダウンロードしてください。
- 4 **ソフトウェアのアップデートを行う。**
アップデート中は、表示窓に **【UPDATING】** が点滅します。**【UPDATING】** 表示はアップデート中でも一時的に消える場合があります。
アップデートが完了すると、表示窓に **【COMPLETE】** が表示され、アンプは自動的に再起動します。

ご注意




- アップデートが完了するまでに1時間ほどかかる場合があります。
- ソフトウェアのアップデート中は、アンプの電源を切らないでください。故障の原因となることがあります。
- ソフトウェアのアップデート後は、古いバージョンの復元はできません。

関連項目

- [カスタマーサポートウェブサイト](#)

表示窓のメニューを使って操作する

アンプをテレビにつないでいない場合でも表示窓を使って操作できます。

- 1 **AMP MENUを押す。**
表示窓にメニューが表示されます。
- 2 **↑/↓をくり返し押してメニューを選び、を押す。**
- 3 **↑/↓をくり返し押して設定項目を選び、を押す。**
- 4 **↑/↓をくり返し押して好みの設定を選び、を押す。**

前の表示に戻るには

 またはBACKを押す。

メニューを閉じるには

AMP MENUを押す。

ご注意

- 設定項目が表示窓で暗く表示されることがあります。これは、選んだ項目が使用できない、または固定および変更不可であることを意味します。

関連項目

- [メニュー一覧（表示窓）](#)
- [表示窓上のインジケーター](#)

表示窓で情報を確認する

表示窓で、音場（サウンドフィールド）などさまざまな情報を確認できます。

1 情報を確認したい入力を選ぶ。

2 本体前面のDISPLAY MODEをくり返し押す。

DISPLAY MODEを押すたびに表示窓の表示は次のとおり切り替わります。

入力のインデックス名（＊1） - 選択した入力 - 最近適用したサウンドフィールド（＊2） - 音量レベル - ストリーム情報（＊3）

FMラジオ聴取時

プリセット放送局名（＊1） - 周波数 - 最近適用したサウンドフィールド（＊2） - 音量レベル

*1 インデックス名は、入力またはプリセットした放送局に名前を付けた場合のみ表示されます。空白スペースのみが入力された場合、またはインデックス名が入力名と同じ場合は、インデックス名は表示されません。

*2 ピュアダイレクトモードを選んでいるときは、表示窓に[PURE.DIRECT]が表示されます。

*3 ストリーム情報は表示されない場合があります。

関連項目


- [表示窓上のインジケーター](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

お買い上げ時の設定に戻す

以下の手順に従って、記憶させたすべての設定を消去してお買い上げ時の設定に戻すことができます。
この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

1 電源を切る。

2 本体前面の （電源）を5秒間押したままにする。

表示窓にしばらく [CLEARING] が点滅したあと、表示が [CLEARED !] に変わります。

ご注意

- メモリーが完全に消去されるのに数分かかることがあります。表示窓に [CLEARED !] が表示されるまで、電源を切らないでください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

PROTECTOR

表示窓に「PROTECTOR」の表示が出ると、数秒後にアンプの電源が自動的に切れます。以下を確認してください。

- 電圧異常または電源異常が起こっている可能性があります。電源コードを抜いて、30分間おいてもう一度電源コードをつないでください。
- アンプが何かで覆われ、通気孔がふさがれている可能性があります。通気孔をふさいでいるものを取り除いてください。
- 本体後面に表示されているインピーダンス範囲よりインピーダンスの低いスピーカーをつないでいる可能性があります。インピーダンス範囲内のスピーカーをつないでください。
- 電源コードを抜いて30分放置し、アンプの温度を下げてから、以下の対策を行ってください。
 - すべてのスピーカーとアクティブサブウーファースのケーブルを抜く。
 - スピーカーの芯線の先端がしっかりとねじってあるか確認する。
 - まずフロントスピーカーをつないで、音量レベルを上げ、アンプの温度が上がるまで少なくとも30分間、アンプを操作する。そのあと、他のスピーカーを1台ずつつないで各スピーカーをテストし、どのスピーカーがプロテクションエラーの原因になっているかを確認する。

以上の項目を確認して問題に対処したら、電源コードをつないでアンプの電源を入れてください。それでも問題が解決しない場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

テレビ画面に「過電流が発生しました。」と表示される

- 過電流が発生しました。エラーメッセージの指示に従って、USB機器を取り外してください。

自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧

- **エラー 30 :**
ヘッドホンが挿入されています。ヘッドホンをはずして再測定してください。
- **エラー 31 :**
フロントスピーカーの選択が正しくないようです。本体前面のSPEAKERSボタンを押してフロントスピーカーを正しく選び、音が出る状態にして再測定してください。
- **エラー 32、エラー 33 :**
 - スピーカーから音を検出されませんでした。
 - 左か右どちらか、または両方のフロントスピーカーから音を検出されませんでした。測定用マイクが破損していないか、本機前面のCALIBRATION MIC端子にマイクがつながっているか、すべてのスピーカーが正しく接続されているかを確認してください。
 - 左か右どちらかのサラウンドスピーカーから音を検出されませんでした。サラウンドスピーカーをSURROUND端子につないでください。
 - サラウンドバックスピーカーがSURROUND BACK/HEIGHT R端子にのみつながっています。サラウンドバックスピーカーを1つだけつなぐときは、SURROUND BACK/HEIGHT L端子につないでください。
 - 左か右どちらかのハイトスピーカーから音を検出されませんでした。ハイトスピーカーをSURROUND BACK/HEIGHT端子につないでください。
 - どのチャンネルからも音を検出されませんでした。測定用マイクが破損していないか、測定用マイクのプラグが本体前面のCALIBRATION MIC端子に奥までしっかり挿入されているかを確認してください。
- **エラー 34 :**
スピーカーが正しい位置に設置されていません。測定用マイク、スピーカーの左右が逆に設置されていることが考えられます。
- **エラー 35 :**
スピーカーパターンの設定と測定結果が一致しません。スピーカーパターンと接続を確認してください。
- **警告 40 :**
測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。
- **警告 41、警告 42 :**
測定用マイクからの入力が過大です。スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎる可能性があります。スピーカーと測定用マイクを離して配置してください。本機をプリアンプとしてお使いの場合、つないでいるパワーアンプによってはこのメッセージが表示されることがありますが、そのままお使いいただいて問題ありません。
- **警告 43 :**
アクティブサブウーファースの距離・位相が測定できませんでした。ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。
- **警告 44 :**
測定は終了しましたが、スピーカーの位置関係がおかしい可能性があります。スピーカーの位置を確認してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

電源が自動的に切れる

- [システム設定] メニューの [自動電源オフ] が [入] に設定されています。 [切] に設定してください。
- スリープタイマーが働いています。
- 異常が検知されたため、保護回路（ [PROTECTOR] ）が働いています。

関連項目

- [自動的にスタンバイ状態になるように設定する（自動電源オフ）](#)
- [スリープタイマーを使う](#)
- [PROTECTOR](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

複数のデジタル機器を接続中、再生可能な入力が見つからない

同軸デジタル音声IN端子および光デジタル音声IN端子を他の入力に再度割り当ててください。
詳しくは、「[他の音声入力端子を使う（入力の割り当て）](#)」をご覧ください。

関連項目

- [他の音声入力端子を使う（入力の割り当て）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

テレビの電源を入れてもアンプの電源が入らない

- [HDMI設定] メニューの [HDMI機器制御] を [入] に設定してください。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- テレビのスピーカー設定を確認してください。アンプの電源はテレビのスピーカー設定に連動します。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- 前回テレビのスピーカーから音声が出力されていた場合は、テレビの電源を入れてもアンプの電源は入りません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

テレビの電源を切るとアンプの電源が切れる

- [HDMI設定] メニューの [電源オフ連動] の設定を確認してください。[する] に設定している場合は、本機の入力にかかわらず、テレビの電源を切ると、アンプの電源も連動して切れます。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

テレビの電源を切ってもアンプの電源が切れない

- [HDMI設定] メニューの [HDMI機器制御] を [入] に設定してください。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- [HDMI設定] メニューの [電源オフ連動] の設定を確認してください。テレビの電源を切ったときに、アンプの入力にかかわらずアンプの電源も連動させたい場合は、[電源オフ連動] を [する] に設定してください。

テレビ画面に映像が表示されない

- リモコンの入力切り替え用ボタンを押すか、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して、視聴したい入力を選んでください。
- お使いのテレビを正しい入力に切り替えてください。
- ケーブルが正しく、しっかりと機器に接続されているか確認してください。
- アンプとテレビをつないでいるHDMIケーブルをアンプ、テレビ両方から抜き、接続し直してください。
- 選んだ入力のHDMI信号フォーマットを、[HDMI設定] メニューの[HDMI信号フォーマット] から[標準フォーマット] に変更してください。
- 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 解像度が1080pの映像やDeep Color、4Kまたは3Dの映像を視聴するときは、必ずイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルを使用してください。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号の場合には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）が必要です。
- HDMI出力設定が[HDMI OFF]（出力しない）に設定されている可能性があります。その場合は、リモコンのHDMI OUTを押して[HDMI A]、[HDMI B] または[HDMI A + B] に設定してください。
- HDCP 2.2対応のコンテンツを再生するには、お使いのテレビのHDCP 2.2対応のHDMI入力端子にアンプをつないでください。

関連項目

- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [HDMI接続について](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

テレビ画面に3Dコンテンツが表示されない

- テレビまたはビデオ機器によっては、3Dのコンテンツが表示されないことがあります。お使いのテレビまたはビデオ機器が3Dに対応しているか確認してください。また、アンプが対応しているHDMI映像フォーマットと3D形式の設定になっているかどうかを確認してください。詳しくは、テレビまたはビデオ機器の取扱説明書を参照してください。
- 必ずイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルを使用してください。

関連項目

- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [HDMI接続について](#)

テレビ画面に4K映像が表示されない

- テレビまたはビデオ機器によっては、4Kの映像が表示されないことがあります。お使いのテレビやビデオ機器の設定、対応する映像フォーマットを確認してください。
- 4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号の場合には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）が必要です。それ以外の映像信号の場合には、イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブル以上のグレードのHDMIケーブルをお使いください。
- お使いのテレビによっては、HDMI信号フォーマットの設定項目が用意されている場合があります。アンプ側で「HDMI信号フォーマット」を「拡張フォーマット」に設定したときは、テレビ側の設定も確認してください。テレビ側の設定について詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書を参照してください。
- アンプは、必ず4K対応のテレビまたはビデオ機器のHDMI入力端子につないでください。4K解像度のコンテンツを再生するためには、HDMIケーブルは再生機器のHDCP 2.2対応のHDMI端子につなぐ必要があります。

関連項目

- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [HDMI接続について](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

スタンバイ状態時にアンプに接続したHDMI機器からの画像がテレビに出力されない

- アンプがスタンバイ状態になると、スタンバイ状態になる直前に選択していたHDMI機器からの映像／音声がテレビに出力されます。
画像が出ない場合は、以下の操作を行ってください。
 - － アンプの電源を入れて再生したいHDMI機器を選択してください。
 - － [HDMI設定] メニューの [スタンバイスルー] を [入] または [自動] に設定してください。

関連項目

- [アンプの電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ（スタンバイスルー）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

テレビ画面にホームメニューが表示されない

- HDMI OUT端子にテレビをつないでいるときのみ、ホームメニューを使用できます。
- HDMI OUT B/HDMI ZONE端子につないだテレビにメニューを表示させる場合は、[HDMI出力Bモード]を[メイン]に設定してください。
- HOMEを押して、ホームメニューを表示させてください。
- テレビが正しく接続されているか確認してください。
- アンプとテレビをつないでいるHDMIケーブルをアンプ、テレビ両方から抜き、接続し直してください。
- テレビ側の入力が正しく選ばれているか確認してください。アンプを接続しているHDMI入力を選んでください。
- テレビによっては、テレビ画面にホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

HDR（ハイダイナミックレンジ）コンテンツがHDRのまま表示されない

- テレビまたはビデオ機器によってはHDRコンテンツがHDRのまま表示されない場合があります。お使いのテレビとビデオ機器のビデオ性能および設定を確認してください。
- テレビとビデオ機器の両方がHDRおよび18 Gbpsの帯域幅に対応していても、選ばれている入力の[HDMI信号フォーマット]が[標準フォーマット]に設定されていると、ビデオ機器によってはHDRコンテンツをHDRのまま出力できない場合があります。その場合は、[HDMI設定]メニューで、選ばれている入力の[HDMI信号フォーマット]を[拡張フォーマット]に設定してください。[拡張フォーマット]を選んだ場合は、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）を使用してください。
- アンプにDolby Vision対応テレビを2台つないで[HDMI A+B]を選んだ場合、Dolby VisionコンテンツはHDR10またはSDR（スタンダードダイナミックレンジ）フォーマットで出力されます。Dolby Visionコンテンツをそのまま楽しむには、アンプにDolby Vision対応テレビを1台のみつなぐか、[HDMI A] または [HDMI B] を選んでください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

表示窓に表示が出ない

- 本体前面のPURE DIRECTランプが点灯しているときは、PURE DIRECTを押して機能をオフにしてください。
- 本体前面のDIMMERを押し、表示窓で[BRIGHT] または[DARK] を選んでください。

関連項目

- [原音に忠実な音を楽しむ（ピュアダイレクト）](#)
- [表示窓の明るさを調節する（表示窓の明るさ）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

アンプの電源が入っていないときテレビに映像が出ない

- [HDMI機器制御] を [入] に設定後、[HDMI設定] メニューの [スタンバイスルー] を [自動] または [入] に設定してください。
- アンプの電源を入れて、再生機器をつないだ入力に切り替えてください。
- ソニー製以外のHDMI機器制御機能に対応している機器をつないでいる場合には、[HDMI設定] メニューの [HDMI機器制御] を [入] に設定してください。

どの機器を選んでも音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- すべての接続ケーブルが、アンプ、スピーカー、機器のそれぞれの入力／出力端子に差し込まれているか確認してください。
- アンプとすべての機器の電源が入っているか確認してください。
- 本体前面のMASTER VOLUMEつまみが [VOL MIN] に設定されていないか確認してください。
- 本体前面のSPEAKERSボタンを押して、[SPK OFF] 以外の設定を選んでください。
- ヘッドホンをアンプにつないでいないことを確認してください。
- リモコンの唸を押して消音機能を解除してください。
- リモコンの入力切り替え用ボタンを押すか、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して、視聴したい入力を選んでください。
- テレビのスピーカーから音声を聞きたいときは、[HDMI設定] メニューの [音声信号出力] を [テレビ + アンプ] に設定してください。マルチチャンネル音声を再生できない場合は、[アンプ] に設定してください。[アンプ] に設定した場合、音声はテレビのスピーカーからは出力されません。
- 再生機器から出力される音声信号のサンプリング周波数、チャンネル数、または音声フォーマットが変わると、音声途切れる場合があります。
- BLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーで聞いている場合は、[Bluetooth設定] メニューの [Bluetoothモード] が [送信] に設定されていることを確認してください。
- センタースピーカーなしのスピーカーパターンに設定されている場合、[DSDネイティブ再生] が [入] に設定されていて、DSDマルチチャンネル音源が再生されているときは、センターチャンネルの音声は出力されません。
- サラウンドスピーカーなしのスピーカーパターンに設定されている場合、[DSDネイティブ再生] が [入] に設定されていて、DSDマルチチャンネル音源が再生されているときは、サラウンドチャンネルの音声は出力されません。
- サウンドフィールドが [2chステレオ] に設定されている場合、[DSDネイティブ再生] が [入] に設定されていて、DSDマルチチャンネル音源が再生されているときは、センターチャンネルおよびサラウンドチャンネルの音声は出力されません。
- [音声設定] の [DSDネイティブ再生] が [入] に設定されている場合、[USB] または [Music Service List] からのDSD信号はゾーン2スピーカーから出力できません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ハム音またはノイズがひどい

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認してください。
- 接続ケーブルがトランスやモーターから離れているか確認してください。
- テレビからオーディオ機器を離してください。
- プラグや端子が汚れている場合は、アルコールで少し湿らせた布で拭き取ってください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

特定のスピーカーから音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- ヘッドホンにPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認してください。ヘッドホンから1チャンネルのみが出力される場合は、機器がアンプに正しく接続されていない可能性があります。アンプと機器の端子にすべてのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
ヘッドホンから両方のチャンネルが出力される場合は、フロントスピーカーがアンプに正しく接続されていない可能性があります。音を出力していない方のフロントスピーカーの接続を確認してください。
- お使いの機器で音声をアナログ接続で出力する場合は、左右の音声出力端子（L/R）にケーブルを接続しているか確認してください。アナログ音声出力の接続では、左右両方の端子にケーブルを接続する必要があります。接続には、音声ケーブル（別売）をお使いください。
- スピーカーのレベルを調節してください。
- [自動音場補正] または [スピーカー設定] メニューの [スピーカーパターン] を使って、スピーカーの設定が適切か確認してください。その後、[スピーカー設定] メニューの [テストトーン] を使って、各スピーカーから正しく音が出ているか確認してください。
- アクティブサブウーファーが正しく、確実に接続されているか確認してください。
- アクティブサブウーファーの電源が入っているか確認してください。
- アクティブサブウーファーの音量を確認してください。
- 選択した音場（サウンドフィールド）によっては、アクティブサブウーファーから音が出ない場合があります。
- DTSコンテンツを再生するとき、またはサウンドフィールドを [Neural:X] に設定しているときは、ハイトスピーカーから音声が出ないことがあります。その場合は、スピーカーパターンを [5.1.2 (FH)] に設定してください。

関連項目

- [音場（サウンドフィールド）とスピーカー出力の関係一覧](#)

特定の機器から音が出ない

- 機器が、対応する音声入力端子に正しく接続されているか確認してください。
- 接続に使用されているケーブルが、アンプと機器の端子に確実に差し込まれているか確認してください。
- [入力設定] メニューで入力モードの設定を確認してください。
- 機器が、対応するHDMI入力端子に正しく接続されているか確認してください。
- 再生機器によっては、機器側でHDMI設定が必要な場合があります。お使いの機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 解像度が1080pの映像やDeep Color、4Kまたは3Dの映像を視聴するときは、イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号の場合には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）が必要です。
- テレビ画面にホームメニューが表示されているときは、アンプから音声が出力されないことがあります。HOMEを押して、ホームメニューを非表示にしてください。
- HDMI端子から伝送された音声信号（フォーマット、サンプリング周波数、ビット長など）は接続機器側で制限されることがあります。HDMIケーブルでつないだ機器からの映像が明瞭でなかったり、音声が出なかったりする場合は、機器の設定を確認してください。
- つないだ機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していない場合、本体後面のHDMIテレビOUT AおよびHDMI OUT B/HDMI ZONE端子からの映像や音声歪んだり、出力されないことがあります。このような場合は、接続機器の仕様を確認してください。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、ドルビーTrueHD）を楽しむには、再生機器の映像解像度を720p/1080iより高く設定してください。
- DSDやマルチチャンネルリニアPCMフォーマットの音声を楽しむには、再生機器の映像解像度の設定が必要な場合があります。再生機器の取扱説明書を参照してください。
- お使いのテレビがシステムオーディオコントロールに対応していることを確認してください。
- お使いのテレビがシステムオーディオコントロールに対応していない場合は、[HDMI設定] メニューから[音声信号出力]を選び、以下のとおり設定してください。
 - － [テレビ + アンプ]：アンプにつないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から音を聞きたい場合。
 - － [アンプ]：アンプにつないだスピーカーのみで音を聞きたい場合。
- アンプにプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、アンプから音が出力されない場合があります。この場合は、[HDMI設定] メニューの[音声信号出力]を[アンプ]に設定してください。
- アンプでテレビ入力選ばれているときに、アンプにつないだ機器の音声聞こえない場合は以下の操作を行ってください。
 - － HDMIケーブルでつないだ機器の番組を視聴したいときは、必ずアンプの入力をHDMIに変更してください。
 - － テレビ放送を視聴したいときは、テレビのチャンネルを切り替えてください。
 - － テレビにつないだ機器から番組を視聴したいときは、必ず視聴したい機器または入力を正しく選んでください。この操作についてはテレビの取扱説明書を参照してください。
- 選んだデジタル音声入力端子が他の入力に割り当てられていないか確認してください。

関連項目

- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [接続機器のHDMI音声信号出力を設定する（音声信号出力）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

左右の音のバランスが悪い、または逆転している

- スピーカーおよび各機器が正しく、確実に接続されているか確認してください。
- [スピーカー設定] メニューの [レベル] で、音声レベルのパラメーターを調節してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ドルビーデジタルまたはDTSマルチチャンネルの音源が再生できない

- DVDなど再生中のコンテンツの音声、ドルビーデジタル（Dolby Digital）またはDTS形式で記録されているか確認してください。
- DVDプレーヤーなどの機器を本体後面のデジタル入力端子につないでいるときは、機器側のデジタル音声の出力設定が有効になっているか確認してください。
- [HDMI設定] メニューの [音声信号出力] を [アンプ] に設定してください。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、ドルビーTrueHD）やオブジェクトベースの音声フォーマット（DTS:X、ドルビーアトモス）は、HDMI接続でのみ楽しめます。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

サラウンド効果が得られない

- コンテンツに応じて適切なサウンドフィールドが選ばれていることを確認してください。サウンドフィールドについて詳しくは「[選べるサウンドフィールドとその効果](#)」をご覧ください。
- スピーカーパターンが [2.0] または [2.1] のときは、[Dolby Surround]、[Neural:X] は動きません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

スピーカーからテストトーンが出力されない

- スピーカーケーブルは確実につないでください。スピーカーケーブルを軽く引っ張ってみて、抜けないことを確認してください。
- スピーカーケーブルがショートしている恐れがあります。アンプの電源を切り、正しくつなぎ直してからもう一度電源を入れてください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

テレビ画面に表示されているスピーカーと異なるスピーカーからテストトーンが出力される

- スピーカーパターンの設定が間違っています。スピーカーの接続とスピーカーパターンが正しく一致していることを確認してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

スタンバイ状態時にアンプに接続したHDMI機器からの音声テレビに出力されない

- アンプがスタンバイ状態になると、スタンバイ状態になる直前に選択していたHDMI機器からの映像／音声がテレビに出力されます。
音声がでない場合は、以下の操作を行ってください。
 - － アンプの電源を入れて再生したいHDMI機器を選択してください。
 - － [HDMI設定] メニューの [スタンバイスルー] を [入] または [自動] に設定してください。

関連項目

- [アンプの電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ（スタンバイスルー）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

アンプにつないだスピーカーからテレビの音が出ない

- テレビとアンプをつないでいるHDMIケーブル、光デジタル音声ケーブル、またはアナログ音声ケーブルの種類や接続を確認してください。詳しくは、付属のスタートガイドを参照してください。
- アンプをeARCまたはARC機能対応テレビに接続しているときは、アンプがテレビのeARCまたはARC機能対応のHDMI入力端子に接続されているか確認してください（付属のスタートガイドを参照してください）。ARC機能対応（eARC機能非対応）のテレビに接続している場合には、[HDMI設定]メニューの[eARC]を[切]に設定してください。それでも音が出ない、もしくは音が途切れる場合は、光デジタル音声ケーブル（別売）を接続し、[HDMI設定]メニューの[HDMI機器制御]を[切]に設定してください。
- お使いのテレビがeARCまたはARC機能に対応していない場合は、テレビとアンプを光デジタル音声ケーブル（別売）かアナログ音声ケーブル（別売）で接続してください。テレビがeARCまたはARC機能に対応していない場合は、アンプをテレビのHDMI入力端子に接続しても、テレビの音声はアンプに接続されたスピーカーから出力されません。
- アンプの入力を[TV]に切り替えてください。
- アンプの音量を上げる、または消音状態を解除してください。
- テレビに接続されたケーブルテレビ（CATV）ボックス／衛星放送チューナーの音が出ない場合は、それぞれの機器をアンプのHDMI入力端子に接続して、アンプの入力を接続した機器の入力に切り替えてください。詳しくは、付属のスタートガイドを参照してください。
- テレビとアンプの電源を入れる順番によっては、アンプが消音状態になり、本体前面の表示窓に[MUTING]と表示される場合があります。その場合は、テレビの電源を入れてから、アンプの電源を入れてください。
- テレビ（ブラビア）のスピーカー設定を[オーディオシステム]にしてください。設定のしかたについては、テレビの取扱説明書を参照してください。

関連項目

- [アンプにつないだスピーカーからテレビの音が聞こえない（eARC/ARC）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

アンプの電源が入っていないときテレビに映像と音声が出ない

- [HDMI設定] メニューの [HDMI機器制御] を [入] に設定後、[スタンバイスルー] を [自動] または [入] に設定してください。
- アンプの電源を入れて、再生機器をつないだ入力に切り替えてください。
- ソニー製以外のHDMI機器制御機能に対応している機器をつないでいる場合には、[HDMI設定] メニューの [HDMI機器制御] を [入] に設定してください。
- HDMI出力設定が [HDMI A] か [HDMI A+B] になっていることを確認してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

アンプにつないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から音が出る

- アンプまたはテレビを消音状態にしてください。
- HDMI接続した再生機器からのHDMI音声信号がアンプにつないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から出力される場合は、[HDMI設定]メニューの[音声出力信号]を[アンプ]に設定してください。アンプにつないだスピーカーからのみ出力されるようになります。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

テレビの映像と本機につないだスピーカーからの音声がずれている

- [音声設定] の [AVシンク] メニューで映像と音声のずれを調節してください。
- テレビ側でAVシンクの設定を行ってください。詳しくはテレビの取扱説明書を参照してください。

ワイヤレスマルチルーム機能を使用すると、音声映像より遅れる

- ワイヤレスマルチルーム機能を使用して以下の音源から入力された音声を聞く場合、別の部屋などにある他のスピーカーの音声出力と同期させるため、アンプの音声は映像より遅れて出力されます。
 - **A** HDMI IN端子、光デジタル音声IN端子、同軸デジタル音声IN端子および音声IN端子につないだ機器
 - **B** HDMIテレビOUT A端子につないだeARCまたはARC機能対応テレビ

映像と音声のずれが気になる場合は、以下の手順でアンプと他のスピーカーとの同期を解除（*）してください。

* アンプと他のスピーカーの同期を解除すると、アンプの音声は映像と同期できますが、他のスピーカーの音声は遅れて出力されます。

A の音声を聞いている場合：

1. OPTIONSを押す。
オプションメニューが表示されます。
2. [Multi-room Sync] - [Off] を選ぶ。

B の音声を聞いている場合：

1. AMP MENUを押す。
本体の表示窓にメニューが表示されます。
2. **▲/▼**と**+**を押して、[<AUDIO>]（音声設定） - [M/R SYNC] - [OFF] の順に選ぶ。

関連項目

- [同じ音楽を別の部屋で聞く（ワイヤレスマルチルーム）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

FM放送の受信状態が悪い

- FMアンテナ線を伸ばし、受信状態が良くなるように位置を調節してください。
 - FMアンテナ線を窓のそばに設置してください。
 - FMアンテナ線は、できるだけ水平になるように設置してください。
-

関連項目

- [FMステレオ放送の受信状態が悪い](#)
- [アンテナを接続する](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

FMステレオ放送の受信状態が悪い

以下の手順でFM放送の受信モードを常時モノラルモードに設定してください。

- 1 ホームメニューから **【Listen】 - 【FM TUNER】** を選ぶ。
- 2 **FMの放送局** を選ぶ。
- 3 **OPTIONS** を押す。
- 4 オプションメニューから **【FMモード】** を選ぶ。
- 5 **【常時モノラル】** を選ぶ。

ご注意

- 手順3で周波数表示が選ばれている場合は、オプションメニューからFMモードを設定できます。

関連項目

- [FM放送の受信状態が悪い](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

放送局が受信できない

- アンテナがしっかりと接続されているか確認してください。必要に応じてアンテナを調節してください。
- 放送局の信号が弱いため、自動選局で受信できません。ダイレクト選局モードで周波数を合わせてください。
- プリセット登録された放送局がない、またはプリセット登録した放送局が消去されています（プリセットした放送局をスキャンして受信している場合）。放送局をプリセット登録してください。
- 周波数が表示窓に表示されるまで、本体前面のDISPLAY MODEをくり返し押してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

対応していないUSB機器を使用している

- 対応していないUSB機器を使用すると、下記のような問題が起こることがあります。
 - USB機器が認識されない。
 - ファイル名またはフォルダー名が表示されない。
 - 再生ができない。
 - 音が飛ぶ。
 - ノイズがある。
 - 歪んだ音声が出力される。

関連項目

- [USBの仕様および対応USB機器](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

USB機器の音楽再生時にノイズがある、または音が飛んだり歪んだりする

- アンプの電源を切ってUSB機器をつなぎ直し、もう一度電源を入れてください。
- 音楽データ自体がノイズや歪んだ音声ではないか確認してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

USB機器が認識されない

- アンプの電源を切り、USB機器を取り外してください。もう一度電源を入れて、USB機器をつなぎ直してください。
- 対応しているUSB機器をつないでください。
- USB機器が正しく動作していません。問題の対処方法については、USB機器の取扱説明書を参照してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

再生が始まらない

- アンプの電源を切ってUSB機器をつなぎ直し、もう一度電源を入れてください。
- 本機が対応しているUSB機器をつないでください。
- Listen画面で【USB (Connected)】を選んでからフォルダー／トラックを選び、▶||を押して再生を開始してください。
- アンプが認識、再生できるのは、以下のファイルおよびフォルダーまでです。
 - － ルートフォルダーを含め、9階層目までのフォルダー
 - － 1階層につき、500までのファイル／フォルダー

関連項目

- [USBの仕様および対応USB機器](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

USB機器をUSBポートにつなげない

- USB機器のプラグを上下逆さまの向きにつなごうとしています。プラグを正しい向きにしてつないでください。
- USB機器のプラグの形状を確認してください。形状が合わない機器はつなげません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

表示窓の表示がおかしい

- USB機器に保存されているデータが破損している可能性があります。
- 本体前面の表示窓で表示できる文字は以下のとおりです。
 - 大文字 (A～Z)
 - 小文字 (a～z)
 - 数字 (0～9)
 - 記号 (' = < > * + , - . / @ [¥] _ `)

他の文字は正しく表示されないことがあります。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

音声ファイルを再生できない

- MP3 PRO形式のMP3ファイルは再生できません。
- パーティション分割したUSB機器をお使いの場合は、第1パーティション内の音声ファイルのみ再生できます。
- 9階層のフォルダーまで再生できます（ルートフォルダー含む）。
- フォルダー数が500を超えています（ルートフォルダー含む）。
- フォルダー内のファイル数が500を超えています。
- 暗号化またはパスワードで保護されたファイルなどは再生できません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

無線LAN接続でWPSを使ってネットワークに接続できない

- アクセスポイントがWEPに設定されているときは、［Wi-Fi Protected Setup (WPS)］によるネットワーク接続はできません。アクセスポイントスキャンを使ってアクセスポイントを検索してから、ネットワークを設定してください。

ネットワークに接続できない

- 有線LANでネットワークに接続したい場合は、LANケーブルがアンプに接続されているか確認してください。
- ネットワークの情報を確認してください。接続に失敗する場合は、ネットワーク接続をやり直してください。
- 無線ネットワークでシステムが接続されている場合は、アンプと無線LANルーター／アクセスポイントを近付けて配置して、設定をやり直してください。
 - 無線LANルーター／アクセスポイントを使用しているか確認してください。
 - 無線LANルーター／アクセスポイントの電源が入っているか確認してください。
 - 無線LANルーター／アクセスポイントの設定が正しいか確認し、設定をやり直してください。機器の設定について詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。
 - 無線ネットワークは、電子レンジやその他の機器から放出される電磁放射線の影響を受けます。アンプをこれらの機器から離れたところに配置してください。

関連項目

- [ネットワークの接続状態を確認する（ネットワーク接続状態）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

SongPalを使ってアンプを操作できない

- アンプの電源を入れてからネットワークに接続するまでに時間がかかることがあります。しばらく時間をおいてから、もう一度お試しください。
- お使いのスマートフォン／タブレットが、アンプと同じネットワークに接続されていない可能性があります。同じネットワークに接続して、しばらくお待ちください。
- 「[ホームネットワーク上のコントローラー機器やアプリをアンプに接続できない](#)」 もご覧ください。
- SongPalのヘルプもご確認ください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

Video & TV SideView機器を使ってアンプを操作できない

- アンプの電源を入れてからネットワークに接続するまでに時間がかかることがあります。しばらく時間をおいてから、もう一度お試しください。
- スマートフォン／タブレットが、アンプと同じネットワークに接続されていない可能性があります。スマートフォン／タブレットをアンプと同じネットワークに接続して、しばらくお待ちください。
- アンプがVideo & TV SideView機器から削除されている可能性があります。いったんアンプからもVideo & TV SideView機器を削除して、再度登録を行ってください。
- Video & TV SideView機器がアンプから削除されている可能性があります。いったんVideo & TV SideView機器からもアンプを削除して、再度登録を行ってください。
- 「[ホームネットワーク上のコントローラー機器やアプリをアンプに接続できない](#)」もご覧ください。
- Video & TV SideViewのヘルプもご確認ください。

関連項目

- [ネットワークの接続状態を確認する（ネットワーク接続状態）](#)
- [Video & TV SideView機器をアンプに登録する](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

通信設定メニューを選べない

- アンプの電源を入れてからしばらく待って、[通信設定] メニューを選び直してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ホームネットワークに接続できない

- ルーター、無線LANルーター／アクセスポイントの電源が入っていることを確認してください。
- アンプの通信設定が正しいか確認してください。接続に失敗する場合は、ネットワーク接続をやり直してください。
- アンプがルーター、無線LANルーター／アクセスポイントに正しくつながれているか確認してください。
- 無線ネットワークに接続されているときは、アンプと無線LANルーター／アクセスポイントを近付けてください。
- アンプを初期化した場合、またはサーバーの復帰を行った場合は、通信設定をやり直してください。

関連項目

- [無線LAN接続の設定をする](#)
- [有線LAN接続の設定をする](#)
- [ネットワークの接続状態を確認する（ネットワーク接続状態）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

サーバーがサーバーリストに表示されない（テレビ画面にサーバーが見つからないことを示すメッセージが表示される）

- サーバーの電源を入れる前にアンプの電源を入れた可能性があります。サーバーリストを更新してください。
- ルーターまたは無線LANルーター／アクセスポイントの電源が入っていることを確認してください。
- サーバー側でアンプからの接続を許可する設定が必要な場合があります。サーバーが正しく設定されているか確認してください。サーバーからの音楽ストリーミングの受信をアンプに許可しているか確認してください。
- アンプとサーバーが無線LANルーター／アクセスポイントに正しくつながれているか、通信設定情報を確認してください。
- お使いの無線LANルーター／アクセスポイントの取扱説明書を参照して、マルチキャスト設定を確認してください。無線LANルーター／アクセスポイントでマルチキャスト機能の入／切を切り替えてみてください。
- お使いの無線LANルーター／アクセスポイントによっては、セキュリティー機能により、インターネットとの通信が可能でも、そのルーターにつながれた機器間のネットワークが分離されていることがあります。Snooping機能の設定がある場合には、使用しない設定にすることで機器間の通信が可能となり、ホームネットワークに接続できるようになる場合があります。
詳しくは、無線LANルーター／アクセスポイントの取扱説明書を参照してください。
- パソコンソフトウェアのサーバーをお使いの場合は、ファイアウォール設定とセキュリティソフトウェアの設定を確認してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ルーターに無線LAN接続したサーバーなどにアクセスできない

- アンプを無線LAN接続している場合、別のネットワーク名（SSID）でルーターに無線LAN接続しているパソコン（ホームネットワークサーバー）にアクセスできないことがあります。この場合、ルーターのセキュリティー機能により、そのルーターにつながれた機器間のネットワークが分離されていることが考えられます。アンプとパソコンなどの機器をそれぞれ有線でルーターに接続してください。または、お使いの無線LANルーター／アクセスポイントの取扱説明書を参照し、該当するセキュリティー機能をオフにしてみてください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

再生が始まらない、または自動的に次のトラックまたはファイルへ進まない

- 再生しようとしている音声ファイルのフォーマットにアンプが対応しているか確認してください。
- DRM（Digital Rights Management）著作権保護付きの音声／音楽コンテンツは再生できません。
- リピート設定とシャッフル設定が正しく設定されているか確認してください。OPTIONSを押して、再生モードを「リピート設定」または「シャッフル設定」に設定してください。
- アンプが認識、再生できるのは、ホームネットワークサーバーに保存された以下のファイルやフォルダーまでです。
 - － 9階層までのフォルダー
 - － 1階層につき、999までのファイル／フォルダー

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

再生中に音が飛ぶ

- ネットワークの帯域幅が低すぎる可能性があります。お使いのルーターとネットワーク環境を確認してください。
- ネットワークの帯域幅が低すぎる可能性があります。無線LAN接続を使っている場合は、アンプと無線LANルーター／アクセスポイントを近付けて配置し、間に障害物を置かないでください。
- サーバーがビジー状態の可能性があります。パソコンをサーバーとして使用している場合は、パソコンで動作中のアプリケーションが多すぎる可能性があります。パソコン上でアンチウィルスソフトウェアが有効になっている場合は、システムリソースを大量に消費するため、一時的にソフトウェアを無効にしてください。
- ネットワーク環境によっては、複数の機器で同時にトラックを再生できないことがあります。他の機器の電源を切って、アンプがトラックを再生できるようにしてください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

【このカテゴリーには再生できるファイルがありません。】と表示される

- 選んだフォルダーの中にフォルダーやファイルがない場合、フォルダーを展開してコンテンツを表示させることはできません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

著作権保護されたファイルが再生できない

- DRM（Digital Rights Management）著作権保護された音源は、再生できません。

4-686-526-01(6) Copyright 2017 Sony Corporation

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

前回選んだトラックが選べない

- サーバー上でトラック情報が変更された可能性があります。サーバーリストを更新して、サーバーを選び直してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ホームネットワーク上のコントローラー機器やアプリをアンプに接続できない

- ネットワークが正しく設定されていることを確認してください。
- お使いのスマートフォン／タブレットが、アンプの「ホームネットワーク アクセス制御」で「許可しない」に設定されているか、リストに追加されていない可能性があります。許可できる機器の上限を越えている場合は、不要な機器をいったん削除し、「ホームネットワーク 自動アクセス許可」を「入」にしてから、再度接続を試してください。
- アンプで以下のいずれかの操作をしているときは接続できないことがあります。
 - サーバー上のコンテンツを再生している（アンプを再生機器として使用中）。
 - ソフトウェアをアップデートしている。
 - 各種設定画面を表示している。
- 「外部機器からの操作」が「切」に設定されている可能性があります。「入」に設定して、ホームネットワーク上の専用コントローラー（ホームオートメーションコントローラー）がアンプに接続できるようにしてください。
- Video & TV SideViewをお使いの場合は、「[Video & TV SideView機器を使ってアンプを操作できない](#)」もご覧ください。
- SongPalをお使いの場合は、「[SongPalを使ってアンプを操作できない](#)」もご覧ください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ネットワーク上の機器でアンプの電源が入れない

- ネットワーク上の機器を操作してアンプの電源を入れるには、［リモート起動］を［入］に設定してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

iPhone/iPad/iPodまたはiTunesからアンプが見つからない

- アンプとiPhone/iPad/iPodまたはiTunesを使用しているパソコンが、同じネットワークにつながっているか確認してください。
- アンプのソフトウェアとiPhone/iPad/iPodまたはiTunesを最新バージョンにアップデートしてください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

AirPlay再生中に音が飛ぶ

- ネットワーク環境などの要因によって音が飛びます。音声ファイルによっては、再生するのに十分なネットワークの速度が必要です。有線LAN接続を使っている場合は、ネットワークハブ、ルーターを確認してください。無線LAN接続を使っている場合は、ルーター／アクセスポイントを確認してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

アンプでAirPlayができない

- iPhone/iPad/iPodまたはiTunesのソフトウェアを最新バージョンにアップデートしてください。
- アンプのソフトウェアを最新バージョンにアップデートしてください。
- AirPlay対応機器とアンプの接続が切れている可能性があります。AirPlay対応機器、アンプを再起動してください。
- iPhone/iPad/iPodまたはiTunesを使用しているパソコンとアンプのネットワーク接続が不安定になっている可能性があります。
 - － ネットワークのルーターの状態や設定を確認してください。
 - － ルーターまたはiPhone/iPad/iPod、iTunesを使用しているパソコン、アンプを再起動してみてください。
 - － 有線LAN接続をしている場合は、ケーブルがしっかり接続されているか、またはケーブルが断線していないか確認してください。
 - － 無線LAN接続をしている場合は、アンプの無線LANアンテナを立ててください。また、ルーターやアンプの配置を変えてみてください。アンプは電子レンジから離して設置してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

サービスに接続できない

- ルーターまたは無線LANルーター／アクセスポイントの電源が入っていることを確認してください。
- 「ネットワークの設定確認」の画面を確認してください。「アクセスできません」または「失敗」が表示される場合は、ネットワーク接続をやり直してください。
- アンプを無線ネットワークに接続しているときは、アンプと無線LANルーター／アクセスポイントを近付けて配置してください。
- インターネットプロバイダーとの契約でインターネット接続が一度につき1つの機器に制限されている場合、既に接続済みの他の機器があると、アンプはインターネットにアクセスできません。通信会社かサービスプロバイダーへお問い合わせください。

関連項目

- [ネットワークの接続状態を確認する（ネットワーク接続状態）](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

音が飛ぶ

- ネットワークの帯域幅が低すぎる可能性があります。無線LAN接続を使っている場合は、アンプと無線LANルーター／アクセスポイントを近付けて配置し、間に障害物を置かないでください。


マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ペアリングができない

- BLUETOOTH機器をアンプに近付けてください。
- 他のBLUETOOTH機器がアンプの周りがあると、ペアリングができないことがあります。この場合は、他のBLUETOOTH機器の電源を切ってください。
- ペアリング操作の過程でパスキーの入力を求められたときは、「0000」を入力してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

BLUETOOTH接続ができない

- BLUETOOTHモードが正しく選ばれているか確認してください。
- 接続しようとしているBLUETOOTH機器がA2DPプロファイルに対応していない場合は、アンプとつなぐことができません。
- 本体前面のCONNECTION  PAIRING BLUETOOTHを押してください。前回つないだBLUETOOTH機器につながります。
- BLUETOOTH機器のBLUETOOTH機能をオンにしてください。
- BLUETOOTH機器側から接続を確立してください。
- ペアリング登録情報が消去されています。もう一度ペアリングを行ってください。
- アンプとBLUETOOTH機器が接続しているときは、他のBLUETOOTH機器でアンプは検出されません。
- いったんBLUETOOTH機器のペアリング登録情報を消去し、もう一度ペアリングを行ってください。

関連項目

- [BLUETOOTHモードを選ぶ \(Bluetoothモード\)](#)


マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

音が飛んだり変動したりする、または接続が切れる

- BLUETOOTH機器をアンプに近付けてください。
- アンプとBLUETOOTH機器の間に障害物がある場合は、障害物を移動させるか、アンプとBLUETOOTH機器のいずれかまたは両方を障害物の影響がない位置に移動してください。
- 無線LAN、他のBLUETOOTH機器、電子レンジのような電磁波を放出する機器がアンプの近くにある場合は、それらを遠ざけてください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

BLUETOOTH機器からの音声が聞こえない

- まずBLUETOOTH機器の音量を上げてから、リモコンの  +（または本体前面のMASTER VOLUMEつまみ）を使って音量を調節してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ハム音またはノイズがひどい

- アンプとBLUETOOTH機器の間に障害物がある場合は、障害物を移動させるか、アンプとBLUETOOTH機器のいずれかまたは両方を障害物の影響がない位置に移動してください。
- 無線LAN、他のBLUETOOTH機器、電子レンジのような電磁波を放出する機器がアンプの近くにある場合は、それらを遠ざけてください。
- つないだBLUETOOTH機器の音量を下げてください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

SongPalを使ってアンプを操作できない

- アンプの電源を入れてからネットワークに接続するまでに時間がかかることがあります。しばらく時間をおいてから、もう一度お試しください。
- お使いのスマートフォン／タブレットが、アンプと同じネットワークに接続されていない可能性があります。同じネットワークに接続して、しばらくお待ちください。
- 「[ホームネットワーク上のコントローラー機器やアプリをアンプに接続できない](#)」 もご覧ください。
- SongPalのヘルプもご確認ください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

HDMI機器制御機能が正しく働かない

- アンプと各機器とのHDMI接続を確認してください。詳しくは、付属のスタートガイドを参照してください。
- テレビのHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- しばらく待ってから操作してください。アンプの電源コードを抜き差ししたときは、操作が可能になるまで時間がかかります。15秒以上待ってから操作してください。
- HDMIケーブルを抜いた、または接続を変えた場合は、「[“ブラビアリンク”の準備をする](#)」の手順をくり返してください。
- テレビが本体後面のHDMIテレビOUT A端子に接続されているか確認してください。
- HDMI出力設定が [HDMI A] または [HDMI A + B] になっているか確認してください。
- [HDMI設定] メニューの [HDMI機器制御] を [入] に設定してください。
- アンプに接続した機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認してください。
- 接続した機器のHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、お使いの機器の取扱説明書を参照してください。
- HDMI機器制御機能で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC規格で以下のとおり制限されています。
 - 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなど）：3台まで
 - 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど）：3台まで
 - チューナー関連機器：4台まで（本機がそのうちの1台を使用します。）
 - オーディオシステム（アンプ/ヘッドホン）：1台まで（本機が使用します。）

アンプにつないだスピーカーからテレビの音が聞こえない（eARC/ARC）

- [HDMI設定] メニューの [HDMI機器制御] が [入] に設定されているか確認してください。
- テレビの入力に対して、[入力設定] メニューの [入力モード] が [自動] に設定されているか確認してください。
- お使いのテレビがeARCまたはARC機能に対応しているか確認してください。テレビのHDMI入力端子に「eARC」または「ARC」の表示があるか確認してください。
- お使いのテレビに複数のHDMI入力端子がある場合は、eARCまたはARC機能に対応する端子にアンプが接続されているか確認してください。
- お使いのテレビが本体後面のHDMIテレビOUT A端子に接続されているか確認してください。
- お使いのテレビによっては、eARCまたはARCの設定項目やHDMI機器制御の設定項目が用意されている場合があります。テレビ側の設定も確認してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書を参照してください。
- ARC機能対応（eARC機能非対応）のテレビに接続している場合には、[HDMI設定] メニューの [eARC] を [切] に設定してください。
- HDMI出力設定が [HDMI A] または [HDMI A + B] になっているか確認してください。

関連項目

- [テレビの音声をアンプで楽しむ（eARC/ARC）](#)
- [テレビを接続する](#)
- [HDMI機器を制御する（HDMI機器制御）](#)
- [デジタル音声とアナログ音声を切り替える（入力モード）](#)
- [アンプにつないだスピーカーからテレビの音声がでない](#)

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

リモコンで操作できない


- リモコンを本体前面のリモコン受光部に向けて操作してください。
- リモコンとアンプの間にある障害物を取り除いてください。
- リモコンの乾電池が消耗している場合は、2本とも新しい乾電池に交換してください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

お買い上げ時の設定に戻す

以下の手順に従って、記憶させたすべての設定を消去してお買い上げ時の設定に戻すことができます。
この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

1 電源を切る。

2 本体前面の （電源）を5秒間押したままにする。

表示窓にしばらく [CLEARING] が点滅したあと、表示が [CLEARED !] に変わります。

ご注意

- メモリーが完全に消去されるのに数分かかることがあります。表示窓に [CLEARED !] が表示されるまで、電源を切らないでください。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

音場（サウンドフィールド）を初期設定状態に戻す

以下の操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

1 電源を切る。

2 MUSICを押しながら （電源）を押す。

[S.F. CLEAR] が表示窓に表示され、すべての音場（サウンドフィールド）が初期設定状態に戻ります。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

カスタマーサポートウェブサイト

本機の最新情報について詳しくは、以下のウェブサイトをご覧ください。

<https://www.sony.jp/support/audio/>

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

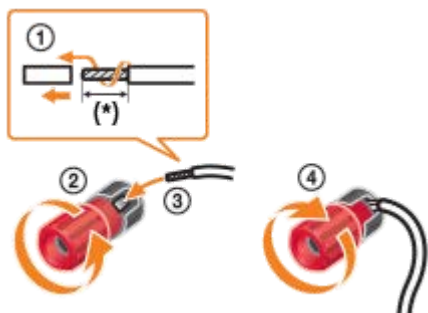
商標について

- 本機はドルビー（＊1）デジタルサラウンド、DTS（＊2）デジタルサラウンドシステムを搭載しています。
 - ＊1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Dolby Atmos、Dolby Vision及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
 - ＊2 DTSの特許については<http://patents.dts.com>をご覧ください。DTS社からの実施権に基づき製造されています。DTS、シンボル、DTSおよびシンボルの組み合わせ、DTS:XおよびDTS:Xロゴは米国および他の国々で登録されたDTS社の登録商標または商標です。© DTS, Inc. All Rights Reserved.
- HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。
- Apple、AirPlay、iPad、iPad Air、iPad Pro、iPhone、iPod、iPod touch、macOS、iTunes、MacおよびOS Xは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。iPad miniは、Apple Inc.の商標です。「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。
- 「Works with Apple」バッジは、アクセサリが「Made for Apple」バッジに記載されたアップル製品専用に接続するように設計され、また「Works with Apple」バッジに記載されたテクノロジー専用に対応し、アップルが定める性能基準を満たしていることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。
- Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- 本製品にはMicrosoft Corporationの知的財産権の対象である技術が含まれています。MicrosoftおよびMicrosoft関連会社から使用許諾を得ることなく、この技術の本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。
- LDAC™ およびLDACロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- “ブラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴはソニー株式会社の登録商標です。
- “PlayStation”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。
- “ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。
- POCKET BIT、ポケットビットはソニー株式会社の商標です。
- Wi-Fi®およびWi-Fi Alliance®はWi-Fi Alliance®の登録商標です。
- WPA™、WPA2™およびWi-Fi Protected Setup™はWi-Fi Alliance®の商標です。
- DLNA™、DLNAロゴ、DLNA CERTIFIED™は、Digital Living Network Allianceの商標、サービスマーク、または認証マークです。
- BLUETOOTH®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- N-Markは米国およびその他の国におけるNFC Forum, Inc.の商標または登録商標です。
- Android、Google、Google Play、Chromecast built-in、およびその他のマーク、ロゴは、Google LLCの商標です。
- 本機には以下のライセンスの適用を受けるSpotifyソフトウェアが含まれております。
<https://developer.spotify.com/third-party-licenses/>
SpotifyとSpotifyロゴはSpotify Groupの商標です。
- その他すべての商標および登録商標は各社の所有物です。本文中では、™、®マークは明記していません。
- ネットワークサービスに関するエンドユーザー向け使用許諾契約について詳しくは、各ネットワークサービスアイコン上の選択メニューにある「使用許諾契約書」をご覧ください。
GPLまたはLGPL、その他、本機に含まれるソフトウェアのライセンスについて詳しくは、本機の [Setup] メニューの [システム設定] の [ソフトウェアライセンス] をご覧ください。
- 本機には、GNU General Public License (“GPL”) または、GNU Lesser General Public License (“LGPL”) の適用を受けるソフトウェアが含まれております。このため、お客様にはGPL/LGPLの条件に従って、これらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。
- 本機に含まれるGPL/LGPLの適用を受けるソフトウェアのソースコードは、Webで提供しております。ダウンロードするには、以下のURLへアクセスしてください。
URL: <http://oss.sony.net/Products/Linux/>
ただし弊社では、このソースコードの内容に関する質問には一切お答えできません。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

スピーカーケーブルのつなぎかた

スピーカーケーブルをスピーカーおよび本機の端子に正しく接続してください。
スピーカーワイヤーはしっかりとねじり、スピーカー端子に確実に差し込んでください。



* スピーカーケーブル両端の被覆を10 mmはがしてください。

ご注意

- スピーカーケーブルの被覆をむきすぎて、スピーカーワイヤー同士が接触することがないように気をつけてください。
- スピーカーケーブルは、アンプ側とスピーカー側の極性（+/-）を合わせて正しくつないでください。



- 不適切な接続は、アンプに深刻なダメージを与えるおそれがあります。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

アクティブサブウーファーの設定を確認する

- アクティブサブウーファーをつないでいる場合は、アクティブサブウーファーをお使いになる前にアクティブサブウーファーの電源を入れて、音量を上げておいてください。音量は、ボリューム（LEVEL）つまみを回し、中間よりやや小さめの音量になるように調節しておいてください。



- クロスオーバー周波数の設定機能があるアクティブサブウーファーをつないでいる場合は、設定値を最大に設定してください。



- 自動電源オフ機能があるアクティブサブウーファーをつなぐ場合は、自動電源オフ機能を切（無効）にしてください。
詳しくは、アクティブサブウーファーの取扱説明書を参照してください。

ご注意

- お使いになるアクティブサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の位置と異なることがあります。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

メニュー一覧（表示窓）

各メニューでは、以下のオプションを設定できます。
表示窓にメニューを表示させるには、AMP MENUを押します。

自動音場補正設定 [<AUTO CAL>]

- **自動音場補正 [AUTO CALIBRATION]**
このメニューは、条件によっては表示されないことがあります。
 - SB ASSIGN?
 - LISTENER ?
 - HT/OH SPK?
 - CEILING H.?
- **自動音場補正開始 [A.CAL START]**
- **自動音場補正の種類 [CAL TYPE] (*1)**
FULL FLAT、ENGINEER、FRONT REF、OFF
- **補正マッチング [C.MATCH?] (*1)**
C.MATCH?YES、C.MATCH? NO

レベル設定 [<LEVEL>]

- **テストトーン [TEST TONE] (*2)**
OFF、FIX XXX (*3)、AUTO XXX (*3)
- **テストトーンPhase Noise [P. NOISE] (*2)**
OFF、FL/FR、FL/CNT、CNT/FR、FR/SR、SR/SBR、SR/SB、SBR/SBL、SR/SL、SBL/SL、SB/SL、SL/FL、HTL/HTR、FL/SR、SL/FR、FL/HTR、HTL/FR
- **テストトーンPhase Audio [P. AUDIO] (*2)**
OFF、FL/FR、FL/CNT、CNT/FR、FR/SR、SR/SBR、SR/SB、SBR/SBL、SR/SL、SBL/SL、SB/SL、SL/FL、HTL/HTR、FL/SR、SL/FR、FL/HTR、HTL/FR
- **フロントスピーカー（左）レベル [FL LEVEL] (*2)**
FL -10.0 dB ~ FL +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **フロントスピーカー（右）レベル [FR LEVEL] (*2)**
FR -10.0 dB ~ FR +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **センタースピーカーレベル [CNT LEVEL] (*2)**
CNT -10.0 dB ~ CNT +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **サラウンドスピーカー（左）レベル [SL LEVEL] (*2)**
SL -10.0 dB ~ SL +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **サラウンドスピーカー（右）レベル [SR LEVEL] (*2)**
SR -10.0 dB ~ SR +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **サラウンドバックスピーカーレベル [SB LEVEL] (*2)**
SB -10.0 dB ~ SB +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **サラウンドバックスピーカー（左）レベル [SBL LEVEL] (*2)**
SBL -10.0 dB ~ SBL +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **サラウンドバックスピーカー（右）レベル [SBR LEVEL] (*2)**
SBR -10.0 dB ~ SBR +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **ハイトスピーカー（左） [HTL LEVEL] (*2)**
HTL -10.0 dB ~ HTL +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **ハイトスピーカー（右）レベル [HTR LEVEL] (*2)**
HTR -10.0 dB ~ HTR +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **サブウーファーレベル [SW LEVEL] (*2)**
SW -10.0 dB ~ SW +10.0 dB (0.5 dB単位)

スピーカー設定 [<SPEAKER>]

- **スピーカーパターン [SP PATTERN]**
 - LISTENER LEVEL : 7.1 ~ 2.0 (16パターン)
 - HEIGHT/OVERHEAD : SRD、FD、TM、FH、NOT USE (5パターン)
- **天井の高さ [CEILING H.] (*4)**
2.00 m ~ 10.00 m (6'6" ~ 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- **センタースピーカーリフトアップ [CNT LIFT] (*5) (*6)**
LIFT 1 ~ LIFT 10、LIFT OFF
- **サラウンドスピーカー配置 [SUR SP POS]**
FRONT、BACK
- **S P Kリロケーション/ファントムS B [SP RELOCATION]**
TYPE A、TYPE B、OFF
- **フロントスピーカーサイズ [FRT SIZE] (*2)**
LARGE、SMALL
- **センタースピーカーサイズ [CNT SIZE] (*2)**
LARGE、SMALL
- **サラウンドスピーカーサイズ [SUR SIZE] (*2)**
LARGE、SMALL
- **ハイトスピーカーサイズ [HT SIZE] (*2)**
LARGE、SMALL
- **サラウンドバックスピーカーの割り当て [SB ASSIGN] (*7)**
ZONE2、FRONT B、BI-AMP、OFF
- **フロントスピーカー (左) までの距離 [FL DIST.] (*2)**
FL 1.00 m ~ FL 10.00 m (FL 3'3" ~ FL 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- **フロントスピーカー (右) までの距離 [FR DIST.] (*2)**
FR 1.00 m ~ FR 10.00 m (FR 3'3" ~ FR 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- **センタースピーカーまでの距離 [CNT DIST.] (*2)**
CNT 1.00 m ~ CNT 10.00 m (CNT 3'3" ~ CNT 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- **サラウンドスピーカー (左) までの距離 [SL DIST.] (*2)**
SL 1.00 m ~ SL 10.00 m (SL 3'3" ~ SL 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- **サラウンドスピーカー (右) までの距離 [SR DIST.] (*2)**
SR 1.00 m ~ SR 10.00 m (SR 3'3" ~ SR 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- **サラウンドバックスピーカーまでの距離 [SB DIST.] (*2)**
SB 1.00 m ~ SB 10.00 m (SB 3'3" ~ SB 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- **サラウンドバックスピーカー (左) までの距離 [SBL DIST.] (*2)**
SBL 1.00 m ~ SBL 10.00 m (SBL 3'3" ~ SBL 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- **サラウンドバックスピーカー (右) までの距離 [SBR DIST.] (*2)**
SBR 1.00 m ~ SBR 10.00 m (SBR 3'3" ~ SBR 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- **ハイトスピーカー (左) までの距離 [HTL DIST.] (*2)**
HTL 1.00 m ~ HTL 10.00 m (HTL 3'3" ~ HTL 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- **ハイトスピーカー (右) までの距離 [HTR DIST.] (*2)**
HTR 1.00 m ~ HTR 10.00 m (HTR 3'3" ~ HTR 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- **アクティブサブウーファーまでの距離 [SW DIST.] (*2)**
SW 1.00 m ~ SW 10.00 m (SW 3'3" ~ SW 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- **距離単位 [DIST. UNIT]**
FEET、METER
- **フロントスピーカーのクロスオーバー周波数 [FRT CROSS] (*8)**
CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz単位)
- **センタースピーカーのクロスオーバー周波数 [CNT CROSS] (*8)**
CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz単位)
- **サラウンドスピーカーのクロスオーバー周波数 [SUR CROSS] (*8)**
CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz単位)
- **ハイトスピーカーのクロスオーバー周波数 [HT CROSS] (*8)**
CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz単位)

入力設定 [<INPUT>]

- **入力モード [INPUT MODE] (*9)**
AUTO、OPT、COAX、ANALOG

- 入力に名前を付ける [NAME IN]
詳しくは、入力設定メニューの「[各入力の名前を変更する（名前）](#)」をご覧ください。
- デジタル音声入力端子割り当て [A. ASSIGN]
OPT、COAX、NONE

イコライザー設定 [<EQ>]

- フロントスピーカーの低域レベル [FRT BASS]
FRT B. -10 dB ~ FRT B. +10 dB (1 dB単位)
- フロントスピーカーの高域レベル [FRT TREBLE]
FRT T. -10 dB ~ FRT T. +10 dB (1 dB単位)
- センタースピーカーの低域レベル [CNT BASS]
CNT B. -10 dB ~ CNT B. +10 dB (1 dB単位)
- センタースピーカーの高域レベル [CNT TREBLE]
CNT T. -10 dB ~ CNT T. +10 dB (1 dB単位)
- サラウンドスピーカーの低域レベル [SUR BASS]
SUR B. -10 dB ~ SUR B. +10 dB (1 dB単位)
- サラウンドスピーカーの高域レベル [SUR TREBLE]
SUR T. -10 dB ~ SUR T. +10 dB (1 dB単位)
- ハイトスピーカーの低域レベル [HT BASS]
HT B. -10 dB ~ HT B. +10 dB (1 dB単位)
- ハイトスピーカーの高域レベル [HT TREBLE]
HT T. -10 dB ~ HT T. +10 dB (1 dB単位)

ゾーン設定 [<ZONE>]

- ゾーン2音声出力モード [Z2 LINEOUT]
VARIABLE、FIXED

チューナー設定 [<TUNER>]

- FM放送局の受信モード [FM MODE] (*10)
STEREO、MONO
- プリセットした放送局に名前を付ける [NAME IN] (*10)
詳しくは、「[登録した局名を変更する（プリセット名入力）](#)」をご覧ください。

音声設定 [<AUDIO>]

- インシーリングスピーカーモード [IN-CEILING]
FRONT&CNT、FRONT、OFF
- DSDネイティブ再生 [DSD NATIVE]
DSD ON、DSD OFF
- デジタル・レガート・リニア [D.L.L.]
D.L.L. AUTO2、D.L.L. AUTO1、D.L.L. OFF
- サウンド・オブティマイザー [OPTIMIZER]
NORMAL、LOW、OFF
- 映像と音声のずれを調節する [A/V SYNC]
0 ms ~ 300 ms (10 ms単位)、HDMI AUTO
- アクティブサブウーファアのローパスフィルター [SW L.P.F.]
L.P.F. ON、L.P.F. OFF
- デジタル放送音声選択 [DUAL MONO]
MAIN/SUB、MAIN、SUB
- ダイナミックレンジの圧縮 [D. RANGE]
COMP. ON、COMP. AUTO、COMP. OFF
- DTS:Xデコーダーモード [NEURAL:X] (*11)
ON、OFF
- DTS:Xダイアログコントロール [DIALOG CTL] (*12)
0 dB ~ 6 dB (1 dB単位)
- マルチルームグループ同期調整 [M/R SYNC] (*13)
ON、OFF

HDMI設定 [<HDMI>]

- **4Kアップスケール [4K SCALING]**
AUTO、OFF
- **HDMI機器制御 [CTRL: HDMI]**
CTRL ON、CTRL OFF
- **電源オフ連動 [STBY LINK]**
ON、AUTO、OFF
- **eARC [EARC] (*14)**
ON、OFF
- **スタンバイスルー [STBY THRU]**
ON、AUTO、OFF
- **HDMI出力Bモード [OUTB MODE]**
MAIN、ZONE
- **HDMI出力優先端子 [PRIORITY] (*15)**
MAIN&ZONE、MAIN ONLY
- **HDMI音声出力 [AUDIO OUT]**
AMP、TV+AMP
- **サウンドフィールド [SOUND.FIELD]**
AUTO、MANUAL
- **HDMIアクティブサブウーファーレベル [SW LEVEL]**
SW AUTO、SW +10 dB、SW 0 dB
- **HDMI信号フォーマット [SIGNAL FMT.]**
STANDARD、ENHANCED

BLUETOOTH設定 [<BT>]

- **Bluetoothモード [BT MODE] (*16)**
RECEIVE、TRANSMIT、OFF
- **Bluetooth音声フォーマット - AAC [BT AAC] (*17)**
AAC ON、AAC OFF
- **Bluetooth音声フォーマット - LDAC [BT LDAC] (*17)**
LDAC ON、LDAC OFF
- **ワイヤレス再生品質 [QUALITY] (*18)**
AUTO、SOUND、STANDARD、CONNECTION
- **Bluetoothスタンバイモード [BT STANDBY] (*17)**
STBY ON、STBY OFF

システム設定 [<SYSTEM>]

- **リモート起動 [RM START]**
ON、OFF
- **自動電源オフ [AUTO STBY]**
STBY ON、STBY OFF
- **ネットワークスタンバイ [NET STBY] (*19)**
MODE ON、MODE OFF
- **バージョン表示 [VERSION] (*20)**
xxx.x.xxxx
- **スリープタイマー [SLEEP]**
OFF、0:30:00、1:00:00、1:30:00、2:00:00

*1 自動音場補正を実行し、設定を保存した場合のみこの設定を選べます。

*2 スピーカーパターンの設定によっては、使用できないパラメーターや設定があります。

*3 XXXにはスピーカーチャンネルが入ります (FL、FR、CNT、SL、SR、SB、SBL、SBR、HTL、HTR、SW)。

*4 以下の場合、この設定は働きません。

- PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
- [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているとき

*5 センタースピーカーおよびフロントハイスピーカーありの [SP PATTERN] に設定しているときにのみ、この設定を選べます。(例：5.1.2 (FH))

*6 以下の場合、この設定は働きません。

- PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
- [2chステレオ] および [マルチチャンネルステレオ] が使われているとき
- 音楽用の音場 (サウンドフィールド) が使われているとき

- [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているとき
 - * 7 サラウンドバックスピーカーおよびハイト/オーバーヘッドスピーカーありの [SP PATTERN] に設定していないときにのみ、この設定を選べます。(例 : 5.1、5.0、4.1、4.0、3.1、3.0、2.1、2.0)
 - * 8 スピーカーが [SMALL] に設定されているときのみ、この設定を選べます。
 - * 9 設定が暗く表示され選べない場合があります。
 - * 10 [FM TUNER] が選ばれているとき以外は、この設定は暗く表示され選べません。
 - * 11 以下の場合、この設定は選べません。

- [2chステレオ]、[ダイレクト]、[Dolby Surround] または [Neural:X] を使用しているとき
- PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
 - * 12 この設定は、DTS:Xダイアログコントロール機能に対応したDTS:Xコンテンツを再生しているときにのみ選べます。
 - * 13 ワイヤレスマルチルーム機能を使用して、以下の音源から入力された音声を聞いているときのみ設定できます。

- HDMI IN端子、光デジタル音声IN端子、同軸デジタル音声IN端子および音声IN端子につないだ機器
- HDMIテレビOUT A端子につないだeARCまたはARC機能対応テレビ
 - * 14 テレビ入力の [入力モード] が [自動] になっている場合のみ設定できます。
 - * 15 [HDMI出力Bモード] が [メイン] に設定されている場合、この設定は選べません。
 - * 16 アンプの入力が [Bluetooth] に設定されているときは、この設定を選べません。
 - * 17 以下の場合、この設定は選べません。

- [Bluetoothモード] が [切] に設定されているとき
- BLUETOOTH機器が繋がっているとき
 - * 18 [Bluetoothモード] を [送信]、[Bluetooth音声フォーマット - LDAC] を [入] に設定しているときにのみ、この設定を選べます。
 - * 19 Chromecast built-in機能の使用に同意すると、この設定は自動的に [MODE ON] に切り替わります。
 - * 20 xxx.x.xxxxにはソフトウェアのバージョンナンバーが入ります。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

ホームネットワーク対応リスト

対応音楽フォーマット（＊1）

MP3（MPEG 1 Audio Layer-3）：

.mp3

AAC/HE-AAC（＊2）：

.m4a、.aac

WMA9 Standard（＊2）：

.wma

LPCM：

.wav

FLAC：

.flac、.fla

DSF（＊2）：

.dsf

DSDIFF（＊2）（＊3）：

.dff

AIFF（＊2）：

.aiff、.aif

ALAC：

.m4a

Vorbis

.ogg

Monkey's Audio

.ape

*1 あらゆるエンコード／ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性を保証するものではありません。

*2 ホームネットワークサーバー上のファイルは再生できないことがあります。

*3 DSTでエンコードされたファイルは再生できません。

ご注意

- ファイルフォーマット、エンコード、録音状態、またはホームネットワークサーバーの状況によって、ファイルが再生できないことがあります。
- パソコン上で編集されたファイルは、再生できないことがあります。
- ファイルによっては、早送り／早戻しができないことがあります。
- DRM（Digital Rights Management）著作権保護付きやLosslessなどでコーディングされた音源は、再生できません。
- ホームネットワークサーバーに保存された以下のファイルやフォルダーを認識できます。
 - － 19階層までのフォルダー
 - － 1階層につき、999までのファイル／フォルダー

テストトーンを出力して隣り合ったスピーカーのバランスを調節する（P.NOISE）

隣り合うスピーカーからテストトーンを出力して、スピーカー間のバランスを調節することができます。
本体前面の表示窓を使って操作できます。

1 AMP MENUを押す。

本体前面の表示窓にメニューが表示されます。

2 [<LEVEL>]（レベル設定） - [P.NOISE] の順に選ぶ。

3 テストトーンを出力するスピーカーを選ぶ。

選んだスピーカーからテストトーンが出力されます。

4 本体前面のMASTER VOLUMEつまみを回してスピーカーのレベルを調節する。

調整できるスピーカー：

FL/FR（フロント（左）／フロント（右））
FL/CNT（フロント（左）／センター）
CNT/FR（センター／フロント（右））
FR/SR（フロント（右）／サラウンド（右））
SR/SBR（サラウンド（右）／サラウンドバック（右））
SR/SB（サラウンド（右）／サラウンドバック）
SBR/SBL（サラウンドバック（右）／サラウンドバック（左））
SR/SL（サラウンド（右）／サラウンド（左））
SBL/SL（サラウンドバック（左）／サラウンド（左））
SB/SL（サラウンドバック／サラウンド（左））
SL/FL（サラウンド（左）／フロント（左））
HTL/HTR（ハイト（左）／ハイト（右））
FL/SR（フロント（左）／サラウンド（右））
SL/FR（サラウンド（左）／フロント（右））
FL/HTR（フロント（左）／ハイト（右））
HTL/FR（ハイト（左）／フロント（右））

ご注意

- 接続されているスピーカー構成によっては表示されない項目もあります。
- この機能は、以下を除く操作を行った場合にキャンセルされます。
 - － 音量調節
 - － 各スピーカーのレベル調節
 - － 消音機能の入／切
- この機能は、[Bluetoothモード] が [送信] に設定されているときは働きません。

ヒント

- この機能を無効にするには、手順3 で [OFF] を選びます。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

音声を出力してスピーカーのバランスを調節する（P.AUDIO）

隣り合うスピーカーから音声を出力して、スピーカー間のバランスを調節することができます。
本体前面の表示窓を使って操作できます。

1 AMP MENUを押す。

本体前面の表示窓にメニューが表示されます。

2 [<LEVEL>]（レベル設定） - [P.AUDIO] の順に選ぶ。

3 音声を出力するスピーカーを選ぶ。

隣り合うスピーカーから順次、フロント2チャンネルの音声出力されます。

4 本体のMASTER VOLUMEつまみを回してスピーカーのレベルを調節する。

調整できるスピーカー：

FL/FR（フロント（左）／フロント（右））
FL/CNT（フロント（左）／センター）
CNT/FR（センター／フロント（右））
FR/SR（フロント（右）／サラウンド（右））
SR/SBR（サラウンド（右）／サラウンドバック（右））
SR/SB（サラウンド（右）／サラウンドバック）
SBR/SBL（サラウンドバック（右）／サラウンドバック（左））
SR/SL（サラウンド（右）／サラウンド（左））
SBL/SL（サラウンドバック（左）／サラウンド（左））
SB/SL（サラウンドバック／サラウンド（左））
SL/FL（サラウンド（左）／フロント（左））
HTL/HTR（ハイト（左）／ハイト（右））
FL/SR（フロント（左）／サラウンド（右））
SL/FR（サラウンド（左）／フロント（右））
FL/HTR（フロント（左）／ハイト（右））
HTL/FR（ハイト（左）／フロント（右））

ご注意

- 接続されているスピーカー構成によっては表示されない項目もあります。
- この機能は、以下を除く操作を行った場合にキャンセルされます。
 - － 音量調節
 - － 各スピーカーのレベル調節
 - － 消音機能の入／切
- この機能は、[Bluetoothモード] が [送信] に設定されているときは働きません。

ヒント

- この機能を無効にするには、手順3で [OFF] を選びます。

マルチチャンネルインテグレートアンプ
STR-DN1080

BLUETOOTH接続中の機器の情報を確認する

本体前面のDISPLAY MODEをくり返し押すことで、BLUETOOTH接続中のBLUETOOTH機器の情報を確認できます。DISPLAY MODEを押すたびに表示が次のように切り替わります。

- **BLUETOOTH RX（受信）モード時**：選んだ入力 - BLUETOOTH機器名 - 現在選んでいる音場（サウンドフィールド） - 音量レベル
- **BLUETOOTH TX（送信）モード時**：BLUETOOTH機器名 - 現在選んでいる音場（サウンドフィールド） - 音量レベル - 選んだ入力